

企業体における新生活運動のすすめ方

—家族計画及び生活設計—

人口問題研究資料

財団法人 人口問題研究会

アジア家族計画普及協会



企業体における新生活運動のすすめ方

(家族計画及び生活設計)

財団法人 人口問題研究会

アジア家族計画普及協会

はじめに

私は、ここ数年来、公私企業体の家族計画を出発点とする新生活運動を提唱し、幸い各社の御賛同を得まして、着々その成果を挙げつつありますが、未だ直接新日本の建設に寄与する国民運動にまで発展し得るほどの数に達していないことを残念に存じております。

今後、企業体が新しくこの運動をとり上げる場合、常時座右において推進の要領なり参考の資料なりを説明したハンドブックがあれば、便利の上もないでしょう。

この時に当って、私が顧問の席を連ねているアジア家族計画普及協会の努力により、先進各社の実施実例を網羅した手引き書が刊行されたことは、まことに時宜に適したことでであると存じます。この書により、更に新生活運動が発展することを期待致します。

昭和 33 年 11 月

永 井 亨

は し が き

この書は財団法人人口問題研究会の御校閲を戴いて、年々増大発展しつつある企業体の家族計画から生活設計までの普及運動の推進の一助にでもなればと思ひ、まとめたものであります。家族計画及び生活設計を含む新生活運動の理念を確実に認識把握することがこの運動の根本であり、本書は財団法人人口問題研究会が先に発刊した「企業体における新生活運動実施の手引」を基にし、又、家族計画、生活設計普及運動の先進企業体である十六社の御援助と御諒解の下に、各社の貴重なデータを頂戴して、未計画、計画中及び実施し始めたばかりの企業体の具体的な参考になる様に考慮して編集したつもりであります。

この運動をすすめる上に本書が少しでもお役に立てば、幸甚に存じます。編集に当り御指導並に御援助を戴いた財団法人人口問題研究会の永井先生を始め篠崎、青木両先生及び貴重なデータをお寄せ下さった各企業体の皆様方に紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

昭和33年12月

アジア家族計画普及協会

「データを戴いた企業体」 (順不同)

日本鋼管株式会社	東京芝浦電気株式会社	日本陶器株式会社
日本通運株式会社	トヨタ自動車株式会社	三井鉱山株式会社
東武鉄道株式会社	東京急行電鉄株式会社	中部電力株式会社
日本国有鉄道	京浜急行電鉄株式会社	(株)播磨造船所
日立造船株式会社	石川島重工業株式会社	
本州製紙株式会社	日本軽金属株式会社	

目 次

I	企業体における家族計画について	1頁
1	新生活運動は家族計画から(財団法人 人口問題研究会理事長) 永井 亨	3
2	企業体における家族計画の進め方 (人口問題研究会幹事) 篠崎信男	4
3	企業体における家族計画指導の実状 () 青木尙雄	9
II	企業体における家族計画運動・新生活運動の動機	13
1	当社の家族計画運動の動機 東武鉄道	15
2	新生活運動をはじめた動機 日本鋼管	15
III	企業体における新生活運動の問題点と先進各社の参考例	19
1	基本的考え方	21
2	推進の方法	21
A	指導方針	24
	〔参考〕 実施項目	25
	例1 日本鋼管川崎製鉄所	25
	例2 トヨタ自動車	25
	例3 日立造船因島工場	26
	〔参考〕 家族計画希望調査	26
	例1 東京急行電鉄	26
	例2 日本鋼管	27
	〔参考〕 受胎調節実態調査	30
	例1 日本国有鉄道	30
	例2 日本鋼管	31
	例3 石川島重工	32
	〔参考〕 家族計画実態アンケート及び結果	34
	例1 東武鉄道	34
	例2 東武鉄道	35
B	企 園	36
	〔参考〕 基礎調査	37
	例1 東京急行電鉄	37
	例2 東武鉄道	38
	例3 日本鋼管	39

例 4	日本通運	40頁
例 5	三井鉱山	58
C	予 算	79
〔参考〕	予算経費	80
例 1	国鉄秋田管理局	80
例 2	東京急行電鉄	80
例 3	日本国有鉄道	81
D	組 織	83
〔参考〕	PR宣伝物	84
例 1	日本通運	84
例 2	京浜急行	91
例 3	各社PR機関紙	95
〔参考〕	組 織	96
例 1	日本国有鉄道	96
例 2	播磨造船所	97
例 3	トヨタ自動車	99
例 4	本洲製紙江戸川工場	99
例 5	日立造船因島工場	100
例 6	日本鋼管	102
例 7	東武鉄道	104
〔参考〕	居住分布図及指導状況	106
例 1	播磨造船所	106
例 2	日立造船向島工場	107
例 3	日立造船因島工場	109
E	指 導 員	113
F	指導用器具、薬品用具	114
〔参考〕	指導票	115
例 1	東武鉄道	115
例 2	日本国有鉄道	117
〔参考〕	製品価格表	123
例 1	東武鉄道	123
〔参考〕	指導員身分証明書	124
例 1	東武鉄道	124
〔参考〕	指導員服務規定	125
例 1	東武鉄道	125

〔参考〕	グループ指導場所代補助申請書	126頁
例1	東武鉄道	126
3	実施経過	127
A	発会式	129
〔参考〕	発会式プログラム	130
例1	日本通運	130
例2	播磨造船所	134
B	家族計画	134
〔参考〕	指導研究会その他連絡委員会	135
例1	日本鋼管	135
例2	東武鉄道	136
C	生活設計	137
〔参考〕	生活設計指導アンケート結果	138
例1	石川島重工	138
〔参考〕	生活設計指導計画及び実施状況	139
例1	日立造船	139
例2	東京東芝電気	149
例3	本洲製紙	151
例4	日本鋼管	153
〔参考〕	生活相談所	155
例1	日本鋼管	155
〔参考〕	家計簿指導	157
例1	石川島重工	157
例2	日立造船神奈川・桜島両工場	169
4	経過報告	177
〔参考〕	運動の経過報告及び経済効果	180
例1	国鉄秋田管理局	180
例2	東武鉄道	188
例3	播磨造船所	195
例4	日本鋼管川崎製鉄所	199
例5	日本鋼管	199
例6	本洲製紙	207
例7	三井鉱山	210
例8	トヨタ自動車	211
例9	日本陶器	212

例10	日立造船向島工場	214頁
例11	日立造船神奈川工場	215
例12	石川島重工	218
例13	東京芝浦電気	219
例14	京浜急行電鉄	222
例15	日本軽金属	232
5	各企業体の連絡	243
	〔参考〕 新生活運動企業体連絡協議会	245
	例1 第4回名古屋地区開催抄録	245
N	新生活運動実施及計画準備中企業体一覧表	247

I

企業体における家族計画について

1 新生活運動は家族計画から

財団法人 人口問題研究会

理事長 永井 亨

今日まで新生活運動といわれているのは、衣食住の生活改善運動を主眼としている。すなわち、衣服の簡素化とか、食事の栄養化とか、住宅の改造とか、主として消費生活を改善し生活様式を合理化する運動に終わっている。

もちろん、このような運動は、はなはだ歓迎すべきものであり、双手をあげて賛成すべきものであるが、私はこれだけでは満足できない。いやしくも「新生活」の運動と呼ぶからには、物心両面にわたって、生産、分配、消費につながる生活態勢を、有機的、総合的に刷新し、新日本の建設を目標とするものでなければならない。

わが国の再建を妨げる問題は何か。それは入口の重圧と道義の弛緩である。これを改革するという理想をかかげ、これを目標としない運動は、一時の流行に終わってしまうおそれがある。

そのためには、まずもって家族計画を第一歩と

し、家庭生活の安定と、向上を中核地盤としてこそ、新生活運動はその足がかりを得られるといえよう。家庭は物心両面の生活母体である。この家庭の負担を、とくに妊娠し、出産し、子供を保育する主婦の重荷をできるだけ軽くして、文化生活を送れるようにしなければならない。この意味で、新生活運動の出発点に家族計画をおく企業体が、われわれの指導により、すでに全国50社に及んでいることは、まことに喜ばしい。

ただ、家族計画運動のみに終り、あとをかえりみないでいてはならない。家族計画は新生活運動の到達点ではなく、出発点なのである。目的ではなく手段である。家族の数を計画するに止めず、予算生活をすることによって家庭経済の設計に心がけ、さらに家庭の新秩序を打ち建て、国の再建につながる意気込みをもって戴き度いと、切望する次第である。

2. 企業体における家族計画のすゝめ方

人口問題研究会幹事

篠崎 信 男

現在、新生活運動の一環として家族計画の運動が各企業体において盛んになつてまいりましたが、一般に行われているやり方は、会社があまりタッチせず、附属病院のお医者さんにまかせて適当に小規模にやつているか、または生活協同組合の売店でコンドームや避妊薬を売るか、または受胎調節相談所を作つて、相談に来る人を待つているというのが普通で、精々一歩進んだところでも、保健所の保健婦さんに頼んで一通り映画やスライドで啓発宣伝を行つて、家族計画をやつていると考へているものが多いようです。

然し、以上のようなやり方では従業員の主婦が受胎調節の方法を本当に身につけて、長続きが出来るやり方ではなく、一時は関心を持ちますが、頭だけの問題になつて実際に実行するところまで行かないのであります。よしんば実行したとしても案にあまいな知識しか得られないのが一般ですから失敗しておるすということになつてしまうのであります。そこで一般地域と違つて、企業体という職域では会社が本當に乗り出して面倒を見ることが大切で、またそれが素晴らしい実績効果をあげることになるのであります。

つまり主婦に、家族計画は大切だ、重要だ、やりなさい、やりなさいと掛声ばかりかけても駄目で、やり易い空気と条件をお膳立てしてやることの方が先決なのであります。現在人口問題研究会の指導で、日本鋼管を始め、数十社が行つている会社側としての本運動の進め方、やり方について次に述べることにしましょう。考へ方として、家族計画ということは個人の問題であるから、何も会社がこれに関係する必要はない、せめて器具、薬品位を斡旋してやればよいという消極的な考へもありますが、現在の経営方針として労働力というものを無視した労務管理はありますまい。従つ

て社宅を建てたり、健康保険をかけたなり、産業安全運動を行つているのは、これすべて労働者の健康については生産を高めるに必要な健全な労働力を培養し、保護しているためではないでしょうか?! 戦前、戦時中は、会社の厚生課や労務課では仕事に必要なためのエネルギー源として止むなく物資の買入れ、食堂の管理などしていたのが多かつたように聞いていますが、家庭という共通の場所に対して、もつと暖かく面倒を見ることを忘れ勝ちでありました。社宅を与える以上、家庭生活の面にも手をのばしてこれを保護してやることは決して会社経営方針と矛盾するものではないと思ふのであります。現在人里はなれた炭山とか鉱山では、単に社宅ばかりの管理では能率的な労務管理は出来ない筈です。そこで厚生労務の内容を整理し、その管理方式を統一して、家庭と職場を一元化した生活向上の福祉管理方式へと切替え新しい近代経営に向わねばならない秋ではありますまいか。そうした考へ方からすれば家族計画の運動は当然会社側が力を入れて家庭生活の安定、従業員生活水準の保持向上のために努力し、その一助となる本運動を進めることは当然となつて来るのであります。

さて実際会社が家族計画を進める場合の準備として何から手をつけるか、順々に述べると、

(1) 既存資料より実状とその動向を知ること

つまり過去5カ年にさかのぼつて、従業員の子供の数、生れた数、死んだ数、人工妊娠中絶数、欠勤数、罹災数等を健保その他の資料からつかんでその傾向を知ることが大切であります。そして自分の会社ではどこに問題があるか、例えばある会社では人工妊娠中絶が多いために健保にあがつて来る件数が婦人病として出て来たりすることもあります。また第何番目の子供をおろしているか、

妻の年齢から見ると何才のところか人工中絶や不妊手術者が集中しているか、等々のあらしを知るのとあります。

(2) 次に実施する事項を決定し、予算をたてること

これは最初何夫婦を対象として実施するかを計画しなければならないのです。一度に全従業員を行う場合もありますが、先ずモデル地区を選びそこでテスト的に、第1年目は実施して見ることが順序だと思えます。このモデル対象人員は300人以下が最も理想的です。というのは1人の実地指導員(助産婦)が1年に手がけることが出来る人数で、集団指導も個別指導もかなり綿密に指導出来る人数でもあるからです。勿論、集団社宅のところがあれば、そこが第1候補にもなりましょう。然し散在住宅の場合でも差支えないのですが、主婦の組織化のことを考え、10人前後のものがまとまり得るような範囲内で地域を選定する必要があります。

そして最初第1年目の対象300人と決定すれば1人当たり2,000円前後の予算を組む必要があります。

この予算の細かい点は人口問題研究会に相談すれば色々にお教え致すことが出来ます。

(3) 担当事務局の設置と主婦の組織化

一般にこの主婦の運動を進めるためには事務上の連絡中心場所がなければなりません。普通厚生課の中に本運動の事務局を設置することが多いのですが、然し厚生課でなくても勤労課であつても労務課であつても結構であります。そこに兼任の主任1名と、専任の係員1名が是非とも必要であります。この兼任者は課長でも係長でも結構ですが、専任の方はこの運動専門にとりかかれるようにしなければ推進出来ないであります。この専任事務局主任を中心として、衛生管理医や女事務員等を2、3名持てば十分な態勢といえます。

従つてある会社では別に「新生活運動委員会」というものを作つて、委員長に会社側の責任者(主として重役部長か、またはこれに準ずる人)をあて、副委員長に主婦の代表2名をおき、その人に主婦の世話人(1人が10世帯宛を世話する)が組織されているところもあります。こういつた

主婦の組織が出来て本運動が具体的に滑り出せる体制が整つたといえるのであります。この組織化は何故必要かと申しますと、この組織のお蔭で主婦が自動的に本運動を推進するのに力となるからであります。一般に会社限りでやつている家族計画運動はこの組織化がなされておらず、常にその場だけの指導で打ち切られているのが多いのであります。またこの組織化が出来ませんと計画が立てられないのでありまして集団指導でも人が集らず、常に空廻りするおそれがありますし、この世話人が出来ませんと、親しくグループの指導が出来ないのであります。

(4) 運営委員会の構成

この運動は主婦の運動であるべきであります。この運営は会社側が面倒を見て予算を出してやる反面、労働組合はこれを宣伝啓蒙的に援助するという協力態勢が必要なのであります。そのためにも1年に1回乃至2回運営委員会を持つことが望ましいのであります。そこで1年間の計画、方針、項目を決定するのでありますが、この委員会の構成メンバーは会社側3、労働組合側3、主婦側3、健康保険組合側1といつた割合で構成し公平に論議され、円滑に運用されるように此処で意見の一致を見るようにすべきであります。というのはこの運動は家庭というものを明るく楽しいものにするために先ず家族計画から出発するものであり、主婦の自覚と意欲を中心に盛りあげて行くようにすべき運動なのでありますから、労使の対立の場所にしたり、労使いずれかの陣営に利益になるようにこの組織を利用したりすることは、始めからこの運動の趣旨に副わないのでありまして、またそのような底意が労使双方にあつては、本当に明るい楽しい家庭は作りあげられるものではありません。つまり労使が協力しなければならぬ共通の広場として考えるべきものであります。そのためにはこの運動の運営を一方的にしてはくすれ去る危険性があるからであります。そこで運営委員会を開いて十分計画や方針について協議し意見の一致を見るようにすべきと考えからであります。また主婦代表3名を入れたのも、健康保険側1名を入れたのも、凡て夫々の意見を出し合つてかたよらない、地に足がついた運動に持つて行くためであります。従つてここでは職制の線も

なく、組合制の線もなく、強いていえば、主婦を中心とした家庭制の線で進めるべきでありましょう。

(5) 主婦の組織結成式と基礎調査

主婦の組織が結成されれば仕事の半分は終わったようなものですが、これまでにいろいろの困難な障害があると存じます。たとえばある会社で、課長クラスは非常に熱心で本運動を行おうとしますが部長クラス、重役クラスが認識不足で、余計なことをするな、といった感情に支配されていたり、或は従業員の家庭まで面倒を見ることは不急不用の仕事である、予算を出すのは無駄な経費であると思つていられる経理担当の重役もおられることと存じます。或は会社側はこれを熱心にやろうとしても、労働組合が色眼鏡で見て、これは会社のたくらみである。家族手当をへらして会社がもうけ、更に主婦の組織を利用してスト破りに悪用するのではないか、または家庭生活の合理化に口実を作つて、賃上げをストップすることにするのではないかといった種々の疑心暗鬼のために、運動が発展しないという場合もあるかも知れません。今までの経験では、こうした困難の際に人口問題研究会が、公平な第三者として双方にその意義を説き、誤解のないように認識させますと双方とも納得承認して戴いて進めております。従つて時としては会社の上層幹部に向つて人口問題研究会側の人々による講演、懇談、打合せをする場合もあり、また労働組合の幹部に講演、懇談、打合せをする場合もあります。

結成式は一般に主婦がふんぎりをつけて相互に手を取り合つてこれからこの運動を始めましょうという1つの祭典でもあります。俗に発会式ともいつておりますが、これを行いますと丁度竹のふしがピンシとしめくりをつけているように、はつきりと主婦の心意気の中に灯を点ずるのに非常に役立つのであります。会社限りでやつております家族計画が常に尻切れトンボのようになりますのは、主婦がその運動を知らないことが多く、たまたま何処かで集りがあつたとかいう程度で、自分達に直接責任のある身近なものと感じないのであります。そこでドラドラとして来勝ちになつてしまうのです。主婦が集らないから発会式をあげても駄目だ、またそんな費用は無駄であると考え

ている会社も多いようではありますが、既にその考え方の中に消極性があるのです。コソコソとやつていればそれでよいということが本運動を常に明るくせず、墮胎へと追いやつていけるのです。堂々とやるべき体制と勇気すけがなくては、それこそ何のために本運動を展開しているのか意味がありません。主婦を組織化する時に、専任の係員や、実地指導員等が努力して、集まれるような空気と情熱を作つて行かねばならないでしょう。主婦は外へ出難い性質を持っていますが、それ故誘い合せて出られるよう仕向けねば何時まで立つても新しい空気作り、家庭作りは出来ないのであります。面倒を見るということ、事務局に専任の人をおくということも、このためなのであります。

さて1つの組織結成が出来て世話人も出来ると、ありのままの実状を知るための実態調査が必要であります。勿論既存資料の中から、いくらか傾向は分つているのでありますが、これから助産婦が具体的に指導をしようというためには、問題点の軽重順序の判断のためにありのままの実状を調査する訳で、その調査様式その他については人口問題研究会で十分にお世話致しております。

ある会社では調査は余計なものだ、主婦を刺戟して運動の障害となるおそれがあるからやらない方がよい、といった考え方に左右されるものもありますが、この調査こそが実は偉大なるPRの役目をも果すものなのであります。主婦の中には字が書けない人もいるから完全に結果が出ないとか、不完全だとかいつて、だから意味がなくなると考えているかも知れませんが、実は調査には2つの意味があり、1つは前に述べました、詳しい実状の傾向を知るためで、たとえ白紙で調査票が戻つて来たり、不完全な記入で戻つて来ても結構なのであります。ということはそのこと自体が既に1つの偽らざる実状を告げているからであります。多勢の中には家族計画に反対の人もおりましょうし、また反対とまでは行かなくても何んとか毛嫌いする人もいる筈であり、判断が出来ないような状態にいる人もいるかも知れないのです。字のかけない人も勿論おりました。それらが集約した形で白紙や不完全票となつて来るので、この数の多寡によつて、具体的指導についての重大な判断資料に既になるのであります。次にもう1つの

意味は前に出たPRの意味と同時に、主婦が心の調査票を見て何かを考える、書けないまでも関心を持つ。特に書いて見ようという努力を持つかも知れないのです。これが実はかくれた大切な要素なのです。今まで主婦というものは自分のことについて頭でまとめて、それを表現して見ようという生活慣習になかった方が多いのであります。つまり自分の意欲を何かの形で生活の上で実現させて行くという気持や素地を諦めさせられて来ているものが多いのです。それを妊娠、出産、子供、人工中絶等といった主婦につきものの、しかも日常生活の中にある出来事についての調査ですから、大抵は心にひびくものがある筈なのであります。そこでこれが調査結果には完全票として出て来なくても、非常な関心と啓発になることは疑うことが出来ないのであります。そういう意味で先ず基礎調査が重要なのであります。また出た結果を、1年後に再び調査して1年間の指導で、どれほどの効果が出たか、どこに変化があつたか、そしてその変化は善い面に向つているか、悪い面に向つているかという判断の基礎資料にもなるのであります。そういう科学的な統計結果に基づいて第2年目を計画すべきであり、予算編成を行うべきでありましょう。勿論調査そのものは無記名で集団的に集計するのでありますから、決して個人には迷惑をかけるようなことはありません。

(6) 実地指導員の再教育講習

実地指導員(助産婦)は優生保護法に基づいて所定の講習を終了し、受胎調節の実地指導員として認定された資格あるものでなければ、具体的な指導は出来ないのであります。それで夫々の地区にこの認定講習を終つた助産婦がいる筈であります。それを週に2回とか3回とかいう形で専門に雇用しなければなりません。然し助産婦の中にも最近資格を持つた人もあれば、5年も前に講習を受けた人もあつて決して一様ではなく、また最小限度の講習でありますから十分とは言えないのであります。

そこで人口問題研究会ではこれらの人々について更に企業体向きに、焼き直した単に技術だけでなく、話術、対人関係、振舞態度等について再教育講習会を行つております。従つて再教育をしませんと実の所、使いものにならないのが一般です。

勿論この再教育講習会は会社限りでやつて、そこに必要な講師を人口問題研究会から差向けるというやり方でも出来るものであります。とにかく助産婦なら誰れでもよい、保健婦なら誰れでもよいというものではないのです。産婦人科のお医者さんでも余程、受胎調節を勉強した人でないとベッサリーの技術は出来ても他の方法や本當の指導をすることが出来ないものもおります。要するに妊娠、出産はいわゆる病気ではないのです。この頭の切替えが出来ずに指導すると、主婦は止めてしまいます。ですから根気のいる仕事でもあり、こちらから一軒、一軒、訪問して親切に指導しなければ成功しません。そのためにこそ主婦の組織と世話人が必要であり、グループ座談会より基礎知識を与えて個別訪問に移つて行かねばならないのです。一般にグループ指導は保健婦の方が上手で個別指導の方は助産婦の方が上手のようですが、問題は余り若い独身女性は指導には不向きなようです。

(7) 指導員研究会の開催

助産婦の再教育したものを人口問題研究会で推薦致しておりますが、年に1回か2回はこれらの指導員の研究会が必要で、事務局は毎日のスケジュールを与えて指導員に動いて貰いますが、指導員に必要な用具、薬品を揃えなければなりません。そして薬品を指導員が個別訪問の際に持つて行きますので、代金の整理その他の事務整理を行わねばなりません。人口問題研究会や附属病院の産婦人科の先生、事務局等が集つて今まで出て来た問題等について研究し合う必要があります。会社によつて各方面に事業場があり、風俗、習慣も異つた地域にある場合もあり、モデル地区によつて十分色々の問題を、この研究会の席上でまとめ解決方法を講じておくことが肝要であります。実地指導員に必要なことがらは、人口問題研究会で再教育して推薦した助産婦には授けてありますから、此処では省きますが要するに、パンフレットを配り器具、薬品を売り、スライドや映画を見せるだけで、相手の来るのを待つているやり方では駄目だということです。

最後に人口問題研究会の指導で種々の会社がこの運動を始めておりますが、関東地方では日本鋼管川崎製鉄所に行きますとその実状をよく目で見

ることが出来ますし、中部地方ではトヨタ自動車が進んでおり、関西方面では日立造船所が進んでおります。また中国地方では播磨造船所、九州方面に参りますと三井鉱山三池鉱業所が手本になりましょう。東北地方では常磐炭鉱が進んでおり、北海道に行きますと三井鉱山砂川鉱業所、雄別炭礦尺別鉱業所等が進んでおります。

これらは家族計画だけをやっている会社ばかり

ではありません。生活設計と結びつけた形でやっているものが多いのであります。

現在、企業体相互の連絡会を作つて相互にそのやり方を学び、研究し合う、企業体連絡協議会を人口問題研究会のきも入りで年1回宛当番会社を決めてやつております。

新しい企業体作りのために本運動の推進を御願ひし、また援助を惜まないものであります。

3. 企業体における家族計画指導の実状

人口問題研究会幹事

青木 尚雄

先年、経済審議庁が「経済白書」を出し、<もはや戦後ではない>と、わが国の復興をオウ歌した。しかし一方、追いかぶせて厚生省が発表した「厚生白書」は、生活水準の低い階層が今なお、<<陽のあたらない場所>>にとどまっていることをバクッしている。

ピカドンの下にここの声をあげた「終戦っ子」も、もはや元気な中学一年生だから、10年一むかしの言葉がまんざら感慨をさそわないわけではないが、それにしても毎日めじろおしの通勤電車でブラ下ると、つくづく人の数が気にかかる。終戦直後、<<永すぎる春>>を待たされた人々の間に、セキを切つたように結婚ラッシュがまき起り、その当然の結果として、続いてベビー・ブームがあらわれ、毎年ムリヨ270万の<<愛の結晶>>が生れ出たが、昭和31年にはそれを100万も下廻る減少を示し、アメリカ・カナダなどの先輩諸国を抜いて、一やく低出生率ベスト・テンのドン尻にくらいこむまでになった。いうまでもなく、経済圧力にあえいだ国民が、生きるために、また楽しく暮すために、出生を抑制した結果である。

しかし、近代的な家族計画の普及は、カケ声ほどには遅々として進まない。神武景気が叫ばれた昭和32年春（毎日新聞調査）、「子供はもういらぬ」、「今でも多すぎる」という家庭が56%あるのに、実際の受胎調節実行者は39%で、云うと、行うとの間には、まだ2割近い開きがある。

この39%の実行率は、昭和25年の20%にくらべると、7年間にちよと2倍に躍進しているのだから、その意味では見通しが明るいのだが、ここに手ばなしで喜べない理由が2つある。

その1つは、妻の年齢別の普及状態である。受胎調節の実行率が一番高いのは、妻が30代の中年層である。これはちよと子供数が2、3人に

なつて、やつと重い腰をあげて実行に移つた形いわば<<背水の陣>>で、失敗すればおろさざるを得ないような、追つめられた形の実行である。だからこそ、昭和31年には公式届出の妊娠中絶数だけでも115万—30秒に1つ—の件数が示され、ヤミダタイをふくめれば、出生数にほぼ同じという暴息ぶりとなるのである。家族計画とは、合理的な出生間隔の延長であるべきで、極端に言えば、新婚早々の子供のない時から実行しはじめなければならない。中絶という安直だが危険な抜け穴にたよらず、毎回のわずらわしさを我慢しても受胎調節法という合理的手段を行うべきなのである。

もう1つの問題は、その調節の方法である。実行者をしらべると、コンドームが利用度の第1位を占め、実行者の57%—すなわち半数以上に達する。コンドームそのものは効果の高い方法でこれが多く利用されていることは結構なのだが、言葉をかえれば男性の用いる方法が普及し、男性がイニシアティブをとつていること、つまり逆に婦人の知識と熱心さが少ないことを物語っている。婦人こそ妊娠出産の苦しみを一身に引受けているのに、その婦人の意識が低いことがガンとなつて、やむなく男性側が<<ヨロイカブト>>の方法を我慢しているわけである。この意味から、家族計画の真の意義と、婦人の用いる器具薬品の方法を、とくに主婦むけにやさしく教える必要が生じてくる。

この2つの問題点を企業体がとりあげた場合、家族計画運動は、経営者にとつても従業員側にとつても、単なる狭い金銭的利益というより、家庭も職場も明るくなり、労資協力して産業の発展に役立つという無形の大きな効果を生ずる。

もともとこの家族計画運動は、ただ何が何でも産むな殖すのではない。たとえば、この指導を通

じて、同じ職場に働く従業員家庭の相互の親睦、相互扶助のフニキが生れただけでも意義がある。今まで銭湯で会つても口をきかなかつた主婦同士が、指導会で顔を合わせているうちに親しくなつて、お互いの実行方法を研究しあう風景も見られるようになったし、某社のストライキに際しては、家族計画指導員だけが社宅の中に笑顔で迎えられたという実話もある。さらに、家庭が幸福になつた結果、作業者の不安や疲労がへり、この運動をはじめから2年目には、職場の産業事故が6割に下つている。

従業員家庭の指導には、助産婦出身の実地指導員が最適任である。一般に家庭主婦というものは出産につぐ出産に、心身ともにあえぎつつ、オシメの洗濯やミルク代の心配にその日その日を送り、したがって内心は家族計画に熱意をもつてはいるのだが、自分から積極的に出かけて行つて、専門家の教えを乞うだけのフンギリがつかない。そうかといつて、講演会やパンフレッドで耳だけの知識をうけても、具体的な技術、個々の家庭にびつたりあつた方法を身につけることができない。

それゆえ、巡回指導員が労をいとわず、たんねんに指導をして歩くことこそ、ほんとうの親切であり、能率は少ないながら、かえつて着実な成果をあげるのである。

そのためには、実地指導の資格のある助産婦を専属指導員に採用し、ケース・ワークを行わせるのが一番である。その実状を紹介すると――

社宅や近接している従業員家庭を、10世帯単位に1グループにして、いわば隣組式に集団基礎指導を行い、ついで個別に一軒一軒まわつて個人訪問指導にうつるが、まとまりの困難なグループは個別訪問で顔をなじみになつてから、基礎指導の集会をつくる。

基礎指導は、保育所・集会所などの施設があればそれを利用するが、大部分は主婦の世話役の家の一室、あるいは持まわりの当番制などの形をとつて、部屋を提供してもらふ。午前10時ごろとか、午後2時ごろとか、家事のひまな時間に集つて、指導員からまず家族計画の意義を、肩のこらない話しぶりで説明し、ついで掛図・模型・スライド・実物見本などを用いて、わかりやすく視覚教育を行う。はじめのうちは、借りてきたネコの

ように、おとなしく坐つて口をきかない奥さん方も、生命の神秘、妊娠中絶の弊害を、立体的に説明されると、ひざをのりだして閉耳を立てるようになる。多くの主婦たちは、月経はどうして起るのか、中絶手術はなぜ害があるのか、はつきりした基礎知識をもっていない。だから、いまさらのように、自分の体の問題について、はつきり認識を新たにするのである。またこの集団教育は、ただ知識に役立つばかりではない。集つて自分たちの問題を考えあうという協同感・親和感の源となる。トンチンカンな質問ができれば、かえつてその場の空気をときほぐす。50才すぎの奥さんが「わたしには用はないけれど、年ごろの娘の性教育のために」と熱心に出席すれば、ほかの奥さんのはげみにもなる。そして段々なかよしくなつて、2時間の集会の最後に、30分の座談会を設ければ、実感のこもつた体験談もとび出し、指導員とグループの間に、すつかりなじみができる。

集団会はその後も年に何回か開いて、家族計画ばかりでなく、子供の栄養の話もするし、ときには中年主婦むきに変更期の障害も解説するというふうに、活潑にもりたてて、建設的な意見交換の場を与える。そしていままで家に引きこもりがちの主婦たちが、「集つてなにかを学ぶ」フニキをつくるのである。最初のうちは、井戸ばた会議に終ることもあり、勝手に発言しあつて、会場が混乱することもある。しかし、だんだん楽しい集いの喜び、新しい知識を吸収する嬉しさを感じるようになる。

指導後1年、川崎市の某工場従業員の奥さんの感想をきこう――「わたしは、主人が東北地方の出身なので、同じ村からこの川崎市に嫁ぎました。はじめ鶴見の借間に2年、この社宅にまいりましてから満3年になります。田舎そだちのため、立派な奥さん方とおつきあひするのが何だか恐ろしくて、人目をさけて家の中にもりがちでした。昨年からの運動がはじまり、グループの座談会にさそわれました。はじめは世話役の奥さんの顔をつぶしてはならないと存じ、お義理でイヤイヤながら出席していましたが、近よりにくいと思つていた近所の奥さんたちが、あんがい気さくなばかりで、こんなことならもつと早くから友だちになつていればよかつたと後悔しています。

先週の会合では、栄養の話が出たついでに、列席の奥さん方に、故郷の料理の塩かげんのコツを伝授して、満座の中でカツサイを受けました。数ならぬこのわたしが、人さまにものを教えて、しかも喜ばれるなんて……その晩は嬉しくて眠れなかつたほどです。」

第1回の集団指導が終ると、続いて一軒一軒の個別訪問がはじまる。待つていましたとばかり、応待する家庭もあり、教わらなくても知っていますとばかり支開の戸をしめる家庭もある。保険の外交員とまちがえられ、居留守をつかわれたり、門を入つたとたん、犬に向うズネをかみつかれたりの悲喜劇も起る。しかし、指導員は決して受胎調節実行の無理じいはしない。日常生活のグチのコボシ口も、きき上手に引受け、また昔とつたきねづかで、赤ちやんの保育相談も、気がるにサービスする。多くの主婦のなかには、子供が欲しいのに、できなくて淋しがつている人もいるが、この運動の精神からは、逆に妊娠できるように指導することもある。さらに不感症のごとき、人にいえない悩みにも、たよりにされる。ある地区では娘さんの縁談をたのまれ、他の指導員の地区で候補者をさがしてもらつて、その話をまとめ上げたという、ほほえましい例もある。

受胎調節普及が<<狭き門>>である理由は、はすかしいからに他ならない。ところが自分の好きな時間に自分の家で、同じ婦人同士の指導員と2人きりで話しあえば、診療所の待合室でクレソールの匂いがかがされながらイヤな思いで待つているのにくらべて、すつと気持がほぐれる。その上、器具薬品も指導員からその時に受けとるのだから、市内で買うようなはすかしさをおぼえない。「近所の薬局で器具を買つていた頃は、うっかり知合いの人に、その店先で顔を合わせようものなら、別の薬を買いにきたようなふりをして、要りもしないハミガキを買つて帰つたものです。」というある奥さんの話に、この効果が端的に示されている。さらに、指導員の配布する品は、会社が信用のおけるメーカーから、JISマークのついた効果のあるものを、まとめて購入しただけに実費が安くつくし、安心してつかえる。いわんや、指導員は、300世帯に1人ずつ配置されているから、2、3カ月に1回ぐらいの割合で、同じ家庭を巡回し、

ちようど薬のなくなつた頃には、ご用ききのごとく届けてくれるのである。

このような指導を重ねて1年後には、どんな結果となつてゐるか。いま、日本鋼管川崎製鉄所の調査を例にとつて見よう。

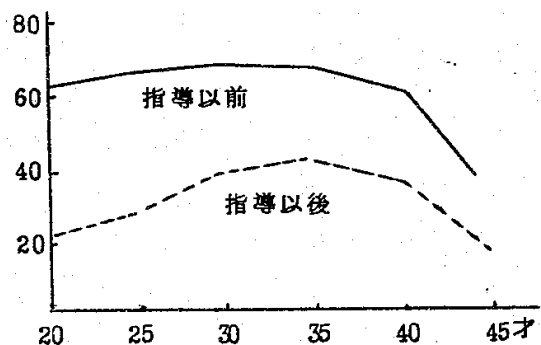
受胎調節の実行率は、別表のごとく、指導以前の40.7%が、一やぐ30%も上まわる70.8%になつてゐる。つまり10軒のうち7軒が実行していることになる。7割台の実行率は、大都会の知識階級の実行率50%をこえ、ゆうに欧米諸国の実行率に匹敵する率である。

さらにこの成果を、妻の年令別に観察すると、いつそうはつきりする。指導以前は、妻の30才代に山があり、20才代の前半と40才代の後半は2割台という低いスソ野となつてゐた。つまり、新婚早々の時はボンヤリしてゐて、30才になるとあわてて実行をはじめ、40才になるとガツカリして実行希望を失う状態を示している。ところが指導以後は、このように「やりきれなくなつて」

妻の年令別受胎調節実行率

(日本鋼管 昭和29年 世帯数2870)

妻の年令	指導以前の実行率	指導以後の実行率
24才以下	24.5	66.5
25 - 29	35.6	69.6
30 - 34	45.1	74.9
35 - 39	47.8	74.0
40 - 44	41.5	70.0
45 - 49	20.8	42.5
計	40.7	70.8



からではなく、若夫婦でも将来を考え、40すぎもあきらめずに努力する姿があらわれている。

もう1つの問題点、すなわち実行方法の割合を見ても、具体的指導の効果は明らかである。指導以前には、コンドームが圧倒的に多く、これが半数以上を占め、ついで定期禁欲（おぎの式）、ゼリーの順序で、女性側の用いる方法が少なく、有害な性交中絶（腔外射精）があとをたたないことも、指導以前の特色であつた。ところが指導以後

受胎調節実行方法の利用度

（日本鋼管 昭和29年 世帯数2870）

実行方法	指導以前の割合	指導以後の割合
コンドーム	54.2	23.5
狄野式定期禁欲	14.4	10.3
ゼリー	8.5	38.5
錠剤	7.2	1.8
ベッサリー	6.2	23.1
性交中絶	3.9	0.7
スポンジ	3.9	0.6
洗滌	0.9	0.4
基礎体温	0.4	0.9
リング	0.4	0.1
計	100.0	100.0
1人当りの方法数	1.3	1.9

になると、主婦を対象とする個別指導により、ゼリーの使用割合がいちじるしくのびて、4割近くなつている。ゼリーは、これを単独に使用するものは少く、大部分はベッサリーおよびコンドームの補助剤として塗布するもので、これはだんだん実行方法が高級になつたためである。論より証拠、実行方法数を人数で割つた、1人あたりの方法は、指導以前の1.3にくらべて指導以後は1.9となり、1人あたりほぼ2種の複合法を、宮本武蔵の二刀流のごとく、たくみに使いこなし、技術の熟練したことがうかがわれる。

そして有害な方法が影をひそめ、コンドームに肩を並べて、ゼリー、ベッサリーのように女性の用いる方法が増加していることは、受胎調節にお

いても文字通りの男女同権が得られたことを示している。

当然、この実行による出生抑制効果もいちじるしい。別表のごとく、指導前1年と指導後1年とを比較すれば、出産数は約半減、妊娠中絶はおどろくなかれ5分の1に激減している。家族計画の効果は、わずか1年にしてはつきりするものでは

受胎調節による妊娠出産減少効果

（日本鋼管 昭和30年春 5366世帯）

	指導前1年	指導後1年	割合	
出産数	605	317	47%減	(約半分)
妊娠中絶数	751	152	79%減	(約1/5)
不妊手術数	124	19	85%減	(約1/6)

ない。また出産妊娠の防止のみが目的ではない。指導前には69%がツワリ、その他の妊娠障害に悩み、65%が妊娠出産を不安に思い、自信がないと悲痛な叫びをあげていたが、このような出産減少により、妊娠ノイローゼが解消されている。

「あなたは、家族計画のような微妙なことを巡回指導していることについて、何とお考えになりますか？」との質問に対する意見

（日本鋼管 昭和29年 2870世帯）

意見	%
歓迎する	75.1
別に何とも思わない	19.8
こういうことは指導すべきではない	0.8
不明	4.3
計	100.0

だからこそ、この運動を歓迎し、心から期待している主婦が、7割以上にものぼるのである。そして、この家族計画指導の発展するところ、生活改善・生活設計にまで団結のうまみを示し、たとえば同一の家計簿をつくつて研究しあい、あるいは貯蓄組合に7億の金を積立てて、これらの連絡輪をする指導員や会社当局に、うれしい悲鳴を上げさせている。これこそ基盤のしつかりした「新生活運動」と云えるであろう。

I

企業体における家族計画運動

当社の家族計画運動の動機

東武鉄道株式会社 総務部人事課

一昨年人口問題研究会理事長永井享博士の御講演をお願いして以来、社内に家族計画運動の必要が強く認識される結果となり社長始め会社幹部が深い関心をもつて研究が始められた。一方当社の従業員の扶養家族数は十年間に一人当たり平均1.4人から2.2人と増加し、このうち子女だけの扶養数は0.8人から1.4人と増え、出生率（年間出生数を従業員総数で割つたもの）は人口千につき128.6で今後も扶養家族数のさらに増加する傾向を示していた。これでは

(イ) 家庭の暮しも楽にならない
(ロ) 母体の健康を保つこともできない
(ハ) 子供のしつけや教育も十分できない
従つて家庭生活の重圧は職場に影響しないわけではない。例えば労働災害を見ると50年度には372

件と毎日1件平均の災害発生を見ており、その損失日数は34,850日と甚大な損害を蒙つていた。このような家庭の事情から従業員の間には生れる子供の数を少くしようとする考え方はかなり強く、しかもその手段として人工にんしん中絶の行われたことも少くはない。昭和29年3月から9月までで会社の健康保険に現われた数字だけでも186件、これを年間に換算すると、実に57件となり当社の出生数の約4分の1を占めた。しかもこれは健康保険で中絶した数であるからこの外にさらに相当数の中絶が行われていることが想像される。これはまことに憂うべき事実でその絶滅を期する必要が痛感された。かくて労働組合と話合つた結果賛成を得たのでここに本運動を実施することとなつた。 昭和32.11.22

新生活運動をはじめた動機

日本鋼管 川崎製鉄所

昭和27年秋のある日、庄延工場に所属する工員のMさんは、傷つた身を鋼管病院の一室に横たえていた。外は菊の季節にふさわしい青空が晴れわたっているというのに、Mさんの命は昏迷の間をさまよっていたのである。折から見舞にかけつけた労務部長Kさんの耳にきこえるものは、「〇〇ちゃんの病気は……」と繰返すMさんのウワ言だけであつた。Mさんはこの製鉄所生えぬき、勤続12年の熟練工である。酒好きだが、気持のさっぱりした人で、「とうちゃん」のアド名が示す如く、5人の子福者である。

この前日、末っ子の〇〇ちゃんが夕方からにわかには発熱し、子ぼんのうのMさんは徹夜で看病した。そして出勤後2時間にして機械に手をかまれてしまったのである。労務部長のKさんは、くらい面もちのまま帰社すると、腕をくんで考えにふけた。今年10月だけをみても197件の産業事故が発生し、うち半数に近い94名が欠動をしている。

もちろん、1万4千名を越す大世帯の製鉄所だ。ささいなケガまで根だやしにすることは、むづかしい。しかし、これらの事故の7割までが、機械の

老朽や偶然の不幸——つまりやむを得ない原因によるのではなく、作業者自身の不安や疲労より生じ、このことはつきつめれば、主として家庭生活内部の不安定から発しているのではないか。もっと端的にいえば子供の病気があればムシャクシャし、夫婦ゲンカがあればイライラし、職場の注意がどうしてもおろそかになる。働いている人たちの1日の生活は、勤務時間は休憩時間をいれても8時間であり、のこりの16時間のほとんどは家庭ですごされている。この16時間の家庭生活には、衣、食、住、休養、教育、文化、娯楽、衛生、育児等のことがふくまれているのではないか。この家庭生活が明るくなり、元気よく工場に送りだされれば、きっと産業事故も減るにちがいない。そうだ「安全は家庭から」だ。家庭における生活のすべては、明日の労働力再生産の電源であり、その家庭生活がどう過されるかによって、明日の生産に大きく影響される。いやいや、工場の生産能率の問題ばかりではない。人間の「いのち」の問題だ。

Kさんの瞑想はさらにつづく。いままでの勤労厚生管理のやり方にしてはもうそう。働く人たちの在社時間の管理ということが中心であったが、これではほんとうの親切な管理とはいえない。従業員の退社後の家庭生活にまで、あたたかい手をさしのべるべきだ。

厚生福利の面を考えてみよう。

いままでは入手困難の品とか、安い品をあっせんすることがその業務であった。

そうではない、安くてよい品を市中で買う方法そのみわけ方を教える。予算生活、調理法、栄養価などの相談相手になってやるように仕事をかえてゆく。それこそ厚生の名にふさわしいのではあるまいか。また、働く人たちの1ヶ月の収入は、だいたい一定している。その一定した金額を、いかにより有効につかうかは、いつに主婦の家庭経済のきりもりの手腕にかかっている。1万円の金を1万2千円につかうか、8千円につかうかは、家庭生活への影響が大きい。この家庭の立役者たる主婦の向上をはかることが、幸福な明るい家庭をつくり、明るい社会をつくり、良人にやすんじて生産にうちこめるようにする泉となる。

そうだ、厚生業務の手を家庭にのばそう。主婦を中心に、教養をたかめ、生活の合理化をすすめ、健康をますなどのよき指導と相談相手となる運動だ。スジ金として貫ぬく目標は、個人の幸福をとおしてお互いに協力しあい、結局は明るい国づくりの基礎となることだ。新生活運動——この言葉をいうはやさしい。また、やってみても、目にみえた効果は期待できまい。しかし、やらねばならぬ問題だ。

十年計画で、覚悟を新たにして、つきすすんでみよう。……

以上のようなKさんの考え方、厚生福利の場を、働くひとたちの日々の生活の全面にひろげてすすめるようとする考え方が、日本鋼管、川崎製鉄所における新生活運動発足の動機となった。この考え方にたつ新しい仕事を、ここでは「新生活運動」とよんで活発に展開している。

いってみれば厚生業務の革命である。いやしくも新生活と名づける以上、この運動は、単に物質面、消費面の改善にとどまらず、精神、生産面につながる社会的、総合的、生活態度のきりかえを目的として、はじめてその意味が生きてくる。家庭経済一つをとりあげても、一定の収入によって生活するものにとって、いちばん必要なのは、その予算生活である。

家庭の設計という本質を無視して、いかに生活改善を叫びたてても、やけ石に水となるおそれがある。そのためには、家庭を基本に考え、家庭の幸福→家庭生活の向上→職場の明朗化という方面の運動がその中軸となるべきはすである。こままで、ひとりひとりの生活を掘りさげて、具体的に考えると、積極的な家族計画の実行ということが、切実な問題となってくる。夫婦の間に、三人子供を生むのも、八人の子供を生むのも、また全然生まないのも、個人の自由意志の問題であるが、かわい子供たちに親としての責任をはたし、子供たちと家庭生活の幸福を考え、あるいは日本の将来を考えれば、そこに当然良識ある家族計画の問題がうかびあがってくる。言葉をかえれば、家族計画を足がかりとする運動こそ、根本をえぐった、人とものかねそなえた自主的、科学的な方向といえよう。合理的に家庭生活をきずきあげ、心身ともに健康で、すぐれた能力をもつ子供たちを育

て、とくに家庭主婦の負担を軽くし、その人格を尊重することは、社会道徳の線につながる。

新生活運動は家族計画にかぎったことではないが、まず焦点を家庭の計画と設計におけば、そのしっかりした地盤が得られる。受胎調節は手段であり、方法である。これをとおして、家族計画という「考え方」を養い、さらにこの考え方なり、理念なりを発展させて、職域が団結すれば、新生活のいくべき道は、洋々とひらけてくる。Kさんはさつそく、関係の人たちと相談した。これに対

し、奇異の眼でみる人、はじめからサジを投げる人、またこの仕事を家庭にまで延長するのは、かえって強制越権になるのではないかと危ぶむ人もあった。しかし、身近かに子供の将来、日本の将来を考えていた人たちからは、予想以上の賛成と協力を得た。

ただし、ことはなっとくすくで運ばなくてはならない。あらゆる人の意見をきき、またあらゆる資料を集めて、十分に計画を検討した上でとりかかろう。……



企業体における新生活運動の 問題点と先進各社の参考例

1 基本的考え方

2 推進の方法

1. 基本的考え方

人口問題は生活問題であり、国民の日常生活に直接つながっている。国民の日常生活を刷新し、その向上を図り、そこに現実的基礎を強く据えなければ、人口問題の解決は難しく、まして真に民主的な福祉国家の実現及び国家緊急の経済自立は到底望み難い。そのためにはあらゆる職場、地域にわたり、近代的な道徳的、合理的、計画的の日常生活を実現するよう、現状に則して具体的な一大運動が展開されなければならない。言葉を換えれば、新生活運動は単なる生活改善運動に終始せず、1つ1つの家庭生活における生活の充足プラス人間の完成より出発し、人口問題の解決、進んで新日本の建設に直接寄与する運動であるとの理想を持つべきである。

財団法人人口問題研究会は、その部内に新生活指導委員会を設置し、学識経験者を集めて人口対策の見地から生活指導に関する諸般の事項を審議検討し、その実践課題について、本年（昭和33年）五月大綱左の如き方針を決議している。

1. 趣 旨

- (1) 新日本の建設に直接寄与する運動であること。
- (2) 人口問題の解決に資する運動であること

2. 課 題

(1) 家族計画

1. 家族計画理念の普及

2. 受胎調節の普及と望胎（人口妊娠中絶）の防止

(2) 生活設計

1. 予算生活の普及
2. 生活合理化の促進
3. 貯蓄の増強

(3) 健康家庭の建設

1. 家庭衛生の向上
2. 乳幼児の科学的保育

(4) 家庭秩序の再建

1. 新しい家庭道徳の樹立
2. 青少年の不良化防止

(5) 社会道徳の振興

1. 職場道徳、交通道徳、公衆道徳の高揚
2. 責任協力態勢の確立

そのため、特に重点を国民経済の中核体たる企業体の新生活運動の指導におき毎年企業体の指導幹部に対するこの運動の基礎理念、指導要領に関する講習会（企業体新生活指導幹部講習会）を開き、在来の厚生労務管理方式について再検討を行い、家庭と職場を一元化した管理方式—企業体家族の生活水準の向上及びその家族成員の資質の向上より出発して、生産性の高揚と産業安全の基礎を養い、家庭から職場へ職場から社会全般におし広める運動を推進しつつある。

2. 推進の方法

A 指導方針

新生活運動は、衣食住の技術的改善のみを主眼とし或は家族計画だけで能事終りとするものではないことは前章で示した通りである。それ故あとの参考に紹介した実践課題各項目は是非共網羅せねばならない。

たゞそれにしてもこの全項目を同時に出發させることは、甚だ困難であるばかりでなく、時としては重点が散漫に流れるという逆効果も生れかねない。それで先ず第一段階としては、家族計画或は生活設計より出發し、家庭の合理的再建の基礎を造るべきである。家族計画と生活設計はどちらを先にすべきか或は同時に出發すべきかは、もちろん各企業体の立場なり、特殊性なりに従うべきで、或る場合は第三の健康家庭の建設を先に推し進めても一向差支ない。要は基礎理念さえ確立し、その背景を考へつつ一步一步運動をはこべばいいのである。今までの経験からいへば、家族計画を出發点として入った方が、労働組合に対しても、各家庭に対してもスムーズに受け入れられ易い。家族計画で家庭の合理的再建が出来れば、自然に向上意欲が生れ、次の段階に着手し得る。

又、同じ企業体の中でも、或る事業所地区は年令集団を考慮して、家族計画指導を主体とし、或る事業所地区は立地条件その他を考へ健康管理に重点をおく等のバラエティを持たしても一向差支えはない。

指導対象区域の設定については、初め一工場の、それも集団社宅地区を小規模にモデル・ケースとして組織し、遂次問題点を拾い、運営技術を反省改善しながら、半期毎でも1年毎でもその規模を

拡大し全社に及ぼす方法と、全社各工場一斉に出發し、本社がその統一調整の任にあたる方法と2通りある。後者の場合は、早くこの運動が大規模に發展し、且つ各工場のいい意味の競争意識が加わって効果をもたらすという利点はそれとして捨難いが、念を入れてテストする意味においては前者の遂次方式が望ましい。

出發方針と対象が決まったら、「実施要領」と「実施項目」を設定すべきである。単なる家族計画運動に終らせないことを心に銘ずるためにも、又対象家庭に前途の希望を持たせるためにも、この具体的実施項目はたゞのスローガン以上に価値がある。この設定にあたっては出来る限り、一部の家庭に簡単なアンケートを回して、希望を調査することが望ましい。この運動はあくまでも各家庭、殊にその主婦の自主的運営にまかされるべきものであつて、又これなくして、この運動の成果は期待されぬといつて過言でない。発足当初は企業体の強力な援助、或は庇護の下に推進されることは止むを得ぬことであり又ある程度必要であるが決して押しつけることなく、独善を排し、次第に自主的活動に移行する性質のものである。すなわち家庭生活の画一化を計るものでなく、各家庭の実情にそつた合理的計画的な生活のあり方を各人が発見し、そして実行出来る様に援助すべきであり、実施項目もこの線に沿つて設定する必要がある。なおこの希望調査はこの運動実施について上司に意見を具申する際の強力な援護射撃となるべき参考資料としての価値も併せ持っている。

〔参 考〕 実施項目

(例1) 日本鋼管川崎製鉄所

1. 教養に関すること。
 - (1) 講座・講演・懇談会を開くこと。
 - (2) 各種講習会（和洋裁、染色、料理等）
2. 家庭の安全並びに保健衛生に関すること。
3. 生活の合理化に関すること。
 - (1) 衣食住改善のこと。
 - (2) 貯蓄奨励のこと。
 - (3) 相互扶助のこと。
 - (4) 習慣簡素化のこと。
4. 受胎調節普及に関すること。
5. 育児並びに子女の教育に関すること。
 - (1) 児童教育及び不良化防止のこと。
6. 社会道德に関すること。
7. 家族の慰安に関すること。
 - (1) 幻灯、演芸、おはなく、その他
 - (2) レクリエーション奨励のこと。
8. 親睦会、見学、その他

(例2) トヨタ自動車

運動の実施主旨および実施項目

△ 運動の主旨

1. この運動は従業員及び家族が健康にして潤いのある生活を合理的、計画的に営むことにより、明るく楽しい家庭を築くのを目的とします。
2. そのためには、家族計画、生活合理化、保健衛生、その他教養などにつき、家庭婦人が主体となり、会社、健康保険組合、住宅会などの協力のもとに運動を推進します。

△ 実施項目

1. 家族計画に関すること。

主婦の負担を軽減し、それぞれの収入に見合った家族数で、子女にも十分な教育をなし得るように計画産児、受胎調節を指導普及す

る。

2. 生活の合理化に関すること。

計画的、合理的な生活を行うために、予算生活の実行と衣食住の改善、冠婚葬祭の簡素化、貯蓄奨励などを行う。

3. 保健衛生に関すること。

家族の健康維持増進のため、環境美化、防疫及び健康診断を行うほか、保健思想を普及徹底する。

4. 教育その他に関すること。

家族の教養面の向上に資するため、料理・手芸などの講習会、あるいは子女教育、育児、不良化防止などの相談、講演会を開催する。

(例3) 日立造船因島工場

新生活運動実施項目

1. 教養に関すること。

- (1) 講演・懇談会・グループの話し合い活動
- (2) 各種講習会

2. 保健衛生に関すること。

3. 生活の合理化に関すること。

- (1) 衣食住の改善
- (2) 予算生活の確立

(3) 生活習慣様式の簡素化

4. 家族計画に関すること。

- 5. 育児ならびに子女の教育に関すること。
幼児の育成、児童教育および不良化防止

6. 家族の慰安に関すること。

- (1) 幻灯、映画、演芸、その他
- (2) 体育、文化のレクリエーション奨励

7. 社会道徳に関すること。

〔参 考〕 家族計画希望調査

(例1) 東京急行電鉄

受胎調節希望有無調査

勤 勞 部 厚 生 課

(1) 受胎調節を希望する		次の妊娠まで間をおきたい。 健康上希望する 経済上希望する 受胎調節の指導を必要とする 器具薬品などの実費負担を希望する	しない しない
(2)	ない	全然必要が	更年期（月経がない）を過ぎた どうしても妊娠しない 妊娠しない手術をうけた 病気療養中 別 居 中
	しない	今は希望	考えている 妊娠または産褥中 子供が二人以下でもっとほしい 子供はたくさんの方がよい
(3) 受胎調節には反対する		その理由	

記載上の注意

- (1) 受胎調節とは子供を必要なとき必要な人員だけ生むようにするとか、これ以上は生まれてはこまるという場合技術をつかうことによって生れる子供が出来ないように調節することです。
- (2) この調査は匿名にしておりますから、本人の外は誰のかわかりませんし、厚生課としては秘扱いとして統計以外には使いませんから正直にありのままを申告して下さい。
- (3) (1)(2)(3)の3つの質問がだしてありますから、それぞれのところに○印をつけるか、或はその理由を書入れて下さい。

(例2) 日本鋼管

質問項目

A この会社の川崎製鉄所でやっている新生活運動について、あなたはつぎの各項目を、どう思いますか？

(各項目ごとに、どれかひとつを○でかこむこと)

イ) 計画産児(計画的に子供をつくること)

の指導

① よいことだ ② 感心しない

③ どちらともいえない

ロ) 主婦のための料理や、さいほうなどの講習会

習会

① よいことだ ② 感心しない

③ どちらともいえない

ハ) 生活相談

① よいことだ ② 感心しない

③ どちらともいえない

B やはり川崎製鉄所でやっている、新生活運動についてつぎのような甲、乙の意見があるようです。

甲の意見：「会社が、従業員の私生活にまで立ち入るのはどうかと思う」

乙の意見：「会社が、従業員の家庭生活までめんどろをみってくれるのは、よいことだ」

あなたは、このどちらに、さんせいですか？

① 甲にさんせい

② 乙にさんせい

③ どちらともいえない。

(例2) 日本鋼管

質問項目

A この会社の川崎製鉄所でやっている新生活運動について、あなたはつぎの各項目を、どう思いますか？

(各項目ごとに、どれかひとつを○でかこむこと)

イ) 計画産児(計画的に子供をつくること)の指導

- ① よいことだ ② 感心しない
- ③ どちらともいえない

ロ) 主婦のための料理や、さいほうなどの講習会

- ① よいことだ ② 感心しない
- ③ どちらともいえない。

ハ) 生活相談

- ① よいことだ ② 感心しない
- ③ どちらともいえない。

B やはり川崎製鉄所でやっている、新生活運動についてつぎのような甲、乙の意見があるようです。

甲の意見：「会社が、従業員の私生活にまで立ち入るのはどうかと思う」

乙の意見：「会社が、従業員の家庭生活までめんどろをみしてくれるのは、よいことだ」

あなたは、このどちらに、さんせいですか？

- ① 甲にさんせい
- ② 乙にさんせい
- ③ どちらともいえない

その調査結果は

問Aのイ この会社の川崎製鉄所でやっている新生活運動について、あなたは次の各項目をどう思いますか？

事務所 選抜肢	川		鉄		鶴		鉄		管		山		新		子		安		炉		材		鶴		船		野		清		水		全	
	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工	職	工		
イ) [20] 計画産児の指導	251	737	83	544	67	320	70	71	77	83	228	82	155	76	1587	(8.37)	(78.4)	(8.3)	(61.6)	(9.57)	(80.0)	(77.0)	(8.3)	(79.0)	(8.2)	(77.5)	(7.6)	(79.3)						
1) よいことだ	13	64	7	47	1	20	8	6	5	7	17	6	9	5	132	(4.3)	(6.5)	(7.0)	(0.7)	(1.4)	(5.0)	(7.0)	(6.0)	(6.0)	(4.5)	(5.0)	(6.6)							
2) 感心しない	32	80	9	50	2	37	9	3	14	9	27	9	19	16	180	(10.7)	(8.5)	(9.0)	(0.7)	(2.8)	(9.3)	(9.4)	(9.0)	(9.5)	(9.0)	(9.0)								
3) どちらともいえない	4	59	1	26		23	13	9	4	1	17	3	17	3	101	(1.3)	(6.3)	(1.0)	(3.9)		(5.8)	(6.0)	(6.0)	(3.0)	(8.5)	(3.0)	(5.1)							
不	300	940	100	667	70	400	100	89	100	100	289	100	200	100	2,000	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)							
合 計																																		

〔参 考〕 受胎調節実態調査表

(例 1) 日本国有鉄道

受胎調節実態調査表

(1) 居住地別					(年 月 日現在)	鉄道管理局
(2) 出生月日	夫	年	月	日	(3) 結婚の年月	年 月
	妻	年	月	日	(4) 職 名	
(5) 現在までの妊娠状況	生きて生れた子供について			死流産について		
	イ	現存しているもの	人	ハ	死産又は流産	回
	ロ	死亡したもの	人	ニ	人工妊娠中絶 (おろすこと)	回
(6) あなたの家庭ではお子さんは何人位が適当と思います	1人	2人	3人	4人	5人	
(7) 受胎調節を行ったことがありますか	イ 現在行っている			ロ 以前に行ったことがある		
	ハ 全然行ったことがない			(イ) 必要がないから (ロ) わずらわしいから (ハ) 適当な方法を知らないから (ニ) 子供が欲しいから		
(8) 御自分の立場から受胎調節についてどう感じておられますか	イ 必要を感じている			ロ 必要を感じていない		

(例2) 日本鋼管

						※	町符号	
新生活運動実態調査表 本調査は今後皆さんと一緒に運動を進めていく上に大事な資料となるものですから、間違いなく記入の上、必ず御提出下さい。 (昭和 年 月 日調)								
世帯主 氏名	妻 氏名							
現住所								
満年齢	夫	才	妻	才	結婚年月	昭和	年	月
㊤現在の 子供数		㊦			※			
	人	希望の子供数		人	妊娠可能年齢層			年
下記の実施項目のうち貴方の希望するものを○でかこんで下さい(番号の上に)								
1	編物講習(手あみ・機械あみ)							
2	和洋裁							
3	料理(正月料理・季節料理・子供のおやつ)							
4	ふとん綿入							
5	活花							
6	講座(先生のお話し) 一時局問題・子供の性教育・子供の学習指導の仕方							
下記のことからの、どちらかを○でかこんで下さい。								
1	あなたは現在家計簿をつけておりますか				つけている	つけていない		
2	産児調節を行っておりますか				います	いません		
3	あなたは産児調節の指導を希望しますか				希望する	希望しない		
その他	上の項目以外貴方の希望するものがありましたら下に御記入下さい							
記入上の 注意	㊤ 自分の生んだ子供数のみを記入する。 ㊦ 現在持っている子供を含めて将来これくらいの子供を持ちたいと思う数を記入する。 ※ 記入しないで下さい。							

(例3) 石川島重工

家族計画実態調査票による調査結果(指導開始直前に調査したもの)

項目		住宅								計	%	
		一豊	二三豊	七寮	都住	洲崎	大島	晴海	東中野			
提調 出査 率票	配布枚数	40	64	12	107	41	48	30	39	381		
	提出枚数	40	55	11	85	36	35	28	29	319		
	提出率	100	86	92	79	88	73	93	74	84%		
避妊 実行・ 不実行の 割合	実行	現在実行	24	30	1	24	16	17	13	18	143	45
		過去実行	7	10	2	15	5	10	5	5	59	19
		時期不明	0	0	0	5	0	0	0	0	5	1
	計	31	40	3	44	21	27	18	23	207	65%	
	不実行	不実行	7	15	8	24	10	4	10	5	83	26
不明		2			17	5	4	0	1	29	9	
計	9	15	8	41	15	8	10	6	112	35		
合計		40	55	11	85	36	35	28	29	319	100%	
避妊 実行の 程度	絶えず規則的に実行	17	23	1	24	11	15	11	16	118	57	
	不規則に実行	5	7	0	4	1	3	3	2	25	12	
	実行を中断	5	4	1	8	5	9	3	5	40	19	
	不明	4	6	1	8	4	0	1	0	24	12	
計	31	40	3	44	21	27	18	23	207	100		
妻の 年齢別 実行	24才以下	1	0	0	1	2	2	0	0	6	3	
	25才～29才	9	11	0	2	3	10	6	0	41	19	
	30～34才	9	16	2	7	5	10	9	8	66	31	
	35～39	5	11	1	11	7	4	3	12	54	28	
	40～44	4	1	0	15	1	0	0	3	24	12	
	45才以上	0	0	0	7	3	1	0	0	11	5	
不明	3	1	0	1	0	0	0	0	5	2		
計	31	40	3	44	21	27	18	23	207	100		
方法の 単独別 実行	単独	16	23	2	17	8	17	13	11	107	51	
	二種併用	6	8	0	11	3	6	5	11	50	25	
	三種併用	3	1	0	0	1	1	0	0	6	3	
	不明	6	8	1	16	9	3	0	1	44	21	
計	31	40	3	44	21	27	18	23	207	100%		

項目		住宅	一豊	二三豊	七寮	都住	洲崎	大島	晴海	東中野	計	%
現在子供数別実行	0人		0	2	0	1	1	6	0	0	10	5
	1		4	9	0	3	1	7	9	3	36	16
	2		13	15	2	13	9	9	6	9	76	37
	3		7	10	0	15	7	5	2	9	55	28
	4		4	4	1	7	2	0	1	2	21	10
	5		3	0	0	2	1	0	0	0	6	3
	不明		0	0	0	3	0	0	0	0	3	1
計		31	40	3	44	21	27	18	23	207	100%	
結婚期間別実行	0年 ~ 4年		12	14	1	7	4	18	5	0	61	29
	5 ~ 9		10	8	0	9	3	7	6	6	49	24
	10 ~ 14		1	3	1	4	4	0	4	9	26	13
	15 ~ 19		0	4	0	1	1	0	2	6	14	7
	20 ~ 24		0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	不明		8	11	1	23	9	2	0	2	56	27
計		31	40	3	44	21	27	18	23	207	100%	
収入別実行	10,000~14,000		0	1	0	1	0	4	0	0	6	3
	15,000~19,000		3	2	0	1	3	4	2	0	15	7
	20,000~24,000		5	7	1	2	3	8	6	0	32	15
	25,000~29,000		8	14	1	8	9	5	5	4	54	27
	30,000以上		12	9	1	25	4	3	4	18	76	36
	不明		3	7	0	7	2	3	1	1	24	11
計		31	40	3	44	21	27	18	23	207	100%	
子供希望数分布	1人		5	8	0	4	0	3	3	1	24	11
	2		12	18	2	13	7	13	8	11	84	41
	3		7	9	0	13	11	9	5	10	64	32
	4		4	5	1	6	1	2	1	1	21	10
	5		3	0	0	1	2	0	1	0	7	3
	不明		0	0	0	7	0	0	0	0	7	3
計		31	40	3	44	21	27	18	23	207	100%	

[参 考] 家族計画実態アンケート及び結果

(例1) 東部鉄道(「交通東部」昭和33年3月増刊誌上発表)

<アンケート> あなたの家族計画

「効果あった」が70パーセント

多い教養向上を望む声

会社の家族計画運動は発足以来、すでに2年、実施各地域では、指導が順調に進んでおりますが、本紙では、この運動の実態を知るために次のようなアンケートを行なってみました。このアンケートの対象は、墨田、足立、春日部、埼玉第1地区(草加、越谷)の各地域に住んでいるご家庭で、妻が20才から39才の方々520名です。

巡回指導にお宅ではどなたが参加しましたか

集団指導	
イ 妻だけ	70%
ロ 夫婦そろって	24%
ハ その他	6%
個別指導	
イ 妻だけ	62%
ロ 夫婦そろって	28%
ハ その他	10%

集団指導、個人指導と共に妻だけの参加が大多数でしたが、夫婦そろって参加したものが集団指導では24%個別指導では28%となっています。この数字は夫の理解と協力を示すものと見てよいでしょう。個別指導では夫と一緒に指導をうけた方が勤務などの都合で出来ないから出来る様な方法を考えてもらいたいという声が非常に多くありました。そのほか個別指導の回数をふやしてもらいたい。集団指導でも細かいことも教えて下さい。などがありました。

これまで実施して来た巡回指導は効果があったと思いますか

イ 実施前とはあまりかわらない	20%
ロ 効果があったと思う	70%
ハ よくわからない	10%

大変有意義で種々の面に効果のあったと答えた人が70%をしめている。これについての意見としては、指導の結果よい勉強となり夫が理解した。安心して受胎調節が出来る様になったなどで、希望として、今後もぜひ続けてほしい。集団指導より個別指導を望んでいる方が多く、その他、指導内容については健康相談についても指導をのぞむ声がありました。

あなたの家庭では集団指導(個別指導を除く)のほかに何か指導を受けたと思いますか

イ まだ集団指導が必要	40%
ロ もう集団指導を受けなくてもよい	50%
ハ その他	10%

集団指導をもう受けなくてよい者が半数の50%しめていますが、これは受胎調節は大体わかり、ある程度の知識を得たから、受胎調節から前進した主婦の教養と向上に関する指導を希望するとの意見が多かった。

まだ必要だとする方は40%で、指導を受けたが失敗したとか、病気の一般的知識を必要とするからつづけてほしい。具体的に治療法、婦人病の必要な心得や子供の育て方などの指導をしてもらいたいなどの意見でした。

家族の方たちはこの運動に対して理解がありますか

イ しょうが無理解である	2%
ロ 夫が無理解である。	4%

ハ しうとが理解している 21%
 ニ 夫が理解している 70%
 ホ わからない 4%
 ほとんどの家庭では家族ごとに夫の理解と協力があつて円滑に進められていることがわかりますが、わずかながら夫の協力と理解を望んでいる方が、4%ありました。指導日に家族の方が一しょに開いたという家庭や共かせぎ、多産系、病弱体質などの家庭では家族の方たちの大きな協力のもとに喜んで出席しているなどの家庭もありました。

あなたの年令
 ご主人の年令
 現在のお子さんの数

子供数は
 ○人 6%
 1人 32%
 2人 36%
 3人 22%
 4人 4%

(例2) 東 部 鉄 道

アンケートについて

家族計画に対する主婦の関心意見等を知りよりよい運動とするために昭和32年9月から10月にかけて指導後1年を経過した7地域1,926世帯について次のようなアンケートを試みた。

回収数は1,196で62%であった。以下其の質問と答である

◇ 運動に対する関心

質問(1) あなたは家族計画の必要性を知って現自ら進んで行っていますか

答 イ している 73%
 ロ していない 18% 計100%
 記入なし 9%

質問(2) 家族計画について御主人の理解はどうですか

答 イ 協力している 72%

となつていて2人の数が一番多く1人がこれについています。

妻の年令が26才~30才の方では子供さんが1人~2人の方が大多数をしめ、3人の方がこれについています。

妻の年令が31才以上となると、子供数も2人~3人の方が多く1人の方がこれについています。また子供のない方が6%、4人以上の方が4%となつています。

その他この運動についてのご意見やご希望について

▽巡回指導は3ヶ月に1回では少ないから回数をふやして2カ月に1回位にしてもらいたい。

▽巡回指導日を事前に連絡してやってもらいたい。夫と共に指導をうけたい。

▽この運動についての意見の交換会を開いてもらいたい。

▽年配の方は敬遠している人が多いから、年配の方にも話題を広げてもらいたい。

ロ やや協力する 14%
 ハ 無関心 4%
 ニ 反対している 1% 計100%
 記入なし 9%

◇ 巡回指導に対する意見

質問(3) あなたはグループ指導をずっと続けて行った方がよいと思ひますか

答 イ 大変知識が得られるので続けて行った方がよい 65%

ロ 今のままなら続けてもよし続けなくてもよい

計 24%

ハ 続ける必要なし 3% 計100%

記入なし 8%

質問(4) あなたは家庭訪問による個人指導を続けることをどう思いますか

答 イ 続けてもらいたい 52%

□ 器具薬品の取次だけで十分である 24%

△ 続ける必要なし 8%

記入なし 16%

計100%

◇ 指導法態度に対する意見

質問(5) あなたはグループ指導で指導員が基礎指導をしたとき其の説明がわかりますか

答 イ よくわかった 81%

□ 少しわかった 13%

△ わからない 2%

記入なし 4%

計100%

質問(6) あなたは指導員の教え方や態度についてどう思いますか

答 教え方 イ 上手 54%

□ 普通 34%

△ 下手 0%

記入なし 12%

態度 イ よい 54%

□ 普通 24%

計100%

B 企 画

この運動が実施発展されるためには、企業体の性格上、上層幹部の理解がなくては不可能に近い。それには、文書による計画書提出だけで事をはこぶより、人口問題研究会側の出席を得て、説明会を開くのが最も効果的である。この際特別に会合を開くことが困難ならば定例部長会議の時間を一部削ぐ方式でも差支えない。こうして直接に上層部がその問題点を認識すれば、実施上大きなプラスとなる。又、同時に労働組合幹部と事務当局と人口問題研究会との三者懇談会を開くことが望ましい。労働組合はとかくこの運動を会社の資金

△ 悪い 2% 計100%

記入なし 20%

◇ 家族計画続行に関する決心

質問(7) あなたは今後家族計画の実行を続けますか

答 イ ずっと実行を続けます 63%

□ 別に考えていない 16%

△ 中止する 8%

記入なし 13%

計100%

最後に希望と意見とについて代表的なものを挙げてみるとこの運動は非常に時代に適したものであり私達も希望して居りましたので喜びに堪えません。人様には余りお聞きできないことを教えていただけますからほんとうに有難いと思います。ずっと続けていただきたい、と喜びを以て迎えられている。その外共稼ぎの夫婦や同居人をおくものために何時でも診療所で指導を受けられるようにしていただきたい。婦人科医を採用し医学的指導や治療をしていただきたい。子供の育て方や子供と性の問題、子供の病気や躰などについても教えていただきたい。健康のための知識栄養料理や上手な家計簿等教えていただきたい。新生活運動へ移行して貰いたい。職場で男性教育をして欲しい。個人の秘密は絶対厳守されたい等であった。

値上防止対策乃至扶養手当削減策、或は組織切くすし策と誤解し勝ちである。この席でこの運動の根本理念及び具体的効用について説明すれば必ず納得させ得る。又、この懇談会を経てこそ後々の問題を少くする所以でもある。次に手持の統計を利用して、或は必要に応じて既存書類から改めて集計し直して、参加資料を整備すべきである。これは 議の附帯資料としての必要性ばかりでなく、予算作成上、又何年か後の運動効果の推定上、不可欠であることは論を俟たない。資料整備の最少限度を簡単に挙げれば年次別各事業所別出生教

人工妊娠中絶数、不妊手術数、婚姻数、扶養家族数、罹病件数、欠勤日数、災害件数等である。

更に、既にこの新生活運動に着手し実行中の企業体の視察見学をすれば、企画立案に非常な参考となる。(この実施企業体一覧表は本書の末尾に

付けてあるから御参照を乞う。)そこで実施上特に注意を要すべき点、今迄の成果、必要な中務的処理法等について説明が得られる。なおこの見学については人口問題研究会がそのあっせんの手をとっている。

【参 考】 基礎調査

(例1) 東京急行電鉄

家 族 基 礎 調 査

(1) 住 所	都 県 市 区 町 村											
(2) 職 名												
(3) 結 婚 年 月	明治 大正 昭和	年	月	夫の年令 当時の				妻の年令				才 才
(4) 出 生 児	人 員 数	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第一〇	
	男 女 別	男・女	男・女	男・女	男・女	男・女	男・女	男・女	男・女	男・女	男・女	
	生 年 月	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	早 流 死 産											
	健康の状態	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康	健 康 普 通 不 健康
(5) 妻 (出生児の母)の健康												
記 入 上 の 注 意 事 項	(1) 住 所	現在すんでいるところを記入すること										
	(2) 職 名	現在ついている職名例えば車掌、運転手、出札掛、保線手技工等を記入すること										
	(3) 結 婚 年 月	結婚した年月を記入 (内縁は同棲したとき) その当時の年令をかくこと										
	(4) 出 生 児	人員数は生れて丈夫なものは勿論、早産、流産で死亡したもの或は人工流産したものを入れて人員数だけ〇印をつけて下さい。 男女別は該当するところを〇印で囲むこと、生年月月は早流死産人工流産等の年月をも記入すること健康の状況は該当のところを〇印にて囲むこと										
	(5) 妻 の 健 康	妻 (子供の母親) の健康について出来るだけ詳細に記入すること										

(例2) 東武鉄道

最近の出生と死亡

東武鉄道

年次	従業員家族数 人			実 数 人			動 態 %		
	従業員	家 族	計	出 生	死 亡	自然増	出 生	死 亡	自然増
24年	11,083	18,508	29,591						
25年	10,610	19,435	30,045	1,265	825	740	42.7	17.7	25.0
26年	10,273	20,583	30,856	1,215	556	659	40.4	18.5	21.9
27年	10,243	21,887	32,130	1,197	485	712	38.8	15.7	23.1
28年	10,739	23,434	34,173	1,207	506	703	37.6	15.7	21.9
29年	10,866	24,769	35,635	1,272	468	804	37.2	13.7	23.5

註 この表の家族数は家族手当を受けるために会社に届出でられている者のみの数である。

昭和30年8月現在

家族手当受給子女数 12,272 人

(例3) 日本鋼管

事業所		地 区	
(1) 出生年月	夫	明大昭	年 月
	妻	明大昭	年 月
		(2) 職 種	(イ) 夫 (ロ) 妻
(3) 結婚年月	明大昭	年 月	(4) 住 居 自家・社宅・借家・間借り
(5) 同居家族数	合 計 () 名		(6) 部 屋 数 (たたみ) () 室
(7) 結婚後より現時までの妊娠状況	生きて生れた子供について		死流産について
	(イ) 現在いる子供 () 人 (ロ) 生れてから死んだ子供 () 人	(8)	(イ) 自然死流産 () 回 (ロ) 人工妊娠中絶 () 回 (おろすこと)
(9) このうちとくに昨年10月1日から1年間の状況	(イ) 出産あり (ロ) 現在妊娠中 () カ月 (ハ) 自然死流産した () 回	(ニ) 人工妊娠中絶 () 回 (ホ) 妊娠も、流産も、中絶も、出産もしない	
(10) 受胎調節の実行について	実行中の 人		不実行の 人
	(イ) 会社の運動がはじまる前から実行 (ロ) 会社の運動がはじまってから指導により実行		(イ) 一時実行したことがある現在中止 (ロ) 今までまったく実行の経験なし
(11) 実行中の人ははじめた年月	昭和 年 月 日より実行		不実行の人はその知識 方法を知っている 方法を知らない
(12) 実行の方法 (何種類も併用の人はいくつも○印をつける)	コンドーム(サック)、定期禁欲(おぎの式)、ゼリー、錠剤、ベッサリー、性交中絶(腔外射精)、スポンジ、体温計、洗滌、その他		(13) 不実行の理由 (イ) 必要がないから (ロ) めんどろだから (ハ) こういうことは嫌いだから (ニ) 方法を知らないから (ホ) 子供がほしいから
(14) 受胎調節に失敗した経験	(イ) なし (ロ) あり そのとき 1. そのまま出産 () 回 2. 自然死流産 () 回 3. 人工妊娠中絶 () 回		(15) 不実行者の実行希望 夫 実行したい 実行したくない 妻 実行したい 実行したくない
	(16) 不妊手術の経験	夫 ある ない 妻 ある ない	

(例4)

日 本 通 選

家族計画基礎調査集計表

第1表
地区別(総括)
妻の年齢別、夫の職業別妊娠回数
(昭和32年7月1日現在)

専業 別	妊娠回数										13以上	計	年令 比率	平均 妊娠数			
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9					10	11	12
20才未満 (A)	1														1	0.1	1.0
20才~24才(B)	14	20	9	1	1	1	1								47	5.5	1.2
25~29才(C)	12	39	38	25	21	9	1								145	16.9	2.2
30~34才(D)	8	17	54	57	35	22	15	5	1	1					214	24.9	3.2
35~39才(E)	15	8	17	25	30	35	20	12	6	1					170	19.8	4.0
40~44才(F)	7	13	15	18	20	20	12	14	8	1					128	14.9	4.0
45~49才(G)	7	9	11	18	15	14	10	6	5					1	97	11.3	3.9
50才以上 (H)	3	1	7	7	13	6	1	6	6				1		51	6.0	
不明 (X)		1		2		1	1								6	6	4.4
計	66	109	151	153	135	108	60	44	26	3	1		1	1	858	100%	3.4
20才未満 (A)																	
20才~24才(B)	10	43	18	4		1			1						77	7.2	1.4
25~29才(C)	10	44	56	43	18	15	8	3	2						199	18.6	2.6
30~34才(D)	11	14	50	54	55	36	17	9	2					1	249	23.3	4.2

作業員	35~39才(四)	10	10	15	50	46	35	28	18	8	3	2	2		227	21.5	4.2
	40~44才(四)	16	10	12	23	28	33	22	17	8	4	1			174	16.3	3.3
	45~49才(四)	6	8	11	10	19	13	12	10	6	6	3	1		105	9.8	4.6
	50才以上(四)	4	7	4	1	2	3	4	1	3	4		1		34	3.2	4.2
	不明(四)			1	1		1								3	0.3	3.3
計	67	136	167	186	168	137	91	58	30	17	7	3	1	1,068	100%	3.6	
合計	20才未満(A)														1	0.1	
	20~24才(B)	24	63	27	5	1	2		1	1					124	6.4	1.5
	25~29才(C)	22	83	94	68	39	24	9	3	2					344	17.9	2.5
	30~34才(D)	19	31	104	111	90	58	32	14	3		1			463	24.0	3.4
	35~39才(四)	25	18	32	75	76	70	48	30	14	4	3	2		397	20.6	4.2
	40~44才(四)	23	23	27	41	48	53	34	31	16	5	5	1		302	15.7	4.3
	45~49才(四)	13	17	22	28	34	27	22	16	11	7	7	3	1	1	202	10.5
50才以上(四)	7	8	11	8	15	9	5	7	9	4			1	85	4.4	4.4	
不明(四)			1	3		2	1							8	0.4	3.5	
計	133	245	318	339	303	245	151	102	56	20	8	3	2	1,926	100%	3.5	
割合	率	7.7	12.7	17.6	17.8	15.7	12.7	7.0	5.1	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1	100%		
	作	6.3	12.7	15.6	17.5	15.7	12.8	8.5	5.4	2.8	1.6	0.7	0.3	0.1	100		
	計	6.9	12.7	16.5	17.6	15.7	12.7	7.8	5.3	2.9	1.0	0.4	0.2	0.1	100		

第2表
地区別(総括)

妻の年齢別、夫の職業別生存小供数

妻の年齢 夫の職業別	小供数												計	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11以上		
事務員	20才未満(A)	1												1
	20~24才(B)	26	15	6										47
	25~29才(C)	26	60	47	12									145
	30~34才(D)	14	39	103	52	5		1						214
	35~39才(E)	17	8	58	55	24	6		2					170
	40~44才(F)	10	18	22	36	26	14	1		1				128
	45~49才(G)	8	10	22	18	19	10	8	1		1			97
	50才以上(H)	4	4	8	15	9	4	4	1	1		1		51
	不明(I)		1		3	1								5
	計	106	155	266	191	84	34	14	4	2	1	1		858
小供数比率	12	18	31	22	10	4	2	1	-	-	-		100	
作業員	20才未満(A)													77
	20~24才(B)	26	41	8	1	1								199
	25~29才(C)	21	69	75	28	5	1							249
	30~34才(D)	14	30	95	77	27	5	1						227
	35~39才(E)	11	20	42	83	46	19	3	3					174
	40~44才(F)	17	13	24	39	37	32	10	1	1				105
	45~49才(G)	8	13	18	18	17	13	7	10			1		34
	50才以上(H)	5	7	2	4	3	4		5	3	1			3
	不明(I)		1	1			1							3
	計	102	194	265	250	136	75	21	19	4	1	1		1068
小供数比率	10	18	25	23	13	7	2	2	-	-	-		100	
合計	20才未満(A)	1												1
	20~24才(B)	52	56	14	1	1								124
	25~29才(C)	47	129	122	40	5	1							344
	30~34才(D)	28	69	198	129	32	5	2						463
	35~39才(E)	28	28	100	138	70	25	3	5					397
	40~44才(F)	27	31	46	75	63	46	11	1	2				302
	45~49才(G)	16	23	40	36	36	23	15	11		1	1		202
	50才以上(H)	9	11	10	19	12	8	4	6	4	1	1		85
	不明(I)		2	1	3	1	1							8
	計	208	349	531	441	220	109	35	23	6	2	2		1,926
小供数比率	11	18	28	23	11	6	2	1	-	-	-		100	

第3表 小供数別受胎調節者数

地区別(総括)	受胎調節者	小供数										計	比率%			
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			10		
専任者	現在行っている	16	72	172	103	36	12	2						1	414	48
	以前行ったことがある	15	32	36	29	17	7	2		1					139	16
	方法を知っている	41	28	34	35	10	5	3	3	1	1				161	19
	方法を知らない	34	23	24	25	20	10	7	1						144	17
専任者	計	106	155	266	192	83	34	14	4	2	1			1	858	100.0
	現在行っている	9	58	125	114	46	14	5	3						374	35
作業員	以前行ったことがある	9	18	29	29	23	12	2	1	1					124	12
	方法を知っている	36	49	58	42	27	17	7	3	3				1	243	23
	方法を知らない	48	69	53	65	40	32	7	12	1					327	30
	計	102	194	265	250	136	75	21	19	4	1			1	1,068	100.0
合計	現在行っている	25	130	297	217	82	26	7	3					1	788	41
	以前行ったことがある	24	50	65	58	40	19	4	1	2					263	14
	方法を知っている	77	77	92	77	37	22	10	6	4	1			1	404	21
	方法を知らない	82	92	77	90	60	42	14	13		1				471	24
合計	計	208	349	531	442	219	109	35	23	6	2			2	1,926	100.0
	現在行っている	12	37	56	49	37	24	20	13					50	41	
受胎調節者の比率	以前行ったことがある	12	14	12	13	18	17	11	4	33					14	
	方法を知っている	37	22	17	17	17	20	29	26	67	50			50	21	
	方法を知らない	39	127	15	21	28	39	40	57		50				24	
	計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
小供数の率	専任者	12	18	31	23	10	4	2	-	-	-	-	-	-	100.0	
	作業員	10	18	25	23	13	7	2	2	-	-	-	-	-	100.0	
	計	11	18	28	23	11	6	2	1	-	-	-	-	-	100.0	

第4表

妻の年齢生存小供数別受胎調節者数

地区別(総括)

小 調 節 数	妻の年齢	20才	20~	25~	30~	35~	40~	45~	50才	計	実行率 (%) (イ+ロ)
		未 満 A	24才 B	29才 C	34才 D	39才 E	44才 F	49才 G	以上 H		
0	未実行(イ)		34	34	22	23	26	16	8	163	23%
	実行(ロ)	1	18	16	5	5	2		1	48	
1	未実行(イ)		26	40	26	17	27	21	11	168	51
	実行(ロ)		30	91	40	8	7	2		178	
2	未実行(イ)		6	38	39	21	28	26	8	166	69
	実行(ロ)		8	83	157	79	17	15	2	361	
3	未実行(イ)			20	37	37	36	24	13	167	63
	実行(ロ)			20	95	110	38	11	6	280	
4	未実行(イ)			2	8	23	27	27	10	97	56
	実行(ロ)		1	3	24	47	35	10	2	122	
5	未実行(イ)		1	1	3	13	21	18	7	64	41
	実行(ロ)				2	13	24	4	1	44	
6	未実行(イ)				1	1	7	13	2	24	31
	実行(ロ)				1	2	4	2	2	11	
7	未実行(イ)					3		10	6	19	17
	実行(ロ)					2	1	1		4	
8	未実行(イ)						1		3	4	50
	実行(ロ)						1		1	2	
9	未実行(イ)							1	1	2	0
	実行(ロ)										
10	未実行(イ)							1		1	100
	実行(ロ)								1	1	
不明	未実行(イ)										
	実行(ロ)										
計	未実行(イ)		67	135	136	138	173	157	69	875	55
	実行(ロ)	1	57	213	324	266	129	45	16	1,051	
実行率 = (ロ) (イ+ロ)		100	46	61	70	66	43	22	19	55	

第5表
地区別(総括)

結婚経過年数別調節者数

調節	5年未満		5~9年		10~14年		15~19年		20~24年		25~29年		30年以上		不明		計	
	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比
現在行っている	138	39	240	54	226	57	124	37	35	18	14	11	4	10	7	23	788	41
以前行ったことがある	59	17	52	12	43	11	43	13	33	17	20	15	7	18	6	19	263	14
行ったこと 方法を知っている	97	27	83	19	62	16	66	20	46	23	37	28	9	23	4	13	404	20
とがない 方法を知らない	60	17	71	15	66	16	98	30	83	42	60	46	19	49	14	45	471	25
	354	100	446	100	397	100	331	100	197	100	131	100	39	100	51	100	1,926	100

第6表
地区別(総括)

夫妻の年齢別不妊手術者数

夫の 年齢	妻の 年齢 別	20才	20~	25~	30~	35~	40~	45~	50才	計
		未 満 (A)	24才 (B)	29才 (C)	34才 (D)	39才 (E)	44才 (F)	49才 (G)	以上 (H)	
25才未満 (A・B)	夫									1
	妻		1							
25~29才 (C)	夫									1
	妻		1							
30~34才 (D)	夫			1	1					2
	妻			5	3	2				
35~39才 (E)	夫			1	1					2
	妻				17	9				
40~44才 (F)	夫				2	2				4
	妻			1	3	12	6	1		
45~49才 (G)	夫				1	1	2			4
	妻				1	7	7	3		
50才以上 (H)	夫						3	1		4
	妻						5	4	1	
不明	夫			2	5	3	3	3		16
	妻		2	6	24	30	18	8	1	
合計	夫			4	10	6	8	4		32
	妻		4	12	48	60	36	16	2	
計			4	16	58	66	46	22	2	214

$$\text{受手術率} = \frac{214}{1,926} = 1.11$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{男} = \frac{36}{1,926} = 1.9\% \\ \text{女} = \frac{182}{1,926} = 9.4\% \end{array} \right.$$

第7表

地区別(総括)

結婚年次別受胎調節開始年次

開始年次	5年未満		5~9年		10~14年		15~19年		20~24年		25~29年		30年以上		不明		計	
	A	B	C	D	E	F	G	X	計	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比
昭和20年					2	1	9	7	5	14	6	44	1	20			23	3
21					2	1	6	5	4	12							12	2
22					6	3	8	7	2	6	1	7					17	2
23			4	2	9	4	2	1	3	9	2	14					20	3
24			6	3	13	5	13	10	3	9	1	7	1	20	1	14	38	5
25			5	2	23	10	15	12	5	14	1	7			1		50	6
26			20	8	29	13	12	10					1	20	1	14	62	8
27	1	1	24	10	22	10	12	10	2	6	1	7					62	8
28	5	4	27	11	15	7	7	6	2	6					1	14	57	7
29	17	12	28	12	19	8	6	5	1	1					1	14	72	9
30	26	19	32	14	23	10	7	6									88	11
31	32	23	38	16	20	9	6	5							1	14	97	12
32	39	28	20	8	10	4	2	1							1	14	72	9
年次不明者	18	13	36	14	33	15	19	15	8	23	2	14	2	40			118	15
計	138	100	240	100	226	100	124	100	35	100	14	100	5	100	7	100	788	100

第8表

地区別(総括)

妻の年齢別失敗の有無及び回数

妻の年齢	有		ナシ	1回	2回	3回	4回	5回	6回	有の計	合計
	無	有									
20才未満 (A)			1								1
20~24才 (B)			37	14	5	1				20	57
25~29才 (C)			131	47	22	6	6	2		83	214
30~34才 (D)			168	86	43	20	8	1		158	326
35~39才 (E)			121	62	48	18	4	4	3	139	260
40~44才 (F)			69	23	24	6	3		1	57	126
45~49才 (G)			32	8	5					10	45
50才以上 (H)			11	3		1				4	15
不明 (X)			6			1				1	7
計			576	243	147	53	21	7	4	472	1,051
件数				243	294	159	84	35	24	1,415	
比率			55	23	14	5	2	1		45	100%

失敗率 = $\frac{472}{1051} = 0.45$ 平均失敗回数 = $\frac{1415}{472} = 3.0$

第9表

失敗後の処置

地区別（総括）

処置	回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計	比率
		人数	人数	人数	人数	人数	人数		
そのまま出産した(イ)	人数	85	9	3	1	2		126	15
	件数	85	18	9	4	10			
自然死流産した(ロ)	人数	31	7	4				57	7
	件数	31	14	12					
人工的におろした(ハ)	人数	201	128	42	12	4	2	663	78
	件数	201	256	126	48	20	12		
								846	100%

第10表 妻の年齢別受胎調節不実行理由
地区別（総括）

理由別	妻の年齢										計	比率
	A	B	C	D	E	F	G	H	不明			
避妊については全然無関心である	(イ)	2	7	6	6	12	9	2			44	3
体質上必要がない	(ロ)	4	13	36	51	49	36	4	1		194	14
子供が生まれてもよい	(ハ1)	1	1	2	3	4	2				13	1
	(ハ2)	1	7	7	7	3	6				31	2
	(ハ3)		4	4	3	4					13	1
今の所子供がもっと欲しい	(ニ)	21	37	29	16	6	4	4			117	8
年令的にも子供が生まれない	(ホ)		1	8	48	80	101	50			288	21
決心がつかない	(ヘ)	3	7	6	3	5		2			26	2
あと何人か生まれたら始めようと思う	(ト)	27	50	22	8	1					108	8
今すぐ実行しなければならぬと考えている	(チ)	11	28	16	15	4	2				76	5
実行したいのだが方法がわからない	(01)	5	7	6	10	3	1	1			33	2
器具薬品など手に入れにくい	(02)	5	5	5	6	4		1			26	2
器具薬品が高くて買えない	(03)	2	7	4	6	4		1			24	2
家庭が狭い	(04)		3	4	7	4					18	2
夫が拒むから	(05)	2	3	4	2	1					12	1
妻が拒むから	(05)		1	2	1		1				5	0
性別が判われない	(06)	2	3	2	4	1					12	1
浴室状況がわるい	(07)		2	4	6	4					16	1
その他	(08)	4	2	6	1	1	1				15	1
現在妊娠中	(09)	8	11	2	2	10					33	2
不明	(10)	1	6	34	49	75	48	29	1		291	21
合計		1	104	233	223	275	211	94	2		1,395	100%

第111表 薬の年令別避妊方法の分布 (件数別)

方法	薬の年令										不明	計	比率 %
	20才未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50才以上	H	X			
	A	B	C	D	E	F	G	H	X				
1 コンドーム	1	20	69	99	77	38	15	4	4	327	61		
2 定期禁欲		3	12	28	28	13	5			89	16		
3 ゼリー			2	3	3					8	2		
4 錠剤		1	6	10	7	5	3			32	6		
5 ベッサロー		2	5	7	6	5				25	5		
6 性交中絶			4	6	4	5		1	1	21	4		
7 スポンジ			1	1	2					4	1		
8 基礎体温			2	1	1					4	1		
9 洗滌				1	1	4		1		7	1		
10 その他			4	1	5	2		2		14	3		
計	1	26	105	157	134	72	23	8	5	531	1000		
1 コンドーム		18	55	85	62	25	6	5		256	41		
2 定期禁欲		10	37	60	42	17	2	1		169	27		
3 ゼリー		2	9	11	13	9				44	7		
4 錠剤		1	7	20	11	3	2	1		45	7		
5 ベッサロー		3	2	8	10	4	2	2		31	5		
6 性交中絶		4	10	10	10	4	4	2		44	7		
7 スポンジ				2						2			
8 基礎体温		4	7	3	4					18	3		
9 洗滌			2	1	6	2				11	2		
10 その他			1	4	2					9	1		
計		42	130	204	160	64	18	11		629	1000		
1 コンドーム		7	28	35	22	2	3	1		98	29		
2 定期禁欲		4	22	31	16	4	1		1	79	24		
3 ゼリー		5	13	15	6	3	1		1	44	13		
4 錠剤		1	6	9	9	5	2			32	10		

種	5	ベツサリ-	1	4	9	3	2	1	1	21	6
	6	性交中絶	3	5	7	9	1	3	1	29	9
	7	スポンジ		2	1	2	1			6	2
	8	基礎体温		5	3	1				9	3
	9	洗滌		2	2	1	2	2	1	10	3
	10	その他			2		1	2		5	1
計			21	87	114	69	21	15	3	333	1000
四	1	コンドム	1	6	8	7	4		1	27	20
種	2	定期禁欲	1	6	7	7	6		1	28	22
	3	ゼリー	1	4	3	5	6		1	19	15
	4	錠剤		1	7	4	3		1	16	12
	5	ベツサリ-	1	1	2	3	2			9	7
	6	性交中絶		3	3	3	4			13	10
以	7	スポンジ			1					1	1
上	8	基礎体温	1	1	2		1			5	4
	9	洗滌		1	1	2	1			5	4
	10	その他		2	2	2				6	5
計			5	25	36	33	26		4	129	1000
計	1	コンドム	46	158	227	168	69	24	10	708	43
	2	定期禁欲	18	77	126	93	40	8	1	365	23
	3	ゼリー	8	28	32	27	17	1	2	115	7
	4	錠剤	3	20	46	31	16	7	1	126	8
	5	ベツサリ-	7	12	26	22	13	3	2	86	5
	6	性交中絶	7	22	26	26	14	7	4	107	7
	7	スポンジ		3	5	4	1			13	1
	8	基礎体温	5	15	9	6	1			36	2
	9	洗滌		5	5	10	9	2	2	33	2
	10	その他		7	9	9	3	4	2	34	2
計	1		94	347	511	396	183	56	22	1,622	1000
X		不明	2	9	13	13	10	8	2	57	

第12表

最近一ケ年間の妊娠出産状況

地区別(総括)

種別		事		作		計	
		実数	比	実数	比	実数	比
現在妊娠中		49	6	51	5	100	5
出産した		59	7	86	8	145	6
自然 死 流産	1回	10	1	22	1	32	2
	2回			1		1	1
人工 妊娠 中絶	1回	54	6	77	7	131	6
	2回	12	1	16	2	28	2
	3回	3	1	7		10	1
小計		187	22	260	25	447	23
妊娠しない		671	78	808	75	1,479	77
合計		858人	100%	1,068人	100%	1,926人	100%

第13表

妻の年齢別人工妊娠中絶回数

妻の年齢 中絶回数	20才未満		20~24才		25~29才		30~34才		35~39才		40~44才		45~49才		50才以上		不明		計	
	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比		
1			17	14	69	20	106	23	88	22	42	14	14	7	5	6	2	25	343	18
2			3	2	31	9	62	13	66	17	32	11	10	5	3				207	11
3			1	1	11	3	31	8	26	7	13	4	2	1					84	4
4			1	1	5	1	3		7	2	1		1	1					18	1
5					2	1	2		4				1	1					9	
6									1										1	
(イ) 中絶経験者			22	18	118	34	204	44	192	48	88	29	28	14	8	9	2	25	662	34
中絶経験ナシ	1	1000	102	82	226	66	259	56	205	52	214	71	174	85	77	91	6	75	1,264	66
(ロ) 総人数	1	1000	124	1000	344	1000	463	1000	397	1000	302	1000	202	1000	85	1000	8	1000	1,926	1000
(ハ) 中絶者率%	0		18		34		44		48		29		18		9		25		34	
(ニ) 中絶総数			30		194		345		352		149		49		11		2		1,132	
(ホ) 1人当り中絶 経験回数			14		16		17		1.8		17		1.8		14		10		1.7	

第14表

地区別(総括)

受胎調節の希望の有無

希望 の 希望	実行者						不実行者						計												
	有		無		不明		有		無		不明		有		無		不明		計						
	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比	実数	比					
事	有	398	72	2	-	0	0	400	72	99	33	2	0	1	0	102	33	497	58	4	1	1	-	502	59
	無	3	1	26	5	0	0	29	6	2	0	75	25	0	0	77	25	5	1	101	11	0	0	106	12
	不明	4	1	1	-	116	21	121	22	1	0	2	0	126	42	127	42	5	1	3	0	242	28	250	29
	計	405	74	29	5	116	21	550	100	102	33	79	25	127	42	308	100	507	60	108	12	243	28	858	100
作	有	374	74	3	1	1	-	378	75	178	31	2	0	0	0	180	31	552	52	5	-	1	-	558	52
	無	4	1	24	5	1	-	29	6	16	3	124	22	2	0	142	25	20	2	148	14	3	-	171	16
	不明	3	1	1	-	90	180	94	19	9	2	5	1	231	41	245	44	12	1	6	1	321	30	339	32
	計	381	76	28	6	92	180	501	100	203	36	131	23	233	41	567	100	584	55	159	15	325	30	1068	0
計	有	772	73	5	-	1	-	778	73	277	32	4	-	1	0	282	32	1049	54	9	1	2	-	1060	55
	無	7	1	50	6	1	-	58	6	18	2	199	23	2	-	219	25	25	2	249	12	3	-	277	14
	不明	7	1	2	-	206	20	215	21	10	1	7	1	357	41	374	43	17	1	9	1	563	29	589	31
	計	786	75	57	5	208	20	1051	100	305	35	210	24	360	41	875	100	1091	57	267	14	568	29	1926	100

出生 月日	夫	大正 昭和	年	月	日	②学歴	新制中学校卒	新制高校	新制大学卒	上
	妻	明治 大正 昭和	年	月	日		※	1	2	3
	夫	小学校卒 旧高等小学校卒 新制中学校卒	旧制中 学卒	旧制高 等卒	旧制高 等卒	旧制高 等卒	1	2	3	上

職業	夫	日通事務員	日通作業員	その他諸会社	無職	④居住市町村	都府県	区市町村	※
	妻	1	2	3	4		大正 昭和	年	月
	夫	日通事務員	日通作業員	その他諸会社	無職	⑤結婚年月日			※
	妻	1	2	3	4				

現在までの妊娠状況	生きて生まれた子供について		死産について		
	イ. 現在生存している子供	人	ハ. 自然死産	回	
	ロ. 生後死亡した子供	人	ニ. 人工妊娠中絶 (おろすこと)	回	
とくに前年7月1日から現在までの一年間と妊娠出産状況	イ. 現在妊娠中	妊娠	カ月	ニ. 人工妊娠中絶 (おろすこと)	回
	ロ. 出産した	ハ. 自然死産した		ホ. 妊娠も流産も中絶も出産もしない。	

③ 受胎調節を行ったことがありますか?	現在行っている	以前行ったことがある	全然行ったことがない	
	1	2	方法知っている	方法を知らない
	昭利 年 月から		3	4

⑨ 不妊手術を受けたことがありますか?	夫	ある	ない	⑩ 将来受胎調節を 実行したいと思いますか?	夫	実行したい	実行したくない
	妻	1	2		妻	1	2
	夫	ある	ない		夫	実行したい	実行したくない
	妻	1	2		妻	1	2

⑪ 実際に行った避妊方法	コンドーム, 定期禁欲 (狹野式), ゼリー, 錠剤, ベッサリー, 性交中絶, スポンジ, 基礎体温, 洗滌, その他 ()	⑫ 避妊に失敗したことがありますか	有	無
		⑬ ある方はそのときの処置	イ. そのまま出産した	回
			ロ. 自然死産した	回
			ハ. 人工的におろした	回

⑭ 受胎調節をしない理由	イ. 避妊については全然無関心である。	チ. 今すぐ実行しなければならぬと考えている。
	ロ. 体質上或は手術により子供が生れる心配がないから実行の必要が全然ない。	リ. 避妊を実行したいのだが次の理由で出来ない。
	ハ. 子供が生まれても避妊などしたくない。	(一) 実行の方法がわからない。
	(一) 嫌いだから (二) 悪いことだと思う。	(二) 器具薬品など手に入れにくい。
	(三) 面倒だから	(三) 器具薬品が高くて買うことが出来ない。
	ニ. 今の処子供がもっと欲しい。	(四) 家屋が狭い。
	ホ. 年令的にもうこれ以上子供が生まれないうらと思って実行しない。	(五) 夫婦のいずれかが実行を拒むから (夫が妻が)
	ヘ. 避妊のことを考えないこともないが決心がつかない。	(六) 性感が損われる。
	ト. あと何人生まれたら始めようと思う。	(七) 寝室状況がわるい。
		ス. その他
		ル. 現在妊娠中

※印の欄には何も記入しないで下さい。

「受胎調節」の調査についてお願い

皆さんも、すでに御承知のように、今度、会社健康保険組合、労働組合と一緒に家族計画を実施することになりました。この運動の手始めは受胎調節ですが、この問題を皆さんがどうしておられるか、またどのようにお考えになるかを、この調査票によってお尋ね致します。

しかし、この問題については答えにくいものだから、氏名の記入を避け、皆さんの秘密が他に洩れないようにし、統計を作る以外には用いせんから安心してありのままをお答え下さい。

なお、この調査票は同封の封筒で御返送下さい。

記入の仕方

- ① 出生年月 明治、大正、昭和の何れかを○でかこみ、年月を書いて下さい
- ② 学歴 夫妻別に該当数字を○でかこんで下さい。中退も卒業とみなして下さい。
- ③ 職業 夫妻別に平常の職業について該当数字を○でかこんで下さい。
- ④ 居住市町村 現住所を書いて下さい。市、区、町、村までで結構です。
- ⑤ 結婚年月日 あなた方現在の御夫婦の結婚年月日を書いて下さい。
- ⑥ 現在までの妊娠状況 イ。現在までに生きている出生児の数を生存何人、ロ。生きて生まれたが、その後死亡したもの数を生後死亡何人（ない場合は0人と記入）ハ。妊娠はしたが自然に流れてしまったり腹の中で赤児が死んだために途中

で出てしまったりしたことがあれば、その回数を自然流産何回と書き、ニ。妊娠はしたが事情により、医者またはその他の人の手によって途中でおろして貰ったことがあれば、その回数を人工妊娠中絶何回と書いて下さい。

- ⑦ 昭和31年7月1日以降の妊娠出産状況です。該当する文字を○でかこみ、イ。は妊娠何カ月 ニ。は何回おろしたか記入して下さい。
- ⑧ 受胎調節を行ったことがありますか。これは妊娠しないように色々工夫することです。それぞれの該当の数字を○でかこんで下さい以前も現在も行っていない方は「全然行ったことがない」の所へ○をつけ、調節の方法を知っていれば3を知らなければ4を○で囲んで下さい。
- ⑨ 不妊手術を受けたことがありますか。妊娠しない様にする手術です。夫妻別に○でかこんで下さい。
- ⑩ 将来受胎調節を実行したいと思いますか。受胎調節の希望をとりたいと思います。夫妻別に○でかこんで下さい。
- ⑪～⑬の欄は調節を行っている人及び以前に行ったことのある人だけ○でかこんで下さい。
- ⑭ 受胎調節をしない理由 受胎調節を現在行っていない方（以前行ったことがあっても現在行っていない方は入ります）は行わない理由にそれぞれ○をつけて下さい。

(例5) 三井鉱山

全社住宅主婦の構成

No 1

区分 社宅	世帯 総数	対象 世帯	受胎能力者			不能力者				計	
			20~30才	31~40才	41才以上	計	寡婦	老令	不妊手術者		病氣その他
A	152	129 (1.00)	12 (9.3)	65 (50.7)	21 (16.3)	98 (76.4)	11 (8.5)	17 (13.2)	3 (2.3)	31 (24.1)	
B	382	323 (1.00)	40 (12.4)	142 (44.0)	55 (17.0)	237 (73.4)	4 (1.2)	34 (9.9)	16 (4.9)	86 (26.6)	
C	20	14 (1.00)	4 (28.5)	7 (49.9)	2 (14.2)	13 (92.8)	1 (7.14)			1 (7.14)	
D	50	43 (1.00)	9 (20.9)	22 (51.2)	4 (9.3)	35 (81.5)	3 (6.9)	4 (9.3)	1 (2.3)	8 (18.6)	
E	34	31 (1.00)	3 (9.6)	8 (25.8)	8 (25.8)	19 (61.3)	3 (9.6)	7 (22.6)	2 (6.4)	12 (38.7)	
F	64	51 (1.00)	18 (35.2)	24 (47.0)	2 (3.9)	44 (86.2)	2 (3.9)	4 (7.8)	1 (1.9)	7 (13.7)	
G	65	56 (1.00)	13 (23.2)	34 (60.8)	6 (10.7)	53 (94.8)	1 (1.7)	1 (1.7)	1 (1.7)	3 (5.3)	
H	71	63 (1.00)	4 (6.3)	37 (58.8)	7 (11.1)	48 (76.3)	3 (4.7)	8 (12.7)	4 (6.3)	15 (23.8)	
I	164	138 (1.00)	19 (13.6)	64 (46.0)	18 (12.9)	101 (72.7)	1 (0.7)	19 (13.6)	5 (3.6)	37 (26.6)	
J	63	57 (1.00)	15 (26.2)	27 (47.2)	5 (8.7)	47 (82.2)	7 (12.2)	3 (5.2)		10 (17.5)	
計	1,065	905 (1.00)	137 (15.7)	430 (47.5)	128 (14.3)	695 (76.7)	5 (1.0)	95 (10.5)	33 (3.7)	210 (23.3)	
総世帯に対する%		85.2%	12.9%	41%	12%	65.5%	0.5	8.45	3.1	19.7%	

分 割 撮 影

1	2
---	---

年令 子 年 数	20才					30才					31才						
	第一子	第二子	第三子	第四子	第五子	第六子	第七子	第八子	第九子	第十子	第一子	第二子	第三子	第四子	第五子	第六子	第七子
1年	91 (70.0)	5 (4.9)									247 (473)						
2	27 (20.8)										95 (187)	20 (43)					
3	3 (2.3)	31 (30.0)									86 (160)	95 (200)					
4	5 (3.8)	36 (35.1)	2 (5.7)								43 (8.2)	113 (240)	15 (40)				
5	4 (3.0)	20 (19.4)	7 (20.0)	1 (8.3)							26 (50)	70 (150)	36 (9.5)				
6		6 (5.8)	7 (20.0)								5 (10)	81 (173)	70 (185)	6 (31)			
7		4 (3.9)	13 (37.1)	9 (75.0)							8 (15)	37 (79)	65 (17.1)	16 (8.7)	1 (1.6)		
8			3 (8.6)	2 (16.7)	1 (10.0)						4 (08)	22 (47)	62 (17.0)	27 (13.8)	1 (1.6)		
9		1 (0.9)	2 (5.7)								3 (05)	15 (32)	66 (17.1)	31 (15.8)	2 (3.3)		
10			1 (2.9)								3 (05)	8 (17)	25 (6.6)	36 (18.4)	9 (15.0)	1 (8.3)	
11											3 (05)	3 (08)	16 (4.1)	35 (17.9)	7 (11.6)		
12												3 (08)	12 (30)	17 (8.7)	8 (13.3)		
13												1 (0.3)	6 (15)	12 (6.1)	19 (31.7)	3 (2.49)	1 (50.0)
14													2 (0.5)	9 (4.6)	7 (11.6)	2 (16.6)	
15													1 (0.3)	3 (1.6)	4 (6.6)	3 (2.49)	
16													2 (0.5)	3 (1.5)		3 (2.49)	
17														1 (0.5)	2 (3.3)		
18														1 (0.3)			1 (50.0)
19																	
20																	
21																	
22																	
23年以上																	
計	130	103	35	12	1						532	468	379	196	60	12	2

結婚後何年目に子供を設けたか

31才					40才					41才以上										合計
第二子	第三子	第四子	第五子	第六子	第七子	第八子	第九子	第十子	第一子	第二子	第三子	第四子	第五子	第六子	第七子	第八子	第九子	第十子		
									30 (138)											368 (128)
20 (43)									30 (138)	3 (14)										180 (63)
95 (200)									61 (280)	6 (28)										282 (98)
113 240	15 (40)								42 (193)	26 (124)	2 (11)									284 (99)
70 150	36 (95)								19 (80)	37 (177)	5 (28)									225 (78)
81 (173)	70 (185)	6 (31)							12 (55)	35 (168)	10 (55)	1 (07)								233 (81)
37 79	65 (171)	16 (87)	1 (1.6)						7 (32)	37 (177)	26 (148)									223 (78)
22 47	62 (170)	27 138	1 (1.6)						3 (13)	15 (72)	28 155	4 (27)								172 (60)
15 32	66 (171)	31 (158)	2 (33)						5 (23)	17 (81)	29 160	14 95								185 (64)
8 (17)	25 (66)	36 (184)	9 (150)	1 (83)					4 (18)	3 (14)	16 (88)	20 (136)	3 (31)							129 (45)
3 (08)	16 (41)	35 (179)	7 (11.6)						2 (09)	8 (38)	21 (116)	26 (177)	6 (63)							127 44
3 (08)	12 (30)	17 (87)	8 (133)						2 (09)	8 (38)	16 (88)	13 (88)	10 (104)	2 (47)						91 (31)
1 0.3	6 (15)	12 (61)	19 (51.7)	3 (249)	1 (500)				1 (04)	2 (09)	10 (55)	16 (109)	15 (156)	2 (47)						88 (30)
	2 (05)	9 (46)	7 (11.6)	2 (166)						3 (14)	5 (28)	22 (150)	12 (125)	4 (93)	1 (59)					67 (23)
	1 (03)	3 (1.6)	4 (6.6)	3 (249)					1 (04)	1 (04)	4 (22)	14 (95)	14 (146)	7 (163)	2 (118)					54 (18)
	2 (05)	3 (15)		3 (249)		1 (100)				2 (09)	4 (22)	6 (41)	7 (73)	10 (233)	1 (59)					39 (13)
		1 (05)	2 (33)							6 (28)	3 (17)	2 (14)	12 (125)	5 (116)	4 (234)					35 (12)
	1 (03)				1 (500)					1 (04)	1 (06)	4 (27)	9 (94)	4 (94)	2 (118)					23 (08)
											1 (06)	5 (34)	6 (63)	3 (70)	1 (59)	2 (400)				18 (06)
													2 (20)	1 (23)	3 (176)	1 (200)				7 024
														4 (93)			2 (66.7)			6 (02)
														1 (23)	1 (59)	1 (200)				3 01
														2 (118)	1 (200)	1 (333)	1 (100)	1 (017)		5 (017)
468	379	196	60	12	2	1			219	210	181	147	96	43	17	5	3	1		2,844

分 割 撮 影

1	2
---	---

年齢 年 数	20才										31才						40		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	
1年	11 (430)										8 (248)								
2	13 (494)	3 (48)	1 (29)								9 (279)	4 (48)							
3	1 (39)	20 (320)									4 (125)	22 (264)	3 (15)						
4	1 (38)	23 (370)	3 (88)								1 (31)	23 (276)	4 (21)						
5		10 (16.0)	4 (11.7)	1 (20.0)							4 (125)	10 (12)	20 (106)						
6		2 (3.2)	7 (20.5)								1 (3.1)	10 (120)	35 (18.5)	6 (43)					
7		3 (48)	13 (38.2)	4 (80.0)							2 (6.2)	4 (48)	34 (180)	18 (129)	2 (3.7)				
8		1 (1.6)	6 (17.6)								1 (3.1)	4 (48)	34 (180)	20 (144)	3 (56)				
9			1 (2.9)								2 (6.2)	3 (36)	21 (111)	29 (20.8)	3 (56)				
10												3 (36)	16 (8.4)	23 (165)	6 (11.3)				
11													8 (4.2)	19 (13.6)	10 (18.9)	2 (22.2)			
12													8 (4.2)	10 (7.2)	12 (22.5)		1 (3.3)		
13														8 (5.7)	10 (18.9)	2 (2.2)			
14													3 (1.5)	3 (21)	3 (5.6)	1 (1.1)			
15															2 (3.7)	2 (2.2)	1 (3.3)		
16													1 (0.5)	2 (14)	1 (18)	2 (22.2)	1 (3.3)	1 (1.0)	
17													1 (0.5)	1 (0.7)	1 (18)				
18																			
19																			
20																			
21																			
22																			
23																			
計	26 (1.00)	62 (1.00)	35 (1.00)	5 (1.00)							32 (1.00)	83 (1.00)	188 (1.00)	139 (1.00)	53 (1.00)	9 (1.00)	3 (1.00)		
	17年	4.0	6.4	6.6							3.4年	4.7	7.7	9.6	11.5	13.8	14.3	1	

結婚より末子までの出産期 間別世帯

31才										40才										41才以上										合計											
2	3	4	5	6	7	8	9	10		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
												4 (36.5)																												23	
4 (8)												5 (45.5)																												35	
2 (4)	3 (1.5)												3 (17.4)																										53		
3 (6)	4 (2.1)												2 (11.7)																										57		
0 (2)	20 (10.6)											1 (9.0)	1 (5.8)	2 (5.8)																									53		
0 (20)	35 (18.5)	6 (4.3)												2 (5.8)	1 (2.0)																								64		
4 (8)	34 (18.0)	18 (12.9)	2 (3.7)									1 (9.0)	2 (11.7)	4 (11.7)	3 (6.0)																								90		
4 (8)	34 (18.0)	20 (14.4)	3 (5.6)										2 (11.7)	1 (2.9)	2 (4.0)																								74		
3 (6)	21 (11.1)	29 (20.8)	3 (5.6)										1 (5.8)	5 (14.7)	6 (12.0)	1 (2.0)																							72		
3 (6)	16 (8.4)	23 (16.5)	6 (11.3)										1 (5.8)	4 (11.7)	7 (14.0)	3 (6.0)																							63		
	8 (4.2)	19 (13.6)	10 (8.9)	2 (2.2)									2 (11.7)	4 (11.7)	4 (8.0)	5 (10.0)																							54		
	8 (4.2)	10 (7.2)	12 (22.6)						1 (3.3)					3 (8.8)	10 (20.0)	2 (4.0)	2 (6.2)	1 (5.5)																					49		
		8 (5.7)	10 (18.9)	2 (2.2)										5 (14.7)	3 (6.0)	3 (9.3)	3 (2.2)	4 (22.2)																					38		
	3 (1.5)	3 (2.1)	3 (5.6)	1 (1.1)									2 (11.7)	2 (5.8)	2 (4.0)	11 (22.0)	7 (11.1)	2 (11.1)																					36		
			2 (3.7)	2 (2.2)	1 (3.3)									4 (8.0)	6 (12.0)	6 (18.7)	2 (11.1)																						23		
	1 (0.5)	2 (1.4)	1 (1.8)	2 (2.2)	1 (3.3)	1 (1.0)								1 (2.0)	8 (16.0)	5 (15.6)	2 (11.1)	3 (37.5)																					27		
	1 (0.5)	1 (0.7)	1 (1.8)										1 (5.8)	2 (4.0)	6 (12.0)	4 (12.5)	4 (22.2)																						20		
														1 (2.9)	2 (4.0)	2 (6.2)	2 (11.1)	1 (3.3)																					8		
														2 (4.0)	1 (2.0)	2 (6.2)	2 (25.0)																						7		
														1 (2.0)	1 (2.0)	1 (3.1)	1 (1.25)																						4		
															1 (2.0)		1 (5.5)	1 (1.25)	2 (6.6)	1 (1.0)																					6
																																								1	
															2 (4.0)																									3	
83 (0.0)	188 (1.00)	139 (1.00)	53 (1.00)	9 (1.00)	3 (1.00)	1 (1.00)				11 (1.00)	17 (1.00)	34 (1.00)	50 (1.00)	50 (1.00)	32 (1.00)	18 (1.00)	8 (1.00)	3 (1.00)	1 (1.00)	1 (1.00)	3 (1.00)	1 (1.00)	860 (1.00)																		
4.7	7.7	9.6	11.5	13.8	14.3	16.0				2.4年	8.1	10.5	12.0	14.8	15.4	15.5	18.8	20.0	21.0				8.7年																		

NO 4 子供は何人位が適当と思うか

年 令	性別	子供数		1名		2名		3名		4名		5名		6名		計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20才	0			1												5
			2													16
	1		3													100
			1875													53
	2		20		2											100
30才				1												47
																100
	3		1													8
																100
	4															3
31才																132
																100
	0			1												3
																100
	1			7												18
40才																67
																100
	2			17												169
																100
	3			6												118
6才以上																31
																100
	4			10												6
																412
	5															100
計			41		4		27		2	137		4		4	412	
																100
																100

0																			4 0.00
1																			3 0.00
2			7 (4.37)							2 (1.25)									16 0.00
3			1 (.40)						5 (2.00)										25 0.00
4			1 (.323)					1 (.323)	1 (.323)	23 (7.40)									31 0.00
5			2 (.74)					1 (.37)	10 (3.70)	4 (1.48)									27 0.00
6名以上								7 (2.14)	18 (6.43)	3 (1.07)									28 0.00
計			11 (3.25)					47 (35.0)	58 (43.5)	8 (6.0)									134 0.00
0			2 (.68)					9 (7.48)	1 (.4)										12 0.00
1	1 (.7)		10 (2.70)					20 (5.1)	4 (1.08)										37 0.00
2			44 (3.25)					59 (43.6)	17 (1.25)	1 (.74)									136 0.00
3			8 (.33)					140 (58.8)	2 (.5)										241 0.00
4			11 (.70)					28 (1.79)	4 (.26)										157 0.00
5			2 (.33)					31 (5.11)	1 (.36)										61 0.00
6名以上								8 (3.35)	21 (6.17)	3 (.88)									34 0.00
計	1 (.2)		77 (1.15)					295 (428)	2 (.5)	4 (1.9)									678 0.00

41才

以

上

合

計

765 子供は後何名欲しいか

年齢保有数 希望数	20才			30才						31才						40才		
	0名	1	2	3	4	5	6名以上	計	0	1	2	3	4	5	6	計		
1		9 (375)	27 (750)	2 (100)				38 (558)		7 (831)	29 (878)	21 (875)				57 (826)		
2	1 (667)	15 (625)	7 (194)					23 (381)		4 (332)	4 (212)	3 (251)				11 (159)		
3	4 (168)		2 (55)					6 (88)		1 (83)						1 (14)		
4	1 (667)							1 (14)										
5																		
6名以上																		
計	6 (667)	24 (417)	36 (278)	2 (100)				68 (147)		12 (83)	33 (30)	24 (417)				69 (145)		
無		1	27	26	5	1										319		
記入なし	4		2	1												42		
計	10	27	65	29	5	1		137	3	24	84	164	111	33	11	430		

41才以上										合計						希望 総数
0	1	2	3	4	5	6	計	0	1	2	3	4	5	6	計	
			2				2		16	56	25				97	97
			(100)				(100)		(448)	(812)	(8925)				(6984)	97
								1	19	11	3				34	68
								(6667)	(5282)	(1595)	(1071)				(2448)	
								(6668)	(278)	(30)					(504)	21
								1							(072)	4
								(6667)								0
																0
			2				2	6	36	69	28					
			(100)				(100)	(6667)	(278)	(145)	(357)					
	2	7	19	29	41	26	124		11	74	171	137	74	36	503	
			2				2	7	6	13	17	8	1	1	53	
	2	7	23	29	41	26	128	13	53	156	216	145	75	37	695	190

NO 6 受胎調節の必要性

区分 年令	内 容			理 由							要 因											
	必要である	不 必 要	記 入 な し	計	これ以上子供は いらぬ	生活に困る	人工中絶は 害がある	避妊手術は 恐ろしい	計画産児の 必要から	そ の 他	記 入 な し	計	未だ持たぬ	子供は多くても よい	宗教又は信 念から好まぬ	人工中絶しても よい	夫の協力が ない	不自然の行 為はしたくない	理由はないが 好まぬ	月経はあるが 数が大きい その他	記 入 な し	計
20才	89 (65.0)	19 (14.0)	29 (21.0)	137 (100)	27 (26.7)	18 (17.8)	8 (7.9)	6 (6.9)	35 (34.7)	3 (3.0)	4 (4.0)	101 (100)	6 (31.6)								13 (68.4)	19 (100)
30才	323 (75.0)	57 (13.0)	50 (12.0)	430 (100)	166 (43.1)	96 (24.9)	39 (10.1)	14 (3.0)	39 (10.1)	3 (0.3)	24 (6.2)	381 (100)	11 (18.4)				1 (0.7)	2 (3.3)	31 (51.8)	15 (25.1)	60 (100)	
40才	49 (38.6)	72 (56.2)	7 (5.2)	128 (100)	25 (38.0)	16 (24.3)	5 (7.5)	3 (4.6)	4 (6.1)		13 (19.8)	66 (100)		1 (1.4)					70 (97.2)		72 (100)	
41才以上	461 (66.4)	148 (20.7)	86 (12.0)	695 (100)	218 (39.2)	130 (23.4)	52 (9.4)	23 (4.1)	78 (14.1)	6 (1.1)	41 (7.4)	548 (100)	11 (11.2)	1 (0.7)			1 (0.7)	2 (1.3)	101 (56.7)	28 (8.5)	151 (100)	
計																						

NO 7

受胎調節実施状況

区 分		年 令		20才 30才	31才 40才	41才以上	計
内 容	行っている	81 (59.1)	268 (61.6)	30 (23.5)	379 (53.1)		
	行っていない	23 (16.8)	75 (17.3)	79 (61.6)	177 (24.8)		
	記入なし	33 (24.1)	87 (20.0)	19 (14.8)	139 (19.5)		
	計	137 (100)	430 (100)	128 (100)	695 (100)		
実 行 の 方 法	コンドーム法	15 (16.7)	64 (21.1)	7 (21.2)	86 (19.8)		
	荻野式	13 (14.4)	48 (15.9)	10 (30.3)	71 (16.3)		
	錠剤 (サンプル)	3 (3.3)	11 (36.3)	3 (9.1)	17 (39.1)		
	ゼリー法						
	ベッサリー法	29 (32.2)	109 (36.0)	8 (24.3)	146 (33.6)		
	コンドームと荻野式	16 (17.8)	25 (8.3)	1 (3.0)	42 (9.7)		
	コンドームとベッサリー法	10 (11.1)	35 (11.6)	2 (6.1)	47 (10.2)		
	洗 滌 法		1 (0.3)		1 (0.2)		
	スポンジ						
	腔外射精	3 (3.3)	8 (2.7)	3 (9.1)	13 (3.0)		
	リング	1 (1.1)	6 (2.0)		7 (1.6)		
	計	90 (100)	307 (100)	33 (100)	430 (100)		
	不 実 行 の 理 由	面倒くさい	1 (4.4)	8 (9.3)	1 (1.3)	10 (5.3)	
子供が大きく又は部屋が狭い			7 (8.1)	5 (6.4)	13 (5.9)		
妊娠又は病気でしてない		3 (3.3)	4 (4.7)		7 (3.7)		
夫の協力が無い		1 (4.4)	1 (1.2)		2 (1.1)		
経費がかかる			3 (3.5)		3 (1.6)		
方法を知らない			2 (2.3)		2 (1.1)		
月経はあるが末子が大きくて生れない			30 (35.0)	70 (89.0)	100 (53.0)		
そ の 他		4 (17.5)	18 (20.9)		22 (11.7)		
記入なし		14 (61.0)	13 (15.1)	3 (38.1)	30 (1.6)		
計	23 (100)	86 (100)	79 (100)	188 (100)			

分 割 撮 影

1	2
---	---

年齢別失敗の原因

NO 8

区分	年齢				失敗の原因																
	二〇才 ー 三〇才	三〇才 ー 四〇才	四〇才 以上	計	20才				30才				31才					40才			
					コンドーム破損	コンドーム中途不使用	狩野式日数誤算	膣外射精	コンドーム破損	狩野式日数誤算	記入なし	計	コンドーム破損	コンドーム中途不使用	狩野式日数誤算	膣外射精	コンドーム破損	狩野式日数誤算	記入なし	計	
有	1	25 (75.8)	97 76.4	17 58.6	139 73.5	1 100%	3 75.0	9 81.8			12 70.6	25 100%	5 100%	11 78.6	31 73.8	1 33.3		49 79.0	97 76.4		
	2	7 (21.2)	22 17.3	10 34.5	39 20.6		1 25.0	2 18.2			4 23.5	7 21.2		2 14.3	9 21.4	2 66.7		9 14.5	22 17.3		
	3	1 3.0	7 5.5	2 6.9	10 5.3						1 5.9	1 3.0		1 7.1	2 4.8		1 100	3 4.8	7 5.5		
	4		1 0.8		1 0.5													1 1.6	1 0.7		
	5回以上																				
	計	33 100%	127 100%	29 100%	189 100%	1 100%	4 100%	11 100%			17 100%	33 100%	5 100%	14 100%	42 100%	3 100%	1 100%	62 100%	127 100%		
無	3.2	11.0	4	14.6																	
記入なし	7.4	18.0	3.3	28.7																	
計	13.9 100%	41.7 100%	6.6 100%	62.2 100%																	

年齢層別失敗の原因

敗 の 原 因																			
31才 ~ 40才							41才 以 上							合 計					
コンドーム中途不使用	荻野式日数誤算	膣外射精	コ荻野式日数破損及誤算	記入なし	計	コンドーム破損	コンドーム中途不使用	荻野式日数誤算	膣外射精	コ荻野式日数破損及誤算	記入なし	計	コンドーム破損	コンドーム中途不使用	荻野式日数誤算	膣外射精	コ荻野式日数破損及誤算	記入なし	計
5	11	31	1	49	97			6			11	17	6	14	46	1		72	139
%	78.6	73.8	33.3	79.0	76.4			66.7			55.0	58.6	100	77.8	74.2	33.3		72.7	73.5
	2	9	2	9	22			2			8	10		3	13	2		1	39
	14.3	21.4	66.7	14.5	17.3			22.2			40.0	34.5		16.7	21.0	66.7		21.2	20.9
	1	2		1	3			1			1	2		1	3			1	5
	7.1	4.8		10.0	4.8			11.1			5.0	6.9		5.6	4.8			10.0	5.1
				1	1													1	1
				1.6	0.7													1.0	0.6
5	14	42	3	1	62	127		9			20		6	18	62	3	1	99	189
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		100%			100%		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

受胎調節に対する熱意

No 9

区分 年令	夫婦とも熱心	妻が熱心で協力が足りない	夫の方が熱心である	夫婦ともあまり熱心でない	夫も関心を持っていない	記入なし	計
20才	62	4	6	5	3	57	137
30才	(45.2)	(3)	(4.4)	(3.6)	(2.2)	(41.6)	(100)
31才	202	15	19	9	20	165	430
40才	(47)	(35)	(4.4)	(2)	(4.5)	(38.6)	(100)
41才以上	21	2		1	41	63	128
	(16.4)	(1.6)		(0.8)	(32)	(49.2)	(100)
計	285	21	25	15	64	285	695
	(41)	(3)	(3.5)	(2.3)	(9.2)	(41)	(100)

受胎調節の継続意志と実施上の苦労点

区分	内容	年 令			計
		20才~30才	31才~40才	41才以上	
継続意志	続けて行く	69 (50.4)	244 (56.1)	25 (19.5)	338 (47.3)
	続けたくない	3 (2.2)	2 (0.5)	1 (0.8)	6 (0.9)
	わからない	15 (11.0)	18 (4.1)	5 (3.8)	38 (5.3)
	記入なし	50 (36.5)	166 (38.2)	97 (75.7)	318 (43.8)
	計	137 (100)	430 (100)	128 (100)	695 (100)
苦 労 面	夫の協力が不足	2 (0.5)	5 (2.8)	2 (6.7)	9 (3.6)
	月経不順	15 (37.5)	49 (27.0)	3 (10.0)	67 (26.8)
	子供が大きい	1 (2.5)	22 (12.1)	12 (40.0)	35 (14.0)
	部屋が狭い	8 (20.0)	49 (27.0)	8 (26.7)	65 (26.0)
	使用薬品器具に自信がない	3 (7.5)	9 (5.0)		12 (4.8)
	器具薬品の始末に困る	3 (7.5)	17 (9.4)	3 (10.0)	23 (9.2)
	不使だから苦労する	1 (2.5)	8 (4.4)		9 (3.6)
	使用感があり困る	3 (7.5)	10 (5.5)	1 (3.3)	14 (5.6)
	経費がかかる	1 (2.5)	2 (1.1)		3 (1.2)
	購入に苦労する	3 (7.5)	12 (6.6)	1 (3.3)	16 (6.4)
	記入なし				
	計	40 (100)	183 (100)	30 (100)	253 (100)

指導を受ける希望意志

No 11

		区 分 年 令			計	
		20才 30才	31才 40才	41才以上		
あ る		64 (46.7)	179 (41.1)	14 (10.9)	257 (35.9)	
な い		2 (1.4)	62 (14.2)	70 (54.6)	134 (18.7)	
記入なし		71 (51.8)	189 (43.4)	44 (34.3)	324 (45.3)	
計		137 (100)	430 (100)	128 (100)	695 (100)	
理 由	あ る	現在受けている	30 (46.8)	121 (67.7)	10 (71.5)	161 (62.7)
		将来受けたい	34 (53.0)	58 (32.4)	4 (28.5)	96 (37.4)
		計	64 (100)	179 (100)	14 (100)	257 (100)
	な い	自信がある	2 (1.00)	14 (20.5)	0	16 (11.3)
		恥かしい	0	3 (4.4)	0	3 (2.1)
		受胎調節をしない	0	2 (2.9)	0	2 (1.4)
		人から言われると困る	0	2 (2.9)	0	2 (1.4)
		外聞が悪い	0	1 (1.4)	0	1 (0.7)
		夫が好かない	0	3 (4.4)	0	3 (2.1)
		個人の秘密を公開される心配がある	0	3 (4.4)	0	3 (2.1)
		指導方法を好まない	0	3 (4.4)	0	3 (2.1)
		人から指導されたくない	0	5 (7.3)	0	5 (3.5)
		余裕がない	0	0	0	0
		月経はあるが末子が大きい その他	0	32 (47.0)	70 (100)	102 (72.4)
計	2 (1.00)	68 (100)	70 (100)	140 (100)		

内容	年令 区分	20才~30才	31才~40才	41才以上	計
	ある		26 (1.90)	114 (26.5)	25 (19.5)
ない		36 (26.3)	113 (26.3)	9 (7.1)	158 (22.7)
記入なし		75 (54.7)	203 (47.2)	94 (73.4)	372 (53.5)
計		137 (100)	430 (100)	128 (100)	695 (100)
1 回	変らない	15 (7.9)	64 (71.9)	13	92
	具合が悪い様だ	2 (1.05)	17 (19.1)	3	22
	具合が悪い		5 (5.6)		5
	記入なし	2 (1.05)	3 (3.4)		5
	計	19	89	16	124
2 回	変らない	5 (83.3)	13 (68.4)	5 (62.5)	23 (69.7)
	具合が悪い様だ		4 (21.0)	2 (25.0)	6 (18.2)
	具合が悪い	1 (16.7)	1 (5.3)	1 (12.5)	3 (9.1)
	記入なし		1 5.3		1 (3.0)
	計	6	19	8	33
3 回	変らない		(5.0)		2 (33.3)
	具合が悪い様だ	1	2 (5.0)	1	4 (66.7)
	具合が悪い				
	記入なし	1			6
	計	1	4	1	6
4 回	変らない		1 (5.0)		1 (5.0)
	具合が悪い様だ				
	具合が悪い		1 (5.0)		1 (5.0)
	記入なし				
	計	0	2		2
5 回	変らない				
	具合が悪い様だ				
	具合が悪い				
	記入なし				
	計	0	0		0
計	変らない	20 (7.69)	80 (70.2)	18 (7.20)	118 (71.5)
	具合が悪い様だ	3 (11.5)	23 (20.2)	6 (2.40)	32 (19.4)
	具合が悪い	1 (3.9)	7 (6.1)	1 (4.0)	9 (5.5)
	記入なし	2 (7.7)	4 (3.5)		6 (3.6)
	計	26	114	25	165

避妊手術者の年齢と子供数

No 13

子供保有数 年齢	1名	2名	3名	4名	5名	6名以上	計
20才	0	3	4	0	1	0	8
30才		(37.5)	(50)		(12.5)		(100)
31才	2	9	18	30			67
40才	(3.0)	(13.4)	(26.8)	(44.9)	(11.9)		(100)
41才以上	1 (5)	1 (5)	1 (5)	7 (35)	7 (35)	3 (15)	20 (100)
計	3 (3.2)	13 (13.7)	23 (24.2)	37 (38.9)	16 (16.8)	3 (3.2)	95 (100)

避妊手術を要した原因

No 14

種別 年齢	持ちたくない 子供はこれ以上	人工中絶を 繰返	臭い 受胎調節は 面倒	他手た の術を同 気の時 たにめし	計
20才 30才	3 (50)	1 (17)		2 (33)	6 (100)
31才 40才	40 (54)	3 (4.1)	4 (5.4)	27 (36.5)	74 (100)
41才以上	8 (53.3)			7 (46.7)	15 (100)
計	54 (53.7)	4 (4.2)	4 (4.2)	36 (37.9)	95 (100)

避妊手術者の健康状態

No 15

区分		年 令			計
		20才 30才	31才 40才	41才以上	
状 態	良 い	4 (50)	14 (208)	2 (20)	22 (231)
	悪 い		16 (239)	2 (10)	18 (19)
	変化なし	4 (50)	31 (463)	9 (45)	44 (463)
	記入なし		6 (9)	5 (25)	11 (16)
	計	8 (100)	67 (100)	20 (100)	95 (100)
内 容	体が肥って来た	1 (25)	11 (22)	1 (143)	13 (213)
	体の調子がよい	2 (50)	11 (22)	2 (286)	15 (246)
	愛情が増した	1 (25)	2 (4)	1 (143)	4 (66)
	疲れ易くなった		11 (22)	1 (143)	12 (198)
	頭痛がする		8 (16)		8 (132)
	不眠の傾向		4 (8)	1 (143)	5 (81)
	仕事をしたくない		3 (6)		3 (48)
	愛情がなくなった				
	腰がいたい			1 (143)	1 (16)
	計 100%	4 (100)	50 (100)	7 (100)	61 (100)

モデル指導（ベツサリー）の実際

指導人員106名
31年8月～32年7月

区分	月											
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
自信が持てるもの			86.4	89.2	90.2	91.3	94.1	96.9	98.9	99.0	99.0	99.0
やゝ自信が持てるもの		75.5	8.7	8.8	5.9	3.8	4.0	2.0				
操作は出来るが まだ自信が持てない	78.3	9.4										
不器用又は熟意なく 自信が持てない	9.4					1.0						
不器用で使用が出来ない	2.8	0.9										
病氣その他で不使用のもの	6.6	4.7	3.9	2.0	1.0	1.9	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0
不在等で指導出来ないもの	2.8	8.5	1.0		2.0		1.0					
失敗し中絶したもの		0.9			1.0							

三 染 從 業 者 出 生 增 減 表

No 17

年 度	從 社			社 宅 外 從 業 員			職 員			合 計						
	人 員	出 生 率	千 人 對	增 減 率	人 員	出 生 數	千 人 對	增 減 率	人 員	出 生 數	千 人 對	增 減 率				
28	1143	165	144	% 100	2422	486	200	% 100	525	65	124	% 100	4090	716	175	% 100
29	1138	164	144	100	2379	452	190	95	529	70	132	106	4046	686	170	97
30	1197	134	112	78	2276	434	191	96	525	50	93	75	3998	618	155	89
31	1175	84	71	49	2255	351	155	78	531	53	100	81	3961	488	123	70
32	1134	62	55	38	2223	307	138	69	512	34	66	53	3869	403	104	59

0 予 算

この運動は企業体が大部分の経費を支出し、この経費で賄うのであるから特別予算を計上しておいた方がよいことは言うまでもない。

しかしこの運動に必要な経費は一体どの位かというのを単一に割出すことはむずかしい。蓋し、対象世帯数、実施項目の種数等により当然変動するものであるし、又例えば指導用品或は講座費用等の企業体負担割合によっても全予算に対するはね返りが異なるからである。しかし極めて大略に見て、家族計画対象家庭一世帯当り実施初年度において年額500円から1000円までの予算はどうしても見積る必要があるが、その後は実地指導員等の人件費が主で予算は軽減する見込である。

今日本鋼管を例にとって、従業員規模別に概算すると一世帯当り経費（家族計画以外の経費を含む）次の通りになる。

年 度	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度
従業員数	円			
1万5千	1800	800	750	350
1 万	2250	1000	850	630
5 千	3600	1600	1500	700

すなわち規模が小さいと、どうしても一世帯当りの費用が割高になり、又最初の2～3年はこの運動のために設備しなければならない用具費その他が経常費とは別に必要となるし又啓発普及期間はある程度の呼び水が要るわけであるが、第三年目乃至第四年目からは指導の卒業、出産減少、各種講座の自主的運営等が重って、会社負担経費は自然に逓減して来るようになる。現在この運動を実施している企業体の予算は小は30万より大は1千万まで種々あるが、問題は予算額の多寡にあるのでなく、社内事情、対象の大小、内容の轻重、年度の相違が相乗されたものであることが納得し得るであろう。

次に同じく日本鋼管の例をとって初年度予算項

目別の比率を示せば次の通りである。

項 目	比 率
1. 指導員養成費	2%
2. 指導用品費	2
3. 啓発宣伝費	9
4. 指導員人件費	28
5. 指導用消耗品費	1
6. 交 通 費	2
7. 行 事 費	20
8. 会 場 費	4
9. 調査研究費	3
10. 雑 費	2
11. 一般教養費	13
12. 生活改善費	14

この表の比率は運動開始当初のものであるから、(1)～(3)までの如く、準備費が含まれている。(4)(5)(6)は家族計画に必要な直接経費であり全体の約3分の1を占める。(10)(12)は主として生活設計の費用で次年度から生活相談所経費及び生活指導員人件費が加わって比率が大きくなって来る(7)～(10)は家族計画及び生活設計双方にかかる間接経費である。ごく大ざっぱに見て、初年度は家族計画作生活設計の割合がほぼ六対四になり、次年度以降はその割合が生活方面へ重心が移る様になることが窺われよう。更に2～3年たてば行事費会場費の類は主婦の自主活動と相まって、受益者負担が行われ、前述の如き予算逓減傾向が生じてくるのである。

〔参考〕 予算経費

(例1) 国鉄 秋田管理局

国鉄秋田管理局では

経費

昭和31年		昭和32年	
備品	290,000	備品	145,840
消耗品	109,500	消耗品	395,750
印刷費	46,260	印刷費	148,640
講習会費	177,350	講習会等	210,985
巡回映画	29,500	実地指導	478,492
委員会等	78,360	巡回映画	115,870
旅費	125,410	委員会等	125,240
賃金	307,300	医療謝金	58,500
計	1,167,680	まかない料	9,360
		旅費	211,632
		賃金	718,200
		計	2,618,509
合計		合計	3,786,189

(例2) 東京急行電鉄

指導開始以来の諸経費は次表の通りである。

昭31.4～33.3間家族計画指導諸経費

項目	年度別 期別	31年度		32年度		合計	記事
		上期	下期	上期	下期		
基礎準備費		207,860	6,550			214,410	
内訳	用具購入費	99,470				99,470	文房具スクリーン、レンズ、フィルム、 テープレコーダー、テープ
	参考書費	105,000				105,000	家族計画手引
	印刷費	3,390	6,550			9,940	
指導費		197,154	265,124	85,992	57,959	606,229	1人当りA1,038.06 B1,255.13
内訳	基 導	174,249	182,245			356,494	1人当りA610.43 B 738.08
	再指導		74,500	85,992	57,959	218,451	1人当りA 374.06 B 452.28
内訳	指導直接雑費	22,905	8,379			31,284	子供用お菓子 懇談会座談会菓子代 1人当りA535.7 B64.77
	雑 費	9,330	17,060	1,885		28,275	1人当りA 484.2 B 58.40
合計		414,344	288,734	87,877	57,959	848,914	1人当りA1,453.61 B1,757.58

備考 1人当りの費用Aは世帯数で、Bは指導対象者数で除したものである。

分 割 撮 影

1	2
---	---

(例3) 日本国有鉄道

昭和33年度家族計画所要経費 (単位千円)

費目	区 別		支 社						計	算 定	
			北海道	東北	関東	中部	関西	西部			
	局 教		4	3	5	4	6	6	28	西部支社には志免飲業所を含む	
謝 金 賞 与 金	医 師	嘱託医	46	0	46	46	69	69	276	(1回の謝金) 1,500円 × (年間) 1	
		臨時	150	75	150	150	225	225	975	(1回の謝金額) 2,500円 × (年間) 30	
	助産婦	部外専従	360	180	360	360	540	540	2340	(1ヶ月の謝金額) 1,500円 × (年間)	
	部外医療機関 において医療措 置を行った場合	手術等	189	331	325	295	390	413	1943	対象世帯 × $\frac{1}{20}$ = 手術的医療措置対象	
		入院料等	149	261	251	233	307	326	1532	手術的医療措置対象者 × $\frac{1}{2}$ = 入院及び	
計			894	847	1137	1084	1531	1573	7066		
旅 費	医 師	専 任	0	22	11	0	0	0	33	230円(日当) × 4日(1ヶ月当り)	
	助産婦	専 任	112	280	224	168	224	224	1232	労働日数月平均26日(日帰18日)	
	課 員			176	132	220	176	264	264	1232	労働日数月平均5日(日帰3日泊2日)
	幹部教育講習会			10	10	10	10	10	10	60	1090円 × 2日(往復) = 2180円 50
	助産婦再教育			20	30	30	25	35	35	175	1090円 × 2日(往復) = 2180円 5
	助産婦認定講習会			25	0	25	0	15	25	90	1090円 × 2日(往復) = 2180円 5
計			343	474	520	379	548	558	2822		
診 備 消 療 品	薬品器具等		432	756	743	675	891	945	4442	対象世帯数 × 0.9 (使用割合) 0.9 × 3000	
	手術に伴う材料費		32	56	55	50	66	70	329	対象世帯数 × $\frac{1}{20}$ = 手術的医療措置対象	
	フィルム	啓蒙 するもの 普及等に要	70	70	70	70	70	70	420	35000円 × 2本 = (支社) 70,000円	
	スライド		30	30	30	30	30	30	180	1000円 × (1支社) 30種 = 30000円	
	横型		13	13	13	13	13	13	78	4200円 × 3ヶ(1支社) = 12,600円	
	パンフレット		64	112	110	100	132	140	658	40円 × 対象世帯数 = 所要経費	
	掛図		2	2	2	2	2	2	12	500円 × (1支社) 3本 = 1,500円	
	指導票		36	104	40	41	50	51	322	10円 × 対象世帯数 = 所要経費	
	計			215	331	265	256	297	306	1670	
雑 費	聴講料	幹部講習会 助産婦認定 講習会	33	24	39	21	36	42	195	幹部講習会は各支社とも2名あて、助 現に指導員たる北5, 東北6, 関東6	
医療食料女子手術に伴う入院料			75	131	129	118	155	165	773	対象世帯数 × $\frac{1}{20}$ = 手術的医療措置対象	

算 定 の 基 礎

支社には志免鉱業所を含む

回の謝金) $1,500 \text{円} \times (\text{年間}) 15 = 22,500 \text{円}$

回の謝金額) $2,500 \text{円} \times (\text{年間}) 30 = 75,000 \text{円}$

ヶ月の謝金額) $15,000 \text{円} \times (\text{年間}) 12 = 180,000 \text{円}$

世帯 $\times \frac{1}{20} =$ 手術的医療措置対象者 $\times \frac{\text{男} 150 \text{点} + \text{女} 260 \text{点}}{2} \times 11 \text{円} 50 \text{銭} =$ 所要経費

的医療措置対象者 $\times \frac{1}{2} =$ 入院及び賄料対象者 $\times 27 \text{点} \times 11 \text{円} 50 \text{銭} \times 12 \text{日} (\text{入院日数}) =$ 所要経費

0円 (日当) $\times 4 \text{日} (1 \text{ヶ月当り}) \times 12 \text{ヶ月} = 1,040 \text{円}$

日数月平均26日 (日帰18日, 泊3日, 整理日5日) (日当) $90 \text{円} \times 9 \text{日} \times 12 \text{ヶ月} = 9,720 \text{円}$ (日当) $180 \text{円} \times 9 \times 12 \text{ヶ月} = 19,440 \text{円}$
 (泊) $730 \text{円} \times 3 \text{日} \times 12 \text{ヶ月} = 26,280 \text{円} = 55,440 \text{円}$

日数月平均5日 (日帰3日泊2日) 日当 $90 \text{円} \times 2 \text{日} \times 12 \text{ヶ月} = 2,160 \text{円}$ (日当) $180 \text{円} \times 1 \text{日} \times 12 \text{ヶ月} = 2,160 \text{円}$
 泊 $730 \text{円} \times 2 \text{日} (1 \text{ヶ月当り}) \times 12 \text{ヶ月} = 17,520 \text{円} = 21,840 \text{円}$

$90 \text{円} \times 2 \text{日} (\text{往復}) = 2,180 \text{円}$ $500 \text{円} \times 5 \text{日} (\text{滞在}) = 2,500 \text{円} = 4,680 \text{円}$

$90 \text{円} \times 2 \text{日} (\text{往復}) = 2,180 \text{円}$ $500 \text{円} \times 5 \text{日} (\text{滞在}) = 2,500 \text{円} = 4,680 \text{円}$

$90 \text{円} \times 2 \text{日} (\text{往復}) = 2,180 \text{円}$ $500 \text{円} \times 5 \text{日} (\text{滞在}) = 2,500 \text{円} = 4,680 \text{円}$

世帯数 $\times 0.9$ (使用割合) $0.9 \times 300 \text{円} (\text{年間}) =$ 所要経費

世帯数 $\times \frac{1}{20} =$ 手術的医療措置対象者 $\times \frac{\text{男} 300 \text{円} + \text{女} 500 \text{円}}{2} =$ 所要経費

$0,000 \text{円} \times 2 \text{本} = (\text{支社}) 70,000 \text{円}$

$00 \text{円} \times (1 \text{支社}) 30 \text{種} = 30,000 \text{円}$

$00 \text{円} \times 3 \text{ヶ} (1 \text{支社}) = 12,600 \text{円}$

円 \times 対象世帯数 $=$ 所要経費

00円 $\times (1 \text{支社}) 3 \text{本} = 1,500 \text{円}$

0円 \times 対象世帯数 $=$ 所要経費

部講習会は各支社とも2名あて、助産婦認定講習会は北5、関東5、関西3、西部5の18名分

に指導員たる北5、東北6、関東6、中部5、関西7、西部7 = 35名 1日につき $500 \text{円} \times 6 \text{日} (\text{日数}) \times \text{講習人員} =$ 所要経費

象世帯数 $\times \frac{1}{20} =$ 手術的医療措置対象者 $\times \frac{1}{2} \times 156 \text{円} \times 12 \text{日} (\text{入院日数}) =$ 所要経費

D 組 織

運動の開始に当っては従業員個人ばかりでなく、従業員の家庭にこの運動の主旨を周知徹底させ、期待を持たせなくてはならない。そのためには準備期間中から、社報家庭版の創設、各種の通知、パンフレットの配布等に力を注ぐ必要がある。そしてその内容は勉めて平易な表現をとらなくてはならない。

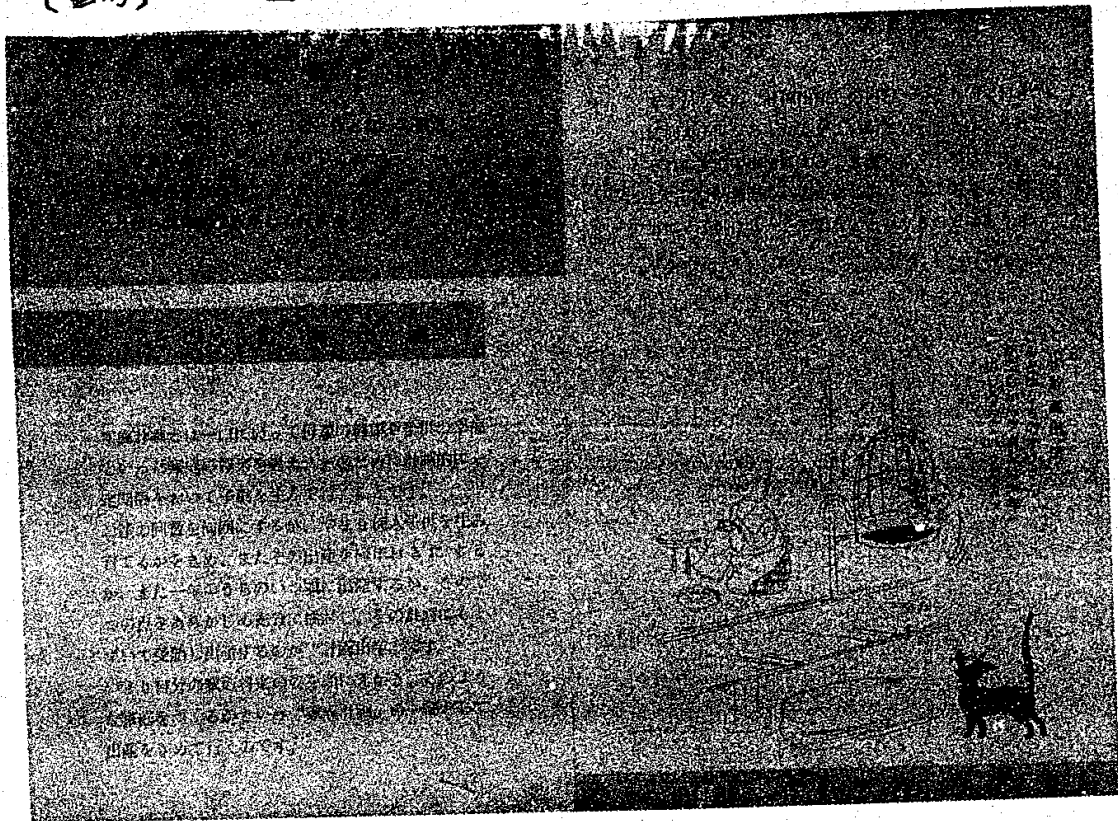
地区別の主婦の組織化はこの運動の最大の眼目の一つである。この組織が確立しているといえないとでは、運動展開に非常な相違を来す。組織が完全に出来れば、運動の半分は成功したと云っても過言にはならない。

それには先ず対象区域で（Aで前述した如く、集団社宅地区の組織化より、適時地区を拡大する方式が普通である）について、区域別家庭名簿、家族成員表、居住分布図を作成し、対象世帯を番地によらず実際の見地から、いくつかのグループにまとめて系統図を作る必要がある。グループのまとめ方は五乃至十五世帯につき一名の割合で主婦の世話役を選出し事務局及び指導員の連絡、運営の補助、グループ家庭の統轄等を受持って貰うのであるが、この選出に先立ってグループ別の懇談会を開き、この運動について忌憚のない意見を交換する機会を与え、主婦の積極的参加意欲を培養することが望ましい。そのため必要とあらば担当者が自ら随時この会合に出席し説明する熱意が肝要である。又中年を過ぎているとか、不妊だからといってグループから仲間外れにしてはならない。蓋しこの運動は家族計画のみで終るものではなく、家族計画はその第一歩に過ぎないからである。なお世話役の選出は全く主婦の自由意志にまかすべきものであるが、当初はこの運動を十分に理解し協力を惜しまぬいわゆるいい意味の世話や

きに依頼し、漸次投票なり互選なりに移行するのが便宜である。世話役の協力程度により運動展開は想像以上に影響を受ける。一片の通知による指名、或は職制上の身分に基く推薦は絶対に避くべきである。世話役の任期は半年乃至一年とし重任は妨げない。一月制の短期当番交替は望ましくない。なお世話役に対しては任期の終りに主婦向きの実用品を贈りその労をねぎらうのが普通である。企業体内の運営系統には専門の事務局の設立が望ましい。

事務局は出来得れば厚生課が担当すべきである。労務課に置けば家庭までも強制管理されるという誤解の気分を招きがちであるし、保健、衛生課関係では専門的に流れて実施項目全般を蔽うに不便である。しかし各社の構成事情に応じて決定すべきもので、絶対的なものではない。なお、事務局を担当課のほかに関係課及び附属病院又は診療所と協力連絡を保つ必要性はもちろんのこと、健康保険組合との提携も大いに役立つ。事務局が決つたら、運営委員会の設置が必要である。この運動は企業体が予算を出し、実施するものとはいえ業務命令を出すべき種類のものではない。従業員の主婦及び労働組合の積極的協力が肝要なることは当然である。それでもこの運動の最高立法機関として、「運営委員会」の如きものを受け、年に数回集って指導運営の大綱を決し、その具体的実施を事務局に委せることにすれば、納得づくの推進が出来、効果も生れる。この委員会の構成は社長又は担当部長を委員長とし、労働組合幹部、主婦代表、事務局員等を委員としその他、関係各課、附属病院の代表を加えることが通例である。

〔参考〕 PR 宣伝物 (例1) 日本通運



家族計画とは

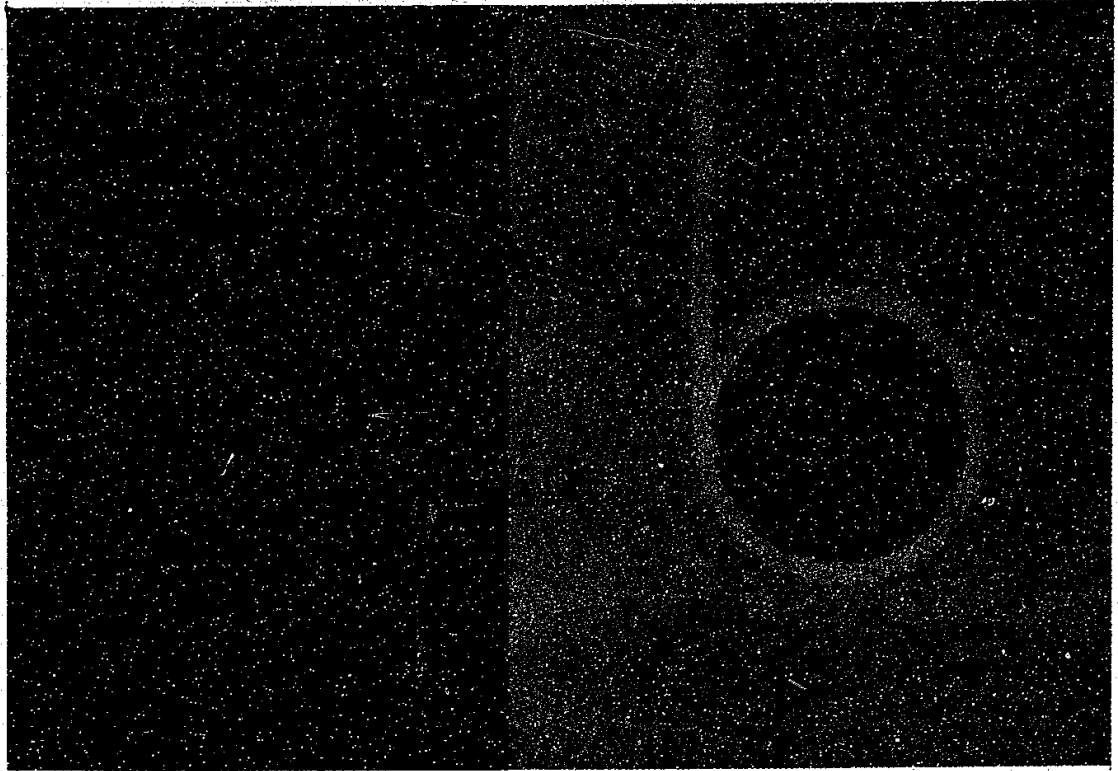
いま会社、健保、労組、三者一体となって推進している家族計画とはどんなものでしょうか。またなぜ必要なのでしょう。これから具体的に説明して行きましょう。

その1 計画出産

家族計画とは一口にいて母親の健康や子供の幸福といった家庭の将来を考え、そのために計画的に一定間隔をおいて子供を生んで行くことです。お産の回数を何回にするか、つまり何人子供を生み育てるかをきめ、またその出産を何年おきにするか、また一年のうちのいつ頃に出産するか、この三つの点をあらかじめ十分に検討し、その計画にもとずいて受胎し出産するのが“計画出産”です。つまり自分の家の将来の姿を頭にえがき、どのような家庭をつくるかという“家族計画”の一部として出産をきめて行くのです。

ですからこの“計画出産”の内容、つまり何年おきに何人子供があった方がよいかということは、それぞれの家庭の事情によっても違って来るわけです。ここに受胎調節の必要が生じてくるのであって、簡単に「子供は3人まで」などというものではありません。

計画出産
 こんどはうちのオクさんが生むからアタシは来年にしるっていうのよ



庭の花だって……

多すぎると
——コヤシもよくまわらないから
——日も風もよく通らないから
花も小さい
実も小さい
みすぼらしく
いたずらに場所だけとる

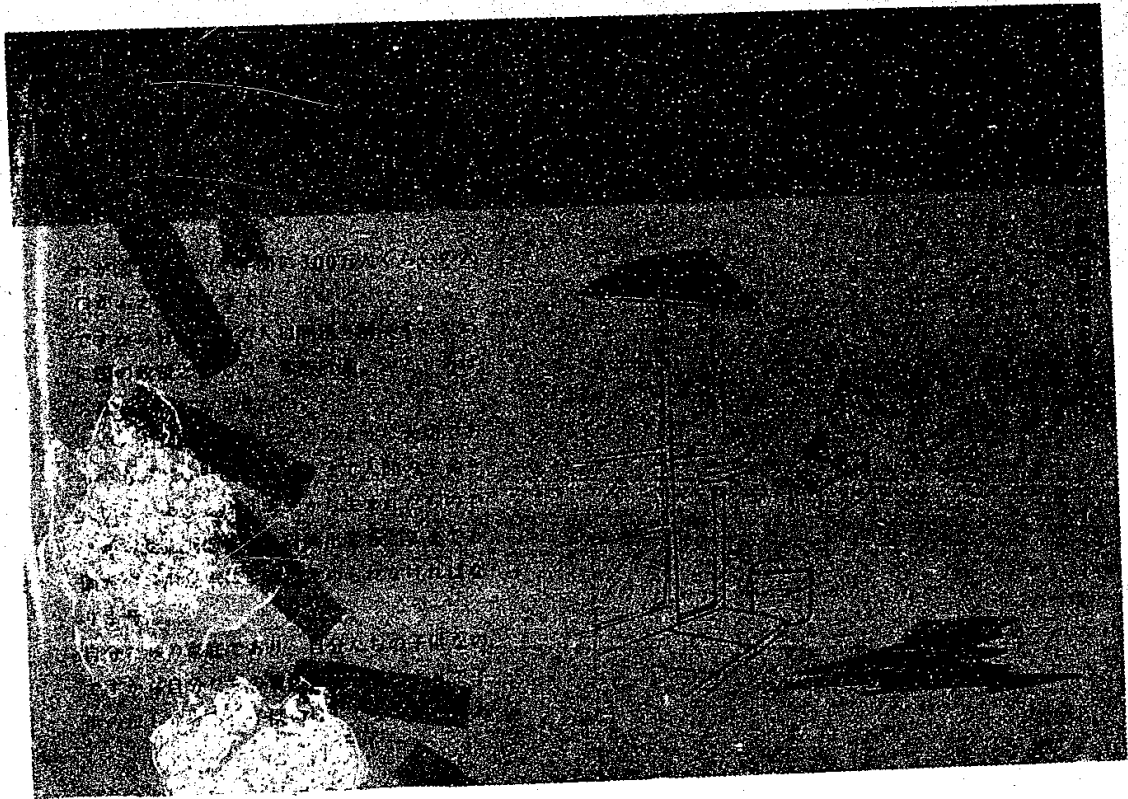
人間だって……

子供が多すぎると
——親も子も見きれないから
——教育も栄養も与えられないから
あまり
よい子にそだたない
子もくるしむ
親もくるしむ

家族計画の

はなし

日本通運株式会社
日本通運健康保険組合
全日通労働組合



その2 家族計画は各自の自由意志で

わが国では平均1年間に100万人ぐらいの人口がふえております。

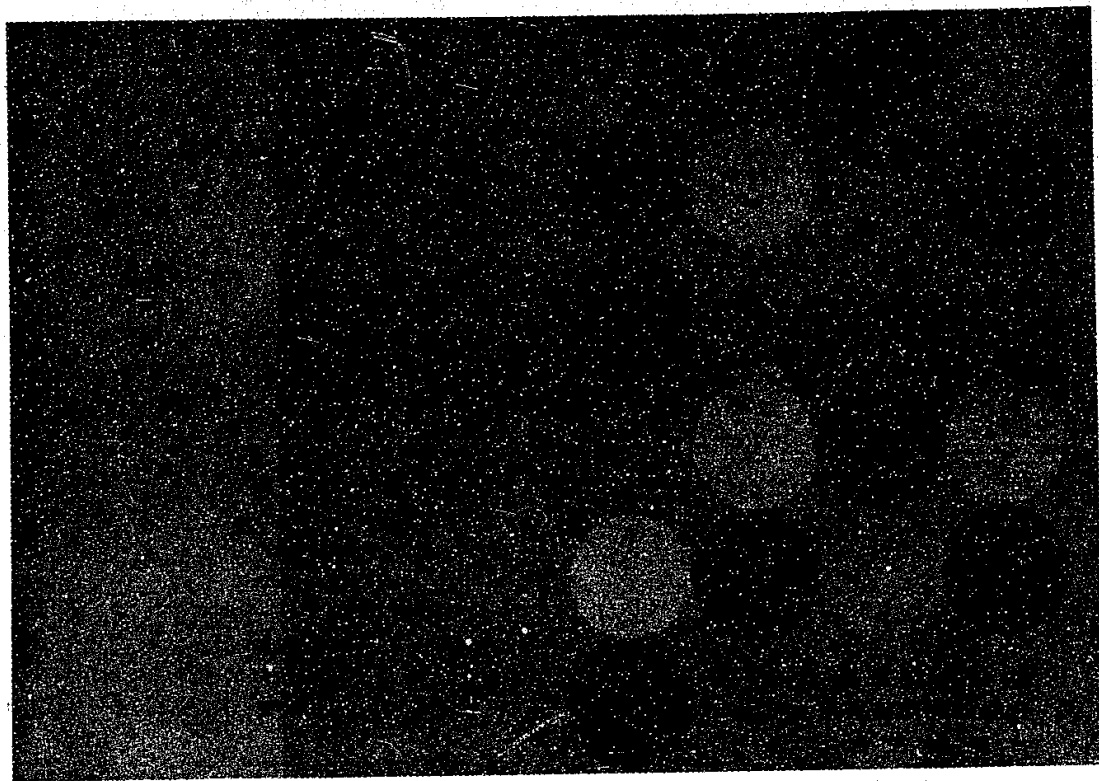
ですから日本全体の人口問題を解決するために国の政策としての“家族計画”がとりあげられるようになりました。

しかし人口問題がたとえどのように大切であっても“家族計画”はあくまで人間の生命を大切にしようという考えから生まれたものですから受胎調節による計画出産もどこまでも個人の自由意志によってきめられなければなりません。

自分たちの家庭であり、自分たちの子供なのですから自分たちの責任ある判断によって子供のほしいとき、子供のほしくないときをあ

らかじめ、十分に考えて載きたいものです。それが本当の意味での“家族計画”です。

家族計画は各自の自由意志で……
とにかくうちのママは押売をこたわるのなん
かうまいからネ「ごうのとりさん まにあっ
てるわロツ」てなもんサ



子供よ
つよい体と
美しい心に……

親のねがいは……

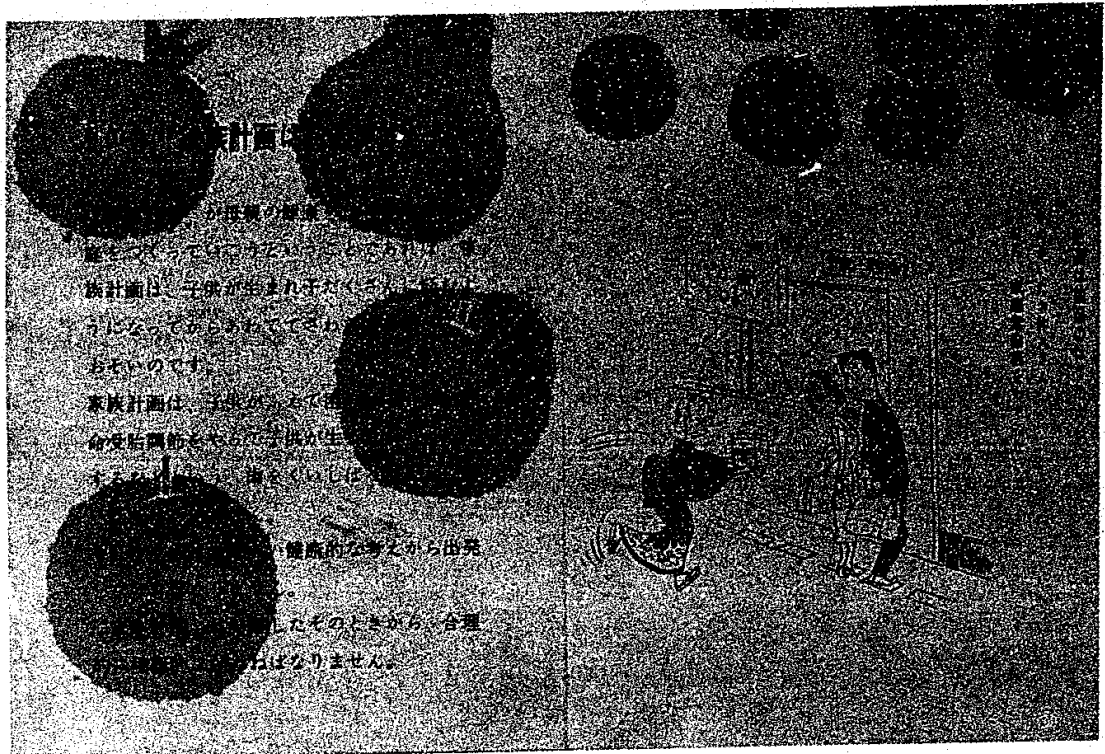
- ・子供が
- ・草の芽のように
- ・ぐんぐん
- ・太陽にむかってそだつこと
- ・そして
- ・強い体と美しい心を
- ・持つことだ

家 族 計 画 の 話

だから……

- ・生れた子には
- ・人並みなことは
- ・なんでもやってあげたい
- そのためにはやはり
- ・考えて産んで
- ・その子に
- ・愛の限りをそぐこと

日本通運株式会社
日本通運健康保険組合
全日通労働組合



その3 家族計画は結婚のはじめから

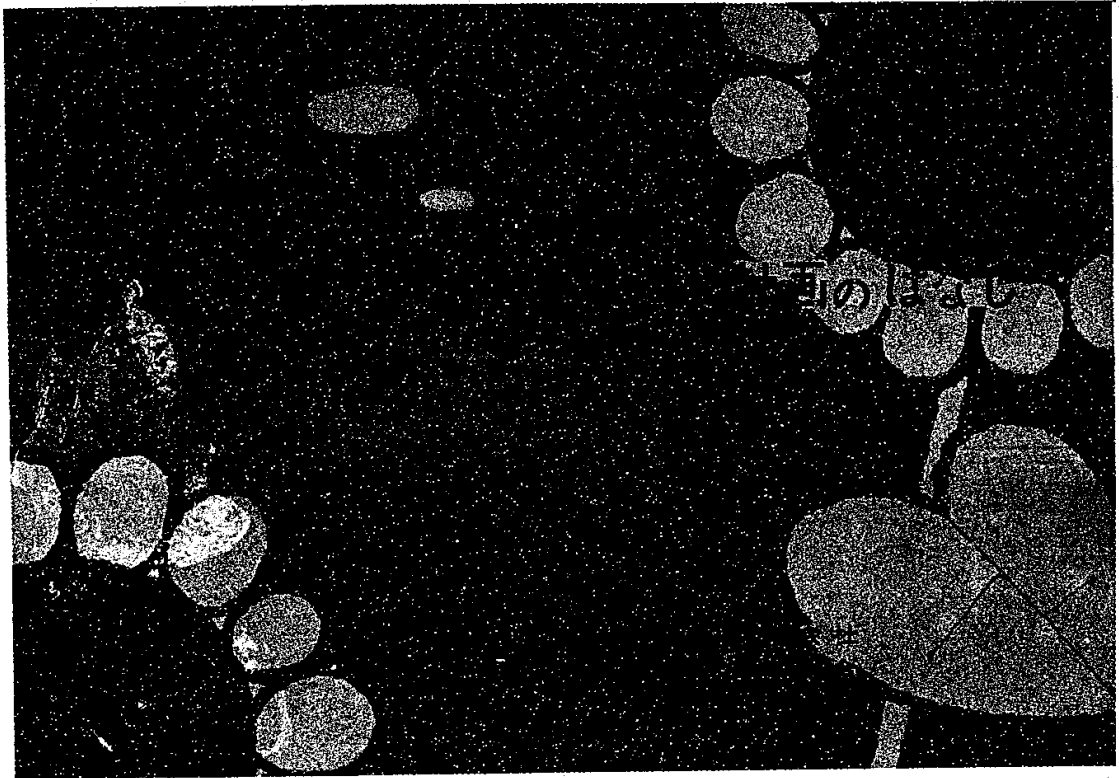
“家族計画”が母親の健康を守り、明るい家庭をつくっていくということであれば、家族計画は、子供が生まれ子たくさんに悩むようになってからあわててさわぎ始めるのではおそいのです。

家族計画は、子供がふえて困るから、一生懸命受胎調節をやって子供が生まれないようにするなどという、歯をくいしばったような暗い話ではありません。

それは、もっと明るい健康的な考えから出発しなければなりません。

“家族計画”は結婚したそのときから、合理的に積極的に始めねばなりません。

計画は結婚のはじめから
きのきいたお仲人さん
「ほら、家庭常備薬をわすれなさい……」



受胎調節は……

- 安全で無害
 - 体をわるくすることもない
 - 罪をかんじることもない
 - それは
 - ほしい時に子供をもち
 - ほしくない時は
 - できないようにする
- ことだから

家族計画のはなし

日本通運株式会社
日本通運健康保険組合
全日通労働組合

分 割 撮 影

1	2
---	---

御出産誠に御目出度う存じました。

謹んでお慶び申し上げますと共に、御生れなされた赤ちゃんは申上げ
るまでもなくあなた方を親とたのんでこの世に孤々の声を挙げら
れたので御両親の責任は重大になって参りました。どうか将来立
派な御子供さんに御育ていただき、一家の繁栄と幸福とを切に御
祈り申上げます。

さてあなたの家族計画は如何ですか。つまり何人の子供をいつ産むかの計画がきま
りましたか。

あなたの家庭に適した子供を計画的に産んで、親も子も互に幸福な家庭生活が出来
ますように真剣に家族計画を実行する事が今日の重要な問題となりました。

一人の赤ちゃんが誕生するまでには実に数多くの難関(神秘)があるわけです。眼に
見えない程の小さな何億かの精子が月一個しか排卵されない、それもわずか数時間の寿
命しか持たない卵子を求めて一秒間に自分の身長位づつ進み、しかも途中五、六ヶ所の
関所を無事通って奥へ奥へと入ってゆき、その内の一つが運よく卵子の膜をやぶって中
に入り目出度受精する。

つまり何億かの競争率を見事克服した者の唯一の勝利者なのです。だから生れ出た
生命の尊さはより高くより尊さを増すわけです。



出産後の
受胎調節開始時期

京浜急行電鉄株式会社
家族計画推進委員会

御挨拶

御出産誠に御日出度う存じました。

謹んでお慶び申し上げますと共に、御生れなされた赤ちゃんは申上げ
るまでもなくあなた方を親とたのんでこの世に孤々の声を挙げら
れたので御両親の責任は重大になって参りました。どうか将来立
派な御子供さんに御育ていただき、一家の繁栄と幸福とを切に御

分割撮影

1	2
---	---

んだ子供をほしむときに産む、親にとっても子供にとってもどんなにか幸なことでしょうか。

子供は可愛いものです。夫婦だけでは味えない新しい幸福を家庭に持ちこんでくれます。でも子供の数が多いほどその家庭は幸福だなんて考えておられる方は今どきおられないはず。明るい家庭を作るにはより文化的生活が必要でしょう。その第一条件は何と云ってもこの家族計画からはじまります。繰返し申上げます。

何人の子供をいつ産むかと夫婦で真剣に話し合って、出産後の受胎調節に失敗のない様にくれぐれも注意を致しましょう。

この勝利者は一つが二つ、二つが四つ、四つが八つという細胞分裂を行いながら、やがて母体とむすびついて更に発育をつづけ、二百八十日して生れるまでには最初針の先ほどしかなかった小さな卵が、実に三十億倍もの立派な赤ちゃんになると云われております。最近^{〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇}は産後のこの受精が一般の人達が考えているよりもずっと早くなって参りました事に御気付きでしょうか。

産後まだ月経がないから、お乳を吞ませているからなどと漠然として何の避妊方法も行わず、知らない間に妊娠して改めてびっくりする人が可成り多い様に聞いておりますでは産後の受胎調節はいつ頃開始するのが望ましいでしょうか。

産後満三ヶ月における月経発来状況は、母乳栄養で二一・四%、混合栄養で二五%、人工栄養では実に八〇%の月経があると云われて居ります。

随ってあなたもそれ以前に何かの方法を取らないと両親の望まない赤ちゃん、つまり「またできてしまった」のためいきを繰り返すことになり、お腹が小さくなれば背中が重く、背中が軽くなればお腹が大きくなる。これでは本当の幸福は望めないでしょう。

最も大切な自分の子供を産むときに「またできてしまった」ということでは……

家族計画はこの測りしれない悲劇（不必要な苦痛の代価等）をなくし、両親の待ち望んだ子供をほしむときに産む、親にとっても子供にとってもどんなにか幸なことでしょうか。

子供は可愛いものです。夫婦だけでは味えない新らしい幸福を家庭に持ちこんでくれます。でも子供の数が多いほどその家庭は幸福だなんて考えておられる方は今どきおらないはず。明るい家庭を作るにはより文化的的生活が必要でしょう。その第一条件は何と云ってもこの家族計画からはじまります。繰返し申し上げます。

何人の子供をいつ産むかと夫婦で真剣に話し合って、出産後の受胎調節に失敗のない

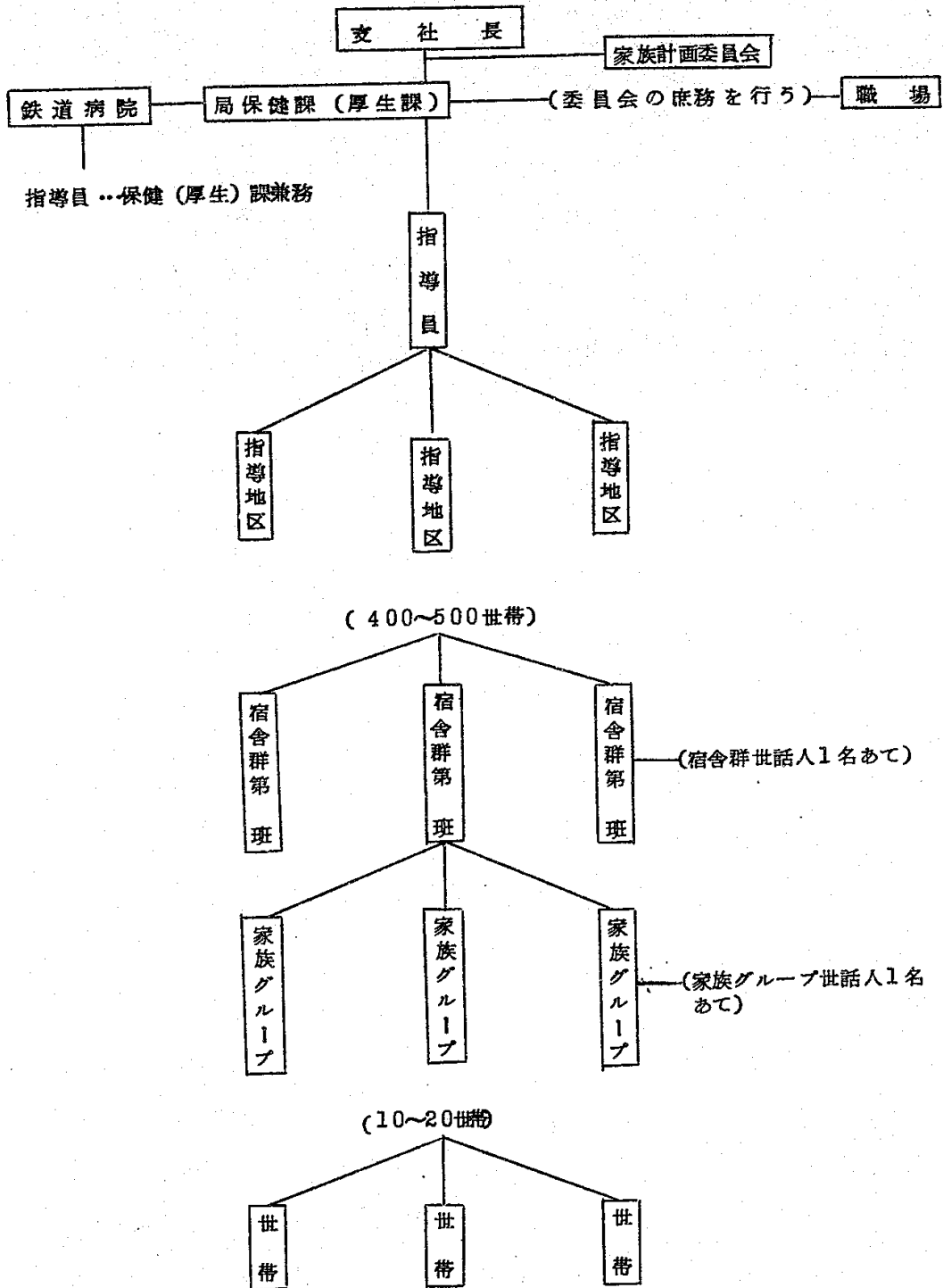
(例3) 各社PR機関紙

イ 東武鉄道	交通東武
ロ トヨタ自動車	トヨタ新聞
ハ 日立造船桜島	さくらじま
ニ 〃 神奈川	かながわ (神奈川工場報)
ホ 〃 因島	かおり (因島通信家庭版)
	くらしの手引 (因島工場新生活運動)
ヘ 日本通運	日通だより
ト 中部電力	安全衛生ニュース
チ 日本鋼管川崎製鉄所	熱鉄
リ 東京芝浦電気	東芝ライフ

各社共家族計画，生活設計，社内通報，安全衛生等を誌上でPRして居る。

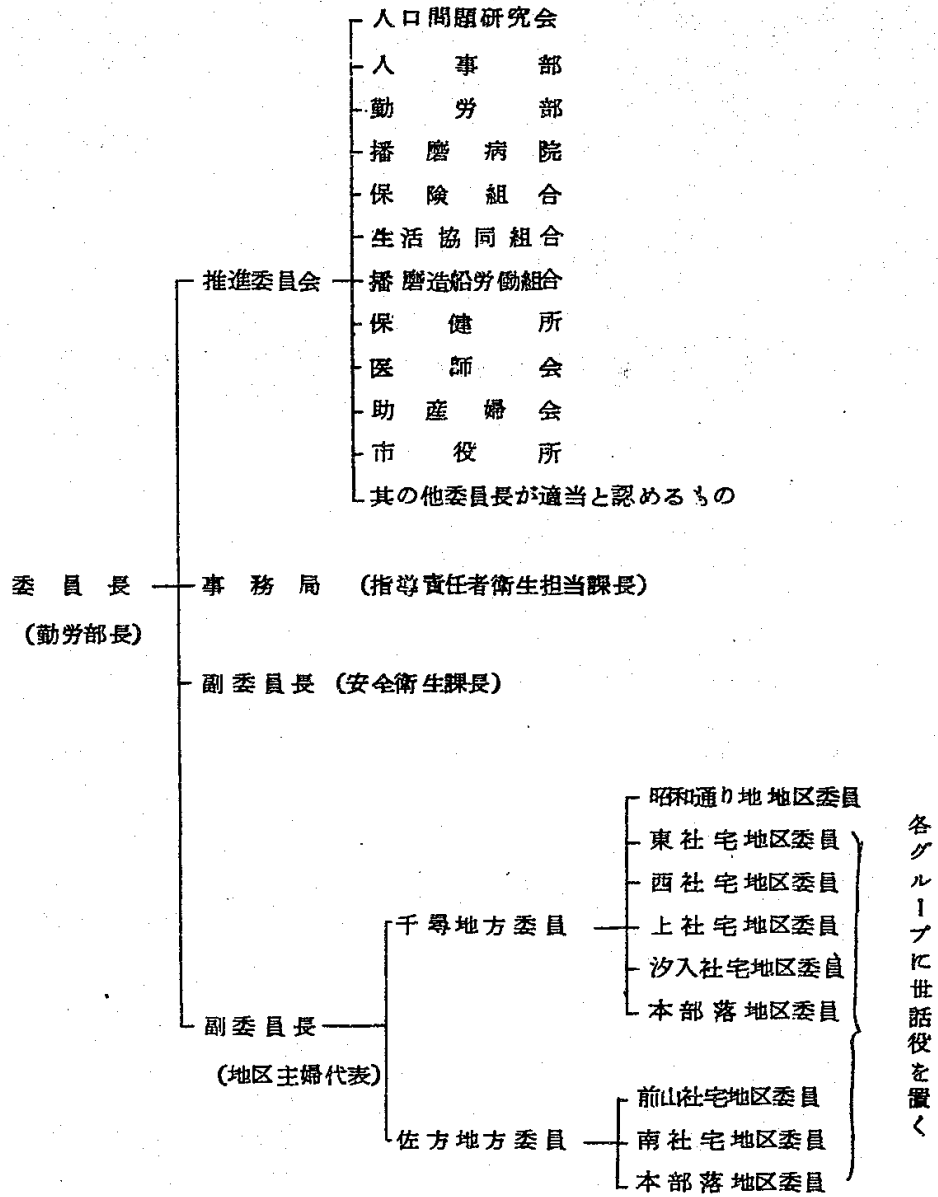
〔参考〕 組織

〔例1〕 国鉄 家族計画実施 組織系統図



(例2) 播磨造船所

播磨造船「新生活運動」組織表



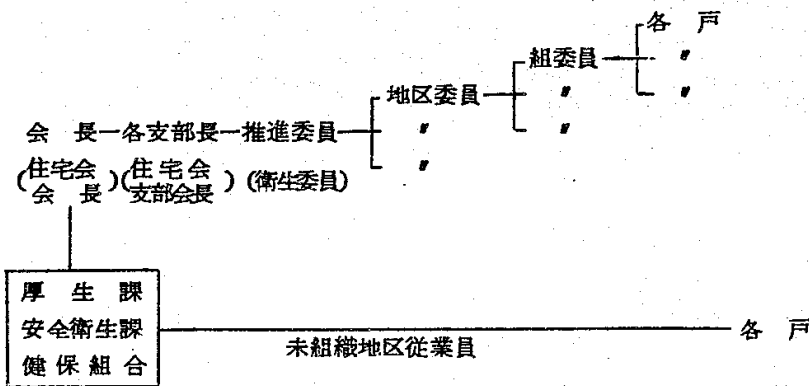
播磨造船所「新生活運動」推進委員会役員名簿

本運動に於て 委嘱する役名	芳 名	現 役 職 名
名誉会長	大岡 周三	株式会社播磨造船所 取締役社長
名誉副会長	伊藤 金左衛門	“ 常務取締役
会 長	石田 熊市	“ 常務取締役相生工場工場長
副 会 長	立花 実	“ 取締役相生工場副工場長
顧問	田中 喜代治	“ 常務取締役
“	森本 準一	“ 取締役
“	三田 兵次	“
“	北野 広雄	“ 取締役相生工場研究部長
“	古賀 正己	“ 取締役相生工場管理部長
“	大久保 潔	“ 取締役相生工場資材部長
相談役	永井 亨	財団法人人口問題研究会理事長
“	篠崎 信男	厚生省人口問題研究所調査部第四課長
“	青木 尙雄	“ 厚生技官
“	内山 繁	兵庫 県相生保健所 所長
“	福本 英策	相生 市相生医師会 会長
“	中川 夕二	“ 相生助産婦会 会長
“	香月 武一	“ 市役所厚生課 課長
委員 長	小川 清	株式会社播磨造船所 相生工場勤労部長
副委員 長	吉松 須賀根	“ 相生工場勤労部安全衛生課長
委 員	加藤 登	“ 東京本部人事課 課長
“	吉田 敏	“ 人事係 係長
“	一丸 文男	“ 相生工場勤労部次長兼健康保険組合常務理事
“	長尾 勝	“ 相生工場勤労部勤労係 係長
“	福沢 久夫	“ 相生工場勤労部保険係 係長
“	三木 芳郎	“ 相生工場播磨病院 院長
“	二村 孝	“ 相生工場播磨病院産婦人科 医長
“	高木 直輝	“ 相生工場播磨病院診療所 所長
“	小林 躬行	播磨造船生活協同組合常務理事
“	坂 越 博	“
“	水本 安一	播磨造船労働組合執行委員 長
“	信原 政治	“ 書記 長
“	官本 国一	“ 生活対策部 部長

以上33名

(例3) トヨタ自動車

運動を推進するに当り、地区の組織化はきわめて重要であるが、幸い社宅には大部分住宅会の組織があるのでこれを取り入れた。住宅組織のない地区では、それぞれグループを組み、地区組織を作って、担当の指導員を配置している。事務局は、厚生課におき、地区選出の推進委員よりなる委員会によって運動項目を実施する。



(注) (内は住宅会及び衛生部会組織)

(例4) 本州製紙江戸川工場

1. 当社の所在地 東京都江戸川区東篠崎町5181番地
2. 従業員数 男子 471名 女子 126名 計 597名
3. 従業員居住地別

	世帯主	非世帯主	計
会社施設居住者	229	40	269
東篠崎地区(工場周辺)	18	24	42
南篠崎地区(工場より1軒)	12	35	47
下篠崎地区(工場より2軒)	24	27	51
江戸川地区(工場より1軒)	28	32	60
東瑞江地区(工場より3軒)	8	24	32
行徳地区(工場より5軒)	46	33	79
その他	11	6	17
計	276	221	597

4. 新生活運動組織

委員会事務局

厚生課

委員長 厚生課長
 幹事 厚生主任
 " 厚生課員 1名
 指導員 2名

社 宅 地 区	
社宅及び家族寮地区は17ブロックに分括されている。 (1組~18組)	
委員	三名~三名

社 宅 外 地 区						
特 殊 地 区	前 野 地 区	行 徳 地 区	今 井 地 区	東 瑞 江 地 区	下 篠 崎 地 区	東 篠 崎 地 区
委員 一名~二名	"	"	"	"	"	委員 二名~三名

(例5) 日立造船(因島工場)

組 織

大衆の運動を推進するためには、組織が必要な役割を果たし、必須のものであり、ことに社会性の乏しい家庭の主婦を対象とし、主婦の主動性に基く本新生活運動においては、特に組織は重要であります。

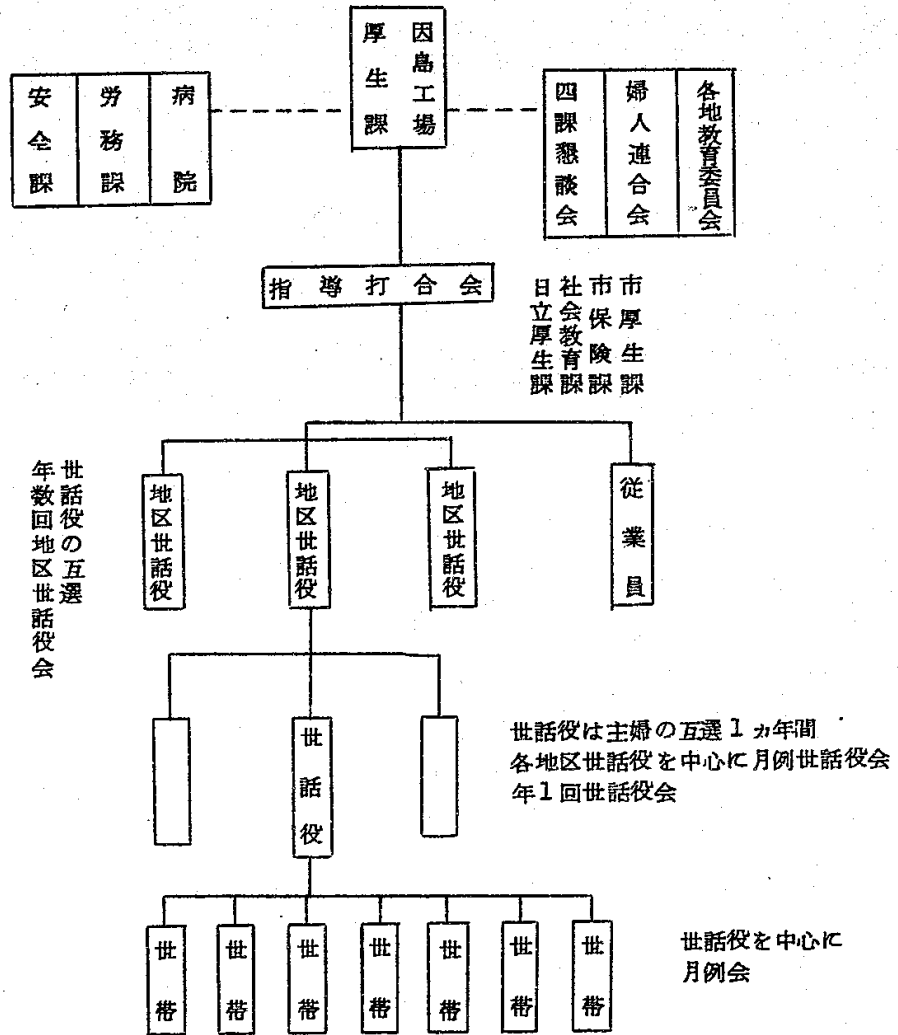
組織の活発な活動をはかり、育成することによって新生活運動の成果を効果的に発揮できるものであります。

したがって新生活運動では、グループが必要であり、グループ活動により組織活動が行われます。

当工場のグループは、主婦のむすびつきの強い地域を単位とし、8世帯~20世帯をもって組織し、主婦の互選によりグループの世話役を選出しました。

3,400世帯を5地区に区分し、各地区に1名あての指導員を配置し、運動の推進に努めております。

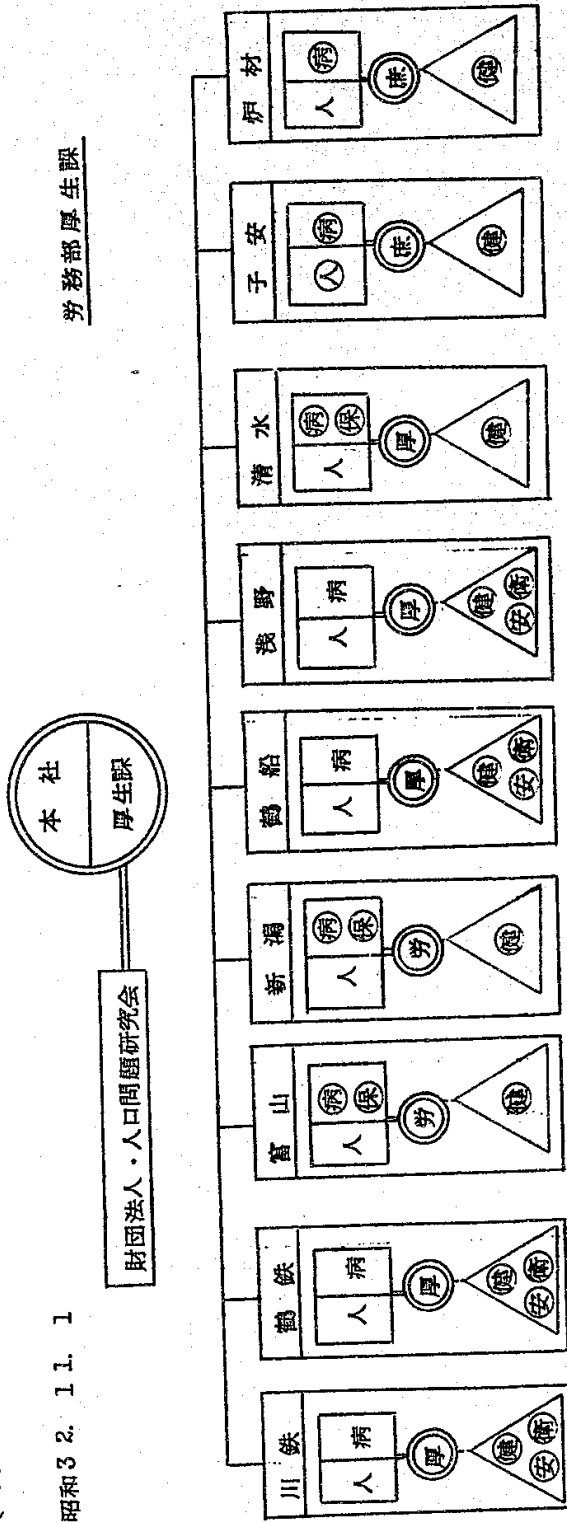
組織表



(例6) 日本钢管 新生活運動管理運営系統図

昭和32.11.1

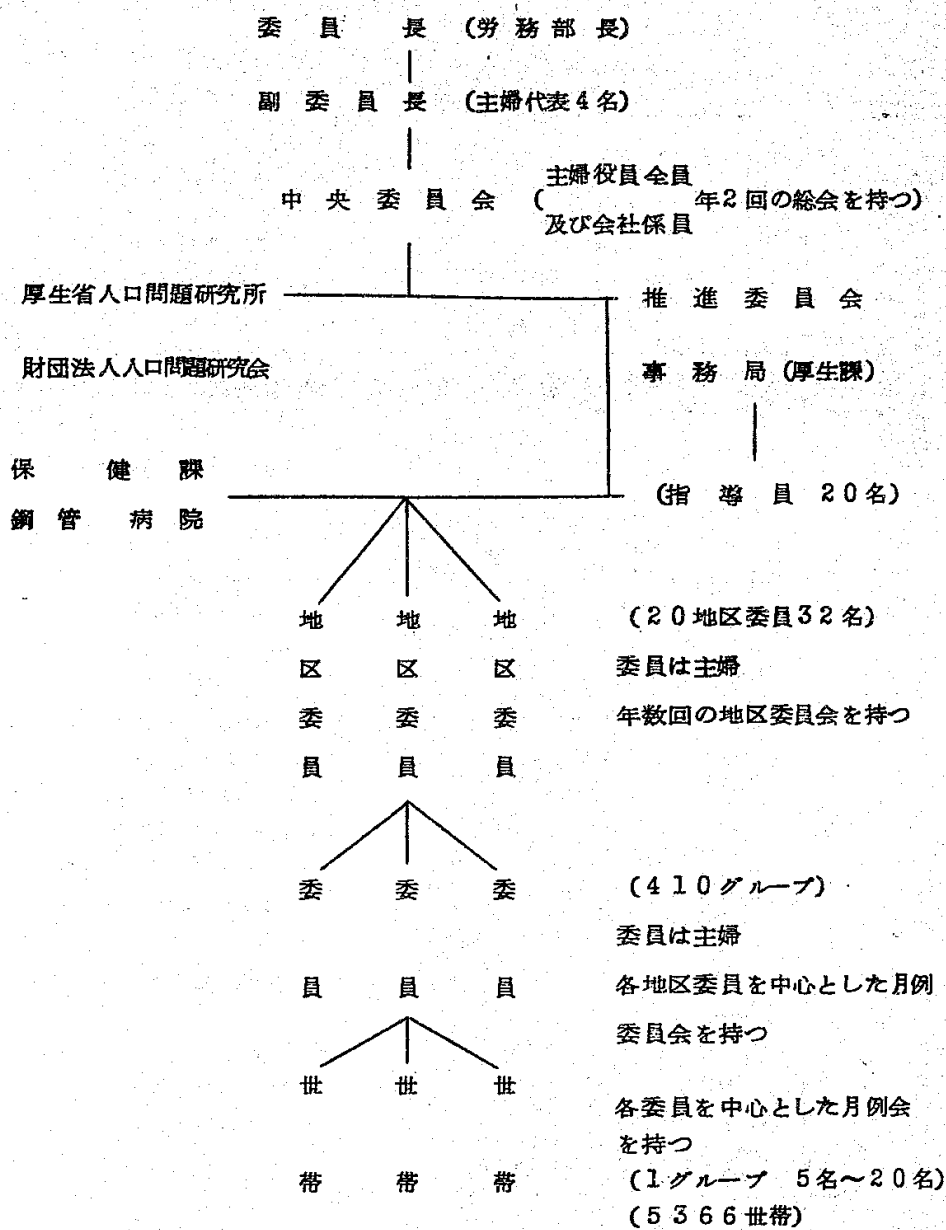
勞務部厚生課



符号	機 関	符 号	名 称
○		厚	厚生課
□		勞	勞務課
△		健	健康課
		人	財団法人・人口問題研究会
		病	会社附屬病院(診療所)
		保	所轄保健康所
		保	保健康課
		健	健康保険組合
		安	安全衛生課

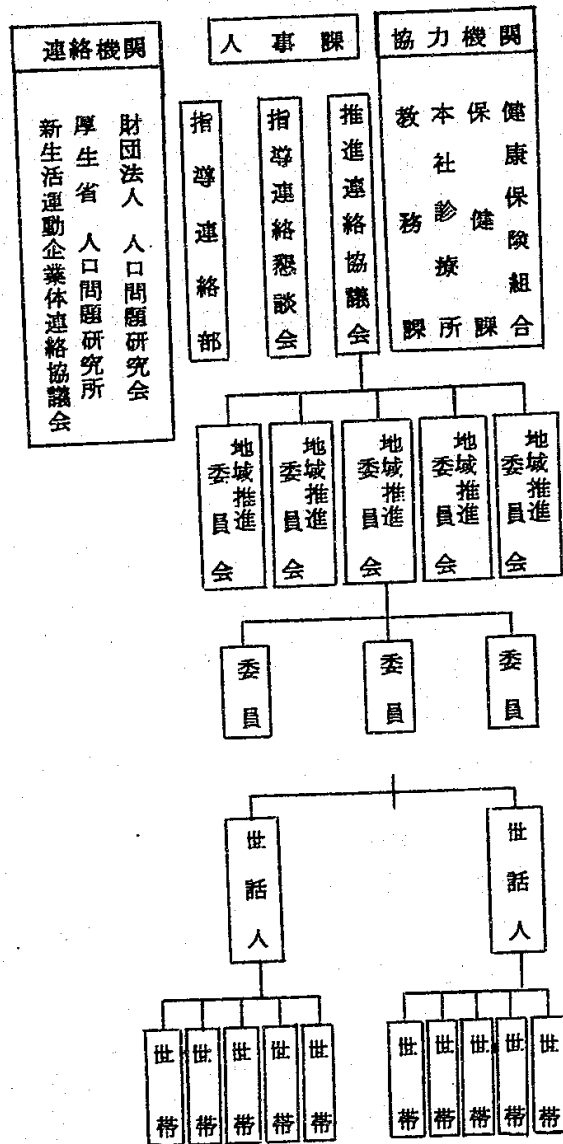
—	命	統
==	指	統
---	導	統
	協	統
	力	統
		統
備	考	

新生活運動組織系統図



(例7) 東 部 鉄 道

家族計画運動運営組織図



(図の説明)

- 世話人—約十世帯を単位として班を作り班に二名の世話人が選出されて、その班の世話をやく。
- 委員—班に一名とし世話人のうちから選ばれる。
- 地域推進委員会—主導性は主婦たちにあり主婦たちの自主的な活動を援助するため地域毎にその結成を促している。二百乃至三百五十世帯がこの委員会の所屬となる。墨田地域はこの運動の早急実施を要望した家族会のあるところであるが昭和三十一年二月に推進委員会では最初の発会式を挙げその後次々と各地域で発足している。この委員会に会員総会、役員会などの会議を置く、会員総会や役員会には要請があれば会社からも出席している役員会開催について役員一人につき一ヶ月二十円の割合で会社から補助金を出している。
- 推進連絡協議会—会長（総務部長）、副会長（総務部副部長、主婦代表）、委員（保健、教務の両課長、本社診療所長、労組代表、各地域推進委員会会長）で構成し、毎年一回以上会議を開いてこの運動をやっていく上の大切な事柄を相談する。ここには人口問題研究会からも出席していただいている。
- 指導懇談会—人事課と指導員との間に、その道の専門家にも出席を願い三ヶ月に一回開いて、指導状況の報告をはじめ指導の反省、受胎調節実地指導に関する技術の研究、最新知識の交換、保健衛生其他につき懇談し或は討論を行い、その後引続き行われる実地指導の向上を図る。
- 指導連絡部—人事課に置かれ、指導の巡回、その要望の受理、指導員の各地域との連絡、その他この運動の地域活動に種々便宜を与え事務的に援助する。

家族計画運動

- 第1条 この会は家族計画運動 地域推進委員会と呼びます。
- 第2条 この会は 地域に住んでいる東部鉄道従業員の家庭の主婦で組織し事務所を会長宅におきます。
- 第3条 この会は家族計画運動を進めて会員の家庭生活の刷新向上を図り健康にして幸福な生活の実現を期することを目的とします。
- 第4条 この会は前条の目的を達成するため次のことを行います。
1. 受胎調節に関すること
 2. その他家族計画の目的達成に必要なこと。
- 第5条 前条のことを実施するため近隣概ね十世帯を以て班を組織します。
- 班には会員の互選による世話人二名をおき、受胎調節実地指導員と会員相互の連絡に当たります。
- 第6条 この会に次の役員をおきます。
- 1 会長一名 2 副会長二名 3 委員若干名
- 第7条 会長、副会長は委員の推せんにより委嘱します。
- 第8条 委員は班に一名とし、世話人の内より会員が選ばれます。

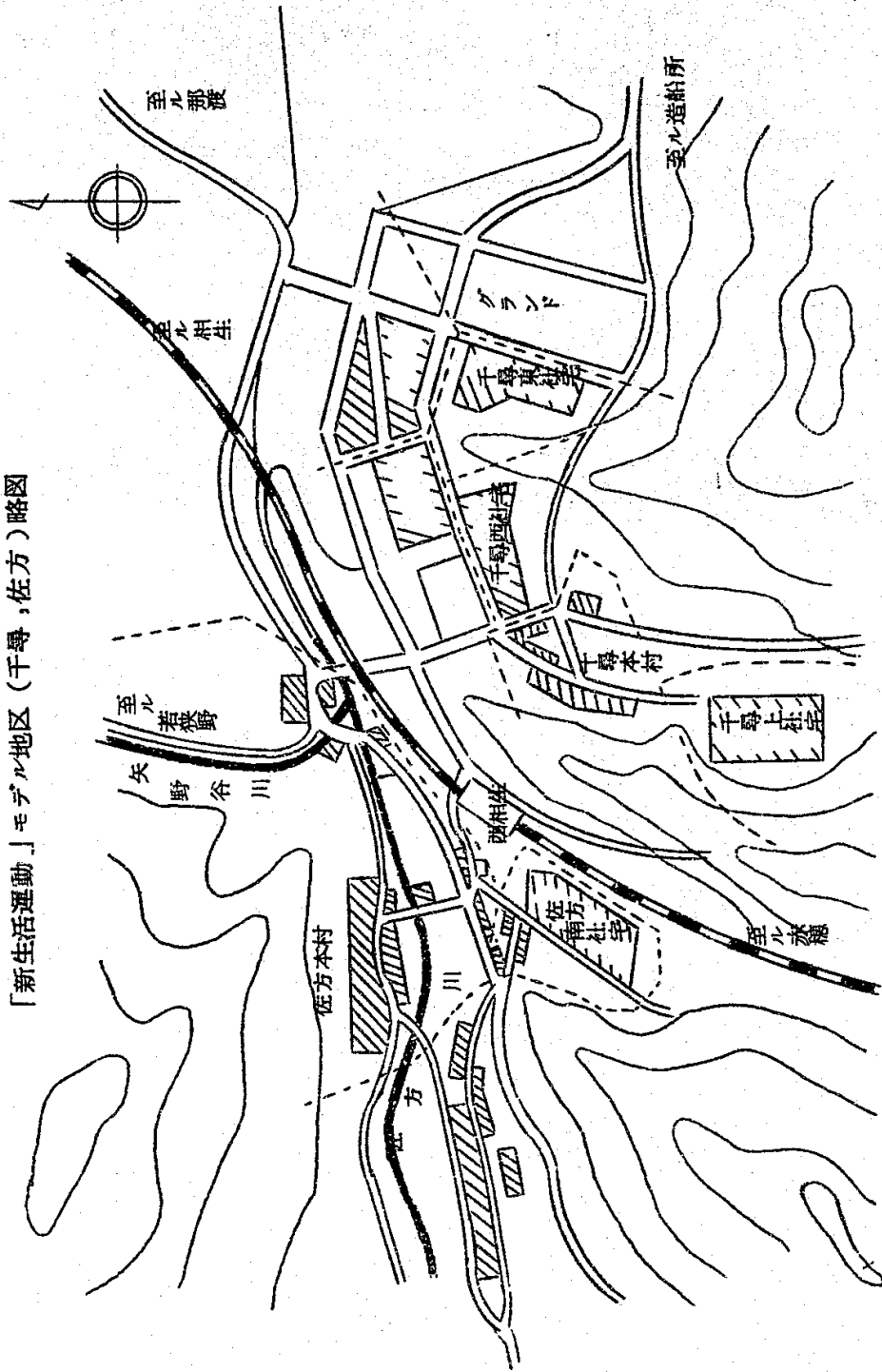
地域推進委員会規約基準案

- 第9条 会長はこの会を代表し会務をまとめます。
- 第10条 副会長は会長をたすけ会長不在のときは会長を代理します。
- 第11条 委員は会長、副会長をたすけこの会の運営に当たります。
- 第12条 役員任期は一ケ年とし再選を妨げません。
- 第13条 この会に次の会議をおき、必要に応じ会長が招集します。
1. 会員総会 2. 役員会
- 第14条 会員総会は会員全員で決める必要のあるとき開きます。
- 第15条 役員会は原則として月一回開き必要事項を協議します。
- 第16条 この会の経費は会社の援助その他の収入でまかないます。
- 第17条 この会に次の帳簿を備え現金と共に会長が保管兼理します。
1. 一般会務録 2. 金銭出納簿
- 附 則
- 第18条 この規約は昭和 年 月 日より実施します。

〔参考〕 居住分布図及び地区別指導状況

〔例1〕 橋麿造船所

「新生活運動」モデル地区（千尋，佐方）略図

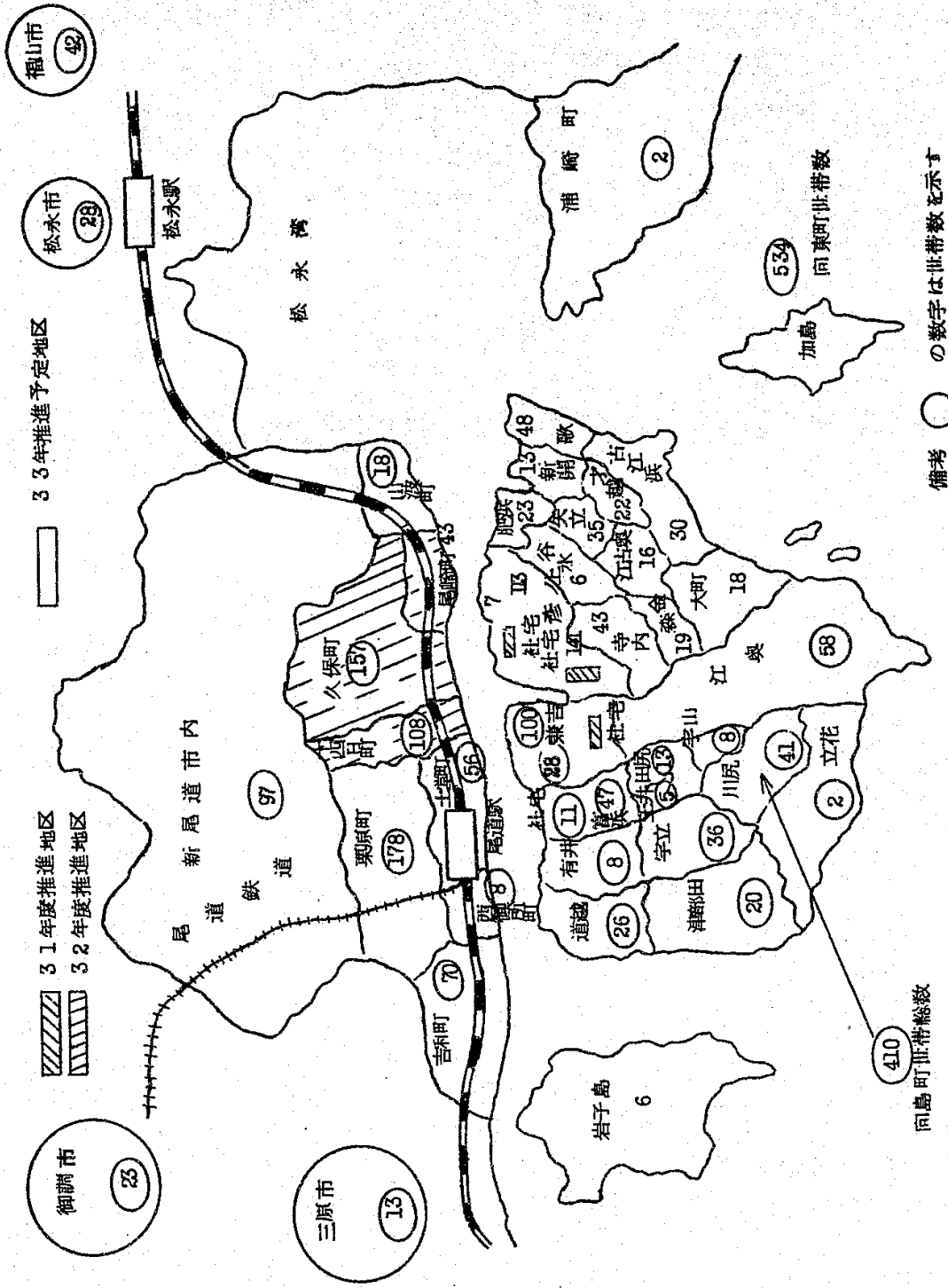


(例2) 日立造船向島工場

新生活運動推進状況表

区別		現在までの推進実績		合 計	33年度推進予定			残	
		31年度	32年度		4-8月	9-12月	2-3月		計
地区別名		社宅, 彦ノ上, 寺内1部, 向島町, 兼吉, 田尻, 宇山, 土井, 7地区	尾道市, 尾崎町, 久保町, 十四日町, 向東町, 寺内残り谷水, 森金, 肥浜, 谷立, 8地区		尾道市山波, 土堂, 西御所町, 栗原吉和町1部, 5地区	向島町, 江島, 富浜, 有井, 道越宇立, 津部田, 岩子島, 立花, 8地区	吉和132, 松永42, 三原13	31 33	世帯数
編成グループ数		54	59	113	20	20	20	60	173
世帯数		481	565	1046	180	198	187	565	1611
全世帯に対する推進率		27.0%	31.5%	58.5%	10.3%	11.1%	10.5%	34.8%	90.2%

備考 1. 昭和33年2月末現在の対象世帯数は 1,785
 2. 33年度推進予定を全体の90% (1,622世帯) とする。



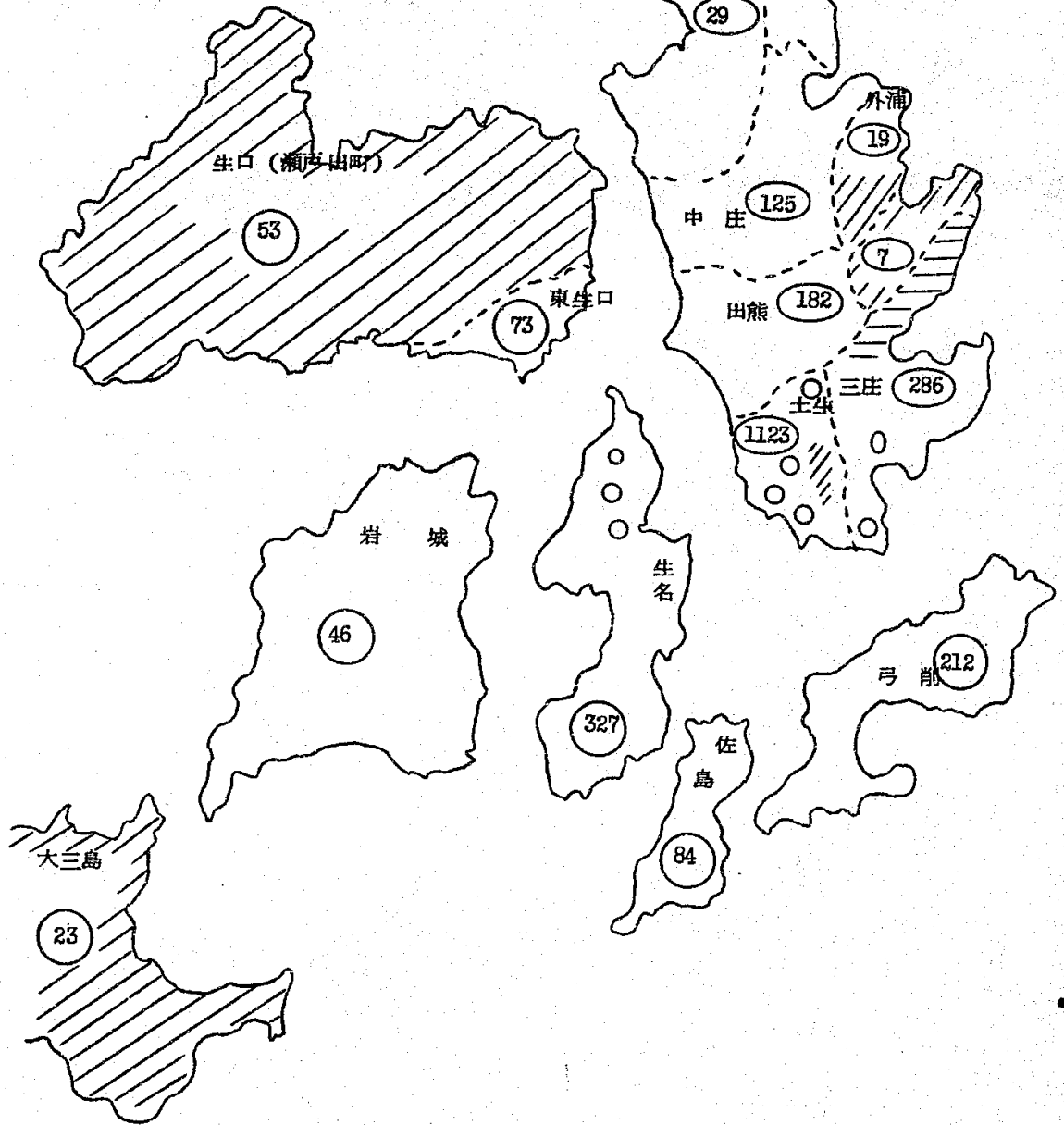
備考 ○ の数字は世帯数を示す

表その1 (例3) 日立造船田島工場

新生活運動指導推進要図

昭和31年3月31日現在

区別	年度別	昭和31年度	昭和32年度	昭和33年度
区分				
世帯数		645	1,958	600
推進率		20.1	6.11	18.8



表その2

地区別推進状況表

昭和33年3月31日現在

区分	地区	世帯数	グループ数	世話役数	推進率
モデル地区	土生	249	24	24	
	三庄	248	27	27	
	生名	148	13	13	
	小計	645	64	64	201
大地区	土生	512	42	42	
	三庄	483	31	31	
	田熊	182	17	19	
	中庄	125	11	11	
	重井	29	4	4	
	大浜	14	1	2	
	外浦	19	1	2	
	弓削	212	18	18	
	佐島	84	7	7	
	岩城	46	6	6	
	生名	179	17	17	
	生口	73	6	6	
	小計	1958	161	165	611
未指導地区	土生	362			
	三庄	162			
	生口	53			
	大三島	23			
	小計	600			188
総合計		3203	225	229	100%

表その3

家族計画説明会・グループ指導状況表

自昭和32年4月1日～至昭和33年3月31日

指導区分	会場数	参加入員	実地指導人員
説明会	28	1,328	101
グループ指導	119	1,491	470
合計	147	2,819	571

(注) 実地指導人員とは説明会、グループ指導の後、指導2名の中1名が懇談を受持ち、他の1名が別室で希望者にベッサリーの個人指導を行う。

表その4

家族計画地区別指導状況表(指導地区)

昭和33年3月31日現在

指導員	地区	世帯数	手術	更年期	調節指導	妊娠出産	子供が欲しい	拒否	未指導
松本	三庄	731	54	127	347	63	78	0	62
金沢	土生	569	65	116	286	28	33	0	44
高橋	土生	192	11	38	86	2	46	0	9
	田熊	182	5	33	91	5	32	0	16
	生名	196	31	25	104	16	9	0	11
	小計	570	47	96	281	23	37	0	36
中辻	生名	131	13	28	56	2	0	0	32
	弓削	212	19	46	111	8	22	0	6
	佐島	84	5	6	51	4	9	0	9
	岩城	46	2	5	32	2	4	0	1
	小計	473	39	85	250	16	35	0	48
松浦	中庄	125	4	29	65	6	18	3	0
	重井	29	2	5	16	1	5	0	0
	外浦	19	0	6	9	3	1	0	0
	大浜	14	0	2	9	0	3	0	0
	東生口	73	0	0	15	0	0	0	58
	小計	260	6	42	114	10	27	3	58
	合計	2,603	201	466	1,278	140	260	3	248

表その5

受胎調節実行方法

昭和33年3月31日現在

指導員	地区	調節数	ベッサリー	コンドーム	ゼリー	狹野式	体温計	その他
松本	三庄	347	134	147	1	9	5	51
金沢	土生	286	146	115	0	0	2	23
高橋	土生	86	23	20	4	34	5	0
	田熊	91	43	14	2	30	2	0
	生名	104	55	21	1	20	4	3
	小計	281	121	55	7	84	11	3
中辻	生名	56	21	0	0	0	0	35
	弓削	111	61	12	0	9	0	29
	佐島	51	33	3	0	1	0	14
	岩城	32	22	2	0	1	0	7
	小計	250	137	17	0	11	0	85
松浦	中庄	65	58	3	0	2	0	2
	重井	16	12	1	0	3	0	0
	外浦	9	9	0	0	0	0	0
	大浜	9	7	0	0	2	0	0
	東生口	15	15	0	0	0	0	0
	小計	114	101	4	0	7	0	2
	合計	1278	639	338	8	111	18	164

表その6

会合指導状況表

自昭和32年4月1日 至昭和33年3月31日

会合 実施	世話役総会	地区別世話役会	主婦懇談会	グループ活動
回数	1	12	5	403
人員	764	480	184	4794

- 注 (1) 世話役総会とは……全世話役と各グループより2名が出席し各地区のグループ活動の発表を行い意見の交換をする会
- (2) 地区別世話役会とは……各地区世話役のグループ活動の方法についての教育、懇談の会
- (3) 主婦懇談会とは……各地区よりブロック代表の出席を求めて新生活運動の内容について感想、意見を話しあう会
- (4) グループ活動とは……世話役を中心にグループの主婦が集まり、生活の合理化、教養、子供のしつけについて話し合い、環境の清掃、レクリエーションを行なう会合

E 指 導 員

これまでの運動は、講演会、映写会等の開催或はパンフレットポスターの配布等のみに依存していたため、概念的には運動の趣旨が理解出来ても具体性実行性に欠けるうらみがあった。この運動を徹底させるにはどうしてもケースワークを担当する指導員の存在が絶対要件である。しかもこの運動を直接指導する指導員の人格力量は効果を左右すること甚だ大である。従って指導員の養成、選衡には最も慎重を期さねばならない。

指導員には二種ある。その一は家族計画指導員である。これは助産婦の資格を持ち、且つ優生保護法に基く厚生省の認定講習を受け、都道府県知事の免許を受けたものでなければ指導できない。この様な資格を持つ婦人は全国に約三万名いるが、ただ資格があり技術を身につけているからといって、役に立つものではない。後述の如き集団指導の術、個別指導のコツを会得するためには、企業体向けの再教育が望ましい。人口問題研究会では各社の要望に応じ、現在までに四回この再教育講習会を開き、適格者をあっせんしている。その二は生活指導員である。この運動の進展によって、家族計画と併せて、生活設計指導のための指導員の採用を決定する必要が生じてくる。生活相談所又は相談室の受付として予備面接をして担当講師との連絡をすること、家族計画指導員のバトンを引き継いで主婦組織の中に進出し、グループ活動を盛立てつつ家計簿の記入、生活合理化、子女教育等の指導に当ること、及びグループより脱落する家庭を個別に訪門調査してその悩みを聞き、然るべき相談機関に連絡すること、以上の三つの仕事を受持つわけである。人口問題研究会では、今年春より都立社会生活学校で所定の教育実習を修了し、社会福祉主事の資格を持つ生活指導員の養成講習会を開き、各社の推薦依頼に応じている。

家族計画指導員の待遇はもちろん各社の実情に応じて条件をきめるべき筋合いのものであるが、一応基準として手取日当500円（交通費別途支給、夏期手当、年末手当は別に各社により予算編成）の線を決めている。対象家庭数に応じ必ずしも専属常勤の形とは限らず、一ヶ月十五日出勤程度が通例である。この場合月に十五日分の手当を支給すればよい。身分も嘱託の形で差支えない。生活指導員は企業体により常勤、非常勤、正式採用臨時雇用等事情が一定していないが日給なら500円、月給なら1万2～3000円程度である。指導員一名当りの受持世帯数は、居住密度、分布により一概にはいえないが、家族計画の場合は200乃至400軒平均300世帯を一ブロックとした主婦組織を編成し、これを一つづつ受持させるわけである。たとえば300世帯を七月十五日出勤（月水金の如く一日おきに仕事をし、共稼ぎ家庭の日曜指導や、家庭の要望によっては夜間訪問もある）の場合は、個別指導には一日五六世帯廻れるから500世帯以上1000世帯程度まで受持つことができる。

指導員は従業員家庭を訪問し、特殊な指導をするのであるから、万一にも指導を受ける如き行為があった場合、この運動の推進に重大な支障を来す。そのため採用時の養成選衡は前述の如く重要なことは勿論であるが、その他実際活動段階にあたっては、服務規程を作成してその統制をとり、業務日誌、業務月報を記入させ、或は器具、薬品の入金台帳を備えて、指示、絶轄するのが便利である。特に最初のうちは、巡回指導の趣旨が各家庭に周知徹底せず、一般の外交員と間違われる例もあるから、写真添付の身分証明書を発行し、器具薬品取次価格表を印刷携帯させる様に指示すべきである。

F 指導用器具、薬品、用具

家族計画指導には、避妊薬品器具の購入が必要である。これは一流メーカーと直接契約すれば優秀品を廉価に入手出来るので、外部に買いに行く手間もいらず、一對一の個人的入手であるから羞恥心もとけ、普及効果を著しく高める所以となる。同一家庭を年に数回巡回する必要性もこの補充にある。器具薬品の取次価格は、予算に応じ無料、会社或は健保の一部負担、実費の各種が考えられるが、実費或は端値切捨ての場合が通例である。各家庭とも指導員がその都度現金で取次ぐのが便利で、それを指導員が毎月末に台帳で事務局入金決済するのが確実である。

家族計画指導員はこの避妊薬品器具を何回分か常時携帯するほか、実地指導のため、婦人腰部模型、指導掛図、指導スライド、実物見本、更に白衣、消毒用具、テストリング、ゴム手袋、手洗刷毛、ガーゼ、タオル、石けん等の細々とした一式を携帯しなければならない。そのためには大型のポストバックを購入し、諸用具をつめ合わせて運べば便利である。これらの実物や模型、スライド等による視覚教育、衛生的な外観準備等は、具体的教育効果、心理的安心感を生み出す方法の一つである。主婦の中には、中年過ぎて受胎調節の必要のないものや反対に子供が欲しい不妊の人もいる。これらの人達を仲間はずれにせず、欣然とこの運動に参加させるためには例えば、子宮癌の知識とか妊娠生理とかのスライドを余分に備え、指導内容を多角的にし、更に進んでは哺乳の問題点、乳幼児疾患の予防等のテーマを取り上げれば歓迎されることになる。

次に、各家庭に対する家族計画基礎調査票の印刷準備が必要である。既に(II章のB)社内の参考資料の整備については述べているが、この資料はあくまで一般的のもので、特に対象区域の家族計画の実行率、各家庭の出産歴、特に人工妊娠中絶の実態などはつかみにくい。

この運動発足と同時に、後述の発表式と前後して、世話役組織を活用し、基礎調査票を各家庭に配布して、指導直前の数字をつかんでおけば、半

年或是一年後の指導による推移と比較対照して、はっきりした効果が説明できる。又、調査票それ自身を各家庭が書くことの教育一自らの態度を見直し、或は運動がよいよ始まるぞとの認識を持つ一意義もあり、この調査の回収率(配布世帯100に対し何世帯が協力して調査票を返してくれたか)及び有効率(返って来た票100に対し何枚がまじめに記入してあるか)の計算のみでも、各家庭の意識なり反応なりの推察が出来る。この調査の企画及び内容の作成は、人口問題研究会が応援指導しているが、概略を述べれば、夫婦の年齢、結婚年月、職種、住宅状況、現在までの妊娠(現存、死亡、自然死流産、人工妊娠中絶)状態、受胎調節実行の有無、実行者の実行方法及び効果、不実行者の不実行理由等である。なお、この調査実施の段階は、未だ運動発足の項で、指導内容について危惧を懐いている家庭が多いことが普通であるから、指導方針の重点をどこにおけばいいかを見るための調査であり、各個人の秘密を侵す意図はなく、専ら全体としての統計数字をつかむ目的であるという調査趣意書を添附して配布し、誤解を避ける工夫をこらし、記入、回収にあたっては、無記名式且つ封筒に入れて提出させるなどの心づかい、及び集計の際事務局に知られるとの心配を一掃するため、個人票の取扱いは外部(希望があれば人口問題研究会が委託を受ける)に託し、全体の数字のみを事務局がつかむとの説明が必要である。又生活指導の際は、改めてこのための基礎調査が必要である。

更に家族計画指導員がその都度携行し、指導員が保管すべき「指導票」(カルテ)の印刷準備が望ましい。指導員は受持ち家庭につき一枚ずつこれを用意し、各家庭の事情、個別指導の方法、取次いだ器具薬品の入金、指導の経過、訪問の日附等のメモを随時書込み、事務局からの指示に応じて、各種統計報告の台帳として役立てるわけである。このカルテの内容型式等の細目は省略するが、人口問題研究会に見本が用意してあるから問合わせたい。

〔参考〕 指導票

(例1) 東武鉄道 (表裏参考にする)

家族計画指導票

(票のおもて)

地区	番号	班	昭和 年 月 日作成											東武鉄道株式会社 総務部 人事課		
氏名	夫 妻	出生年月	明大昭 年 月 才	明大和 年 月 才	勤務先						学教 歴養 又程 は度					
世帯 構成	区	0才 以上	5才 以上	10才 以上	15才 以上	20才 以上	25才 以上	30才 以上	35才 以上	40才 以上	45才 以上	50才 以上	55才 以上	60才 以上	計	
	分	~4才	~9才	14才	19才	24才	29才	34才	39才	44才	49才	54才	59才	以上		
	男															
女																
住宅の種類	自己所有 一般借家 間借り 厚生住宅 義務社宅											室数	帖数			
夫 妻 の 健康状態	夫									結婚年月 大昭 年 月		今後希望する子供数 人				
	妻															
現在夫婦の出産の状態	妊娠順位	性別			出産年月日			出産の種類					現在生死の別			
	第一妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第二妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第三妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第四妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第五妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第六妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第七妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
	第八妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡		
第九妊娠	男	女	不明	年	月	日	生産	死産	早産	流産	人工流産	生存	死亡			
中絶後の異状												妊娠中	年 月	出産予定		
受胎調節 実行の有無	イ 指導前から実行 (年 月) ロ 指導後実行 ハ 実行しない															
実行の熱意	夫	ある	なし	妻	ある	なし	その他の家族								ある	なし
実行方法	コンドーム, ペッサリー, タンポン, スポンジ, 体温計, 洗滌, リング, ゼリー, クリーム, 錠剤, オギノ法, 性交中絶, その他											単独併用 三種併用 五種併用	二種併用 四種併用			
不実行理由	嫌悪面倒, 無関心, 夫婦の一方が拒否, 費用がかさむから, 子供が一人もないから 子供があるがまだ欲しいから, 妊娠中又は出産直後, 病氣中又は別居中, 年令的に 不妊症, 不妊手術 (病氣で避妊の目的で夫が, 妻が) 不明															

(票のうら)

個人指導日附 及び 器具薬品交附	1	年	月	日										未入
	2	/	/	/										
	3	/	/	/										
	4	/	/	/										
	5	/	/	/										
	6	/	/	/										
	7	/	/	/										
	8	/	/	/										
	9	/	/	/										
	10	/	/	/										
指導方法														
指導経過														
方法の改変														
月経の周期	月別 年別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	年													
	年													

(例2) 国 鉄

受胎調節指導票

(票のおもて)

地区	宿舎群	第 班	最初の訪問	年 月 日	鉄道管理局
夫の氏名		出生年月	明大昭	年 月	大 昭 結 婚 年 月 年 月
妻の氏名		出生年月	明大昭	年 月	
夫の既往症				職 名	
妻の既往症					
妊娠歴	指導前	生産 ()	死流産 ()	人工中絶 ()	計 回
	指導後	生産 ()	死流産 ()	人工中絶 ()	計 回
現存児 名		死亡児 名	現存児の性別年令		
避妊経験 有 無		不実行理由			
実行期間		年 月より	年 月まで		
実行方法		実行結果			
実行の熱意					
家庭事情					
住宅状況		独立	間借	同居	使用室数 (室)
希望条件					
妻の月経周期		日型	最長	日~ 最短	日 持続期間 日
会合出席		基礎指導		座談会	
不指導理由					

(票のうら)

個人指導	1	年	月	日	薬品器具	1	年	月	日
	2	年	月	日	交付日附	2	年	月	日
	3	年	月	日		3	年	月	日
日 附	4	年	月	日		4	年	月	日
	5	年	月	日		5	年	月	日
指導方法									
実行開始日 年 月 日 より									
実行後の感想									
指導経過									
方法の改善									
実行歴 (実行の状況を完全、不完全に分け、完全には○印 不完全には△印を附し、更に不完全) の理由を簡単に附記する 4 月 5 月 6 月 7 月 8 月 9 月 10 月 11 月 12 月 1 月 2 月 3 月									
備 考									

家族計画指導票

(票のおもて) 鉄道管理局

地区		宿舍群		第 班	班 名	最初の訪問	昭和 年 月 日				
夫の氏名		生年 月 日	M T S	年	月 日	結婚年月日	T S 年 月 日				
妻の氏名		生年 月 日	M T S	年	月 日	理想の 子供数	男 人) 女 人 } 計 人				
現在の 夫妻の 出産 状況	性 別	生年月日		妊娠の種類			当時受胎調節を行っていたか 否かしていたならばその方法	現在生 死の別	記 事		
	1	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	2	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	3	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	4	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	5	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	6	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	7	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	8	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	9	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	10	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	11	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
	12	男 女 不明	T S T	・	・	・	生産 死産 人工	5 5 5 ない ない ない	生死		
指導前	避妊経験	有 無		今まで不実行の理由							
	実行期間	年 月から		年 月まで							
	実行方法			実行理由							
家庭内状況	第1年度 ()		第2年度 ()		第3年度 ()		第4年度 ()		第5年度 ()		
同居家族数	親兄弟										
	子 供										
	その他										
	計										
住 宅	独 立										
	間 借										
	同 居										
指導後	使用室数										
	実行方法										
	その理由										
	方法の改善										
実行の熱意	夫	とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない	
	妻	とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない		とくにあり, 普通 あまりない	
希望事項											

〔参考〕 価格表

(例1) 東武鉄道


機関紙「交通東武」に掲載されているもの。これ以外のものも斡旋している。

受胎調節用 器具・薬品		価格表	
品名	単位	価格	
サンプーン錠 (16錠入)	1本	65円	
サンシーゼリー (50瓦入)	1本	134円	
・ ・ (20瓦入 注入器付)	1本	175円	
ロスゼラー (30瓦入)	1本	85円	
・ ・ (・注入器付)	1本	195円	
スポンジ	1個	90円	
クンボン	1個	125円	
コンドーム (シルバー)	1打	35円	
・ ・ (ゴールド)	1打	82円	
ベツサラー (サンシン)	1個	85円	
・ ・ (エフビー)	1個	75円	

◎右の価格(実費)で指導員が三月に一回巡回してお取次ぎいたしますが、ほかの希望者は人事課福利掛でお求め下さい。
時々価格の変更がありますが御了承下さい。

〔参考〕 指導員身分証明書

(例1) 東武鉄道

<p>オモテ(1)</p>  <p>従業員生活 指導員証</p> <p>東武鉄道株式会社</p>	<p>オモテ(2)</p>
---	---------------

<p>No. _____</p> <p>従業員生活指導員証</p> <p>現住所 _____</p> <p>氏名 _____</p> <p>生年月日 <u>明治</u> 年 月 日生 <u>大正</u></p> <p>上記の者は当社嘱託従業員生活指導員であることを証明する</p> <p>昭和 年 月 日</p> <p>東武鉄道株式会社</p>	<p>写 真</p> <p>折 目</p>
--	-------------------------------

〔参考〕 指導員の服務規定

(例1) 東武鉄道

(指導員及び服務規定を次の様に規制している)

受胎調節実地指導員は認定講習終了者にして実地指導員の資格を有し、且つ社外人であつて従業員に近親者がなくまた姻族関係もなく被指導者が全面的に信頼できる者を最寄保健所につき調査し、1人が二百世帯乃至三百世帯を単位として受持つよう必要指導員を厳選の上委嘱する。指導上得た秘密は絶体に守らせる。

初年度の必要指導員は人口問題研究会の推せん採用する。人口問題研究会以外からの指導員は当社の家族計画運動の趣旨を良く了解させた上で指導につかせる。指導員には会社が交附する従業員生活指導員証なる身分証明書を持たせる。指導員は会社の承認を得た指導計画を樹て家族計画運動の趣旨に則り責任と自覚を以て、その実施に遺憾なきを期させる。かくて受胎調節指導員はいよいよグループ活動(集団指導)で或は家庭訪問(個人指導)で実地指導に当る。少くとも三ヶ月に1回は巡回指導する。集団指導は5世帯乃至二十世帯のグループに対して、そのグループ員の何れかの住居に於て行う。

視覚による教育の重要性は今更開うまでもないが集団指導では幻燈により具体的に説明し、或は産制器具を用いて指導する。具体的実行法指導は Condom, 定期禁欲, ゼリー, 錠剤, ペッサリー, 性交中絶, スポンジ, 洗滌, 基礎体温, その他である。集団指導では子供を遠ざけなければならないから、その前に幻燈でよい子, よいしつけ, 不良化防止など善導に務める。幻燈はある時期以

後は主婦グループの申出により其都度貸出し、主婦自からに活用させる。個人指導は家庭訪問により被指導者の希望に即応する方法で具体的事項について個別的に指導する。集団指導終了後、その住居の家人の承認があれば希望者の者に別室で個人指導を行う。又特別の場合であろうが被指導者が指導員宅を訪問して指導を受けることも認める。指導に関する器具、薬品類は厚生省で認めているものを会社が被指導者に斡旋するためメーカー筋より低廉な価格で一括購入する。それを指導員が被指導者の依頼により、その状態に応じた適切な器具、薬品類を指導取り次ぐ。指導員は指導票を見て被指導者を個々に指導する。指導日誌は指導内容を記載する。指導員は指導上の必要につき被指導者より実行歴の提出を求める。指導員が指導するに必要なときは、自販車の使用を考慮する。

この家族計画の普及及び指導に入るに先だち家族計画実施の目標を確実に把握するため地域推進委員会発会式直後に実態調査の目的及び記入要領を説明したうえ、家族計画実態調査表(別紙)を配布し調査する。具体的指導によつて当初の家族計画実施の目標に対し、如何程の成果が齎らされたかを判定するため一年後に結果調査票を配布し調査する。これはまた調査の結果の客観的統計を参考として、その後における指導対象世帯の拡大に備え一層適切な指導方策を樹立せんとする目的をもつている。結果調査は一ヶ年毎に行う。その他家族計画の啓蒙宣伝の強化を図る。

〔参考〕 グループ指導場所代補助申請書

(例1) 京 武 鉄 道

場所代補助申請書

昭和 年 月 から 月 までの3ヵ月間に於ける
グループ指導の実施を下記のとおり計画したのでその
場所代と役員会費の補助を申請する。

地域推進委員会

場所代補助金 ¥ _____ 会長

印

(1)グループ指導 . 回延 人分 円
(2)役員会 3ヵ月分 人 円

班 別	委員氏名	班員数	実施予定	班 別	委員氏名	班員数	実施予定

3 実 施 経 過

Ⅲ 実施経過

A 発会式

Ⅰ章で述べた各種の準備が終つていよいよ発足となる。この発足にあつて、ことさらに発会式という形式なり祭典なりをする必要はないという議論もあろうが、今までの例を見れば発会式の有無により、この運動発展の難易に著るしい開きがある。発会式の必要性は先ず第一にこの運動にたいする「ふんざり」をつけ意欲を新にさせることである。特に世話役の主婦については、この席上で御願ひする形式をとれば覚悟を新にする。第二に事務当局より、組織、系統、機構、連絡法、あつせんの内容、今後の抱負等を直接に説明することにより印刷物説明に数倍する効果が挙る。発会式の対象には従業員の集合をもとめるものと主婦を招くものと二種あるが、殊に後者の設営は不可欠である。これも場所によっては世話役主婦のみも止むを得ないが、成るべくならば一般主婦全部を案内した方が望ましい。発会式は対象家庭全域を同一期日にまとめる必要はなく、ブロック毎に分けることも差支えない。又この席上基礎調査の趣旨説明の機会を得るのが便宜である。なおこの式の際、人口問題研究会側の講演を設けることが望ましく、その他教育映画の上映等の余興を附すのが親切である。

[参考] 発会式プログラム

(例1) 日本通運

(オモテ)

浦和地区第 班 様

日本通運株式会社浦和主管支店

「家族計画」発会式

御案内



とき・4月25日(13.00~16.00)

ところ・浦和埼玉銀行本店会議室

日本通運株式会社浦和主管支店

日本通運健康保険組合東京支店

全日通労働組合埼玉支部

ナカ(1)



御 案 内

桜花爛漫、春も酣となりました。

かねてお知らせ申し上げてありますように「家族計画」も、このほど漸々その運動を開始することになりましたので実施に先立ち別記の通り発会式を挙行いたしたいと存じます。

御家庭の皆様には何かとお忙しい事とは存じますが

母体の健康を保ち

良い子を生み、育て

幸福な御家庭を築くために

一人でも多く、おさそい合いになって、お気軽に、ふだん着のまま、お子様づれで集まっていただき、にぎやかに、そして華々しく「幸福への船出」をしたいものとお待ち申して居ります。

尚会場では、12時半より受付を致しますが、当日御来場の節は、お手数でも本書を受付へお出しになって「おみやげ」をお受取り下さい。

当日の交通費（電車、バス代等）は各班の世話役さんへ一括してお支払いいたしますから「交通費請求票」に往復料金を記入、御捺印の上御持参下さい。

昭和33年4月20日

日本通運株式会社浦和主管支店

支店長 村山正吉

(ナカ2)

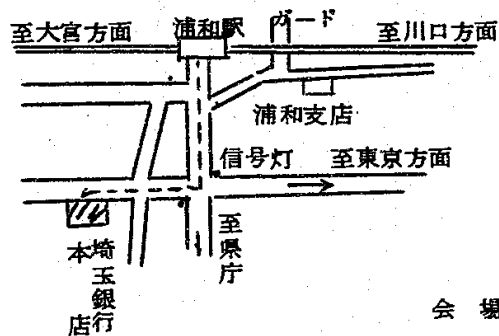
日本通運浦和主管支店「家族計画」発会式次第

1	開会のことば	支店長代理	田中善三郎	(1.00~1.05)
2	挨拶	支店長	村山正吉	(1.05~1.10)
		本社		(1.10~1.15)
		健保組合 東京支部長	喜多野健次	(1.15~1.20)
		全日通労組支部 執行委員長	渋谷要	(1.20~1.25)
3	来賓挨拶	埼玉県衛生部長	杉野為治	(1.25~1.30)
				(1.30~1.35)
4	講演	人口問題研究会 経済学博士	永井亨	(1.35~2.05)
5	指導員紹介	庶務係長	伊藤一雄	(2.05~2.10)
6	事務局挨拶			(2.10~2.15)
		休憩		(2.15~2.25)
7	楽団演奏	(日本通運社歌外)	川口支店楽団	(2.25~2.45)
8	映画			(2.45~3.55)
		幸せはどの家に(家族計画劇映画)外 黄色い車(日通本社作品劇映画)		
9	閉会のことば	庶務課長	松倉得次	(3.35~終了)

1. 「おみやげ券」は受付でお引換下さい。
2. 交通費請求票は当日あなたの班の世話役にお渡し下さい。
3. まことにお手致ですが当日は上腹を御持参下さい。

- ※ いよいよ「家族計画」発会式の段取りまでたどりつきました。
始めは「家族計画」とは何をするのか、見当もつかなかった事務局も、近頃はようやく「家族計画」の重要さが理解出来るようになりました。
- ※ 会社の中でも「家族計画」とは（産児制限の事だ、うちでは子供が欲しいのだから、「家族計画」には反対だ）などという人もあって、一時は弁明に汗をかいたこともありましたが、これも近頃では本当の意味が判ってくれたようです。
- ※ また、奥様も旦那様も相当なお齢なので、「うちでは、もう出産などには用はないよ」と言う方もありました。然し「ご自分は用がなくとも、息子さんやお嬢さんの結婚生活を考えていたゞきたい」とお願いしたり、あるいは、「今日までの尊い体験を生かして、若い人達が幸福な家族生活が築けるよう、ご指導していたゞき度い」とおねがいしたりして、お齢をとった方々にも、ほぼ理解をしていたゞいたようです。
- ※ こうした、皆様方の御理解とご協力で、心配した「世話役」の決定もつつがなく終り4月19日に第一回の「世話役会」を開くことが出来ました。又近日中「基礎調査」をお願いすることになっておりますから重ねて御協力下さいますようお願いいたします。

発会式当日は皆「日通」関係の奥様達の集りですからお気軽に、ふだん着のまま、お子様づれでお出かけ下さい。



会場略図

日本通運発会式予算（23地区）

会場費	5,000	} 23地区計1,789,000円
交通費	30	
菓子	50	
講師謝礼	5,000	
旅費	15,000	
宿泊接待費	25,000	
雑費	5,000	

（例2）播磨造船所

◎ 発会式

- | | | |
|-----------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 日時 | 昭和32年2月15日（金）
午後1時より4時まで | (5分～10分程度のものをお願ひする) |
| (2) 場所 | 松の浦厚生会館（椅子席600） | (V) 講演 財団法人 人口問題研究会
理事長 永井 亨博士 |
| (3) 参加予定者 | 労組の家族組合幹事及びモデル地区主婦 | (VI) 講演 厚生省 人口問題研究所
調査部第四課長 篠崎信男 |
| (4) 式次第 | | (VII) 閉会の辞 本運動副委員長
(安全衛生課長) |
| (I) 開会の辞 | 本運動副委員長
(安全衛生課長) | 事務局よりの連絡事項（指導員の紹介その他） |
| (II) 挨拶 | 本運動委員長（勤労部長） | (VII) アトラクション（映画）
山之内製菓提供 |
| (III) 挨拶 | 工場長 | |
| (IV) 来賓祝辞 | 相生市長 保健所長
監督署長 労働組合長
医師会長 助産婦会長 | |

B 家族計画

発会式の後、旬日をおかず、家族計画の実際指導に乗出すのが得策である。

指導方法は指導員自身が再教育講習の際十分体得しているので、詳細を述べる必要はないが大略は次の如きものである。

第一段階

受持区域の世話役と懇談しスケジュールを定め、事務局と連絡の上、小単位毎に基礎教育（集団指導）を行う。すなわち、社宅の集会所あるいは世話役、有志の家の一間を提供してもらって、前述の5～15名程度の小単位毎に指導員が新生活運

動の意義、家族計画の必要性を簡単に述べ掛函、スライドを用いて女性生理の解説をし、更に模型見本により受胎調節法の一般的紹介を行い、質疑応答により締めくくりをつける。第一回目は簡略にしかも肩のこらない様運営するのが肝要で、時間は午前10時とか午後2時とか、主婦に余裕のある時間に設営するのが良い。説明の分量は主婦の希望により数回に分けることも差支えない。

第二段階

集団指導の終わった各家庭を一軒一軒訪問して個人指導をする。

それぞれの実行経験、年齢、出産歴、家庭事情に応じ最も適した器具薬品を選び、取次ぎ、入金の上具体的に指導練習をさせ、併せて妊娠、出産、哺育についての個別相談を受ける。カルテはこの個別訪問の際記入する。

なお第一段階のみを全区域にわたり一通り行い、改めて第二段階を丹念にやる方法と、各小単位ごと第一と第二を続けて、次の単位に移る方法と二通りがあるが、区域の状況、世話役の希望等に応じて適宜に処置すればよい。

第三段階

第二段階の家庭訪問巡回を繰返し、実行の点検、改正、再指導、及び不実行者の反覆勧誘、器具薬品の適時補充を継続する。この段階に集団指導に参加出来なかった人のための基礎教育、有職主婦のための夜間、日曜指導、不妊症その他の発見及び専門機関への連絡あっせんを行う。

第四段階

一通り第三段階までの指導が終わったら、改めて集団教育にもどり、座談会を開いて活動の批判、調整を行い、指導の結果を確認し、更に一般座談会、世話役会を定期的に関開く機に努力して、グループ指導の充実向上を期する。つまり、40代グループ、30代グループ、20代グループの融和

を計って次の生活設計へ発展する態勢を整えるということが必要である。会合を重ねるにつれ後述の生活設計に対する協力の体制と意欲の上昇が生れて来るわけである。

指導員は以上のケースワークの業務の他随時事務局と連絡して、日程の打合せ、日誌、日報の提出、器具薬品の決済補充、各種調査の配布補助、及び後に述べる講座や会合の通知連絡の任にあたる。又主婦達の希望や意見を事務局側に取次ぐ窓口ともなる。

この運動が発展して行くと、色々な意味の障害や問題点が生じて来る。そのため、一月或いは二月に一回の程度に、事務局が主催して指導研究会を催し、指導員を激励指示しなければならない。つまり指導員を集め、人口問題研究会側や附属病院側の専門家を招き、指導員相互の討論批判を基礎に今後の指導法を整備教育し、併せて一層の特殊知識を伝授するのである。指導員数の少ない企業体では少数の指導員のために殊更この会を開くことは容易でない。その場合は人口問題研究会が仲に入って、近接他社の研究会に参加出来るようあっせんしている。ケースワークは甚だ地味で忍耐のいる仕事である。指導員の意気消沈及び脱落を防ぐにはこの指導研究会は甚だ効果がある。

〔参考〕 指導研究会その他連絡委員会

(例1) 日本鋼管

全社の実施に伴う事業所間指導の断層に対する本社の対策

当社においては、上述いたしました通り、本運動の開始時期が、同一でなく、又事務所の所在地等も、都市・遠隔の地と・区々でありますので、これが指導も自然不統一となりますので、全指導員を一堂に集めて指導連絡研究会というものを企画・実施いたしましたので以下その要領を申し述べます。

(1) 日 的

全社の指導員を集め、日頃の実施指導の問題点を発表させその究明と、併せて指導統

を図り、積極的指導意欲を高揚する。

(ロ) 日 時

9月20日(金)～21日

(リ) 会 場

熱海市伊豆山

日本鋼管健康保健組合

伊豆山保養所

(ニ) 出席者

財団法人 人口問題研究会

篠崎信男博士

青木尚雄 氏
 鋼管病院 産婦人科長
 草間 浩博士
 全事業所の担当課(係)長と係員
 指導員 全 員
 (川鉄は生活指導員も参加)

(ホ) 研究会次第

9月20日(金)

1. 挨拶
本社厚生課長
2. 指導員発表
研究会発表要旨(プリント)に基き
指導員1人当り 10分

質疑応答

指導員1人当り 10分

3. グループ活動の問題点について
川崎製鉄所生活指導員
4. 懇談会
9月21日(土)
 1. 実態調査の説明 本社厚生課
(その他事務連絡)
 2. 講演
実地指導の問題点について
篠崎信男博士
人口流産の現況その他について
草間 浩博士

(例2) 東武鉄道

指導懇談会(東生会)関係

イ 指導員の研究機関として本年一月誕生した東生会は指導員相互の知識の交換と技術の向上を図ることを目的として毎月一回開かれ既に六回開催した。

ロ 東生会の取上げた主な内容

1. 各自の経験発表
2. 性の心理と生理(古沢先生)
3. 性についての一つの考え方(奈良村先生)
4. 器具薬品の見分け方

5. 対人関係について(冒険科学所長)
6. 受胎調節実地指導員の実務(久保先生)
7. 家族計画の推進について(萩の先生)
8. 梅雨時の妊娠と乳幼児(石垣先生)
9. 母子衛生について(特に心理学)
(船川先生)
10. 研究事項の討議

()内は講演者でその伝達を意味する。

地域推進委員会関係

イ 各地区別の委員会開催数

地区別	墨田	足立	埼玉第一	川越	春日部	野田	埼玉第二	太田	館林	加須羽生	久寺幸手	足利小泉	安佐	伊勢崎桐生	計
回数	13	7	9	15	12	10	10	6	6	4	2	2	1	1	98

ロ 委員会において取上げた主な事項

1. 各班の状況交換
2. 集団指導の日程について
3. 班の分離又は統合について
4. 指導員からの経過報告
5. レクリエーションについて
6. 役員の変更について
7. スライドの内容について
8. 全国大会の報告について
9. アンケート実施について
10. 農繁期の指導日程について
11. 新規集団加入について
12. 班員移動調査について
13. 男性指導について
14. グループ指導開始時間について
15. 班員からの希望について

C 生活設計

家族計画を基礎とする組織活動が発展すれば、指導員も主婦相互も親密の度を加え、協力してもっと建設的な運動をしようという、意欲が出てくる。この意識の方向を助長して生活設計を指導せねばならない。後述の第一段階までは家族計画指導員がそのグループ指導の延長として併せ指導することは止むを得ないが、第二段階以後の専門活動はⅡ章のEに述べた生活指導員にバトンを渡すべきである。

第一段階

座談会における希望動向を察知して、事務局と連絡をとり、各種の講習、講座を設ける。例えば、買えば高くつくが自分で作ればわずかの実費で出来るビニール編、有合せの材料で出来る家庭着や更生衣料を利用しての子供着の洋裁、短時間で安く出来しかも栄養のある家庭料理等の講習あっせんが親切でもあり喜ばれもする。冬季を控えて手遅れにならない時期を選んでのふとん綿入講習が一番評判がよかったのも、手近な問題をとらえた好例である。講座も一番直接的に主婦の立場に訴える、子女のしつけ、季節の伝染病の知識等が望

ましい。これらは指導員がその希望を事務局に連絡し、事務局が会場及び講師をあっせんし、講師謝礼金だけ会社側が負担すれば、材料費、会場費等は主婦が出し合うのが通常の形である。なお機会を見て、子女の不良化防止及び主婦の教養の立場から、映画、スライド、紙芝居の巡回を計画すれば、子供同士、親同士の近親感にも、親の児童心理に対する知識にも役立つ。

第二段階

生活指導員が主体となり、グループ活動を活発に盛り立て、生活設計の指導にあたる。この際、社内に従業員家庭に対する貯蓄組合の設立、及び同一様式の家計簿を配布して技術指導にあたることが望ましい。又家庭の中の問題について、悩み抜いた揚句、最後の線まで追い込まれるケースが意外に多いのに鑑み、これら家庭のトラブルを早期に発見し、解決に困難が重ならない中に、生活相談所又は相談室の専門家に送り込むことに努力しなければならない。生活相談所又は相談室の設置もこの様にして生きて来る。

[参考] 生活設計希望アンケート

(例1) 石川島重工

生活設計における講座、講習等のアンケート結果

		豊洲地区		洲崎荘		大島住宅		晴海住宅		総 合		
		希望点数	順位	希望点数	順位	希望点数	順位	希望点数	順位	希望点数	順位	%
講 座	子供のしつけ	350	1	50	1	66	1	63	1	529	1	31
	婦人の健康について	204	2	39	2	34	2	27	3	304	2	18
	思春期の性教育	167	3	32	3	7	7	11	6	217	3	13
	季節の伝染病	126	4	26	4	28	4	28	2	208	4	12
	環境衛生	123	5	9	6	23	5	12	5	167	5	10
	幼年期の性教育	93	6	11	5	31	3	11	6	146	6	9
	幸福な妻となるには	91	7	8	7	15	6	15	4	129	7	7
講 座 (定 例 的 開 催 の も の)	家庭料理	378	1	20	1	40	1	35	1	473	1	37
	毛糸編	181	2	17	3	20	3	13	3	231	2	18
	洋裁	144	3	18	2	2	6	20	2	184	3	14
	お花	79	4	13	4	0	7	7	4	99	4	8
	マッサージ	47	5	8	6	2	6	3	6	60	6	5
	和裁	40	6	10	5	27	2	3	6	80	5	6
	ビール編	40	6	2	9	8	4	0	8	50	7	4
	お茶	39	7	0	10	3	5	1	7	43	8	3
	布人形	32	8	4	7	2	6	4	5	42	9	3
しし。う	20	9	3	8	2	6	1	7	26	10	2	
講 習 (比 較 的 短 期 間 で ま と ま る も の)	布団の綿入れ	267	1	33	1	29	1	24	2	353	1	25
	家庭着	222	2	13	2	19	2	28	1	282	2	20
	すまいの改善	149	3	8	4	11	4	7	5	175	3	12
	日用品の鑑定	138	4	6	5	9	5	9	4	162	4	11
	洗濯	115	5	12	3	13	3	7	5	147	5	10
	電機器具の扱い方	72	6	0	7	2	7	1	7	75	6	5
	家計簿のつけ方	56	7	0	7	5	6	10	3	71	7	5
	染色	45	10	6	5	2	7	1	7	54	9	4
	応急処置	49	9	2	6	2	7	2	6	55	8	4
	美容体操	51	8	0	7	1	8	0	8	52	10	4

分 割 撮 影

1	2
---	---

[参考]

生活設計指導計画及実施状況

(例1)

日立造船各事業所

昭和33年度 新生活運動実施計画予定表

月別 実施項目	1	2	3	4	5	6	
家族計画指導				○分散地区 (43世帯) ○グループ巡回 (随時)		家族計画個人指導実施	
教養講座				○料理講習会		○人形作り講習会	
保健衛生						○保健衛生相談 (診療所)	
生活の合理化		○「生活の合理化」 (家計簿のつけ方) について講演会 講師 氏家寿子氏			○貯蓄奨励につい て座談会		
育児子女の教育				○子女のしつけ講演会			
家族の慰安, 社会見学 懇談会	○1/30 第2回世話役懇談会 ○「暮しの手帳」を回覧 (グループ) ○分散地区の 主人側との懇談会			○家族慰安リクレーション (小河内ダム見学) ○社会見学 (撮影所) ○グループ合同懇談会 (高輪クラブ)			

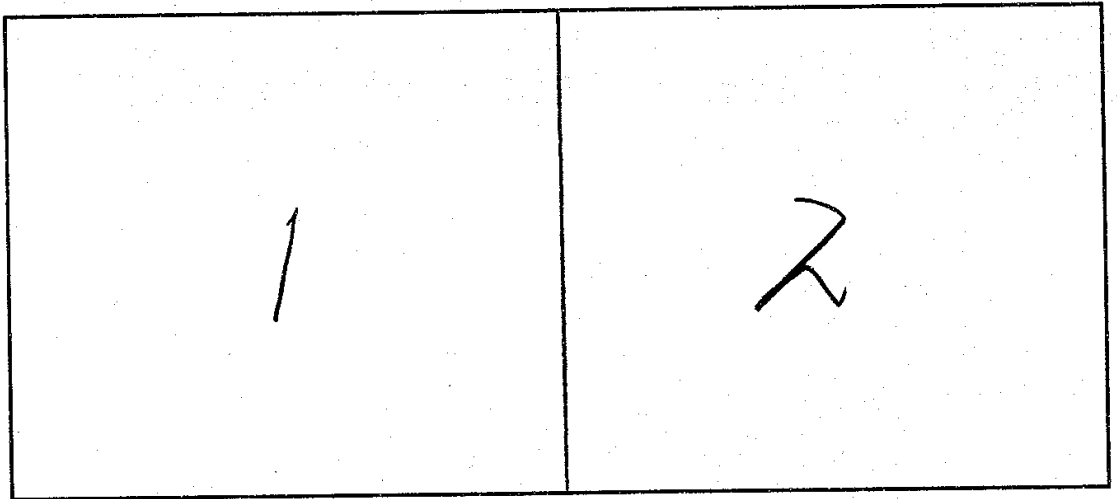
計指導計画及実施状況

日立造船各事業所

日立造船東京支社 新生活運動事務局

5	6	7	8	9	10	11	12
世帯) 随時)	家族計画個人指導実施						
	○人形作り講習会			○染物講習会		○料理講習会	
	○保健衛生相談 (診療所)					○冬の衛生講話	
奨励につい 懇談会			○生活改善について 講演会			○経済的な年末年始の 過ごし方について講演会	
講演会					○子女のしつけ講演会		
家族慰安リクレーション (小河内ダム見学) ○グループ合同懇談会 (高輪クラブにて)				○野外映画の会	○秋のリクレーション (桃山荘) ○東京支社運動会 (家族も参加) ○年末懇談会 (各グループ)		

分 割 撮 影



昭和33年度(上期)新生活運動推進計画

指 導 要 領		拡大地区は家族計画を、既指導地区はグループの育成と生活指導を主に推進する。				
		月 別				
実施項目		33年 4	5	6	7	
既指導地区	集田地区	三島 200 富田 40 吹田 63 茨木 75 此花 200	←	○ 家族計画、巡回指導、毎月(1回)器具薬品補充、転出入、 ○ グループの育成拡充、各実施項目の推進(生活指導)		
	分散地区	島本 15 高槻 75 吹田 170				
拡大地区	分散地区	福島 62 西淀川 69	←	○ グループの編成	世話役決定	基礎指導、個人指導
	教養を身につけること。 映画 講演 講習 座談会と懇談会 啓蒙	○ 映画(三島クラブ) ○ 家庭の経済について 家計簿について座談会(藤沢夫人)	○ 映画(吹田保健所) 夏期保健衛生について	○ 映画(此花保健所) ○ 衛生講話 家庭における応急手当、梅雨の衛生など 婦人問題	○ 映画(高槻保健所)	← 特に主人の協力を強調
健康的な生活をする事。	○ 主婦の美容について(さくらさま掲載)	○ 春の大掃除 ○ 子供の健康			○ むし干	
生活を合理化すること。	○ 料理講習 弁当の作り方(花見遊山) ○ 美しい花造り	○ 講演(住宅関係) ○ 台所の設備をどう改善すべきか ○ 住居の美化、家族の休養、娯楽	○ 家計の反省 ○ 講演 電気の知識と電気器具の修理方法 ○ 収入の天引貯蓄へまず「教育貯金」	○ 夏休の生活計画 ○ 講習 ふとんの仕立かえ		
育児ならびに子女の教育を上手にする。 家族の慰安社会見学	春期慰安大会 コマ劇場	○ 講話 子女の生活指導 工場その他見学 撮影所見学(京都)	中山山荘 レクリエーション			

と生活指導を主に推進する。					
7	8	9		摘	要
<p>(1回) 器具薬品補充, 転出入, 脱落者に注意 →</p> <p>実施項目の推進 (生活指導)</p> <p>に移行するよう誘導する。 →</p>				中 司 奥 野	<ul style="list-style-type: none"> 毎月15日担当者, 指導員の打合せを行う。 幻灯スライド, テープコードを活用。
決定	基礎指導, 個人指導へ移行 →			中 司 奥 野	<ul style="list-style-type: none"> 現指導員数では今後 (来期) よりの拡大推進は限度と思われる。 余力があれば東淀川区に拡大する。 都 島 区
(此花保健所) 講話における手当, 梅衛生など問題	<ul style="list-style-type: none"> 映画 (高槻保健所) 	<ul style="list-style-type: none"> 人間問題について 	<ul style="list-style-type: none"> 時局問題 		<ul style="list-style-type: none"> 映画, 家族計画, 社会教育, 教材, 文化, ニュースなどにより選択する (地区毎 保健所, 寮で開催) 講演, 時局, 婦人問題, 家庭経済 (同上) 講習, 日常生活事項を選択またアンケートなどで希望聞く。 懇談会, 世話役懇談会 (必要に応じて) グループ懇談会 (4~5グループ実施) 啓蒙, 社報, さくらじま パンフレット
	<ul style="list-style-type: none"> むし干 				<ul style="list-style-type: none"> 集団地区 (寮, 社宅) は別表により実施 分散地区「家庭の日」全家族で屋内外の清掃, 整理するよう啓蒙
の反省 の知識と器具の修法 の天引貯まき「教金」	<ul style="list-style-type: none"> 夏休の生活計画 講習 ふとんの仕立かえ 	<ul style="list-style-type: none"> 台風対策「わが家」の補強 	<ul style="list-style-type: none"> 講習 障子, ふすまのはりかえ (衣料関係) 生地と柄の選び方と見分け方 身に合ったアクセサリーはどうあるべきか 		<ul style="list-style-type: none"> この外グループの懇談会で家庭生活中身近から問題点を捉え話し合い研究するようにする。
山荘 リエーション		<ul style="list-style-type: none"> 講話 学期始めについて 野外映画のタレクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> 野外映画のタレクリエーション 		<ul style="list-style-type: none"> 年齢に応じ家事を分担し起居の間にしつけるよう指導, 主人にも協力を求める。 まず両親が手本を示せ, 教えるよりも見習わす。 幻灯スライドの利用 主婦の工場見学 (毎月2~3回実施)

概

要

- 啓蒙活動は従業員ならびに主婦に普及を図り、特に視聴覚教育の充実を計り、啓蒙活動を活発化する。
- 家族計画は未指導地区 600 世帯の拡大指導を重点とし、既指導地区の補導指導を推進する。
- 生活合理化の具体的指導とグループ活動の育成を計り、生活向上の實を高める。
- 従業員教育、生活相談等を新たに指導推進する。
- 家庭秩序の確立を目的に主婦工場見学を行い、本年度中に完了する。
- 「家庭の日」の啓蒙を計り、従業員ならびに一般市民の理解徹底に努める。
- 付近市町村と密接な連絡を保ち、新生活運動の効果をあげる。

<p>1 啓蒙活動は従業員ならびに主婦に普及を図り、特に視聴覚教育の充実を計り、啓蒙活動を活発化する。</p> <p>2 家族計画は未指導地区 600 世帯の拡大指導を重点とし、既指導地区の補導指導を推進する。</p> <p>3 生活合理化の具体的指導とグループ活動の育成を計り、生活向上の實を高める。</p> <p>4 従業員教育、生活相談等を新たに指導推進する。</p> <p>5 家庭秩序の確立を目的に主婦工場見学を行い、本年度中に完了する。</p> <p>6 「家庭の日」の啓蒙を計り、従業員ならびに一般市民の理解徹底に努める。</p> <p>7 付近市町村と密接な連絡を保ち、新生活運動の効果をあげる。</p>	<p>← 家庭秩序 → ← 公衆衛生 → × 会道徳高揚 → 家族耐安 ← 健全文化体育 × 虚礼廃止 ← 習慣簡素化 × 時間</p> <p>← 貯蓄増強 → ← 食生活改善 ← 保健衛生 → 栄養改善 ← 冠婚葬祭改善 → 予算生活 → 家計簿の活用 → 衣服</p>
<p>社会道徳</p> <p>生活合理化</p>	<p>「かおり」 ← ○ → 毎月1回発行</p> <p>「くらしの手引」 ← ○ ○ ○ → 毎月3回発行</p> <p>ポスター ○ 計量ポスター 5,000枚 保健衛生 5,000枚 ○ 正月用 4,000枚</p> <p>シリーズ ○ 貯蓄 ○ 衛生 ○ 貯蓄</p> <p>新聞折込 ← 毎月1回発行 (第一日曜日の期日)</p> <p>パンフレット ○ 新生活運動の歩み</p> <p>巡回映画 ← 毎月一週間～二週間</p>
<p>啓蒙</p> <p>宣</p> <p>伝</p>	<p>既指導地区 事後の補導および器具薬品補給 (2,600世帯)</p> <p>未指導地区 ← 説明会 → グループ指導 (600世帯) → ← 個人指導, 事後の補導</p>
<p>生活</p> <p>設計</p>	<p>貯蓄 金銀信託</p> <p>家計簿 講習 → ← 講習 → ○ 配布</p> <p>食生活改善 ○ 講習 (グループでは随時)</p> <p>衣服改善 ← ○ 編物 → ← 毛糸編物 → ← 毛糸編物</p> <p>ビニール編 ○ ビニール編 ○ 洗濯 ふとん</p>
<p>保健</p> <p>衛生</p>	<p>環境衛生 市町村当局と接衝 協力指導</p> <p>健康診断 啓蒙指導</p> <p>家庭看護法 ○ 講習 ○ 講習</p>
<p>育児, 子供の教育</p> <p>社会道徳 (家庭秩序)</p>	<p>← 講座 → (子供会の育成)</p> <p>○ 講演 ○ 講演 ○ 講演</p>
<p>主婦の教養</p> <p>「家庭の日」家族の耐安</p>	<p>生花, お茶, 読書, 見学はグループの活動又は趣味のグループの自主的活動 (読書会は学生会図書利用)</p> <p>R講習 ○ 運動会 R講習</p>
<p>グループ</p> <p>の育成</p>	<p>← 拡大地区 →</p> <p>← 自主的グループ活動, 随時出席指導, 拡大地区は編成後2ヶ月目より推進</p> <p>← 世話役教育 → ← → ← → ← →</p>
<p>主婦工場見学</p> <p>その他</p> <p>業務</p> <p>調査</p>	<p>← 5回 → ← 4回 → ← 3回 → ← 4回 → ← 5回 → ← 4回 → (毎週水曜日)</p> <p>世話役給会 ○</p> <p>主婦懇談会 ○</p> <p>家族計画-生活指導</p>
<p>従業員教育</p> <p>生活相談</p>	<p>← 従業員教育準備検討 → ← 実施</p> <p>← 準備検討 → ← 身上相談, 法律相談</p>
<p>社外団体</p> <p>との協調</p>	<p>← 四課懇談会 → 毎月一回開催</p> <p>← 婦人会関係 → 随時開催</p>
<p>所要人員</p>	<p>担当者 家族計画実施指導員 5名 生活指導員 1名</p>

昭和33年新生活運動実施計画予定表

実施項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
家族計画 (受胎調節)	◎ 東京都居住者 (190世帯) 含東京支社関係43世帯, 横浜市居住者 (152世帯) 家族計画個人指導実施 指導員 福井 片岡 2名 ◎ モデル地区グループ巡回 器具, 薬品補充, 脱着者防止 ◎ 拡大地区 (川崎市内) 順次巡回グループ編成, 器具, 薬品補充											
教養講座	△井3料理講習会実施 (残グループ) 7回 (150名参加) △生花講習会実施 (10グループ120名参加) △ロケツク講習会実施中 (6グループ70名参加)											
保健衛生	△巡回映画にて保健衛生思想の徹底を計る △保健衛生講話巡回実施 (全グループ) △保健食リーフレット配布 希望者家族健康診断実施 (工場医) △防疫薬品種族配布											
生活の合理化	△経済的な家庭生活について講演会実施 (全グループ) 埼玉大学教授 稲葉ナミ先生 △貯蓄奨励について座談会開催 △生活改善講演会実施 (全グループ)											
育児子女の教育	○東京民生文化協会発行 月刊誌「親と子」各グループ世話役めて配布 △家庭での子女のしつけ講習会開催 (全グループ) △子供の夏休みの利用について座談会実施											
家族の慰安 社会見学	○生活改善参考図書, 娯楽図書を月平均20冊購入家庭回覧を実施する △1/30第2回世話役懇談会開催 (早稲田大学 今和次郎先生 △桃山荘 (総海保健所) リクレーション実施 (3グループ) △モデル地区グループ別工場見学実施 (5地区180名参加) △家族慰安野外映画の夕開催 (15ヶ所) △社会見学秋のリクレーション実施 △桃山荘利用											

本年度の指導目標「生活の合理化」に重点を置き推進する。
 (1) 講演会を開催する (2) 住, 台所の改善 (3) 家計簿の記帳促進 (4) 貯蓄の奨励
 △ 順次グループ毎主婦の懇談会を開催自主的な運動推進への気風を喚起する。
 △ グループ相互の交流を計り, 運動推進についての意見の交換と研究に努める
 △ 拡大地区のグループの編成と充実に努める
 △ 生活相談員により生活全般にわたる相談指導を実施する

新生活運動実施概要 (一般項目の部)

教 養 講 座	保 健 衛 生	生 活 の 合 理 化	育 児 子 女 の 教 育	家族の慰安・社会見学
<ul style="list-style-type: none"> ○ 井1 料理講習会実施 (31/5~31/7) (15グループ) ○ 井2 料理講習会実施 (32/4~32/5) (15回) ○ 布団購入講習会実施 (32/8) 14回 ○ 家庭生活と近隣者として在り方について講演会開催 (32/9~32/10) 15回 (鶴見短期大学々監中野萬堂先生) ○ 編物講習会 (機械編) 実施 (大師寮) ○ 井3 料理講習会実施 (32/12) 4回 ○ 生花講習会実施 (33/2~33/4) 10グループ 120名受給 (新花道, 華心式養春流牧田華耕氏) ○ ロータツ染講習会実施中 (33/4~) (東京どんぐり会服部委女子氏) ○ ペン習字宝鑑, 新語辞典, 図書執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美容講習会開催 (31/6~31/8) 13回 ○ 家庭用救急医療箱執筆 (31/2) ○ 防疫, 害虫駆除薬品執筆 (31/3) ○ 環境衛生について幻灯映写による保健知識普及 ○ 家庭衛生講習会実施 (32/6) 4回 工場医 柏崎医師 ○ 「暮しの医学」図書執筆 (32/5) ○ 保健食の基礎知識リーフレット全員配布 (33/5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月別「明るい生活の家計簿」毎月配布 (32/5~32/11) ○ 家庭生活の合理化について講演会実施 (31/8~31/9) (東京女子大学教授氏家壽子先生) ○ 冬期故事ヨム手袋執筆 (32/11) ○ 「明るい暮しの家計簿」全員に配布 (32/12) ○ 「ムダのない家庭生活について」グループ巡回講演会実施 (33/3~33/4) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育児子女のしつけ教育講演会 (31/3) 8回 (東京都立第九中学校々長 大塚二郎先生) ○ 教育雑誌「親と子」毎月世話役で配布 (31/4~現在執行中) ○ 家庭生活と子女のしつけについて (32/6~32/7) 15回 (川崎児童相談所長 田浦秀昭先生) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会見学 (産業経済新聞社) (31/3) 3グループ ○ 日立造船海外宣伝映画巡回実施 (31/10~31/11) 14回 ○ 家族慰安夏期映画の夕開催 (32/8) 15回 ○ 主婦の工場見学並びに懇談会実施 33/3~33/4 (地区別5回 180名参加) ○ 家族慰安リクレーション実施 (健康熱海保養所) (33/4)

△ 「新生活運動」アンケート配布集計 32/2 248世帯調査
△ 第2回世話役懇談会実施 33/1 早稻田大学今和次郎先生講演

△ 毎月発行の工場報「かなかわ」家庭欄を活用啓蒙に努める
△ 毎月給料袋に新生活シリーズ封入
△ 随時グループ主婦懇談会を開催し, 主旨の徹底と範囲の拡大を計る

(例2) 東京芝浦電気

東芝「上手なくらしの運動」の概要(昭和33年度)

東京芝浦電気株式会社

I. 運動の内容

科 目	開 始	指 導 項 目	備 考
家族計画の 教室	30/4	1 生理知識(掛図, 模型, パンフレット 理想計算盤) 2 各種受胎調節技術(映画) 3 個人実地指導 4 器具薬品の斡旋 5 胎教プログラム 6 季節分娩法 7 無痛分娩法 8 赤ちゃんの上手な育て方 9 赤ちゃんのお湯の使わせ方 10 赤ちゃんのしつけの仕方	○新婚家庭の指導に 重点をおく ○共済は事業内で指 導する ○指導対象を一般家 庭(非社宅)へも 伸長する ○ベッサリー法と基 礎体温法(体温計) を中心として指導 する
主婦の電気 教育	32/4	1 プレートは語る(やさしい電気知識) 2 故障の見分け方 3 ヒューズのつけ方 4 コードをソケットに接続する仕方 5 電気コンロ, アイロン, トースター の修理 6 電気を上手に使うには 7 眼のためにより照明の工夫 8 こんなつなぎ方はやめましょう	○家族寮の電気配線 完全補修
主婦の看護 教室	33/4	1 ホータイ・三角巾の巻き方 2 止血のしかた 3 人工呼吸法 4 異物の取り除き方 5 脈, 呼吸, 体温の測り方 6 病人の扱い方(ネマキのきせかえ, 敷布のとりかえ, 全身清拭) 7 救急箱に必要な器具薬器(附一く すりの知識)	○救急箱の斡旋 ○家庭医書の斡旋

33年度新規計画

科目	開始	指導項目	備考
こどものしつけ教育	33/7	1 かしこい子に育てるには (知) 2 人間味に富んだ子に育てるには (情) 3 げんきな子に育てるには (意) 4 思春期をおじにきりぬけるには (性)	○事例研究
家計の勉強教育	33/12	1 家族員数に応じた標準家計 2 家計簿による家計の点検方法 3 お金の上手な使い方 4 利殖の心得 5 東芝貯金の取扱 6 ソロベン実習	

(例3) 本州製紙

新生活運動経過報告

月別	実施内容
昭和30年 6月~11月	厚生課長、各社宅訪問を実施。厚生施設等を中心に家族の声を聞き、併せて新生活運動について意見を聴し、家族計画を実施する可否を啓蒙した。
12月	会社より社宅を17ブロックに分け委員を任命し、これを準備委員として8日準備委員会を開催した。14日までに準備委員会より各組の委員を選出して貰い、14日人口問題研究所の指導の下に発会式を開催した。指導員は直に委員と連絡をとり基礎指導の準備に入った。
昭和31年 1月	社宅地区基礎指導をブロック別に実施し、特に緊急に希望しているものについては個人指導も行った。
2月	基礎指導を終了し、個人指導を実施した。(模型及び掛図、幻燈による) 第2回委員会開催(家族計画の運営及び啓蒙活動を主眼として行った。)
3月	可親き個人指導実施。 従業員中、共稼のものは基礎指導及び個人指導を十分に実施できないので特に作業中実施した。
4月	社宅地区を一応終了したので、社宅外居住者中在京地区の基礎指導及び個人指導を実施し始めたが、点在するため相当日時を要した。(宣伝パンフレット配布) 人口問題研究所依頼の調査票配布。
5月	第3回委員会開催(家族計画及び家庭衛生として蚊、ハエの駆除対策を実施)。 社宅外居住者、個人指導を行った。 家族の知識向上のため、牛乳工場見学を行った。(参加約100名)
6月	第2回従業員の共稼しているものの教育を実施した。又レクリエーションとして潮干狩を実施。(参加者350名) 社宅外家族個人指導
7月	工場見学を計画し実施せんとしたが、またまたスト通告あり中止した。 社宅及び社宅外個人指導(指導員により、ブロック毎に委員会開催)。
8月	個人指導票整理。 社宅及び社宅外個人指導。
9月	個人指導票整理。 第4回委員会開催(人口問題研究所、青木氏出席さる)。 社宅及び社宅外個人指導(指導員により、ブロック毎に委員会開催)。
10月	家庭衛生啓蒙運動として家族の結核検診を新生活運動の委員を中心に指導員と共に実施。 結核予防会の検診カーにより社宅及び社宅外を巡回し、約500名の受診者を見た。
11月	新生活運動委員を改選(時期的にやや早かったが社宅増加と共に一部編成替を行ったため)。 千葉県行徳地区基礎指導開始。
12月	行徳地区個人指導開始。
昭和32年	個人指導票整理。
1月	社宅及び社宅外地区個人指導実施。
2月	全地区個人指導実施。
3月	第5回委員会開催(ねずみ駆除対策)。 全地区個人指導実施。
4月	第2回家族結核検診実施(方法は前回通り) 全地区個人指導実施

家族計画実施状況表

昭和32年4月30日調査

組別	世帯数(A)	家族計画実施前における状態		実施後における現状										(C) 実施を必要としないもの合計	B A-C	実施前の人口中絶	実施後の人口中絶	
		実施中	未実施	実施中の者(B)	実施していない者の理由													
					新婚	更年期 月経 閉鎖	子供 希望	未亡 人 独身	長期 不妊	妊娠 中	夫又は 妻が手 術によ るもの	未 指 導						
社 宅 地 区	第1組	21	9	12	16		2	2					1			5	100	7
	第2組	12	5	7	9			2			1					3	100	5
	第3組	11	6	5	9	1							1			2	100	5
	第4組	12	8	4	10		2									2	100	9
	第5組	13	3	10	8				2			1		2		3	80	5
	第6組	10	3	7	7		2						1			3	100	13
	第7組	14	7	7	9		4						1			5	100	
	第8組	6	2	4	2		1				1			2		4	100	4
	第9組	5	1	4	3				2							2	100	
	第10組	13	5	8	8	1		2	1	1						5	100	4
	第11組	12	4	8	11				1							1	100	1
	第12組	12	3	9	6		1	1	3	1						6	100	
	第13組	12	4	8	7	1	4									5	100	
	第14組	12	2	10	6			1	2	2				1		5	85	
	第15組	12	5	7	5	1	2		3					1		6	83	
	第16組	16	4	12	9		3		1	2				1		6	90	3
	第17組	11	3	8	5			2		1				3		3	63	2
	第18組	12	6	6	9			3								3	100	1
社 宅 外 地 区	第19組	16	4	12	8	1	1						5		3	61	4	
	第20組	8	2	6	4		2					1	1		3	80		
	第21組	8	3	5	4		2					1	1		3	80		
	第22組	28	6	22	12	1	2		1			1		11	5	52	3	
	第23組	22	2	20	3	1	1							16	3	15	6	
	第24組	5	3	2	2									3	0	40		
	第25組	5	0	5	2							1		2	1	50	3	
	第26組	10	3	7	3	1	2							4	3	43	5	
	第27組	14	1	13	4		3	1					1	5	5	44		
	第28組	8	5	3	5	1			1					1	2	83		
	第29組	5	2	3	2		2	1							3	100		
	第30組	12	7	5	12										0	100		
	第31組	4	0	4	2				2						2	100		
計	561	118	243	202	9	36	16	19	9	6	7	57	102	78	80	1		

1. 指導を完了し家族計画を実施している者は78%に達しているが、これを社宅地区と社宅外地区に分けると、
 社宅地区 実行率 94%
 社宅外地区 実行率 56%
 但し、地域の関係上社宅で社宅外に入っているもの若干あり。

2. 社宅の未指導は家族計画に反対している者が大半であるが、社宅外は農家等が多く指導できないものが大半である。

3. 未独身及び独身の中、父が老年になって子供が来ているものがあり、大半は更年期に入るものである。

4. 新婚は家族計画を考えていない者で、この外に新婚者はあるが実施している者は実施中に入っている。子供希望者は1人ないし2人の子供があり、そろそろ子供が欲しいという者である。

5. 手術より妊娠しない者は社宅外においては指導票が完備していないので数がはっきりしない。

6. 家族計画実施前より実施していた者の方法の内訳は、
 1. コンドーム 61名
 2. 荻野式 41名
 3. 薬品 10名
 4. 性交中絶 5名
 5. ベッサリー 1名

現在の実施内訳は、
 1. ベッサリー、コンドーム薬品併用 101名
 2. コンドーム、薬品併用 70名
 3. 荻野式 25名
 4. 薬品 4名
 5. その他 2名

(例4) 日本鋼管

昭和32年度実施状況

1. 教育に関すること。

(1) 講座

演 題	講 師	会場	受講人員
ア 青少年の心理と母親の心構えについて	山本 杉先生	15	1,050
イ 思春期の性教育について	大塚 二郎先生	9	493
ウ 我が家の家計について	稲葉 なみ先生	1	80
エ 生きた家計について	稲葉 なみ先生 海津 美世子先生	10	778
オ 流感予防について	戸田 弘一先生	11	385
カ 食生活と栄養について	当所 栄養士	4	160

(2) 各種講習会

ア 料理講習会 (季節, 特別を含む)	97	3,673
イ 縮詰料理講習会	10	597
ウ 洗濯講習会	28	988
エ ふとん綿入講習会	9	365
オ 生花講習会	34	4,825
カ 洋裁講習会	12	854
キ 編物講習会	23	650
ク 人形造り講習会	30	942
ケ 茶道講習会	3	27

計 延人員 15,567

2. 家庭の安全並びに保健衛生に関すること。

(1) 家族の健康診断実施援助 (レントゲンカーによる)

(2) 消毒用品, 器具薬品の斡旋

(3) 委員会, グループ会のはなし合い, その他講座, 個人指導で実施 (参加人員 4,663)

ア 知っておきたい家庭医学 (スライド併用) について

・血圧・伝染病・食中毒・母体の健康・栄養と健康

イ 環境衛生について

伝染病予防・カとヘエの撲滅

3. 生活の合理化について

- (1) 貯蓄の奨励，熱鉄家庭版，グループ活動のはなし合い
- (2) 習慣の簡素化（特に虚礼廃止について），熱鉄家庭版，事務局よりのプリントによる呼びかけ
- (3) 家計簿 従業員有世帯に各1冊あて配布，これの記入活用については，講座，グループ活動のはなし合いで実施
- (4) 食生活の改善について 講座，グループ会で実施，特に3色組合せによる合理的な食費の検討について

4. 受胎調節の普及指導に關すること

前年度に引続き東京，横浜地区及び近郊市町村居住従業員の希望者を重点的に指導するとともに川崎地区への転入及び新婚の希望者，普及もれの指導を実施

5. 育児及び子女の教育に關すること

- (1) 育児面については，指導員の巡回指導により実施（新生児の取扱い方，乳幼児，虚弱児に対する保健指導等）
- (2) 子女の教育については，講座，グループ会のはなし合い等により実施

6. 社会道徳に關すること。主としてグループ会において実施

7. 家族の慰安に關すること。

- (1) 納涼映画（安全衛生課と提携して実施） 20会場
劇映画，安全衛生映画，漫画等を上映し好評を得た。観客人員数約19,400名
- (2) 幻灯，紙芝居の巡回貸出 幻灯機9台，スライド27種，紙芝居18種，各地区グループの主婦が自主的に実施され非常に喜ばれ，期間外も希望に応じて貸出を実施している。

8. 親睦会 見学，その他

- (1) 親睦会 伊豆山，来の宮保養所 5件 83名
- (2) 見学 横浜港，三浦半島，養老院（慰問を兼ね），都内見学，NHK，国会図書館，国会，外えん，空港等
4件 230名

〔参考〕 生活相談所

(例1) 日本鋼管

生活相談所について

1. 生活相談担当者氏名及び面接日

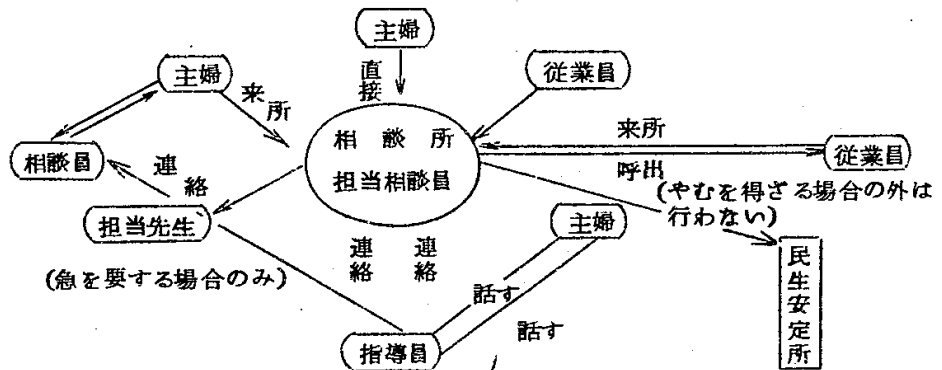
法律関係	久米 愛 先生 (弁護士)	毎月第2・3・4の水曜日
身上関係	山本 杉 先生	毎月第2・4の月曜日
	山室 民子 先生	毎月第3の土曜日

2. 相談所内の編成

専任職員 1名
生活相談員 1名

(相談員4名の中から必ず1名は相談所に残り、相談者の応待、記録の整理を行うことにしている)

3. 相談取扱いの実施要領



4.(1) 生活相談所取扱件数、接触数及び解決数 (昭和31~32年)

	身上相談			法律相談		
	取扱件数	接触数	解決数	取扱件数	接触数	解決数
昭和31年度	296	658	235	327	587	248
昭和32年度	215	446	212	268	660	253

(2) 生活相談所利用状況内訳

身上相談

件名	取扱件数	解決数	件名	取扱件数	解決数
金銭貸借	41	41	生活指導	8	8
土地・家屋	30	30	諸手続	5	5
夫婦間の問題	27	26	近隣紛争	4	4
家族間の問題	17	17	税	3	3
子女の養教育	15	15	勝負事	2	2
結婚・就職・求人	13	13	遺産財産	1	1
医療処置	13	13	男性関係	1	1
グループ育成指導	13	13	職場に対する不満	1	1
受胎調節	9	9	その他	2	2
女性関係	10	8	計	215	212

法律相談

件名	取扱件数	解決数	件名	取扱件数	解決数
土地	86	83	戸籍	10	10
金銭貸借	50	47	税	4	4
家屋	44	44	扶養	3	3
遺・財産相続	20	19	刑事	4	3
離婚	20	17	その他	1	1
諸法規について	12	12	計	268	253
傷害賠償慰籍	14	10			

〔参考〕 家計簿指導

(例1) 石川島重工

生活を豊かにする 家計簿				
昭和33年度(1958年) 略暦				
1月1日 元旦	5月5日 子供の日	6月22日 夏至	9月23日 秋分の日	11月23日 勤労感謝の日
15日 成人の日	11日 母の日	7月1日 山、海開き	27日 十五夜	26日 火災予防週間
2月3日 節分	16日 立夏	7日 七夕	10月1日 赤い羽根	28日 三ノ酉
15日 立春	20日 東京開港記念日	15日 おぼん	共同募金	12月1日 獣医解禁
3月3日 雛祭り	24日 アジアオリンピック大会	16日 やぶいり	新聞週間	映画の日
18日 彼岸(春)	28日 動物愛護週間	19日 阿国の花火	都民の日	8日 針供養
21日 春分の日	10日 電波の日	23日 土用の丑	17日 貯蓄の日	15日 年賀郵便 特別扱
4月10日 婦人週間	6月1日 衣がえ、髪開祭	8月8日 立秋	27日 読書週間	22日 冬至
29日 天皇誕生日	7日 写真の日	9月1日 二百十日	11月1日 切手趣味週間	24日 クリスマス
5月1日 メーデー	4日 歯の衛生デー	15日 としよりの日	3日 文化の日	前夜祭
2日 八十八夜	10日 計量記念日	20日 彼岸(秋)	4日 一ノ酉	27日 御用納め
3日 憲法記念日	7日 時の記念日	航空日	8日 立 冬	31日 年 越
月食 (食甚21時12分)	11日 入 梅		15日 七五三詣	除夜の鐘
			15日 赤十字デー	
			16日 ニノ酉	

年間予算決算表について

家計簿の記帳にあたっては、月々の一定収入の中で貯金、主食、副食など13種類の支出費目について月の始めに立てた各予算に基づいて日々の支出、途中10日毎のしめくり、そして1ヶ月を収支のバランスを考えて上手にやりくりして月末の合計即ち決算を行い、予算との比較をして差額を書いて1ヶ月のしめくりをつけます。この1ヶ月のしめくり結果をこの年間予算決算表に予算、決算、差額を毎月転記しておいて下さい。この集計の年間表を手がかりとして新しい年の予算をたてることとなりますので御活用下さい。尚予算と決算表の参考資料として他と比較してみることも有意義ですので、次表を掲げました。しかしこの表は収入も生活環境もまちまちな沢山の家庭の平均ですから、あまりこだわらずに参考程度に御覧下さい。

東京都世帯1ヶ月間の平均消費支出金額 (昭和32年6月総理府統計局調査)

調査世帯数	平均世帯人員	平均有業人員	消費支出総額
605世帯	4.61名	1.56名	29,901円

費目	内訳品目	金額	%	費目	内訳品目	金額	%					
主 食	米	4,384円	15	住 居	身 回 り 品	1,393円	8					
	小麦	2,848			家 賃	2,409						
	パン	81			地 代	814						
	外食	479			修 繕	410						
	その他	789			家 具	1,185						
	副 食	生鮮魚貝類			187	光 熱		電 気	1,218	4		
		乾物魚貝類			5,429			ガ ス	816			
		肉類・卵			774			水	134			
		野菜			326			そ の 他	268			
		肉類			1,800			保 健 衛 生	医 療		2,058	7
豆		1,371	保 健	987								
乾 物		177	理 容	1,071								
加工品		981	教 養	医 保	1,872		6					
調味料嗜好品		調味料		905	交 通				636			
		嗜好品		2,480	学 校				844			
	衣 料	菓 子		822	校 校	185			5			
		果 物		425	送 送	207						
		飲 料		332	計	交 通				1,515	100%	
		酒		587		交 通				1,128		
		煙 草		314		交 通		2,921				
		被 服		3,582		交 通		2,921				
				2,189								

石川島重工業株式会社

生活合理化運動事務局

ナカ (1)

年 間 予

月別	区分	収支	収入	出							
				貯蓄	主食	副食	調味料	嗜好品	衣料	住居	光熱
1月	予算										
	決算										
	差額										
2月	予算										
	決算										
	差額										
3月	予算										
	決算										
	差額										
4月	予算										
	決算										
	差額										
5月	予算										
	決算										
	差額										
6月	予算										
	決算										
	差額										
7月	予算										
	決算										
	差額										
8月	予算										
	決算										
	差額										
9月	予算										
	決算										
	差額										
10月	予算										
	決算										
	差額										
11月	予算										
	決算										
	差額										
12月	予算										
	決算										
	差額										
年計	予算										
	決算										
	差額										

たくわえて心と、くらしにわくゆとり

電気・瓦斯・水道使用量控						
種別 月別	電 気		瓦 斯		水 道	
	使用量	料 金	使用量	料 金	使用量	料 金
1 月						
2 月						
3 月						
4 月						
5 月						
6 月						
7 月						
8 月						
9 月						
10 月						
11 月						
12 月						
年 計						

貴重品控 (時計, 写真機, 証書, 通帳など)		
品 名	記号番号	そ の 他 (特長, 目印などをお書き下さい)

生活を豊にする

家計簿

	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
六	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
月	22	23	24	25	26	27	28
	29	30

	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5
七	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
月	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31

メートル法に早く慣れましょう！

野菜、肉類は匁、バターチーズはポンド、日本酒は合、洋酒は立方センチ、タビは文、洋裁地はヤール、和服地は尺といったぐあいに日本で使われている計量単位はメートル法、ヤードポンド法、尺貫法などが入り乱れて、よくも間違わずに使いつこなしているものだと感心する程の乱脈ぶりです。この不合理、不統一な姿が是正されることになり昭和34年1月1日より全国一斉にメートル法が実施され長い間使われてきた尺貫法などが姿を消します。御家庭でクジラ尺で生地をはかったり、又は力士の体格を尺貫で表現されることは差支ありませんが、取引や証明などの際には好むと好まないにかかわらず、このメートル法を使用しなければなりません。すでに計量単位についてはデパートでは食料品は切替えられ、4月1日より野菜、肉類も切替えられております。町の商店も切替えが急がれており、お買物にはこの知識が是非必要で早く慣れたいものです。

メートル法換算早見表

長	1 センチメートル	曲尺 3分3厘	餘尺 2分7厘	0.394 インチ
	1 メートル (100センチメートル)	// 3尺3寸	// 2尺6寸4分	3.281 フィート 39.37 インチ
さ	1 キロメートル (1,000メートル)	550間	0.255 里	0.621 マイル
	1 寸	曲尺 3.03センチ	餘尺 3.8センチ	1.193 インチ
容	1 尺 (10寸)	// 30.3センチ	// 38センチ	11.930 インチ 0.994 フィート
	1 間 (6尺)	1.811メートル		1.988 ヤード
積	1 里 (2,160間)	3.927 キロメートル		2.440 マイル
	1 インチ	曲尺 0.838寸	餘尺 0.670寸	2.540 センチメートル
重	1 フィート (12インチ)	// 1.006尺	// 0.804尺	0.305 メートル
	1 ヤード (3フィート)	// 3.018尺	// 2.41尺	0.914 メートル
さ	1 マイル	// 0.41里		1.609 キロメートル
	1 リットル (1,000立方センチ)	0.554 升		35.937 立方寸
面	1 キロリットル (1立方メートル)	5.543 石		35.937 立方尺
	1 合	0.180 リットル		6.483 立方寸
積	1 升	1.804 リットル		64.827 立方寸
	1 石	0.180 キロリットル		6.483 立方尺
重	1 グラム	0.267 匁		0.035 オンス
	1 キログラム	0.267 匁		2.205 ポンド
さ	1 トン (メートル系)	266.67 匁		0.984 トン (磅秤度系)
	1 匁	3.75 グラム		0.132 オンス
面	100匁	375 グラム		0.827 ポンド
	1 斤 (160匁)	0.60 キログラム		1.323 ポンド
積	1 貫 (1,000匁)	3.75 キログラム		8.267 ポンド
	1 オンス	7.560 匁		28.350 グラム
面	1 ポンド (16オンス)	120.96 匁		0.454 キログラム
	1 トン (2,240ポンド) (磅秤度系)	270.95 匁		1.016 トン (メートル系)
積	1 平方尺	0.092 平方メートル		0.988 平方フィート
	1 坪 (36平方尺)	3.306 平方メートル		35.584 平方フィート
面	1 町歩 (3,000坪)	9.918 平方メートル		106,752 平方フィート
	1 平方メートル	10.89 平方尺 (0.13025坪)		10,754 平方フィート
積	1 ヘクタール (10,000平方メートル)	3,025 坪		100,754 平方フィート
	1 平方フィート	1.012 平方尺		0.093 平方メートル

石川島重工業株式会社

生活合理化運動事務局

この家計簿を上手に使う

ナカ(1)

昭和 年 月分

収入	費目	貯金	主食	副食	調味料	嗜好品	衣料	住居	光熱
給料 賞与 年金 預金 利子 など	費目 の 詳細	預貯金・ 掛金・ 積立金・ 保不 時の積 立準備 金など	米・麦・ パン・う どんなど	副食代な ど	味噌醤油 ソース・ ケチャップ など	酒・煙草 甘味料 など	衣類・傘 履物類・ 洗濯代・ 靴修理代 仕立代な ど	家賃・地 代・家具 什器購 入代・家 具修理 代・町 会費など	水道代・ 電気代・ ガス代・ 薪炭代・ ローソク 代など
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
	予算額								
	25日	28日							
	26	29							
	27	30							
	28	31							
	29	1							
	30	2							
	31	3							
	1	4							
	2	5							
	3	6							
	4	7							
	小計								
	5	8							
	6	9							
	7	10							
	8	11							
	9	12							
	10	13							
	11	14							
	12	15							
	13	16							
	14	17							
	小計								
	15	18							
	16	19							
	17	20							
	18	21							
	19	22							
	20	23							
	21	24							
	22	25							
	23	26							
	24	27							
	小計								
(収入合計)	計								
	予算額 との差額								

明るい生活をしましょう

ナカ(2)

保 険 医 生	教 養	娯 楽	交 際	雑 費	税 金			支 出 計	残 高
医薬・理 髪代・ 入浴代・ ちり紙・ 歯磨・化 粧・汲取 代など	教育費・ 通学交通 費・文房 具代・新 聞・雑誌 代・ラジ オ聴取料 お茶・お 花・古料 など	レクリエ ーション 費・お小 遣など	農用・贈 答品費・ 通信費な ど		所得税 固定資産 税など				前月から の繰越額 円
円	円	円	円	円	円	円	円	円 (予算 額計)	
								(支出合計)	(翌月繰越 額)

分 割 撮 影

1	2
---	---

明るい生活の家計簿

昭和32年11月分

日 附	収 入			貯 蓄 預貯金 保 險 金銭信託	支								
	経 営	臨 時	合 計		①税金	②主食	③副食	④調味料	⑤嗜好品	⑥住居	⑦光熱	⑧被服	⑨保 衛
	俸 給 売上代金	賞与など臨 時的なもの			所得税,住 民税,固定 資産税など 公租公課	米,麦,パ ン,うどん など	副食代など	味噌,醤油 ケチャップ 茶等	酒,煙草 甘味品, 果物等	家賃,地代 家具什器購 入,家屋修 繕代,家具 修理代など	水道料,電 灯料,ガス 料,薪炭代 など	衣料代,身 廻り品代, せんたく代 など	医薬 康保 化粧 理髪 浴代
全国平均	23,991	2,138	26,129	1,595	2,118	3,618	4,061	718	1,282	1,626	1,401	2,077	1
同上 %	91.8	8.2	100	6.1	8.1	13.8	15.5	2.7	4.9	6.2	5.4	7.9	
予算額	26,170円	円	26,170円	3,370円	100円	5,000円	5,500円	500円	1,000円	750円	2,000円	2,500円	
26土曜	26,170		26,170				380		35			1,610	
27日曜						2,000	178	30	150			200	
28月曜				1,590		70	165	180	24				
29火曜							214		95				
30水曜						30	233						
31木曜				1,000			99		26		580	600	
1金曜				1,000			127		20				
2土曜						60	120	40					
3日曜						70	196	60					
4月曜		3,100	3,100	2,300			175		60				
5火曜						1,827	176	75	40				
小 計	26,170	3,100	29,270	5,870		4,057	2,063	385	450		580	2,410	
6水曜				1,000			144		10				
7木曜						10	205	35	30				
8金曜						37	234		67				
9土曜							195				703		
10日曜						20	218	30	120			220	
11月曜							70	89	30				
12火曜							140		42			10	
13水曜						10	183		65				
14木曜						792	110	115	60		503		
15金曜		5,500	5,500			40	138	195	500				
小 計		5,500	34,770	1,000		909	1,538	464	1,024		1,206	230	
16土曜						10	350		110	45			
17日曜							157						
18月曜						28	245		40			10	
19火曜						1,750	193		30		265		
20水曜							145						
21木曜						30	167						
22金曜						230	70	30				20	
23土曜							390	44	64	40			
24日曜							203	30	30				
25月曜							171		23				
小 計						2,048	2,091	104	297	85	266	30	
合 計	26,170	8,600	34,770	6,870		7,014	5,792	953	1,771	85	2,052	2,670	
予算額との 差		8,600				100	-2,014	-292	-453	-771	665	-52	-170

○ 註・全国平均の金額及び割合は総理府統計局発表による都市勤労者世帯の家計内容で、昭和32年4月分です。家族内人員数4.4名と仮定

月るい生活の家計簿

上手な貯め手は 上手な使い手

出												残高
①住居	⑦光熱	⑧被服	⑨保健衛生	⑩教養	⑪交通通信	⑫娯楽	⑬交際	⑭職業	⑯その他予備費	合計		前月より繰越高
家賃、地代、家具什器購入、家屋修繕代、家具修理代など	水道料、電灯料、ガス料、薪炭代など	衣料代、身廻り品代、せんたく代など	医薬代、健康保険費、化粧品代、理髪代、入浴代など	教育費、子供小遣、文具代、新聞雑誌代、ラジオ聴取料など	交通費、通信費など	リクレーションの費用など	慶弔贈答品費など	主人の小遣など				
1626	1401	2077	1314	2470	526	937	1212	474	700	26129		
6.2	5.4	7.9	5.0	9.5	2.0	3.6	4.6	1.8	2.7	100		
750円	2000円	2500円	300円	2500円	100円	500円	300円	1000円	750円	26170円	370円	
		1610								2025	22775	
		200								3558	19217	
							130			569	18648	
				130			4			443	18205	
				10						273	17932	
	580	600	100	35			175			1615	15317	
				100			800			1047	13270	
							185			405	12830	
				35						361	12504	
				10						245	13059	
				1110			30			3258	9801	
	580	2410	100	1430			1324	1000		13799	9801	
				15						169	8632	
										280	8352	
										338	8014	
	703			15						914	7100	
		220								608	6492	
				330		400				919	5573	
		10	20						46	258	5315	
										258	5057	
	503		30							1610	3447	
				10			150			1133	7814	
	1206	230	50	370		400	150		46	6487	7814	
			320	10						845	6969	
	45			200	150					507	6462	
		10		20						343	6119	
	266									2239	3880	
				100						245	3635	
				70						267	3368	
		20		210	100					660	2708	
4	40			260						798	1910	
				15		400				678	1232	
			20							214	1018	
7	85	266	30	340	885	250	400			6796	1018	
1	85	2052	2670	490	2685	250	800	1474	1000	46	27082	818
1	665	-52	-170	-190	-185	-150	-300	-1174	0	704	-912	

◎ 家庭へぜひお持ち帰り下さい

32年4月分です。家族内人員数4.4名となっております。予算をお立てになるときご参考にして下さい。

裏面へ続く

分 割 撮 影

1	2
---	---

11月

日 々 の

日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	
10月26	8	カーデガン1200 メリヤスパッチ260 ネル13ヤール150	1610		3	はまち 70 卵5ヶ	140		4	みそ、茶	60		4	みそ	35		5	みかん		
	3	ソーセージ 卵	93		3	てんぷら、ほ ーれん草、キ ャベツ、油揚	93		3	さば、卵、と ーふ、大根、 ほうれん草	196		5	菓子	30		3	ぶり、いか、 高野とーふ のり佃煮		
	3	のり、かんびよ う、肉、ぶり、 油揚	260		10	小 遣	10		4	3 肉50匁、ぶ り	120		3	かつおけづり	24	13	3	さば一匹、 卵5ヶ		
	3	白 菜	27	31	7	石 炭 (10月分)	580		3	油揚、つけ物、 馬鈴しょ、人 参	55	8	2	うどん、パン	37		3	こんにやく、 人参、れんこ ん		
	5	菓 子	35		8	コールテン 3ヤール	600		5	菓子50匁	60		3	天ぷら(59) くじら、にべ	189		2	パ ン		
27	2	精米、麦	2000		9	石へけん、ハ ンドクリーム	100		10	小 遣	10		3	ほうれん草、 大根、人参	45		5	菓 子		
	3	ほうれん草、き ずし、えびフ イ、キャベツ	178		13	せんん 別 (丹羽氏)	50	5	2	給食 2人分	400		5	柿、リンゴ ビスケット	67		5	柿		
	5 8	あめ、柿 白ゾック靴	150 200		13 10	見 舞(卵) 小 遣	125 35		2 4	精米16K 酢 5合	1427 60	9 10	7 10	ガス代 小 遣	703 15	14	7 2	電気代 米		
	4	バ タ ー	30		3	クジラ、ワカ メ、オランダ つけ物	99		10	修一学習費	1000		3	刺身130 とーふ、ねぎ	190			3	肉、ぶり、 油揚	
	14	主 人 へ	1000		5	乳 菓 子	26		4	み そ	15	10	2	パ ン	20		4	み そ		
28	13	祝 儀 用	130		0	郵便積立	1000		3	握さば、かま ぼこ	176		3	ソーセージ、 卵、ぶり肉、 白菜	214		4	茶		
	2	パ ン	70		0	協和積立	1000		5	柿	40		4	み そ	30		5	みかん		
	4	醤油1升、みそ	180		10	出 産 祝 (毛糸半ポンド)	800		10	半 紙、墨	110		5	あめ玉、柿、 たいこ餅	120		9	オキシフル		
	3	てんぷら、油揚 ほーれん草、 鱈	165		3	さば、コロッ ケ、レンコン	127		13	町 会 費	30		8	眼鏡わく	220		0	賞 与		
	5	みかん150匁	24		5	カリント50 匁	20	6	0	郵便積立	1000	11	3	鱈、うの花 煮豆	70	15	2	う どん		
29	3	さらだ、馬鈴し ょ、煮豆、人参 白菜	88		10	学 校 積 立	100		3	鉄、てんぷら、 竹輪、握さけ、 ほーれん草、わ けぎ	144		10	新 聞 代	330		3	馬鈴しょ、人 参、小芋、て んぷら		
	3	ブリ切味、肉、 油揚	126		2	パ ン	60		12	中学PTA、リク レインヨン費	400		3	鱈、つけ物						
	10	修一学習費	100		3	ぶり切身、肉 玉ねぎ	120		5	ミルクポーロ	10		4	砂 糖	89		5	りんご、 ぶどう酒1升		
	10	白 紙 代	30		13	柿、リンゴ (進物)	185		10	小 遣	15		5	菓 子	30		4	醬 油、塩		
	5	果 物	95		4	カ レ ー	40	7	2	パ ン	10	12	15	は ち 植	46		13	卵10ヶ(見 舞)		
	13	の し 袋	4	3	2	パ ン	70		3	のり、小芋、 大根、ねぎ、 つけ物	80		8	洗濯のり	10		10	小 遣		
30	2	パ ン	30	10	10	半 紙	35		3	卵、ふた肉、 いか	101		9	とら印茶代	20	16	9	チ リ 紙		

の め モ

番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額	日付	番号	品目	金額
4	みそ	35		5	みかん	42		10	小遣	10	21	2	パン	30		3	佃煮,つけ物	63
5	菓子	30		3	ぶり,いか,高野と一ふのり佃煮	140		3	さんま,いかカツレツ,サララダ	105		3	卵,さば,油揚げ,大根,馬鈴しよ	167		10	小遣	15
3	かつおげぶり	24	13	3	さば一匹,卵5ヶ	115		3	れんこん,ほ一れん草,ならづけ	62		10	小遣	20	25	3	卵,油揚げ,と一ふ,ぶり,大根,人参,	171
2	うどん,パン	37		3	こんにゃく,人参,れんこん	68		3	肉,かまぼこ卵	183		10	児童漫画	50		9	チリ紙	20
3	天ぷら(59)くじら,にべ	189		2	パン	10		5	柿,菓子,りんご	110	22	2	パン	30		5	みかん	23
3	ほうれん草,大根,人参	45		5	菓子	40		6	折箱,竹ぐしこつよ	45		2	給食代	200				
5	柿,リンゴビスケット	67		5	柿	25		2	パン	10		3	ぶた肉500匁	70				
7 10	ガス代 小遣	703 15	14	7 2	電気代 米	503 792	17	9 10	パーマ 修一学習費	300 200		4 10	みそ 修一予備受験	30 290				
3	刺身130 と一ふ,ねぎ	190		3	肉,ぶり,油揚げ	110		11	電車代	150		11	ハガキ	100				
2	パン	20		4	みそ	15		3	わかめ,鉄,てんぷら,卵大根	157		10	小遣	10				
3	ソーセージ,卵,ぶり肉,白菜	216		4	茶	10	18	2	ソバ玉	28		8	プレス	20				
4	みそ	30		5	みかん	60		3	肉,こんにゃく,と一ふ,油揚げ,白菜	223	23	3	肉200匁野菜	390				
5	あめ玉,柿,たいこ焼	120		9	オキシフル	30		3	小豆	22		4	砂糖	44				
8	眼鏡わく	220		0	賞与	5500		8	洗濯のり	10		5	柿,あめ	64				
3	鯨,うの花煮豆	70	15	2	うどん	40		5	菓子	40		10	映画	160				
10	新聞代	330		3	馬鈴しよ,人参,小芋,てんぷら	95		10	小遣	20		6	電熱コイル	40				
12	中学PTA,リクレーション費	400		3	鯨,つけ物	43	19	2	米1斗,麦5K	1750		10	療治へ	100				
4	砂糖	89		5	りんご,ぶどう酒1升	600		7	水道代	266	24	3	肉,ベーコン鯨,大根,ねぎ	140				
5	菓子	30		4	醤油,塩	195		3	梅焼,鯛,白菜,卵,と一ふ	193		4	カレー粉	30				
15	はち植	46		13	卵10ヶ(見鶏)	150		5	せんべい	30		12	枚方行	300				
8	洗濯のり	10		10	小遣	10	20	10	修一学習費	100		12	写真フィルム	100				
9	とら印茶代	20	15	9	チリ紙	20		3	鯨,大根,人参,アゲ,ホーレン草	145		5	菓子	30				

(例2) 日立造船 神奈川工場、桜島工場

PRちらし (オモテ)

予算は家族会議にかけて



子供一人育てるのに70万円かかるということですが、本当にうかうかと子供も生めません。教育をどの程度にするかによっても費用に差があるでしょうが、少くとも生まれてから一人立ちのできるまでの衣食住の費用と労力は要るわけですから、人間らしい生活をするためにわが家の経済力を考えた家族計画が必要だということになります。また子供にだけは家計の心配はさせたくない、人並みの生活をさせたいことは、どこの親でも考えることでしょう。しかし全部とは申しませんが、ある程度子供も知ってこそ協力ができるとおもいます。

もちろん家計は単純なものばかりではありませんから、すべてを知らせる必要もないでしょうが、少くとも予算を組むに当っては家族の一人一人が意見を述べ合って、皆で納得のいく無理のない予算を組むことが自然と実行を容易にする働きになるでしょう。つまり、自分で作った予算ですから誰かが守ろうという気構えになるわけです。もちろん一家の大蔵大臣は主婦ですから、家族会議にかける予算の骨すじは、主婦の手腕によらなければなりません。

合理的な生活設計の中にこそ、健全でうるおいのある家庭生活が営まれます。

「日立造船 神奈川工場 新生活運動事務局」

自然の礼儀とは

「礼儀」などというと、数多い方々の中には、すぐに最近世論をにぎわしている道德教育と結びつけた堅苦しい、そして古めかしいものを感じとられる方もあることでしょう。もちろん、戦前のいわゆる旧道德といわれるものについては、いろいろ批判もありましょうし、又反省を必要とするものもありましょう。

しかし、私達が日常会社の中で、あるいは家庭にあって、多くの人々と集団生活をする場合、不必要なこびへつらいは人間としてもいやしいことですが、やはり「自然の礼儀」は必要なものではないでしょうか。

例えば最も私達の身近な会社での生活で、同僚や上司に対して、「この人は自分より年をとっているし、経験もある。何か自分と違った体験をもっている……」というような見方からでた自然の素直な礼儀というものは必要ではないかと思えます。

さあ皆さん、日常のそれぞれの生活を振り返って、あらたな気持でお互いに考えてみましょう。

(シリーズNo 40)

家計簿やりくり御紹介

日立造船桜島工場
新生活運動事務局

昨年末、当新生活運動事務局が行った家計簿コンクールの結果については社報一月号、新生活落穂集で発表されましたので、すでに皆さん御承和のことと存じます。このコンクールで栄の特選入賞された、鉄構課鉄構工場の藤沢氏夫人が、そのことばの中で、家計簿をつけるはじめた動機、費目のとり方、その日の買物のしかた、家計簿をつける心構えなど、種々貴重な体験を述べておられますが、このたびさらに、藤沢さんが日々熱心に記入された、家計簿そのままを、御紹介いたします。皆さんいかがでしょう、参考に御自分の家計簿と一度比べてみて下さい。

なお、藤沢さんのお宅は守口市で御家族は、奥さん、それに長男（中学3年）、次男（小学5年）、長女（小学1年）の五人家族です。

藤沢夫人のお話

給料は袋のまま頂きますから、家計の責任は全部主婦の私にあります。

貯蓄は、今月は臨時収入をみて、積立を利まわりの良いのに切りかえましたので、月掛貯金が増えました。

主食費は食欲の秋と、配給米が悪く胃腸を害しましたので、配給外の米を買い、特に予算と大差ができました。

嗜好品は小学生の学校給食ではとても足りませんので、間食が重みました。

メリケン粉や芋類で足りない分を補いたいと思いますが、手数がかかる割に喜びませんので、良いお考えがありましたら、お教え下さい。住居費は自家でありますので家賃は不要です。現在台所の改善を考えています。

教養費は、長男が進学のため、準備試験の受験代にかかりました。

娯楽費は毎月家族連れで出ることになってはいますが、今月は気候が悪く各自で出ました。主人は春旅行に、私は秋に日帰りのレクレーションをさせて頂きますが、その分の予算を忘れました。

交際費は、知人に出産があり、思わぬ出費でした。

職業費は、月々給料をいただくと同時に渡します。

主人は酒、煙草ものみませんので、その中から春の旅行費を積立てます。

結局、臨時収入がありましたので、黒字になっておりますが、月400～500円位の記入もれがあって現金と合いません。

今月も約300円現金残高が不足しました。

生命保険、年約3万円を月々給料からと、冬、夏のボーナスから、半分あてで払込んで居ります。

以上ですが、皆さんのよりよい御指導をお願いします。

◇ 家計簿をつけて心配のない日々を送りましょう ◇

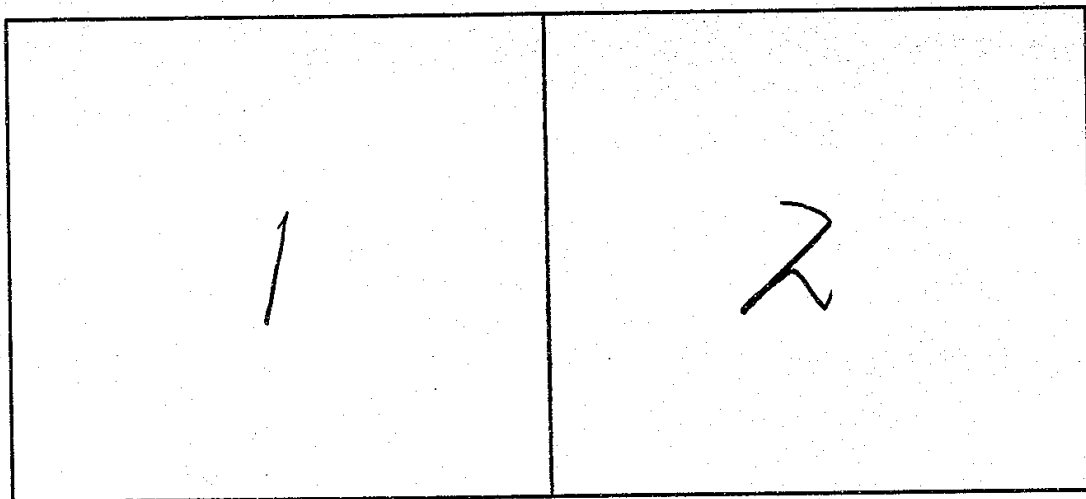
— 明 る い 生 活 の 家 計 簿 —

— 家 計 簿 の 使 い 方 —

- ◎ 毎月家計簿をお届けしておりますが活用願っておりますでしょうか。
- ◎ 私達の暮らしを心配のない楽しいものにするには家庭生活の計画化即ち予算生活が必要であります。
- ◎ 予算生活には合理的な家計簿の活用が大切であります。是非家計簿を利用して下さい。
- △ 給料日現在内訳
毎月の給料はいろいろの控除金がありますがそれを費目に分類し支出欄にて記入して下さい。
- △ 予 算 類
実際額（前月の繰越をも含む）を前月の実算を参考に各費目に割当て月間予算を作って下さい。
 - 予算は絶対に超過しない決心で作ること。
 - 自分の家庭に一番ぴったりした無理のない予算であること。
 - 今月は何に重点を置くかという生活の設計が大事です。
 - 不時の支出に備えて月ごとに割当積立が必要です。
- △ 収 入 欄
○俸給賞その他になりますが努めて毎月の一般収入でまかない臨時収入は貯金か不時の出費に廻すようにしましょう。
- △ 支 出 欄
 - 食物費 食費くらいやりくりの上手下手で差のつくものはないのですから、主婦は安くて栄養豊富でおいしいものを作るように工夫して下さい。
 - 住居費 光熱水道代はちょっとの油断、不注意で消費量が非常にかさみますから細心の注意を払ってむだなく使用する習慣をつけましょう。
 - 衣料費 品物が豊富に出廻り自由に買えますので予算超過になりやすいと思います。必要以外のものは決して買はないように心掛けましょう。仕立直し修繕はなるべく家でなさるように、繰越し上手の御家庭は大てい黒字の家計です。
 - 文化費 病気は健全家計を根底からくつがえすものです、健康なときから別途積立金をして不時に備えましょう。
教養費は活用して常に生活面に修養に進歩を心がけましょう。
交際、娯楽はぜいたくにならぬよう充分注意して少い費用で家中楽しめるように工夫して下さい、主人の小遣もその用途に明らかにして家中で協力したいものです。
 - その他 税金は月々に割当てためずに払い込みましょう。
予備費は各費目で不足を生じた場合使いましょう。
雑費は各費目に該当しないものの支出に当てますがよく考えてどうしてもどの費目にも入らぬものだけ雑費として下さい。
- △ 貯 金
貯金は生活費の一部と見て必ず収入から天引してしまいましょう。利廻りも充分に研究のうえ御家庭に一番よい方法を選んで下さい。
- △ 小 計 欄
10日目毎に小計を出して置きますと、一ヶ月集計をする場合便利です尙現金を合せて記入もれのないよう注意しましょう。

日立造船神奈川工場
新生活運動事務局

分 割 撮 影



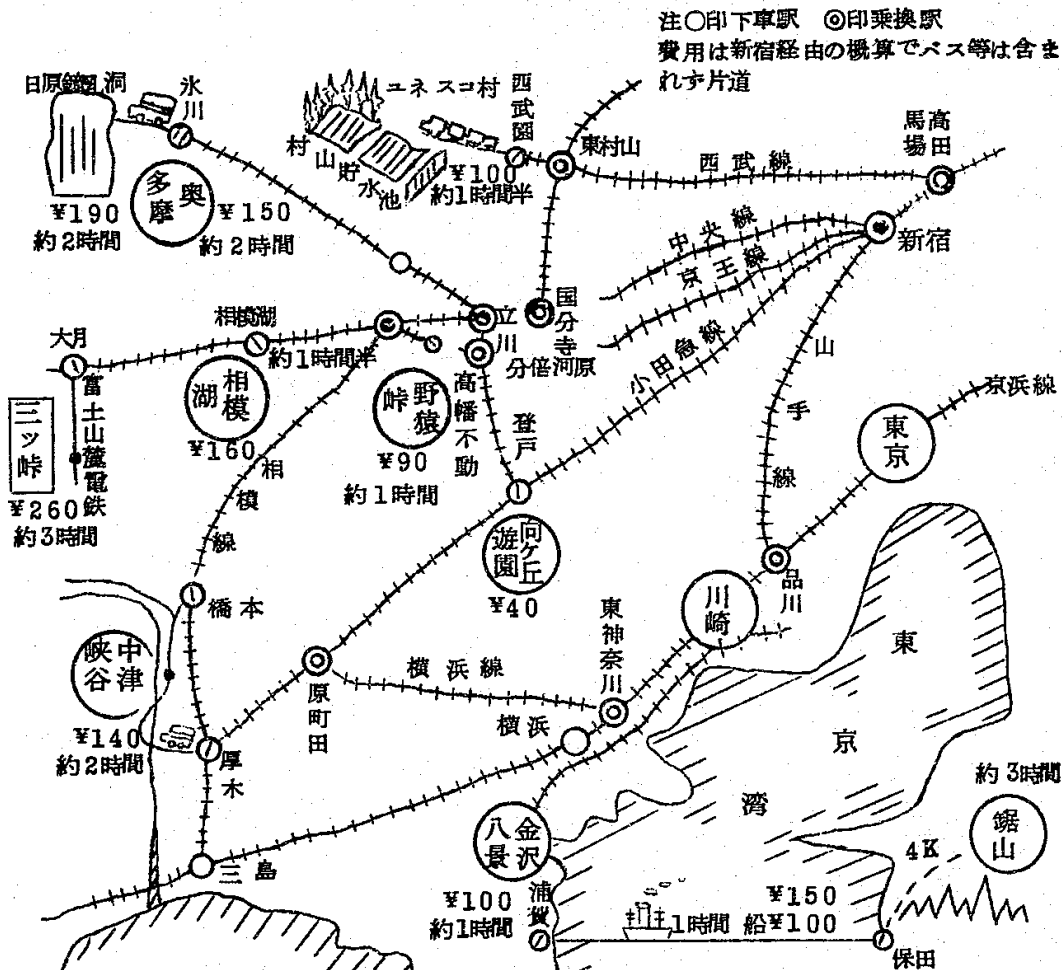
◎生活の合理的な計画で楽しい家庭を。

秋のリクレーション御案内

(日帰り一般向ハイキングコース)

△ 海を越えて鋸山へ

コース 川崎 (1時間20分) - 浦賀 (バス5分) - 浦賀港 (渡船45分) - 金谷港着
 - 鋸山ハイキング (約3時間) 金谷港 (渡船45分) - 浦賀港 (バス5分) - 浦賀 - 川崎
 運賃川崎から往復約400円房総の名山鋸山、凝灰石の削り立つ鋸歯状の壮観な山
 である、道は急峻だが、良く手入されており、東京から日帰り十分で汽船に乗る楽しい
 コースです。



◎家計簿をつけて心配のない日々を送りましょう。

4 經 過 報 告

VI 経過報告

この運動は半年一年で効果を挙げ終了するものではないが、定期的にその経過をまとめて効果を検討し、反省の材料あるいは上層部への報告とし、更に今後の運動改善に資することは必要である。それ故年々、Ⅱ章Bに述べた一般資料の比較、及びⅢ章のEに述べた基礎調査と一年後の指導員カルテによる報告との対照を行わなければならない。

この運動の効果は勤務面においては、従業員の人間関係の調整、遅刻、欠勤の減少、災害、疾病の減少による生産能率の向上があり、家庭面においては、知識、教養の向上、家計の節約、疾病や不和の減少による生活水準の安定があり、これらのものは精神面と物質面がかみ合っ、て、効果の数的把握は技術的に困難であるが、特に家族計画による金銭的效果推定法を参考に挙げよう。

(1) 会社側

$$A \times B \times 18 \times 0.933$$

(注) A...家族手当 一カ年分

B...一カ年間の出産減少数

18...たとえ一人生れたとしても18才まで家族手当を支給せねばならないから。

0.933...生命表による18才までの生存係数

(2) 健保側

$$C \times B \quad (\text{注}) \quad C \quad \text{分娩手当} + \text{哺育手当} (6 \text{ヶ月分})$$

(3) 従業員側

$$\{ (5400 - C) + (34,800 - A - D) \} \times 18 \times 0.933 + 875 \times E$$

(注) 5400 総理庁家計調査による平均出産経費 (昭和30年)

34,800 厚生省生計費調査による最低平均育児費一カ年分 (昭和29年)

(たゞしこゝでは0才分を用

い、年令増加に伴ふ育児費増加は考慮しない)
D...所得税の扶養控除による利益 (例えば月収24,000円扶養家族3人と4人の所得税差は約1440円)

875...保険点数70点の公定人口妊娠中絶手術料

(妊娠月数による点数増加、及び合併症費用を含まず)

既にこの運動を実施している各企業体、例えば日本鋼管では一年間に出産数は約二分の一人工妊娠中絶数は約五分の一に減少する実績を上げているから、運動開始前でも、前式のB及びEに前年の出産中絶実数の夫々二分の一、三分の一等の推定数をあてはめ、A、C、Dには夫々各社の手当額を入れれば、予算編成にあたり社内の経理担当者に理解を与えるための材料になるし、労働組合には又会社側と従業員側の受益比率 (日本鋼管の場合は約一対六・七) を示して、従業員側の利益が多く、会社の扶養手当減少政策のみが目的でないことを納得させる手段にもなる。しかも会社手当の減少により利益は全部本運動又は厚生費に充当することになっている。

たゞしこの計算資料は便宜上の必要性によるものであり、この運動は単に金銭的に評価さるべきものではないことは論を俟たない。

〔参考〕 運動経過報告及経済効果

(例1) 国鉄秋田鉄道管理局

新生活運動第2年

主として経済効果について

秋田鉄道管理局

昭和32年1月～12月

はじめに

秋鉄の過去2年間における家族計画を主体とした新生活運動を、経済的な面から考察してみた。

しかし、これは、あくまでもうちあげられた新生活運動ののろしの一端を国鉄の立場からのぞいてみたものにすぎず、これをもって新生活運動の効果のすべてと断ずるのは早計である。

又、国鉄は、国鉄がもうけるため、この家族計画をやるのだとする考え方も、この運動の推進上、極めて有害な誤解である。職員の福利厚生の一つとして行った結果において、国鉄でもこのような経済効果があったとみるのが、消極的ではあるが正しい見方である。

例えば、国鉄では、子供が一人生れることによつて、

○扶養手当	515円×12ヶ月×18ヶ年
	=111,240円
○分娩費(含配偶者分娩費)	6,693円
○保育手当	2,400円
計	120,333円

の給付をみているのに対し、某市の調査による「1人の子供を高校卒まで育てるのに1,639,000円かかる」というのを比較してみると、無計画に生んだ1人の子供によつて本人のこうむる経費の負担は、国鉄の十数倍に及んでいるのである。殊に、人工妊娠中絶においては、単なる経費の問題に止まらず、母体の健康という貴重な生命をさえかけて行われている事を念頭に、まづ厚生事業としての見出しを大きくかけ、その下でけんきょにこの経済計算を行ったものである。

新生活運動第2年

秋田鉄道管理局

1. 運動を始めた時期

昭和30年12月

2. 目的

○家庭主婦の教養を高め、文化人として

(1) 自分の収入と健康を基礎に家族を計画的に構成していこう。

(2) 母体を人工妊娠中絶の害から守り、健康で明るい家庭をつくろう。

(3) 無駄な出費を省き、安定した生活を築こう。

○これを国鉄の立場から見れば

(1) 子供が無計画に生れるのを阻止することによつて、扶養手当を軽減できる。

(2) 配偶者分娩費、保育手当金等の軽減ができる。

(3) 人工妊娠中絶を少くすることによつて、医療給付が軽減できる。又人工妊娠中絶に関連して発生する疾病の医療給付が軽減できる。

(4) 医療費の軽減によつて、嘱託医医療謝金が減少する。

3. 経過

発足の昭和31年は、組織と啓蒙宣伝に重点をおいた。

第2年の昭和32年は、各地区に配置した指導員を中心に、秋田鉄道病院の指導医、各地に委嘱した指導医が一体となって、局における新聞、映画等による啓蒙宣伝のもとに、グループ指導、個人指導と、実質的な指導を行った。

調節指導で数回失敗し、健康上危険と思われるものがあれば、国鉄費をもって避妊術をも行った。器具、薬品は、各人の体質、性格、環境等に応じて具体的指導を行いながら配付した。

4. 実績

この運動は神秘とさえ考えられている生殖の問題を取扱うものであり、又妊娠してから分娩まで10ヶ月もかかるという処に、一朝一夕に効果が期待できないものがある。

○第1年の昭和31年は、ほとんどその効果は見られなかった。中でも人工妊娠中絶の如きは、昭和30年の986件に対して、1,162件と176件の増となっている。これは、昭和30年までは、人工妊娠中絶を表面に出すことを本人も医師もきらって、他の疾病として療養し(昭和30年中療養内容からみて、おおむね人工妊娠中絶と推定されるもの、324件)又は自己負担(件数不詳)で行うものが多かったため、統計上の数字が少いのであり、実質的には相当の数となっているものと思われる。昭和31年の中絶数は、啓蒙宣伝によって正規の取扱いをさせたので、ほぼ正しい数字が現われている。

○第2年の昭和32年は、漸くその効果が見え始めている。

出産数においては、第1年の22名減に対し220名減

死産数においては、第1年の11件減に対し27件減

人工妊娠中絶数において、第1年を基準にして228件の減というように格段の減少が見えてきた。

(1) 出産数		(指数)
昭和30年	1,495件	100.0
昭和31年	1,473件	98.5
昭和32年	1,275件	85.3
(2) 死産数		(指数)
昭和30年	106件	100.0
昭和31年	95件	89.0
昭和32年	79件	73.4
(3) 人工妊娠中絶数		(指数)
昭和30年	986件	100.0

昭和31年 1,162件 118.0

昭和32年 934件 94.7

5. 経済効果

(1) 効果

① 扶養手当

昭和31年

$514円 \times 22人 \times 12ヶ月 = 135,696円$

昭和32年

$515円 \times 22人 \times 12ヶ月 = 135,960円$

(当然増)

$515円 \times 220人 \times 12ヶ月 = 1,359,600円$

(注) 514円、515円は、それぞれの年内における扶養手当額を扶養家族数で除したものである。

② 分娩費(家族分娩費)

昭和31年

$6,604円 \times (22+11) = 217,932円$

昭和32年

$6,693円 \times (220+27) = 1,653,171円$

(注) 1. 6,604円、6,693円は、それぞれの年内における分娩費および家族分娩費の平均支給額である。

2. (22+11)(220+27)はそれぞれその年内における正産、死産の減少数である。

③ 保育手当

昭和31年 $2400円 \times 22 = 52,800円$

昭和32年 $2400円 \times 220 = 528,000円$

(注) 2,400円出産1名に対する保育手当額である。

④ 医療費(人工妊娠中絶による)

昭和31年 $881円 \times 148件 = 130,388円$

昭和32年 $676円 \times 376件 = 254,176円$

(注) 1. 881円、676円は、それぞれの年間における人工妊娠中絶1件宛平均給付額である。

(注) 2. 昭和31年の148件は、次のようにして算出した。

○昭和30年人工妊娠中絶数

986件 (1)

○同年中に療養内容からみて概ね人工妊娠中絶と推定されるもの

324件 (ロ)
 ○昭和31年人工妊娠中絶数
 1,162件 (イ)
 ○(イ)+(ロ)-(ハ)=184件

(注) 3 昭和32年の376件は、昭和31年と同様(イ)+(ロ)から昭和32年の人工妊娠中絶数934件を控除して算出した。

⑤ 医療謝金

昭和31年

130,388円 × 95% × 0.5 = 61,934円

昭和32年

254,176円 × 95% × 0.5 = 120,734円

(注) 130,388円 254,176円は、人工妊娠中絶が減少することによる医療費の効果であるが、この医療費の95%は鉄道嘱託医に支払われている。

鉄道嘱託医の医療費については、総額の2割が医療謝金として国鉄費で支払われている。

従って130,388円 254,176円は、それぞれの年内における人工妊娠中絶に要した医療費の4割に概当するので、これの半額即ち0.5が医療謝金としての効果になる。

⑥ その他

次のような効果については、信すべき数字が現わせないのので省略する。

(イ) 人工妊娠中絶によって起る種々の疾病に対する医療費及び医療謝金の減少。

(ロ) 家庭経済の安定と職場能率の向上との関係。

(ハ) 業務災害の減少。

○昭和32年までの総効果

昭和31年計 (598,750円)

扶養手当 135,696"

分娩費 21,7932"

保育手当 52,800"

医療費 130,388"

医療謝金 61,934"

昭和32年計 (4,051,641円)

扶養手当 1,495,560円

分娩費 1,653,171"

保育手当 528,000"

医療費 254,176"

医療謝金 120,734"

合計 (4,650,391円)

○昭和32年までの国鉄費、国鉄共済別効果

△国鉄費 1,813,924円

昭和31年計 (197,630円)

扶養手当 135,696"

医療謝金 61,934"

昭和32年計 (1,616,294円)

扶養手当 1,495,560"

医療謝金 120,734"

△国鉄共済 2,836,467円

昭和31年計 (401,120円)

分娩費 21,7932"

保育手当 52,800"

医療費 130,388"

昭和32年計 (2,435,347円)

分娩費 1,653,171"

保育手当 528,000"

医療費 254,176"

(2) 各年別経済効果

昭和31年効果 598,750円

" 経費 1,167,680"

差引経済効果 △ 568,930"

昭和32年効果 4,051,641円

" 経費 2,618,509"

差引経済効果 1,433,132"

6 むすび

発足後満2年にして上述のような効果が見え始めてきた事は意義が深い。他の多くの管理局が、モデル地区を設定し、一部の者に対する指導を行ったのに対し、当管理局が発足当初より全管内全職員の家族を対象に実施したことは、若干冒険のようにも思われたが、過去2年の実績から、極めて当を得たものであった事が実証されたわけである。

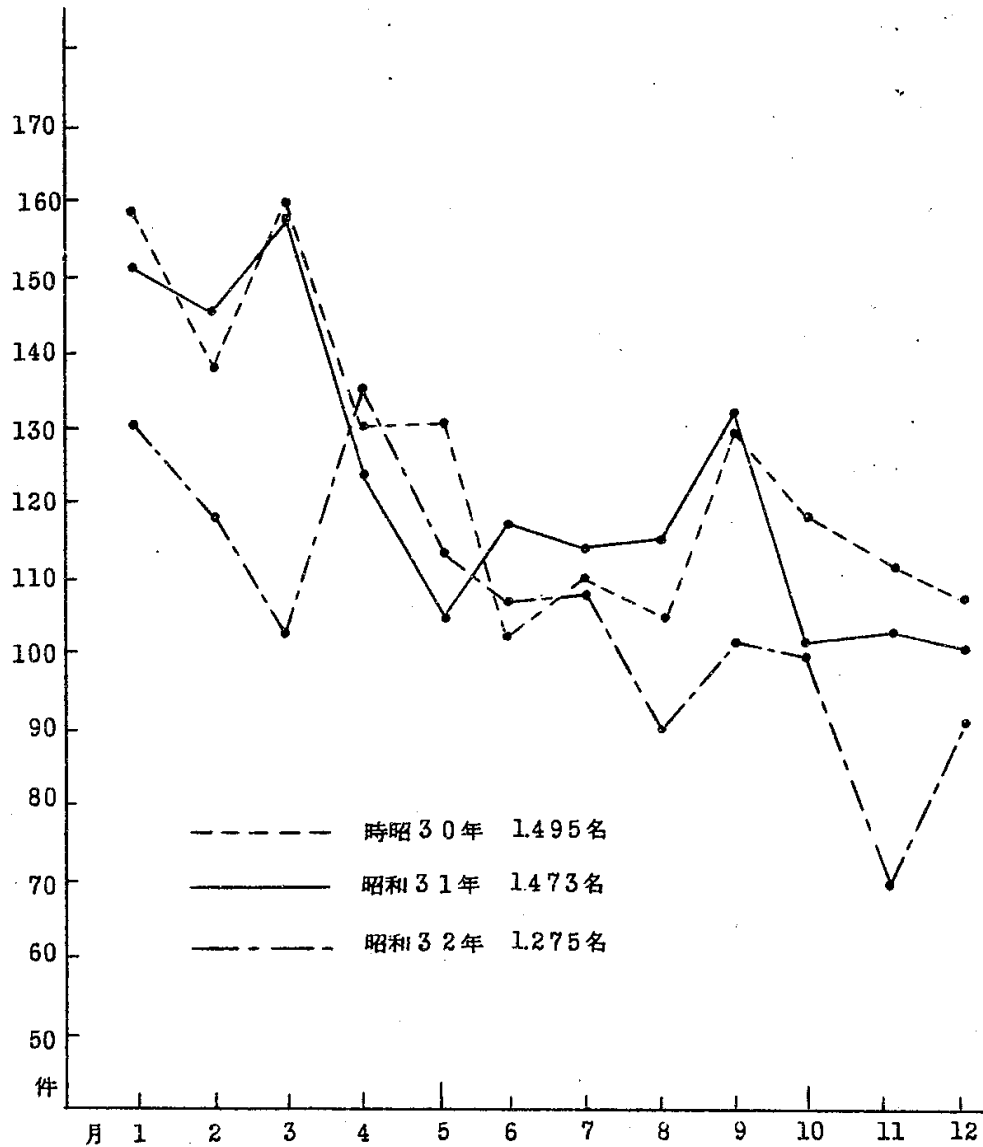
もはや、組織されたこの運動は、時代の要求とともに、益々発展しつつあるであろう。正しい指導と運営によって、単なる経済効果を

追求するに止めず、職員の福利厚生を増進、ひいては社会保障の一環に結びつける事によって

この運動の効果は一段と色彩を放ったと思われる。

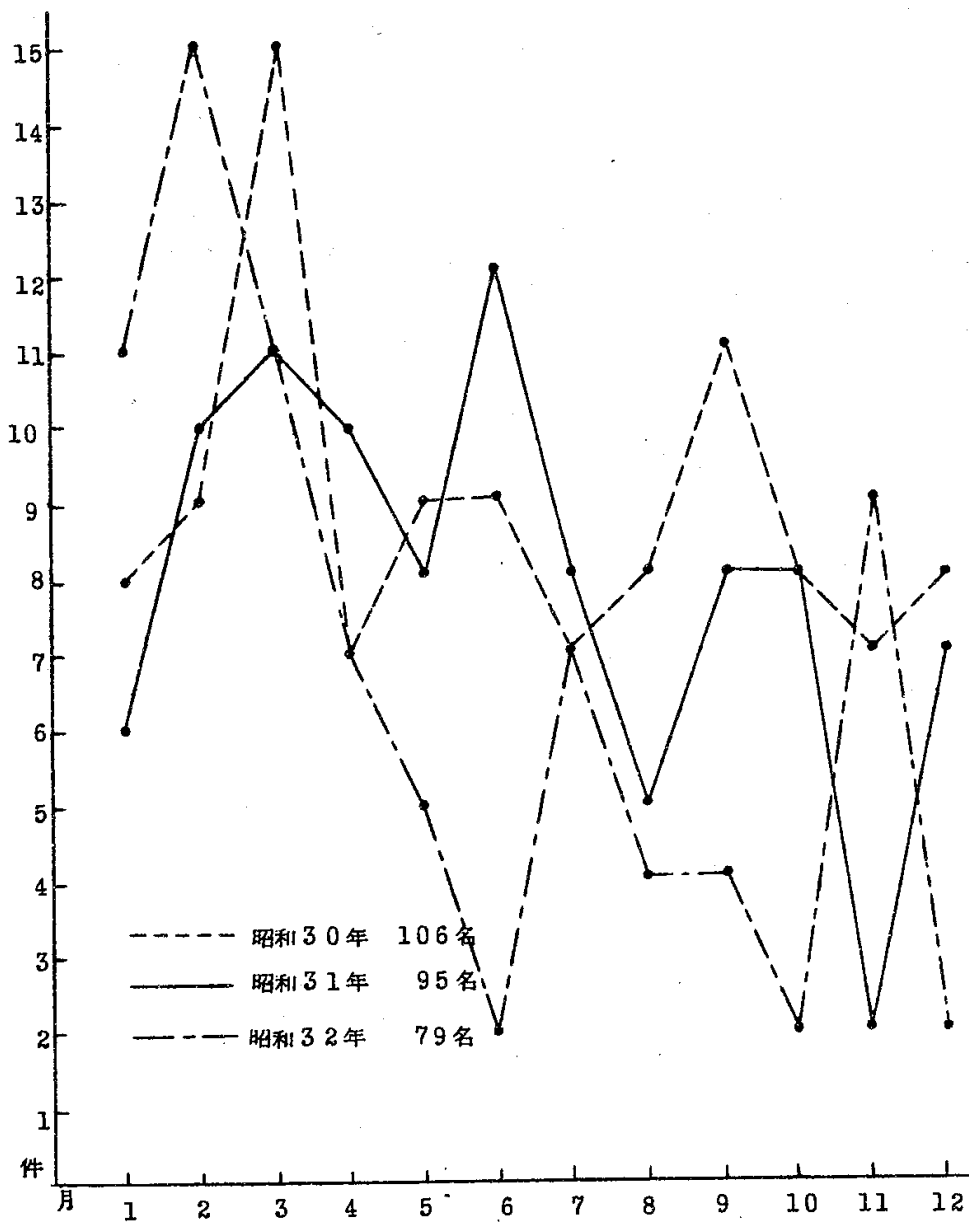
附表・1.

出産数月別年別比較表



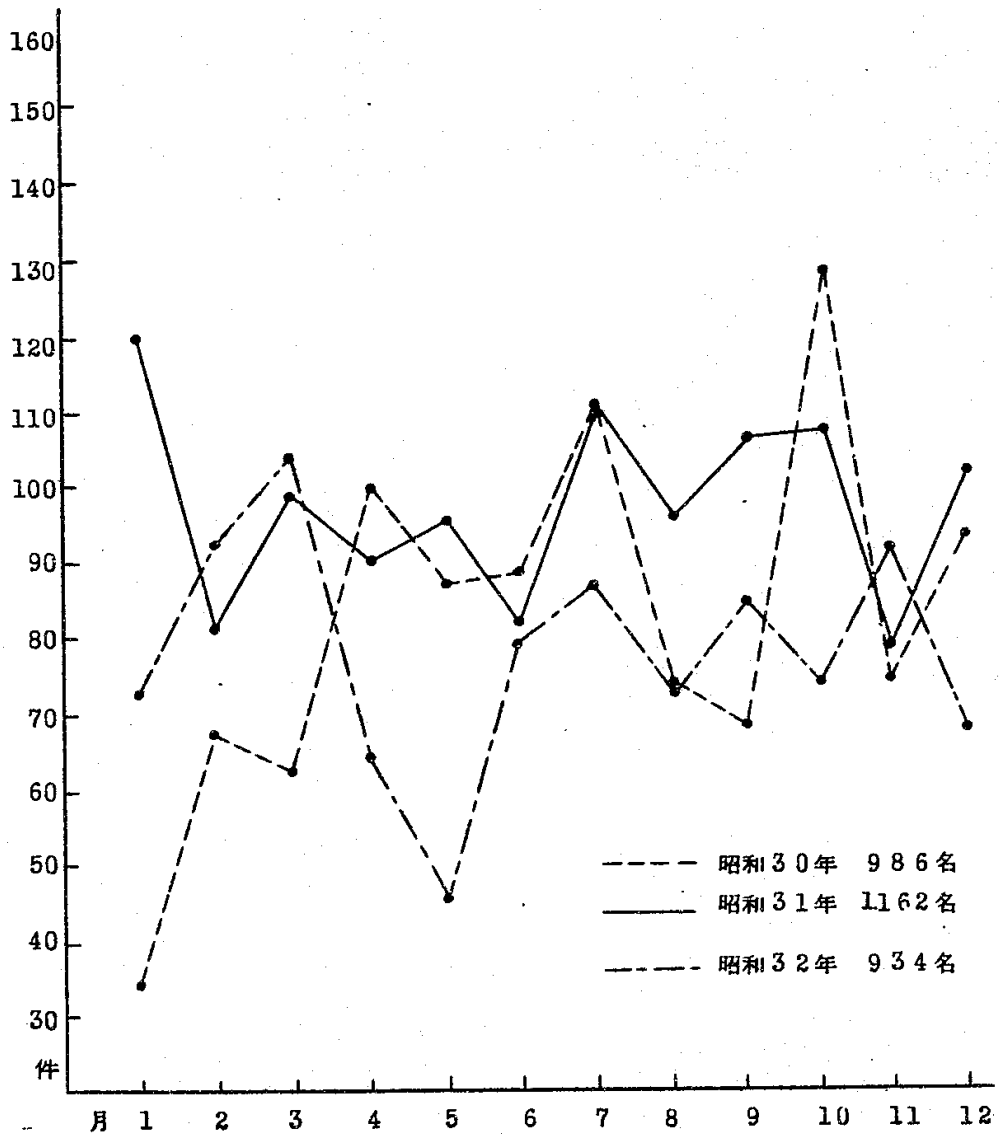
附表 2

死産数月別年別比較表



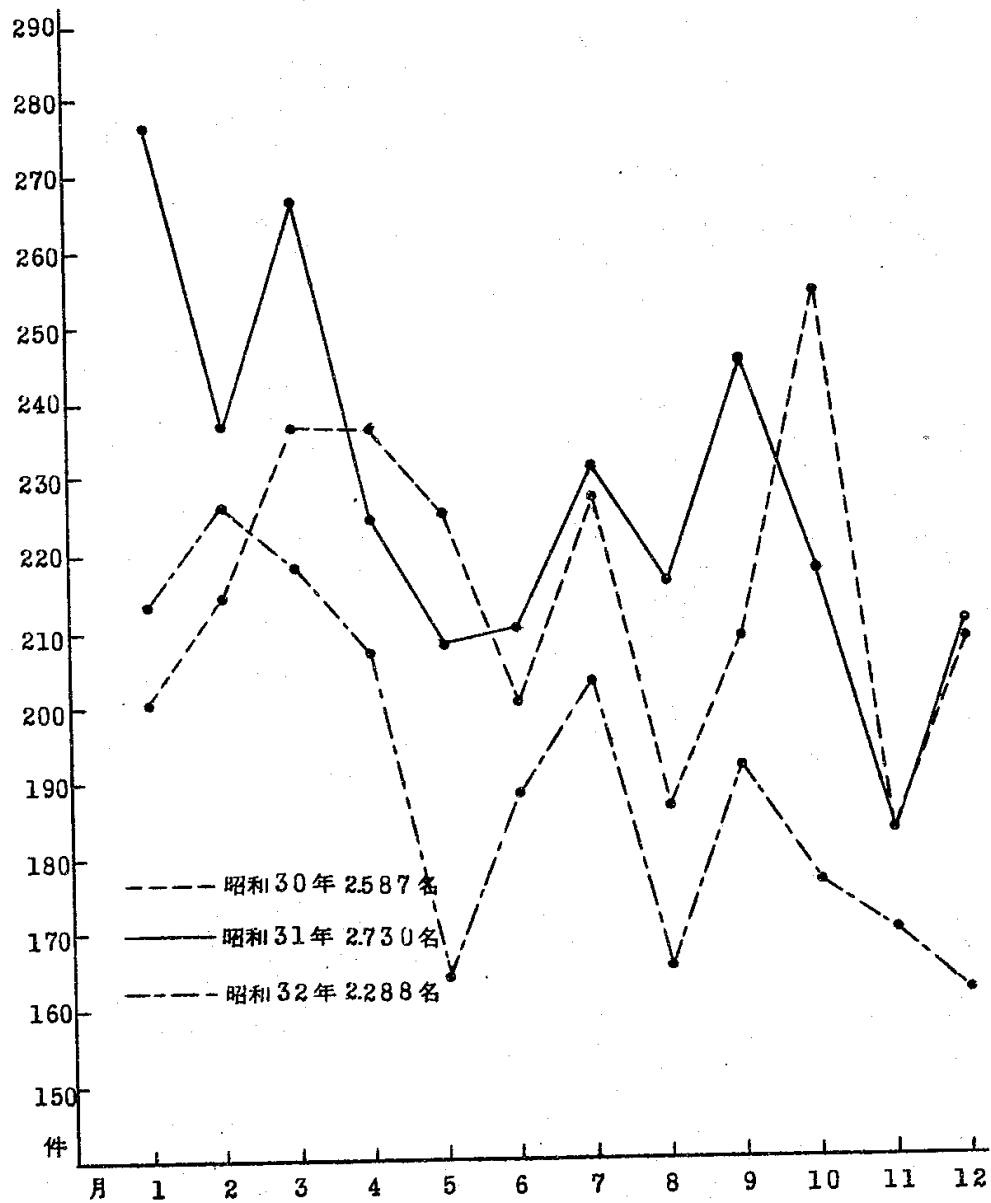
附表3

人工妊娠中絶月別年別比較表



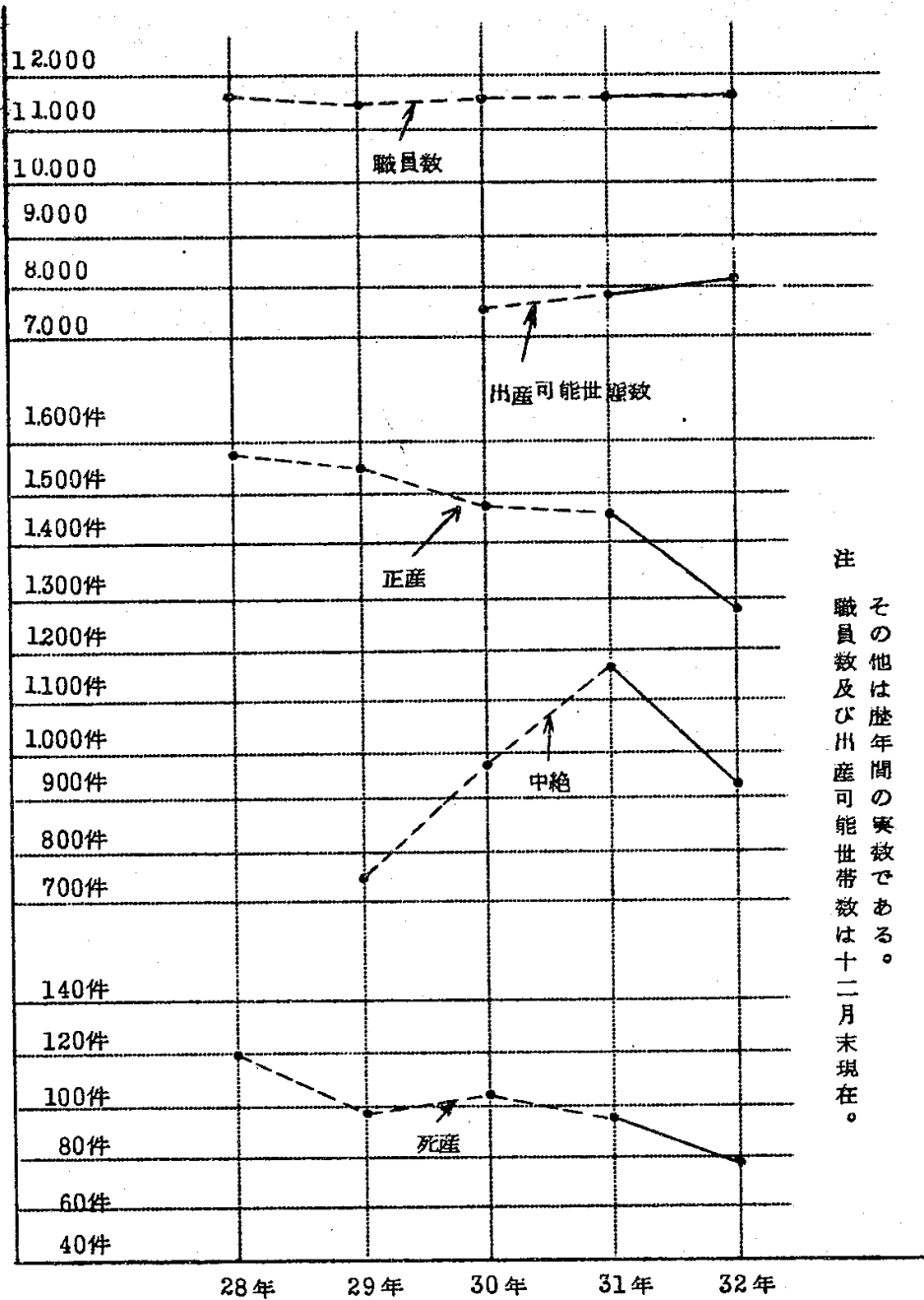
附表4

出產死產人工妊娠中絶數月別年別比較表



附表5

年 別 概 要



注
 その他は歴年間の実数である。
 職員数及び出産可能世帯数は十二月末現在。

(例2)

東武鉄道

家族計画運動経過の概要

昭和33. 7. 25.

わが社の家族計画運動も昭和31年2月開始して以来今日までに実施地区は14を数え、好評裡に進展しつつあります。

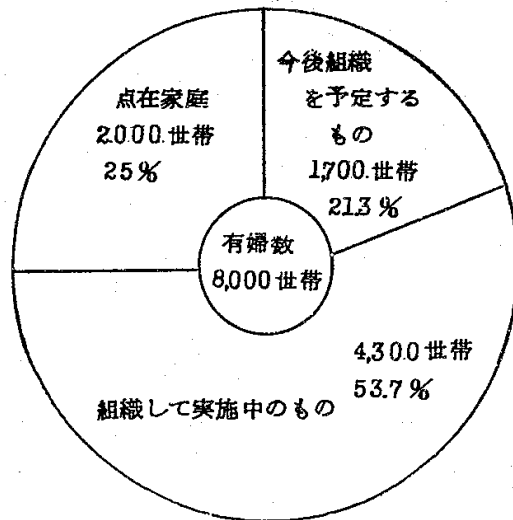
今後更に本運動の発展向上を図るため第二回家族計画関係代表者の打合せ会を開催するに当り、経過の概要を記述してここに報告する。

1. 実施地域

実施地域	墨田	足立	埼玉第一	川越	春日部	野田	埼玉第二	太田	館林	加須・羽生	久喜・幸手	足利・小泉	安佐	伊七崎桐生	計		
発足年月日	昭三一、二、一九	三一、四、二三	三一、五、六	三一、七、七	三一、八、七	三一、八、一一	三、九、九	三一、一一、一一	三一、二、二二	三一、七、二八	三一、九、七	三一、一一、七	三一、四、一六	三一、四、一八	一四地域		
世帯数	二二三	三七七	二一八	四一四	一八〇	二四九	三二三	二二二	六一一	二六九	二五九	三〇六	三六八	三六七	四 ^{世帯} 三五六		
指導員数	一	一	一	二	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一五名		
地域の範囲	墨田区内	足立区内	越ヶ谷町、草加町 足立区の一部	川越市内	春日部市内、庄和村	野田市内、柏市の一部	杉戸町、宮代町	太田市内	館林市内、明和村	加須市、羽生市、騎西町	久喜町、幸手町	わしの宮町、川辺村	足利市、大泉町、邑楽村	御厨町、毛利田村	佐の市、田沼町、葛生町	伊七崎市、桐生市 外五町、立村	二区、一二市、一七町、七村

右のとおり初年度発足地域は8、次年度4、3年度は現在までに2地域である。

2. 推進状況



有婦総数8,000世帯に対する分布を示す。

現在家庭とは地理的に組織化困難なものでこの種家庭に対しては将来可能な限り最寄りの推進母会員へ参加せしめ、なお已むを得ないものは各家庭へ指導員を派遣するか、又は相談所を設けて指導する予定である。

発足後最寄り地区の推進委員会へ参加したものは次のとおりである。

1. 3.2 4月 太田地区 市へ併合された 元強戸村 休泊村 の 19名
2. 3.2 6月 市へ併合された 元尾崎村 木崎村の
3. 3.2 8月 春日部地区 南桜井駅近在の庄和村 40名
4. 3.2 4月 館林地区 川俣駅近在の明和村 90名
5. 3.2 7月 野田地区 柏市の一部 17名

3. 指導状況並びに器具薬品の斡旋数(次表)

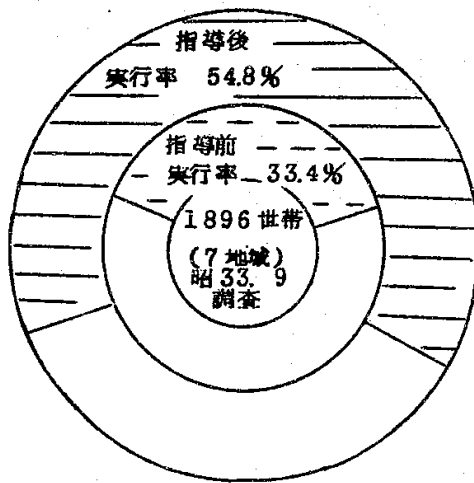
(昭和33年 6月末現在)

指導状況並びに器具薬品の斡旋数

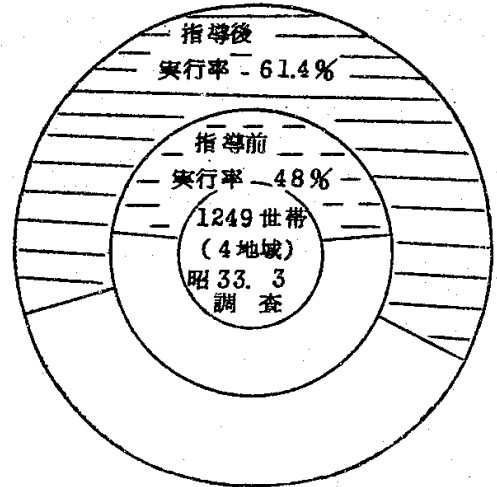
地区別	対家世帯	指導員	指導状況				斡旋した器具薬品						記事		
			集団指導		個人指導		コンドーム	ベッサー	ゼリー	錠剤	体温計	その他			
			回数	人員	回数	人員								回数	人員
郷田	213	1	6	56	310	1666	452	3139	1132	161	543	92	23	5	第9周指導終了
			男 134	1407	84	1173	268	1580	408	2837	1159	136	289	104	
足立	377	1	2	32	214	1198	306	2029	394	115	196	13	7		第8周
			男 90	799	177	2647	496	3099	759	5923	1908	199	407	183	
埼玉第一	414	2	55	560	143	321	198	1881	437	58	109	31	6		第5周
			女 1	21	136	366	200	1457	576	67	139	48	6		
春日部	249	1	2	53	338	1581	503	2839	312	161	327	24	7		第7周
			男 163	1205	643	839	256	1482	629	100	198	11	5		
野田	313	1	3	13	424	2435	653	4321	998	218	482	29	3		第5周
			女 226	1873	108	804	192	1489	461	61	147	29	11	6	
埼玉第二	212	1	46	379	135	548	181	927	199	59	92	5			第3周
			女 43	258	74	399	117	657	207	46	67		1		
太田	611	2	17	129	18	111	35	240	45	49	50	2	1		第2周
			女 4	73	14	91	20	164	54	5	12		2		
加須一羽生	269	1	30	446	2838	16038	4280	28885	9011	1445	3088	571	99	19	第2周
			女 1412	12401											
久寺一幸手	306	1													第2周
足利一小泉	368	1													第2周
安佐	367	1													初め
伊ヶ崎桐生															初め
計	4356	15	男 30	446	2838	16038	4280	28885	9011	1445	3088	571	99	19	
			女 1412	12401											

伊ヶ崎地区の如く、指導を開始したばかりの地区がある反面、墨田地区の如く、すでに9回を終った地区もあるのでは一人当り平均の指導は5.6回となる。現在まで実施地域の拡張に重点をおいたので男性に対する普及活動は放置された感があるも、今回比較的職場の業中している四ヶ所(別表の日程)において、講演と幻灯会を開催することにした。

4 実行状況



第1図 初年度指導の7地域における
実行率分布

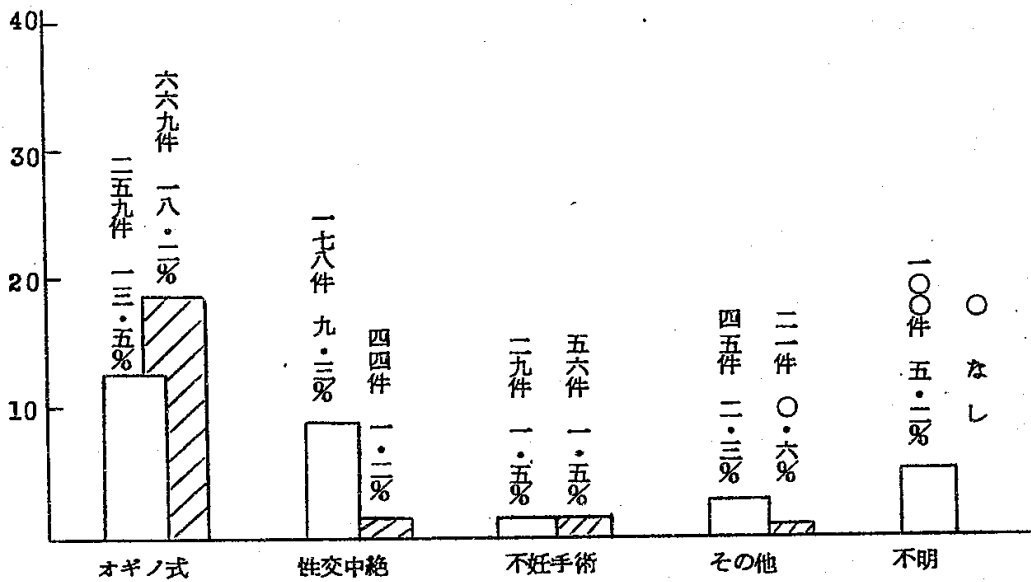
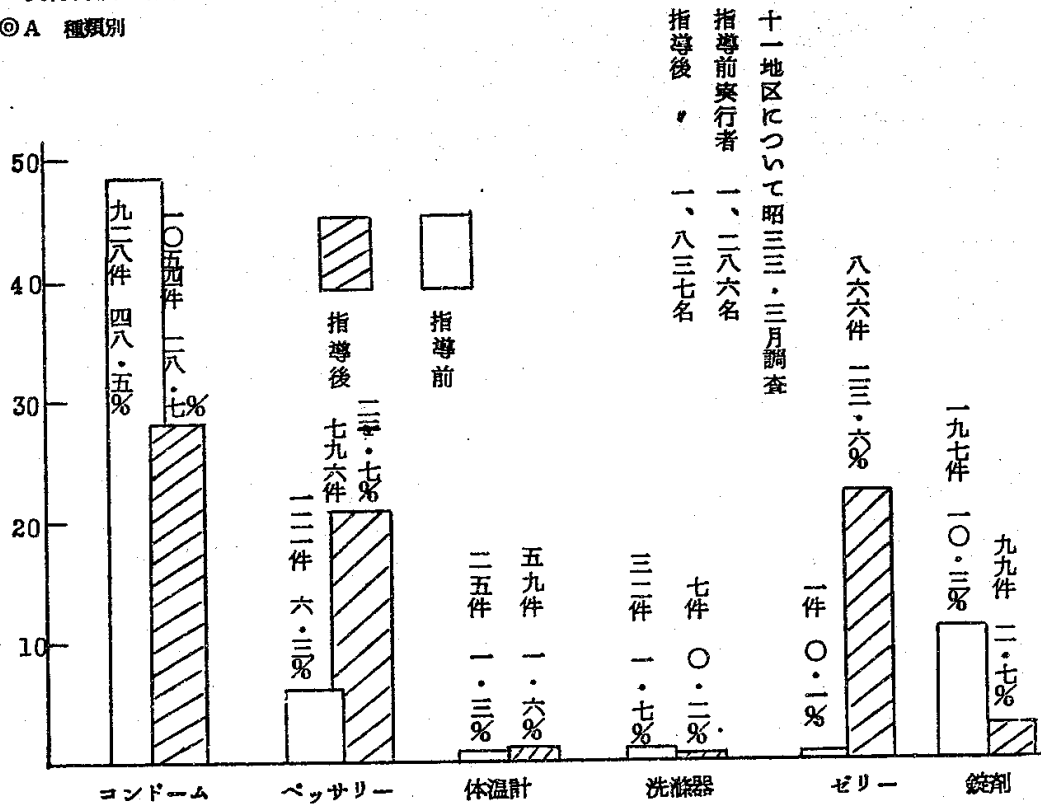


第2図 第2年目指導の4地域における
実行率分布

(注) 第1図初年度(31年)指導の7地区とは埴田・足立・埼玉第1・川越・春日部・野田・埼玉第2であり、第2図2年度指導地区とは太田・館林・加須-羽生・久喜・幸手の4地域である。第1図における指導前の実行者は33.4%と全国平均のそれと全く同じであったが指導後の実行者54.8%と可成り上昇を示した。更に第2図における実行者は指導の前後共に第1図に較べ可成り上昇を示している。特に第2図(2年度指導)における指導前実行者の上昇は社内新聞によるP・Rの外すで実施している隣接地区から次々と伝え聞き未実施地区居住者の家族計画に対する実施意欲を盛上げていることが察知できる。

5 実行方法の推移

◎A 種類別

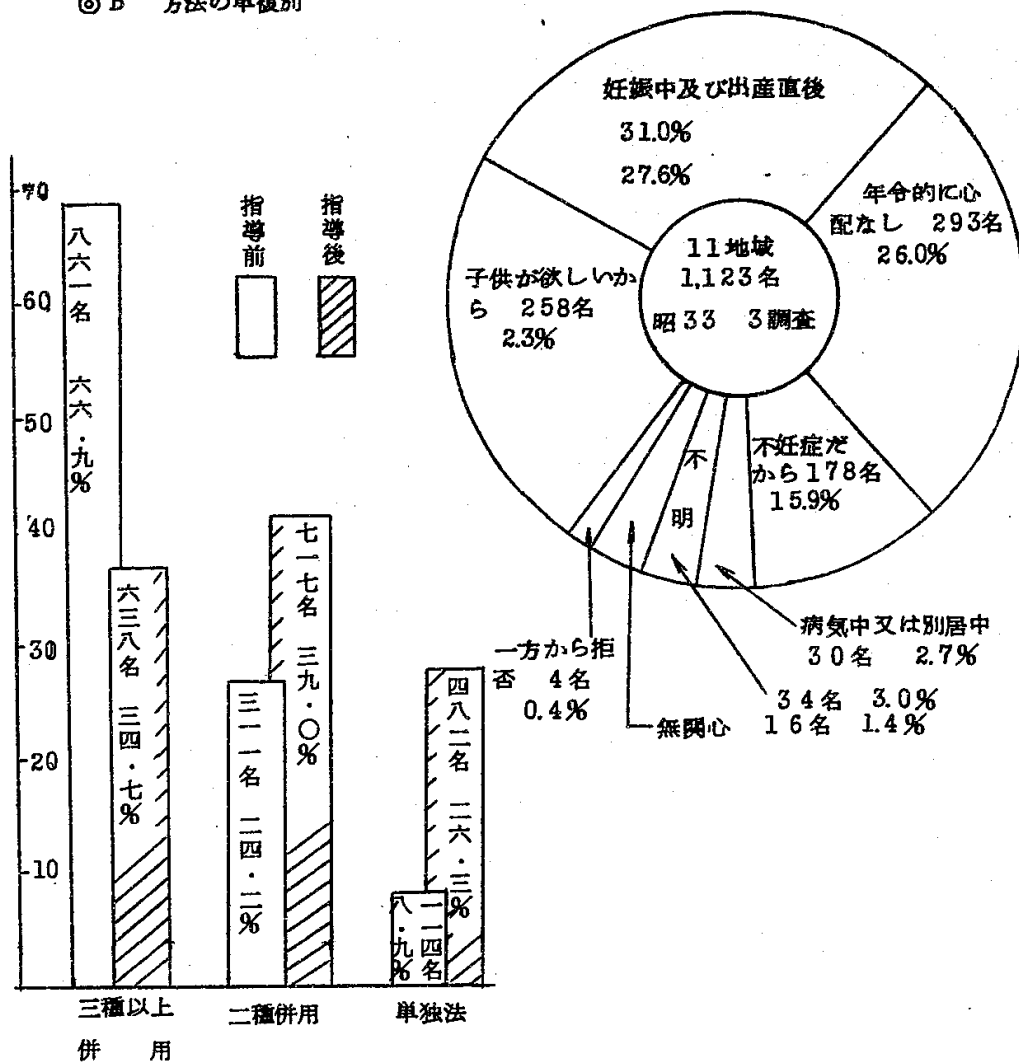


以上図解したとおり指導の進捗に従い単純なものから高級複雑なものへ又不健康なものから健康的なものへの移行を示している。

特にペッサリー式ゼリー法は著しく上昇し逆にコンドーム法・性交中絶法は低下した。

6 不実行者の理由分布

◎B 方法の単複別



指導後は指導前に較べ単独法の実行者が著しく減少し2種3種以上の併用者が総数の65%を占めている。これは安全度が高く確実なものを望んでいる証左であり家族計画に対する熱意を物語ると共にその効果が一層確実性を増している。

上のグラフは墨田から久寺一幸手の11地域について調査した指導後の不実行者の理由分布である子供が欲しい層と妊娠中及び出産直後というのが全体の50%を占め年令的に心配なしと不妊症が40%以上で受胎調節を必要とする層は極僅か4-5%となっている。

7 家族計画実施による成果の考察

指導後1年を経過した七地域 1,896世帯について指導前1年間と指導後1年間とを比較し、その成果を考察してみた。

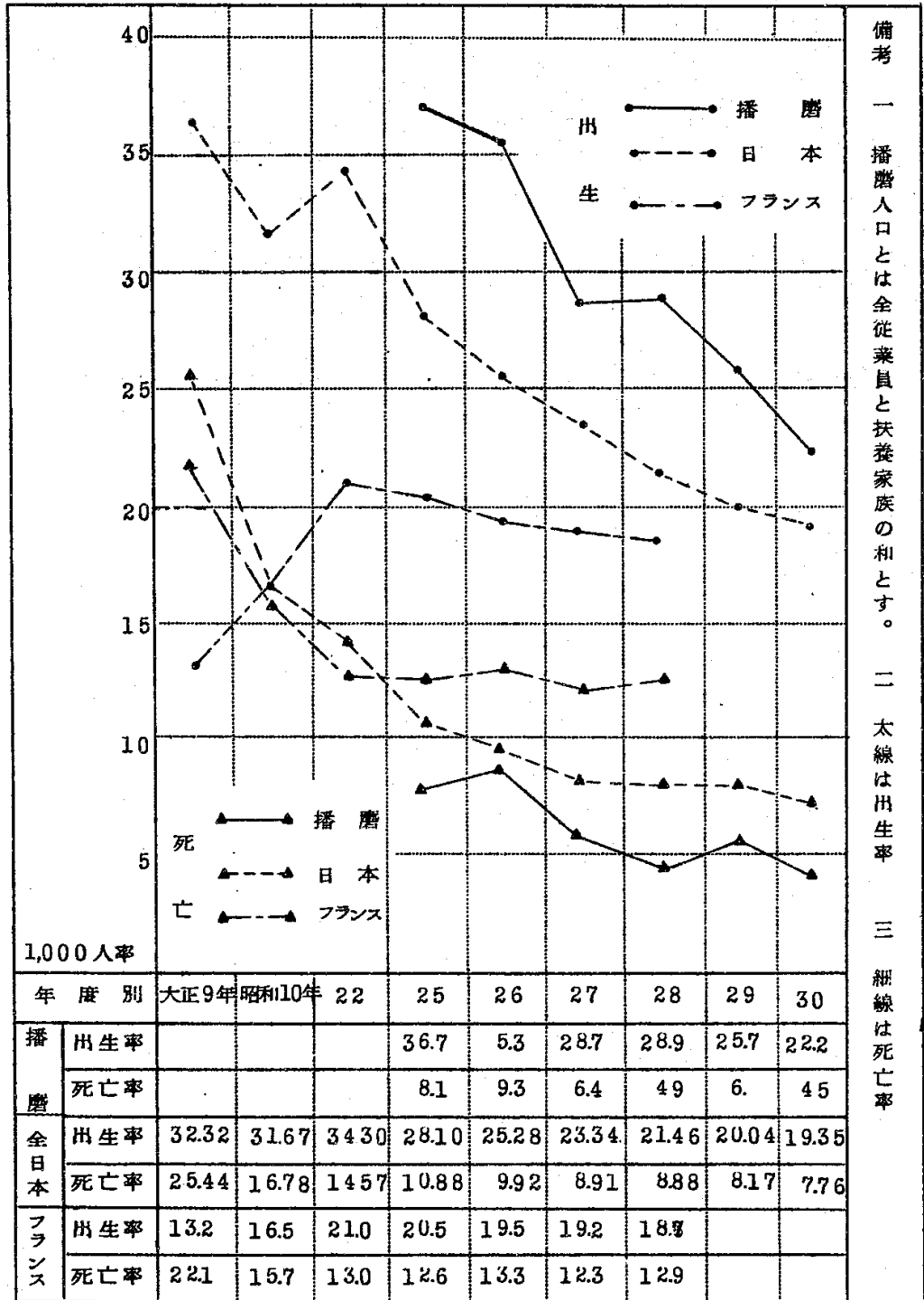
妊 娠 数			出 産 数			人 口 妊 娠 中 絶 数			実 行 率		
以 前	以 後	低 下 の 度 合	以 前	以 後	低 下 の 度 合	以 前	以 後	低 下 の 度 合	以 前	以 後	上 昇 の 度 合
413件	184件	55.4% 減	229人	125人	58.2% 減	80件	44件	45% 減	33.4%	54.8%	64.1% 増

実行率64.1%の上昇に対して妊娠数において55.4% 出産数において58.2% 人工妊娠中絶数において45%とそれぞれ低下した。特に中絶数は45%で大体半減しているがこれは望まざる妊娠によるものであるから今後更に調節技術の向上を図り母体保護のため絶滅しなければならない。

なお的確なる成果については今後の全般的な調査によらねばならないが一応本運動に対する主婦の理解と熱意の程を知ることができる。

(例3) 播磨造船所

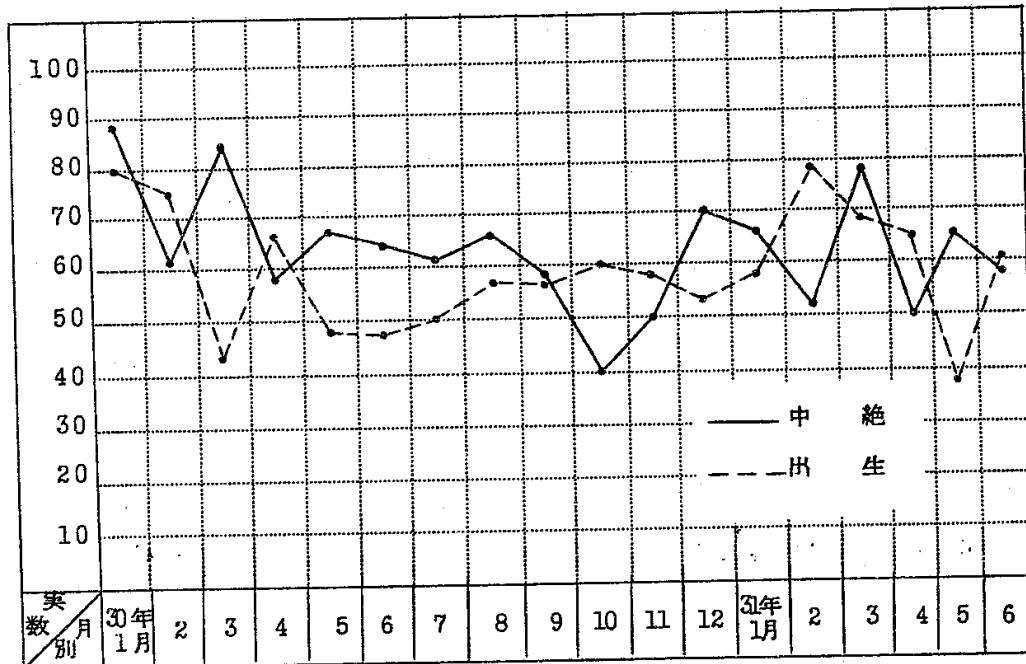
人口動態率表



人工妊娠中絶数

	10	20	30	40	50	通計	出生児数	優生手術 実施数
30年上期(1-6月)	3	135	226	55	1	420 54%強	356 46%弱	61
31年上期(1-6月)	2	158	173	35	0	368 50%強	361 49%強	53
(比較)	減(1)	増(23)	減(53)	減(20)	減(1)	減(52)	増(5)	減(8)
30年下期(7-12月)	1	90	216	37	3	374 51%強	331 49%弱	55

人工妊娠中絶と出産との比較表



備考 昭和30年1月~31年6月まで

昭和30年31年(上半期)人工妊娠中絶集計表及び優生手術実施数

年齢別	1月		2月		3月		4月		5月		6月														
	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50										
30	2	30	49	8	23	26	11	1	19	50	15	1	20	29	8	23	37	6	20	35	7				
31	1	26	31	5	11	33	7		38	30	10		20	21	9	1	37	25		24	33	2			
	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6
30	7	75	7		6	53	7	2	9	71	4		1	43	2	2	1	16	47	2	11	51			
31	8	54	2	1	13	37	1		6	66	3	2	1	6	43	1		9	46	10	8	47	2	2	
計	89						61			84			58			66						62			
出生	65						51			78			50			65						59			
	80						73			42			66			48						47			
	57						78			67			64			36						59			

年齢別	7月		8月		9月		10月		11月		12月														
	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50										
30	18	36	7		20	36	7	2	1	17	32	9	10	26	4	5	43	1	1	20	43	9			
31																									
	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6
30	13	47	1		5	59	1		8	28	1	2	1	8	43	1	1	11	55	3	1	1	1	1	
31																									
計	61					65				59			40			50						72			
出生	50					56				56			60			57						52			

年齢別	計					
	10	20	30	40	50	
30	4	225	442	92	4	
31	2	188	173	35	0	
	2	3	4	5	6	7
30	114	618	14	14	6	1
31	50	293	16	7	2	0
計			767			
			368			
出生			687			
			361			

備考

- (1) 地区別には全地区に中絶が行われている。
- (2) 昨年同期と比較して42人の減少を示している。
- (3) 妊婦の53%が中絶を行い、47%が出生をしている。
- (4) 優生手術は女子のみにて昨年の同期61人に比較して8人の減少を示している。
- (5) 出生は昨年の同期と比較して5人の出生増加を示している。

優生手術実施数	30年		31年		計
	男	女	男	女	
	16	91	12	40	116

地区別	30年		31年		計
	男	女	男	女	
那波野	31	16	27	12	53
古池	54	65	27	19	116
矢野	22	19	13	13	55
野瀬	10	20	3	19	39
那波	90	48	39	14	101
佐方	40	74	14	8	96
千尋	33	168	8	64	203
旭区	141	63	64	5	213
若狭野	53	20	38	5	76
池ノ内	14	60	5	92	111
相生	192	86	92	35	305
相生	87	23	35	35	140
計	1000	1000	1000	1000	1000

(例4) 日本鋼管川崎工場

1 家族計画普及指導後における実行状況調査資料

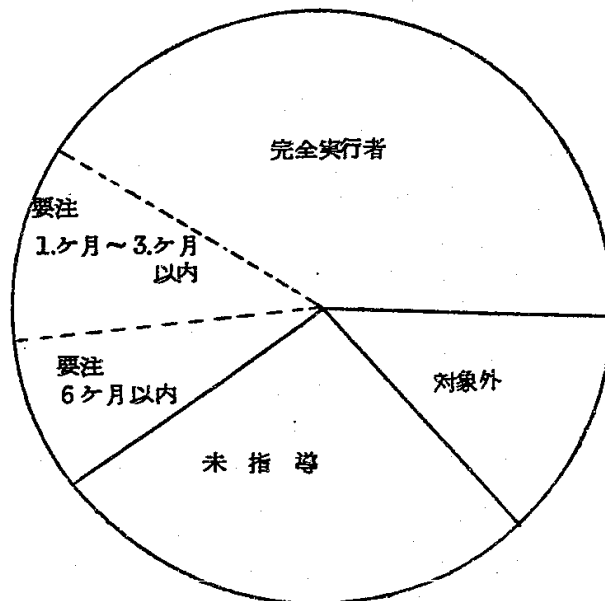
昭(昭和33年5月調)

川崎地区及び東京、横浜の一部7862世帯(昭和31.7.調6057世帯)中実地指導員が家庭訪問し、記入した指導票により集計したものである。本表は現在実行中のもののみ取り上げた。

△世帯数	7,862	100%
対象世帯数	6,834	86.9
対象外世帯数	1,028	13.1
△対象世帯数	6,834	100%
実行者数	4,749	69.5
未指導	2,085	30.5
△実行者	4,749	100%
完全実行者	3,338	70.3
要注 1ヶ月～3ヶ月以内の訪問を必要とする。	307	17.0
要注 6ヶ月以内の訪問を必要とする。	604	12.7

以上であるが前回調査実施 昭和31.7.の際の実行者より1,611名・51.3%の増加を示している。

家族計画実行分布図



2 器具薬品別実行分布

器具薬品名		実行数	%	器具薬品名		実行数	%
ベ ッ サ リ ー 主 用	P+J,	1,133		基 礎 体 温 法 主 用	体温	90	
	P+J, C+J,	304			体温, P+J, C+J	49	
	P+J, C+J, 定禁	174			体温 C	128	
	P+J, 錠剤	6			体温, P+J	71	
	P+J, 外射	6			体温 錠剤	9	
	P+J, 定禁	342			計	347	7.3
	P 体温	8			定 禁 主 用	定禁	172
計	1,973	41.5	定禁 C	69			
			定禁 P+J	9			
コ ン ド ー ム 主 用	C+J	609			計	250	5.3
	C+J, 錠剤	21		そ の 他	ゼリー	14	
	C+J, 錠剤, 定禁	5			洗滌C	1	
	C+J, 定禁	518			スポンジ	9	
	C 外射	2			外射	47	
	C	509			洗滌	9	
	C 体温	20			リング	4	
C 定禁	291		計		84	1.8	
錠 剤 主 用	錠剤	48		合 計	4,749	100	
	錠剤, 定禁	34					
	錠剤, 体温, 定禁	10					
	錠剤+C	28					
	計	120	2.5				

3 出生件数及び出生率推移表 (昭和25年4月~33年3月)

年度別 \ 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
昭和25年度	107	132	120	121	93	114	125	108
“ 26 ”	101	113	84	104	115	121	124	130
“ 27 ”	137	111	104	133	115	115	126	120
“ 28 ”	97	96	110	112	116	111	117	119
“ 29 ”	139	100	86	92	126	69	71	125
“ 30 ”	59	198	86	110	82	49	107	102
“ 31 ”	91	138	101	82	115	106	120	99
“ 32 ”	123	118	77	87	93	76	125	110

年度別 \ 月別	12月	1月	2月	3月	計	世帯数	出生件数 世帯数%
昭和25年度	102	89	200	166	1,477	6,770	21.8
“ 26 ”	88	105	166	153	1,404	8,078	17.3
“ 27 ”	122	88	13	118	1,452	8,222	17.6
“ 28 ”	109	100	107	111	1,305	8,530	15.2
“ 29 ”	178	55	58	185	1,284	9,415	13.6
“ 30 ”	150	84	142	75	1,244	10,050	12.3
“ 31 ”	133	121	80	94	1,280	10,441	12.3
“ 32 ”	110	85	111	75	1,190	10,666	11.1

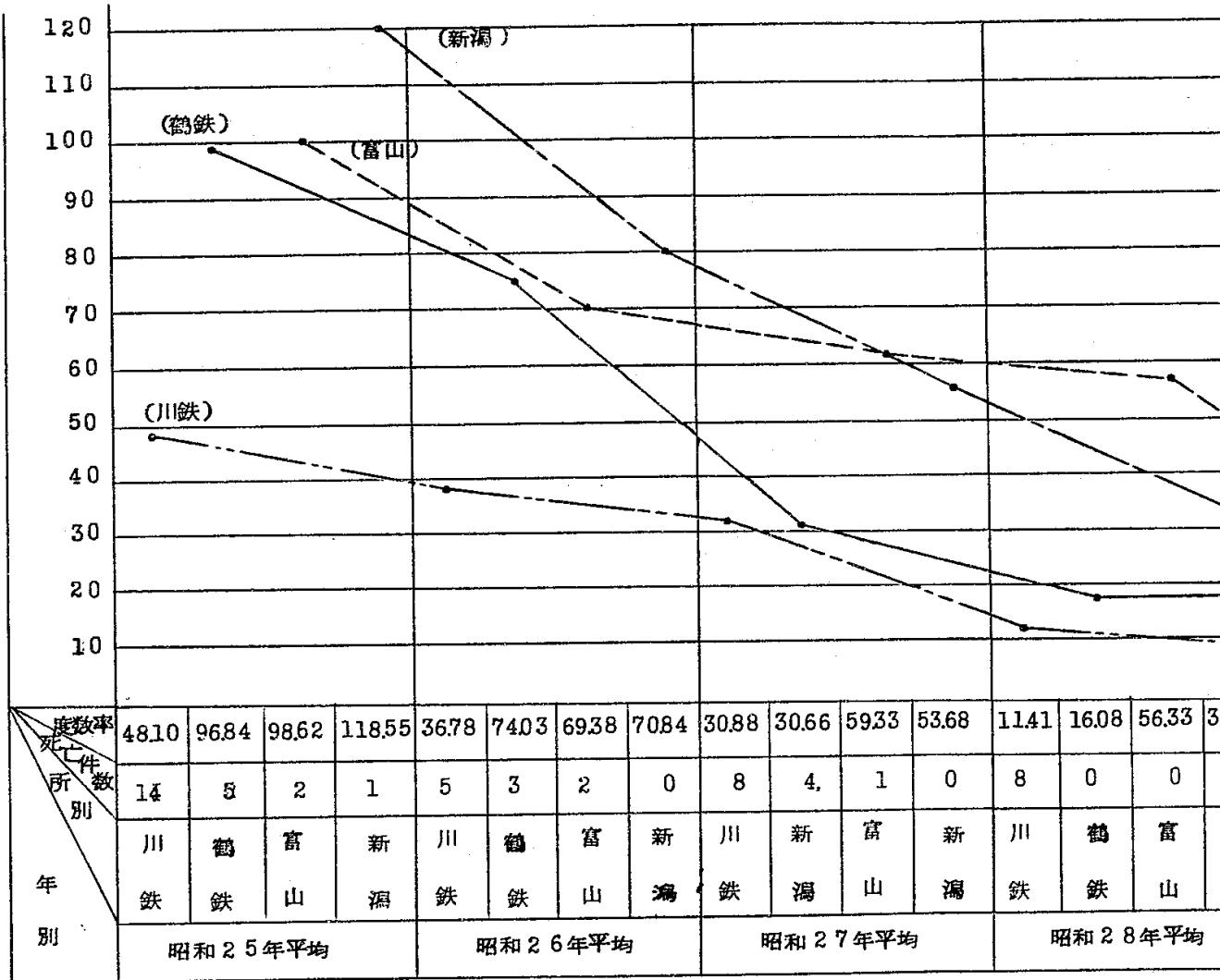
分 割 撮 影

1	2
---	---

所別年度別数率（休業）比較表（

（昭和25年以降）

（製 鉄 部 門）



年度	48.10	96.84	98.62	118.55	36.78	74.03	69.38	70.84	30.88	30.66	59.33	53.68	11.41	16.08	56.33	30.00
	14	5	2	1	5	3	2	0	8	4	1	0	8	0	0	0
所別	川鉄	鶴鉄	富山	新潟	川鉄	鶴鉄	富山	新潟	川鉄	新潟	富山	新潟	川鉄	鶴鉄	富山	
平均	昭和25年平均				昭和26年平均				昭和27年平均				昭和28年平均			

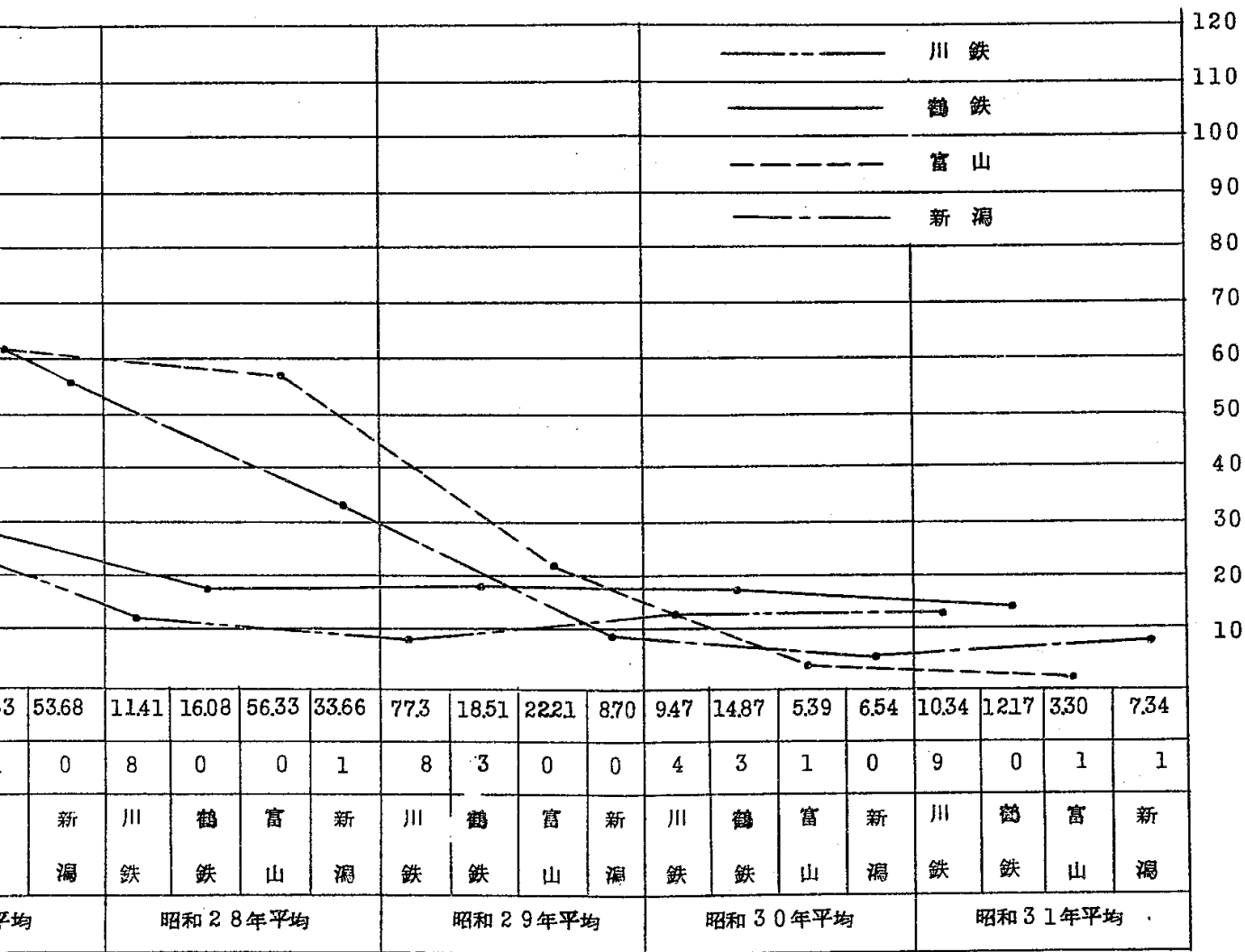
度別数率(休業)比較表(その1)

(昭和25年以降)

(製 鉄 部 門)

3 2 . 2

労務部厚生課

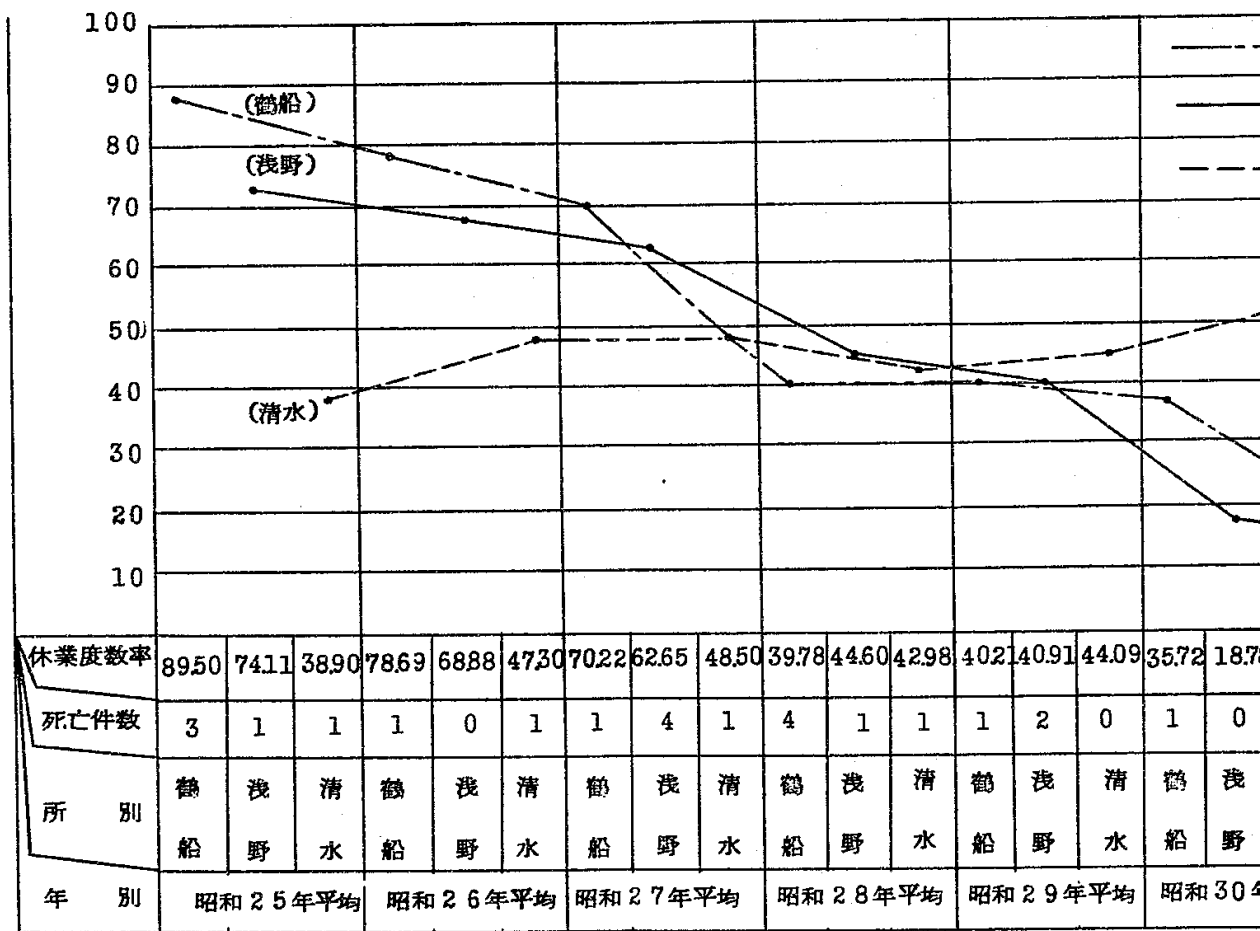


分 割 撮 影

1	2
---	---

所別年度別数率（休業）比

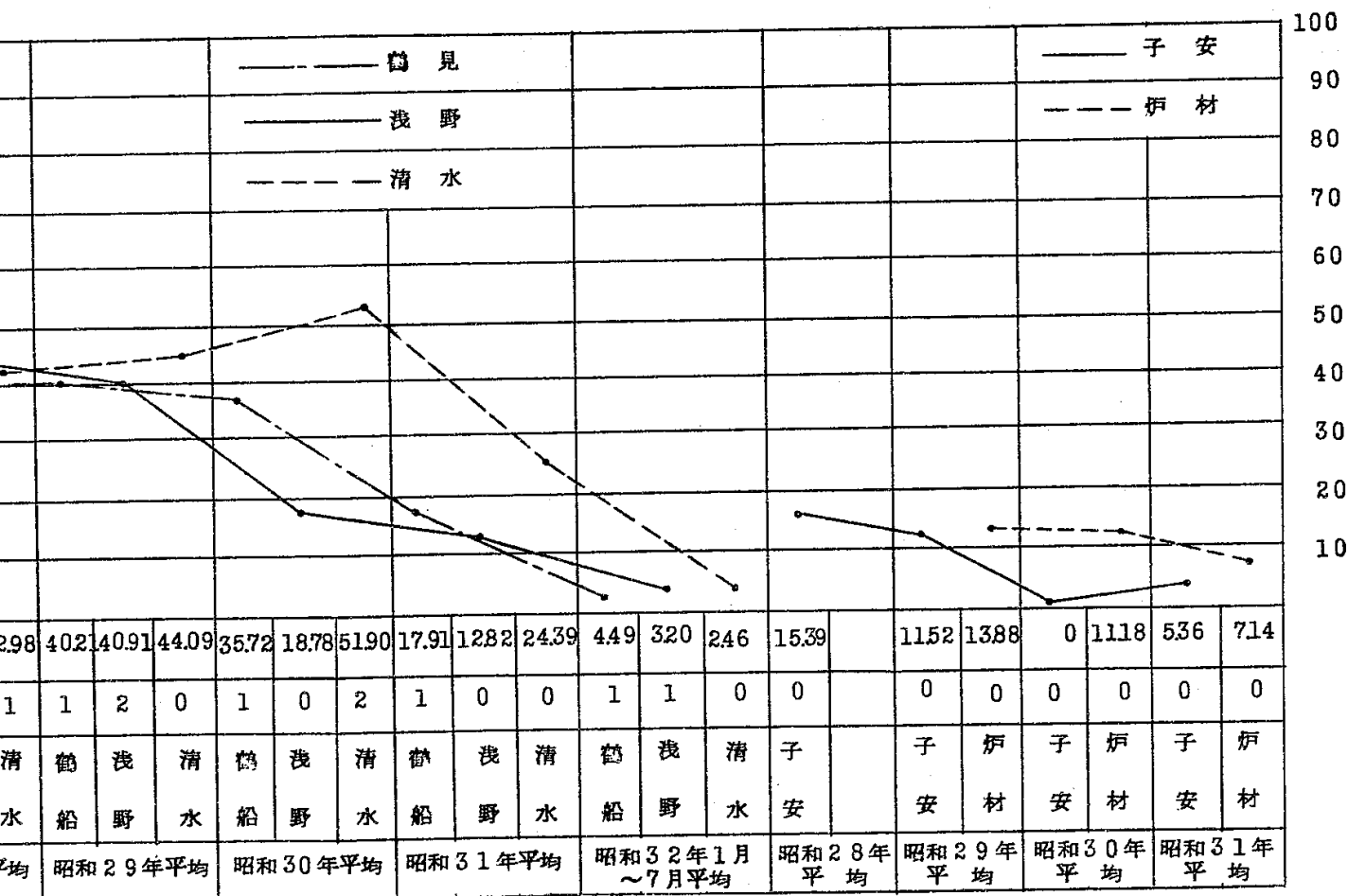
造船部門



年度別 数率 (休業) 比較表 (その2)

門

その他の部門



(例6) 本州製紙

妻の年齢別実行率の変化

昭33-5

妻の年齢	指導以前		指導以後		備 考
	実施数	%	実施数	%	
24才以下	24人	20.1	84人	64.6	左表には長期不妊その他の 非該当を含めて%を算出し ている。之をのぞけば89. 4%の実行率となる。
25才~29才	128	35.9	314	86.5	
30 ~34	203	53.8	328	85.6	
35 ~39	128	50.6	178	68.7	
40 ~44	78	42.1	96	51.1	
45才以上	3	2.9	6	5.7	
計	564	39.6	1,006	68.9	

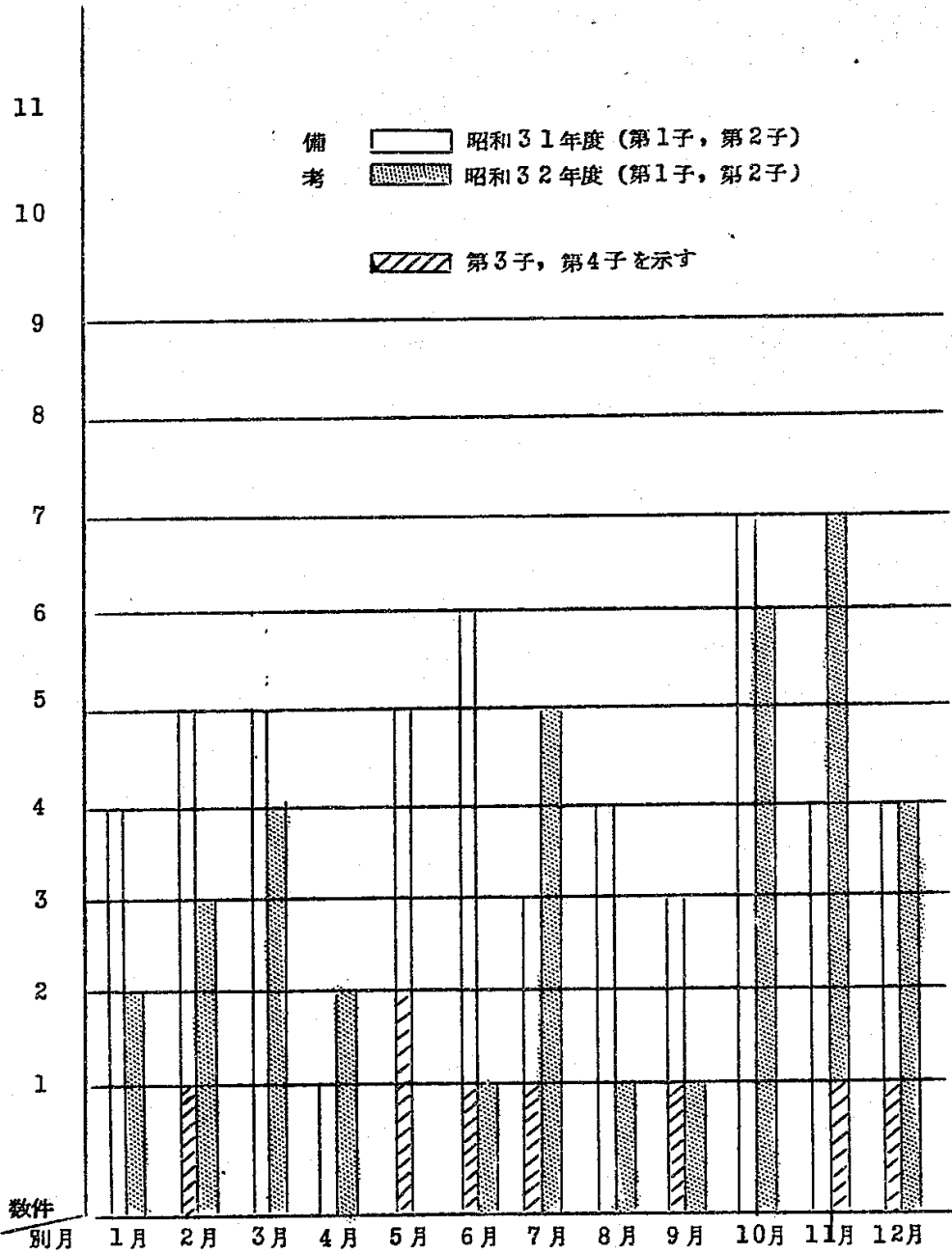
実行方法の変化 (江戸川工場のみ)

種 類	指導前	%	指導前	%	摘 要
コンドーム	61	48.8	39	15.4	
定期禁欲	41	32.8	20	7.9	
薬 品	10	8.0	6	2.4	
手術(含リング)	7	5.6	9	3.5	
性交中絶	5	4.0	0		
ベッサリー	1	0.8	0		
同上とコンドーム併用	0		113	44.7	
ゼリーと	0		62	24.5	
基礎体温	0		2	0.8	
そ の 他	0		2	0.8	
合 計	125	100	253	100	

自昭和30年 出生状況一覧表
 至昭和32年

		昭和30年	昭和31年	昭和32年
正規従業員数		4,446	4,527	4,745
世帯数		2,948	3,151	3,188
世帯人員数・(A)		14,367	14,971	15,286
出生数(B)		357	366	351
人工妊娠中絶数(C)		220	235	172
出生率		24.8	24.4	22.9
中絶率		15.3	15.7	11.2
特殊出生率	母の年齢別			
	24才未満	283	295	188
	25～29才	251	239	266
	30～34	108	112	101
	35～39	38	35	24
	40才以上	8	4	6
合計		119	119	110
年間結婚数			176	251

江戸川工場月別出産状況



(例7) 三井 鉱 山

本店に於ては、毎3ヶ月の実績を社内8事業所より報告させているが、社内の過去3ヶ年の推移を見れば次の様になっている。

(1) 出生調

項目 年度	出生数	昭和30年に対する		出生率		在籍数
		減少数	百中比	当社	全国	
昭和30年	4,894人	—	100	21.8	19.4	47,277人
31年	4,119	775	84	18.6	18.4	47,050
32年	3,595	1,299	73	15.9	17.1	48,148

- 備考 1. 在籍数は8事業所職業所職従全員
2. 年度は暦年による。

出生数は上表の出生率に現われた通り全国平均より高位にあったものが、全国平均を1.2下廻った。事業所別に見れば、三池(三港三作を含む)の出生率17.9芦別の17.4が、わずかに全国平均を上廻っているが、砂川12.3山野13.3などすでに理想の数値に近い。

(2) 妊娠中絶手術調

項目 年度	中絶 手術数	昭和30年に対する		手術率		居 住 人口数
		減少数	百中比	当社	全国	
昭和30年	4,833件	—	100%	21.5		224,185
31年	4,455	378件	92	20.1		221,361
32年	3,394	1,439	70	15.0	12.6	225,977

- 備考 1. 手術率は出生率と同様、件数÷居住人口数×1,000で算出した。
32年の全国手術率は1~6月の実数から推計した。
2. 居住人口数は、8事業所職従在籍者と家族の総数である。

妊娠中絶数は上表の通り著しい減退を示しているが、32年の全国妊娠中絶手術率と比較すれば、尙、当社の方が上廻っている。これは、炭鉱の集団社会の特性も考慮しなければならぬが、是非最少限に減らしたいものである。

(3) 不妊手術調

項目 年度	手術数	昭和30年に対する		手術率	
		減少数	百中比	当社	全国
昭和30年	1,001件	—	100	4.4	
31年	854	147件	85	3.8	
32年	582	419	58	2.5	0.5

- 備考 1. 手術率は、前二項の出生率及び中絶手術率と同様に件数÷居住人口数×1,000で算出

した。

2. 32年の全国手術率は1～6月の実数から推計した。

不妊手術数が、30年に比べて殆んど半減した事は、誠に喜ばしい傾向であるが、32年中の手術率が全国の0.5に対して、当社が尙、5倍を示している現状にかんがみ、今後一層指導の徹底が望まれる。

(例8) トヨタ自動車

(家族計画の統計) ① 夫の職種別による実行率の変せん表

夫の種類	31年1月			31年6月			31年12月			32年6月		
	調査数	実行数	実行率	調査数	実行数	実行率	調査数	実行数	実行率	調査数	実行数	実行率
事務員	75	45	60.0	74	48	64.9	175	114	65.1	234	138	59.0
技術員	52	33	63.5	54	34	63.0	123	72	58.5	159	99	62.3
作業員	375	144	38.4	376	205	54.5	1,086	633	58.3	1,469	814	55.4
その他	10	3	30.0	9	4	44.4	27	16	59.3	35	15	42.9
不明	1	1	100	1	1	100	5	1	20.0	1	0	0
計	513	226	44.1	514	292	56.8	1,416	836	59.0	1,898	1,066	56.2

② 妻の年齢別による実行率の変せん表

妻の年齢	31年1月			31年6月			31年12月			32年6月		
	調査数	実行数	実行率	調査数	実行数	実行率	調査数	実行数	実行率	調査数	実行数	実行率
20才以下	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	2	50.0
20～24	85	35	41.2	78	45	57.7	142	82	57.7	191	103	53.9
25～29	158	65	41.1	155	90	58.1	357	224	62.7	463	292	63.1
30～34	146	78	53.4	142	99	69.7	390	269	69.0	501	329	65.7
35～39	74	37	50.0	87	46	52.9	288	187	64.9	381	232	60.9
40～44	34	11	32.4	31	12	38.7	159	64	40.3	240	100	41.7
45才以上	16	0	0	21	0	0	79	10	12.7	118	8	6.8
計	513	226	44.1	514	292	56.8	1,416	836	59.0	1,898	1,066	56.2

③ 指導人員の1950名の実行率

子供の数	避妊実行		逆実行		計画的に妊娠		計	実行率
	0～2人	3人以上	0～2人	3人以上	0～2人	3人以上		
指導以前	480	321	3		191	10	1,005	51.53
指導以後	669	430	74		148	8	1,329	68.15

④ 受胎した結果

	27年	28年	29年	30年	31年	32年
分娩	218	220	244	207	206	144
中絶	122	116	139	142	127	92
流早産	42	39	33	56	48	52
計	382	375	416	405	381	288

⑤ 中絶の原因

△ 使用をおこたったため	54%
△ 方法をあやまった	7%
△ 器具が破損した	5%
△ 使用したが受胎	2%
△ 体外射精など不確実で	6%
△ 不実行の人は	21%
△ 悪性悪阻	3%

(例9) 日本陶器

個人指導結果表

日本陶器株式会社

自昭和30年8月

至昭和32年3月

(1) 妻の年齢別実行率

年令	実行者		不実行者		指導世帯数	
	実数	%	実数	%	実数	%
20~24才	14	4.5	21	8.7	35	6.3
25~29	77	24.7	55	22.8	132	23.9
30~34	109	34.9	60	24.9	169	30.6
35~39	79	25.3	45	18.7	124	22.4
40~44	28	9.0	38	15.8	66	11.9
45~49	5	1.6	22	9.1	27	4.9
計	312	100	241	100	553	100

(2) 現存子供数別実行率

子供数	実行者		不実行者		指導世帯数	
	実数	%	実数	%	実数	%
0人	4	1.3	24	10.0	28	5.1
1人	62	19.9	69	28.6	131	23.6
2人	107	34.3	56	23.2	163	29.5
3人	80	25.7	42	17.4	122	22.1
4人	36	11.5	28	11.6	64	11.6
5人	17	5.4	10	4.2	27	4.9
6人以上	6	1.9	12	5.0	18	3.2
計	312	100	241	100	553	100

(3) 実行方法の分布

方法	実行経験者				新しく指導により実行開始した者		現在実行方法計	
	指導前の方法		指導以後の方法		件数	%	件数	%
	件数	%	件数	%				
コンドーム	154	45.0	182	39.0	36	37.5	218	38.7
性交中絶	18	5.3	4	0.8			4	0.7
定期禁欲	118	34.5	197	42.2	46	47.9	243	43.2
薬品	18	5.3	42	9.0	7	7.3	49	8.7
ペッサリー	2	0.6	19	4.1	7	7.3	26	4.6
スポンジ	2	0.6						
一般禁欲	2	0.6						
洗滌	7	2.0	3	0.6			3	0.5
注射	4	1.2	2	0.4			2	0.4
基礎体温	1	0.3	5	1.1			5	0.9
不妊手術	6	1.7	5	1.1			5	0.9
其他	10	2.9	8	1.7			8	1.4
計	342	100	467	100	96	100	563	100
実人員	245		245		67		312	

(註) 器具に塗布するゼリーも1件として計上

(4) 不実行理由分布

理由	実数	%
子供が欲しい	56	23.2
無関心	20	8.3
年令的不必要	62	25.7
すぐ実行したいと考えている	5	2.1

体質，手術により不必要	13	5.4
嫌い，悪いと思う	2	0.8
実行したいが出来ぬ	4	1.7
実行の決心がつかぬ	23	9.5
妊娠中	31	12.9
其の他	15	6.2
計	10	4.2
	241	100

(例10) 日立造船向島工場

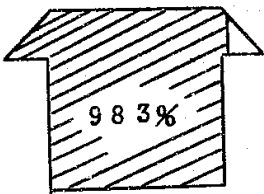
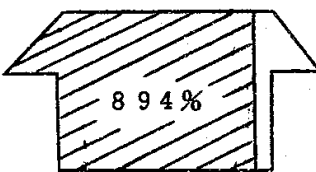
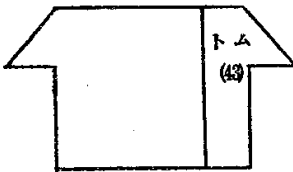
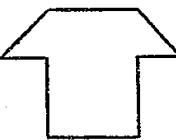
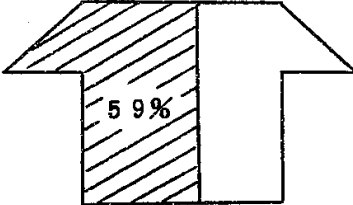
実行者の方法別調査

区分 方法別	指導后		指導前		増減率
	実行数	%	実行数	%	
Condominium・ゼリー	154	28.1	13	2.5	+25.6%
ベッサリー	92	16.8	3	0.6	+16.2
Condominium他併用	16	3.0			+ 3.0
Condominium	164	29.9	295	56.5	-26.6
ベッサリー	0	0	21	4.0	- 4.0
ゼリー	6	1.0	6	1.2	- 0.2
錠剤	24	4.4	36	6.9	- 2.5
体温計	8	1.4	8	1.5	- 0.1
洗滌剤	1	0.1	2	0.4	- 0.3
荻野式	19	3.5	70	13.4	- 9.9
Condominium			19	3.6	- 3.6
中絶法	16	3.0	13	2.5	+ 0.5
リング	2	0.4	10	1.9	- 1.5
その他	46	8.4	26	5.0	+ 3.4
計	548	100%	522	100%	

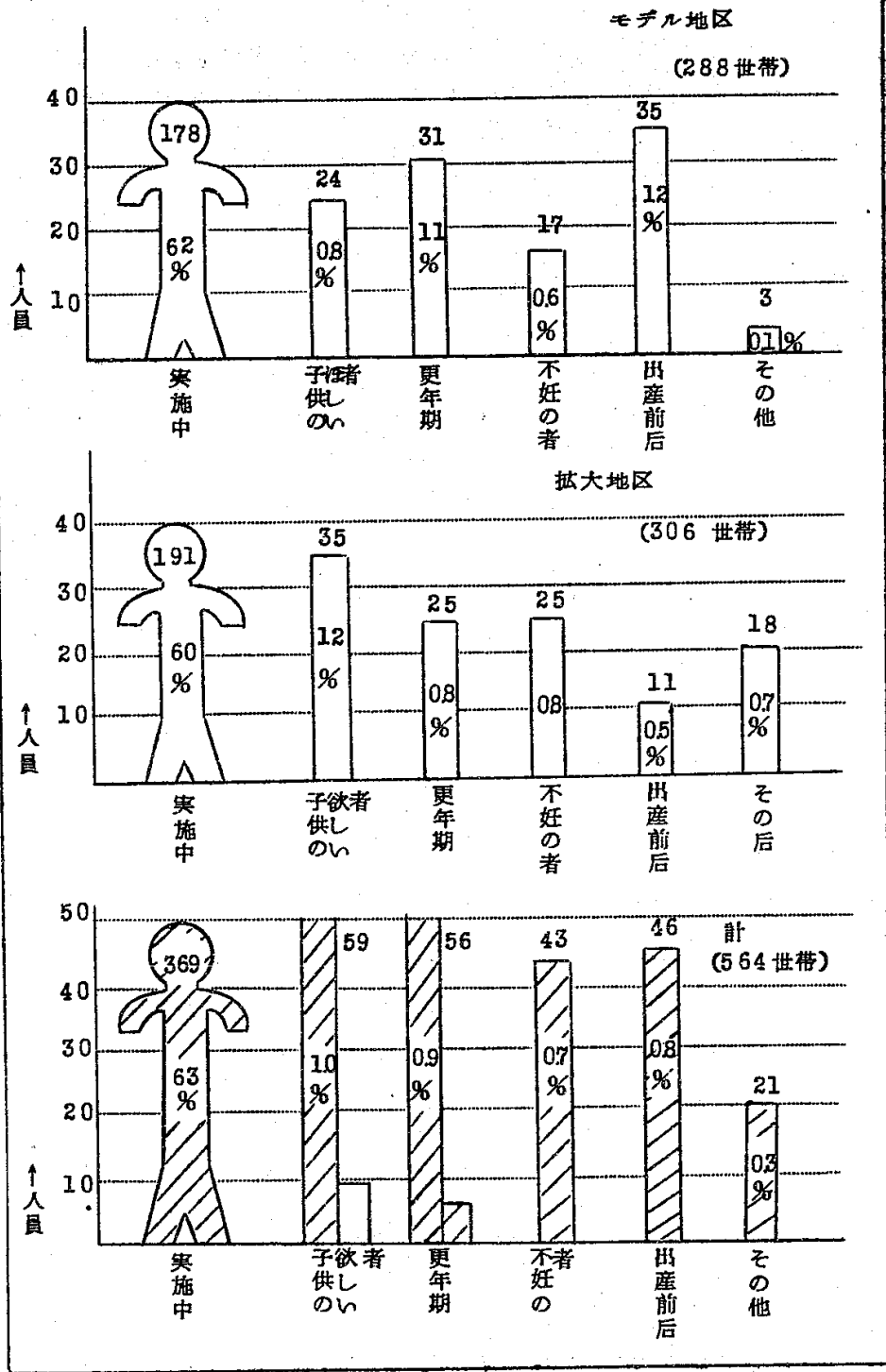
(例11) 日立造船神奈川工場

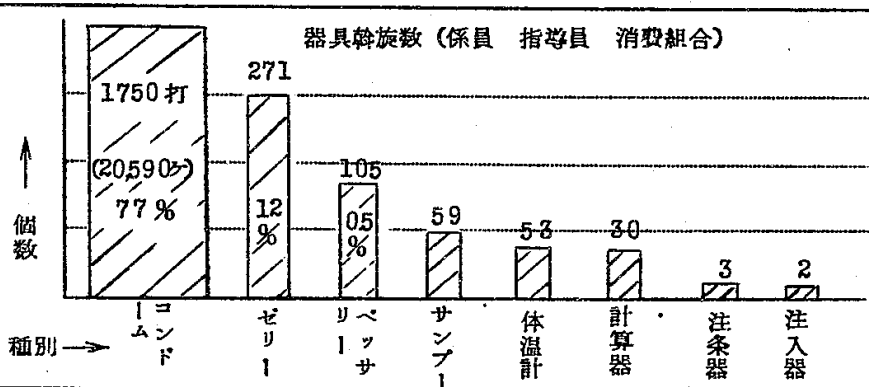
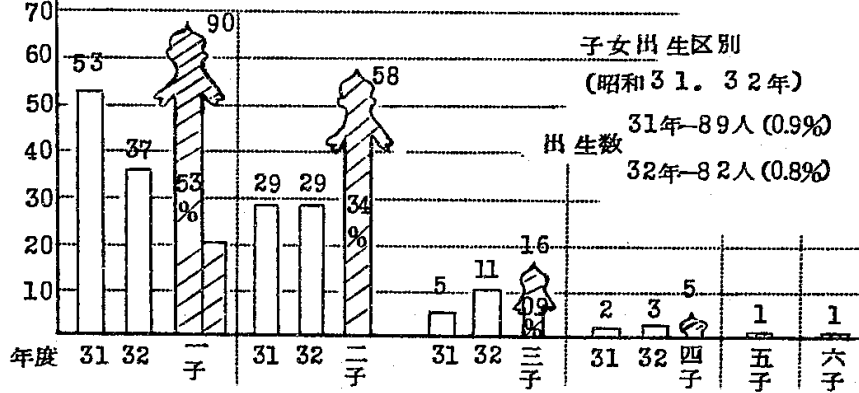
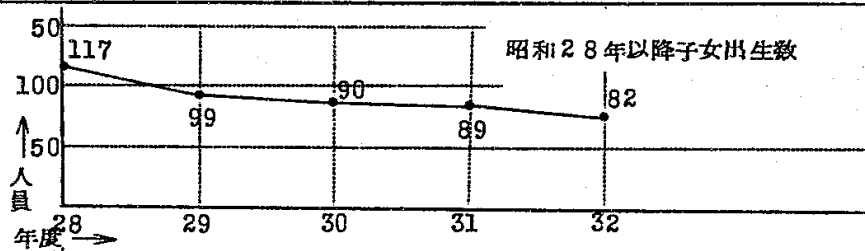
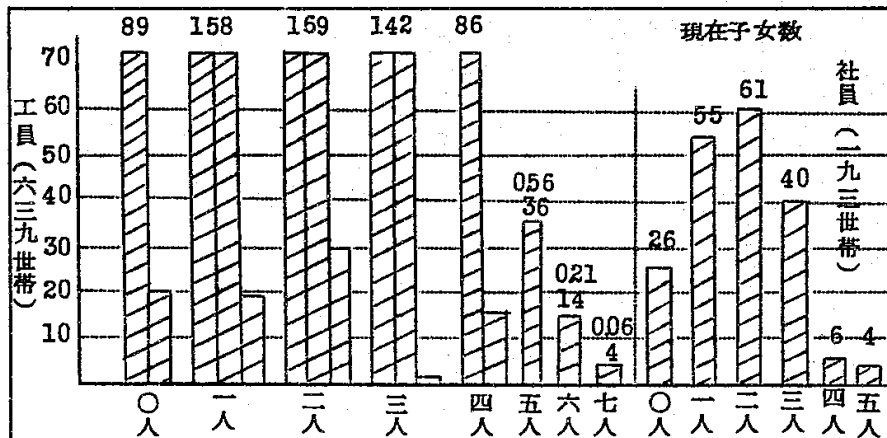
日立造船 神奈川工場

新生活運動実施概況(家族計画の部) 昭和32年12月末日現在

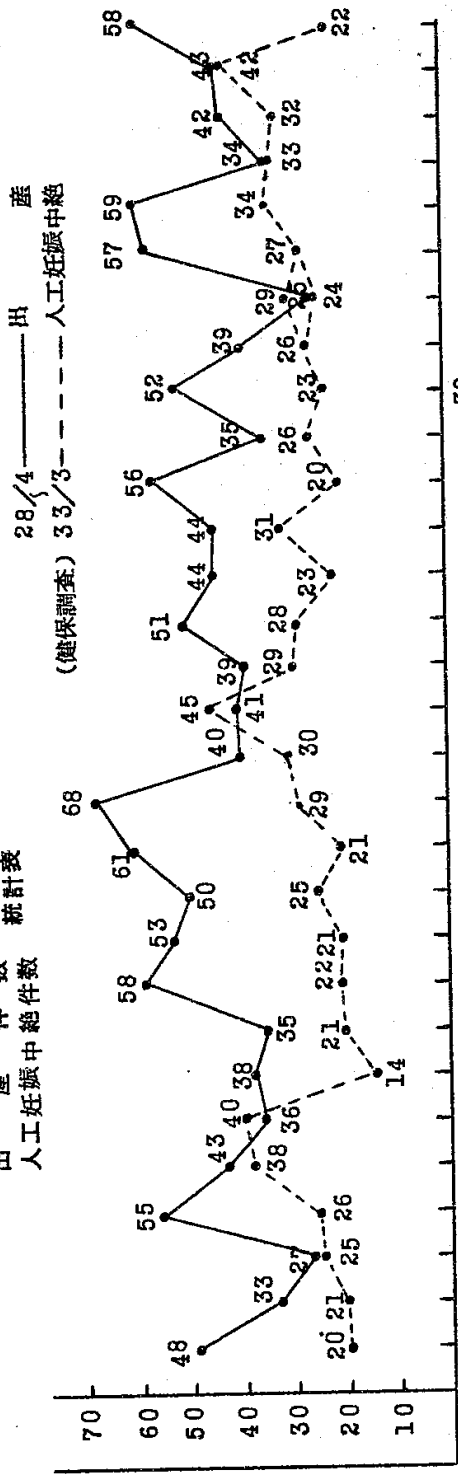
年度	家族計画指導実施計画	
昭和三十一年度	<p>モデル地区(社会, 家族寮)</p> 	<p>個人指導実施 288世帯 未指導 5世帯</p> <hr/> <p>計 293世帯 (29%)</p>
昭和三十二年度	<p>A拡大地区(川崎市内)</p> 	<p>個人指導実施 306世帯 未指導 36世帯</p> <hr/> <p>計 342世帯 (34%)</p>
昭和三十三年度	<p>B拡大地区(東京都, 横浜市)</p>  <p>(現在指導員2名個人指導巡回中)</p>	<p>未指導 { 東京都 190世帯 (含ト△43) 横浜市 152世帯</p> <hr/> <p>計 342世帯 (34%)</p>
昭和三十四年度	<p>C拡大地区(その他)</p> 	<p>未指導 { 横須家 14世帯 鎌倉 3世帯 その他 18世帯</p> <hr/> <p>計 35世帯 (0.3%)</p>
昭和三十二年十二月末日現在	<p>全世界帯</p> 	<p>指導完了 594世帯 未指導 418世帯</p> <hr/> <p>計 1,012世帯 (100%)</p>

受胎調節実行者分類



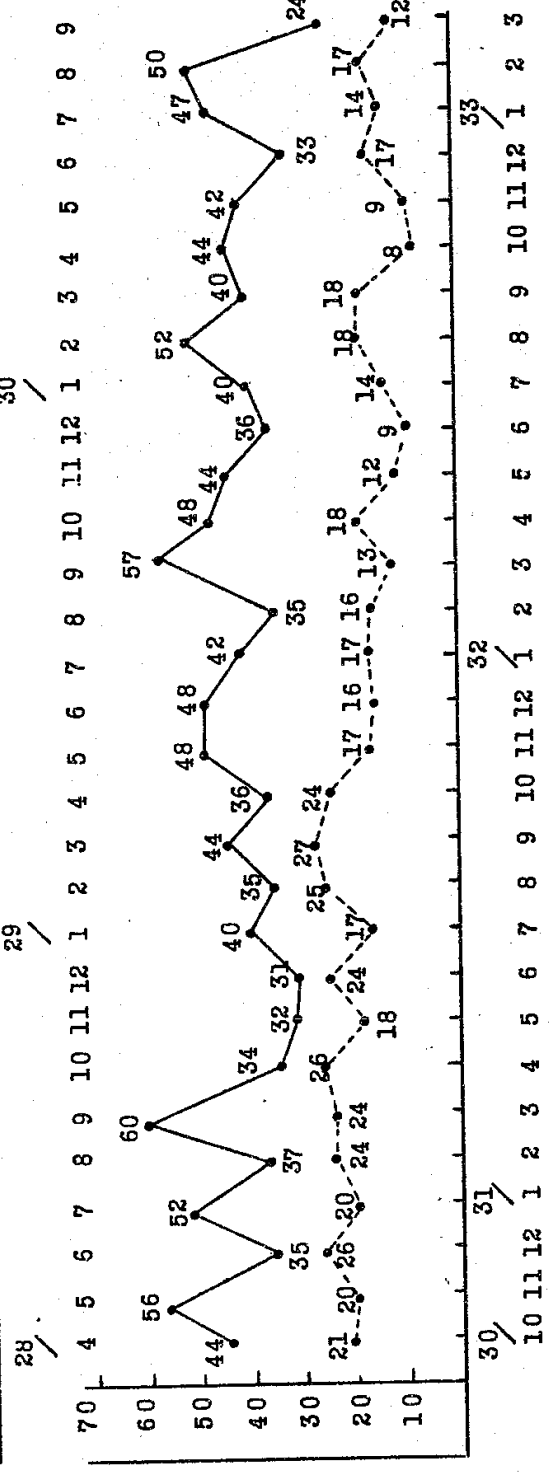


出 産 件 数 統 計 表
人工妊娠中絶件数



(例12)

石川 縣 工 業



(例13)

東京芝浦電気

家族計画運動の成果(府中、川崎、鶴見地区)

第1表 家族計画の実行状況

実行の有無	府中地区		川崎地区		鶴見地区		計	
	調査数	%	調査数	%	調査数	%	調査数	%
Aグループ指導以前より実行、現在も実行中の者	170	42.5	178	42.9	108	38.7	456	41.7
Bグループ指導以前より実行、現在は中止している者	33	8.2	39	9.4	31	11.1	103	9.4
Cグループ運動が始まってから実行、現在も続行中の者	76	19.0	77	18.6	60	21.5	213	19.5
Dグループ運動が始まってから実行、現在は中止している者	9	2.3	20	4.8	19	6.8	48	4.4
Eグループ今まで実行したことがない者	60	15.0	62	14.9	35	12.6	157	14.4
Fグループ不明	52	13.0	39	9.4	26	9.3	117	10.6
計	400	100.0	415	100.0	279	100.0	1094	100.0

第2表 実行方法分布

区分 実行方法	府 中						川崎 鶴見						計					
	運動実施前 (基礎調査)		運動実施後 (本調査)		増加 率	運動実施前 (基礎調査)		運動実施後 (本調査)		増加 率	運動実施前 (基礎調査)		運動実施後 (本調査)		増加 率			
	実行 件数	%(A)	実行 件数	%(B)		(B)-(A) (A)	実行 件数	%(A)	実行 件数		%(B)	(B)-(A) (A)	実行 件数	%(A)		実行 件数	%(B)	(B)-(A) (A)
Condom	119	34.6	186	39.2	13%	312	50.2	339	38.2	-24%	431	44.7	525	38.7	-13%			
定期禁欲	66	19.2	64	13.5	-30	116	18.7	120	13.5	-28	182	18.8	184	13.5	-28			
薬品	50	14.5	114	24.0	66	50	8.1	190	21.4	164	100	10.4	304	22.3	114			
ペッサリー	15	4.4	65	13.7	310	43	6.9	83	9.4	36	58	6.0	148	10.9	82			
性交中絶	12	3.5	-	-	-	22	3.5	1	0.1	-97	34	3.5	1	0				
洗 滌	2	0.6	1	0.2	-67	2	0.3	3	0.3	0	4	0.4	4	0				
体温計	2	0.6	19	4.0	670	3	0.5	103	11.6	2220	5	0.5	122	9.0	1700			
リング	1	0.3	-	-	-	5	0.8	-	-	-	6	0.6	-	-	-			
その他	15	4.4	15	3.2	-27	-	-	13	1.5	-	15	1.6	28	2.1	31			

不明	62	180	11	23	-85	68	110	36	40	-64	130	135	47	35	-74
計	344	1000	475	1000		621	1000	888	1000		965	1000	1363	1000	
調査数	269		288			411		503			690		791		
1人当り 件数	1.05		1.6			1.35		1.73			1.12		1.67		

第3表 実行方法の単複分布

区分	府 中					川 崎・鶴 見					計				
	運動実施前 (基礎調査)		運動実施後 (本調査)		増加率 (B)-(A) (%)	運動実施前 (基礎調査)		運動実施後 (本調査)		増加率 (B)-(A) (%)	運動実施前 (基礎調査)		運動実施後 (本調査)		増加率 (B)-(A) (%)
	実行 件数	% (A)	実行 件数	% (B)		実行 件数	% (A)	実行 件数	% (B)		実行 件数	% (A)	実行 件数	% (B)	
単独法	137	50.9	121	25.5	-50%	280	58.5	229	43.0	-27%	417	55.7	350	34.8	-38%
2種併用法	64	23.8	249	52.4	120	106	22.1	199	37.4	69	17.0	22.7	44.8	44.8	96
3種 "	3	1.1	90	18.9	1620	20	4.2	68	12.8	20.4	2.3	3.1	15.8	15.6	40.4
4種 "	3	1.1	4	0.8	-27	5	1.0	7	1.3	30	8	1.1	1.1	1.1	-
不明	62	23.1	11	2.3	-90	68	14.2	29	5.5	-61	130	17.4	40	4.0	-77
計	269	100.0	465	100.0		479	100.0	532	100.0		748	100.0	1007	100.0	

第4表 実行状況別妊娠形態

地区名	区分	運動開始前5ヶ年			運動開始後1ヶ年			増加率 (B)-(A) (%)
		結婚世帯	妊娠数	妊娠率(A)	結婚世帯	妊娠数	妊娠率(B)	
府	Aグループ	958	162	16.9%	170	12	7.1%	-5.8%
	B "	165	32	19.4	33	4	12.1	-3.8
	C "	365	86	23.6	76	5	6.6	-7.2
	D "	39	14	35.9	9	0	-	-
	E "	292	22	7.5	60	7	11.6	5.5
	不明	280	9	3.2	52	3	5.8	8.1
	計	2099	325	15.5	400	31	7.8	-5.0
川 崎	Aグループ	952	193	20.3	178	9	5.1	-7.5
	B "	179	32	18.4	39	6	15.4	-1.6
	C "	329	95	28.9	77	7	9.1	-6.9
	D "	98	27	27.6	20	2	10.0	-6.4
	E "	263	32	12.1	62	6	9.7	-2.0
	不明	173	21	12.1	39	3	7.7	-3.6
	計	1994	400	20.1	415	33	8.0	-6.0

観 見	Aグループ	463	140	30.2	108	9	8.3	-72
	B "	135	30	22.2	31	5	16.1	-29
	C "	286	80	28.0	60	6	10.0	-64
	D "	86	29	33.7	19	5	26.3	-22
	E "	126	18	14.3	35	4	11.4	-20
	不明	142	20	14.1	26	3	11.5	-18
	計	1,238	317	25.6	279	32	11.5	-55
計	Aグループ	2,372	495	20.8	456	30	6.6	-69
	B "	479	94	19.7	103	15	14.5	-26
	C "	980	261	26.6	213	18	8.5	-80
	D "	223	70	31.4	48	7	14.6	-54
	E "	681	72	10.5	157	17	10.8	3
	不明	595	50	8.4	117	9	7.7	-8
	計	5,331	1,042	19.6	1,094	36	8.8	-55

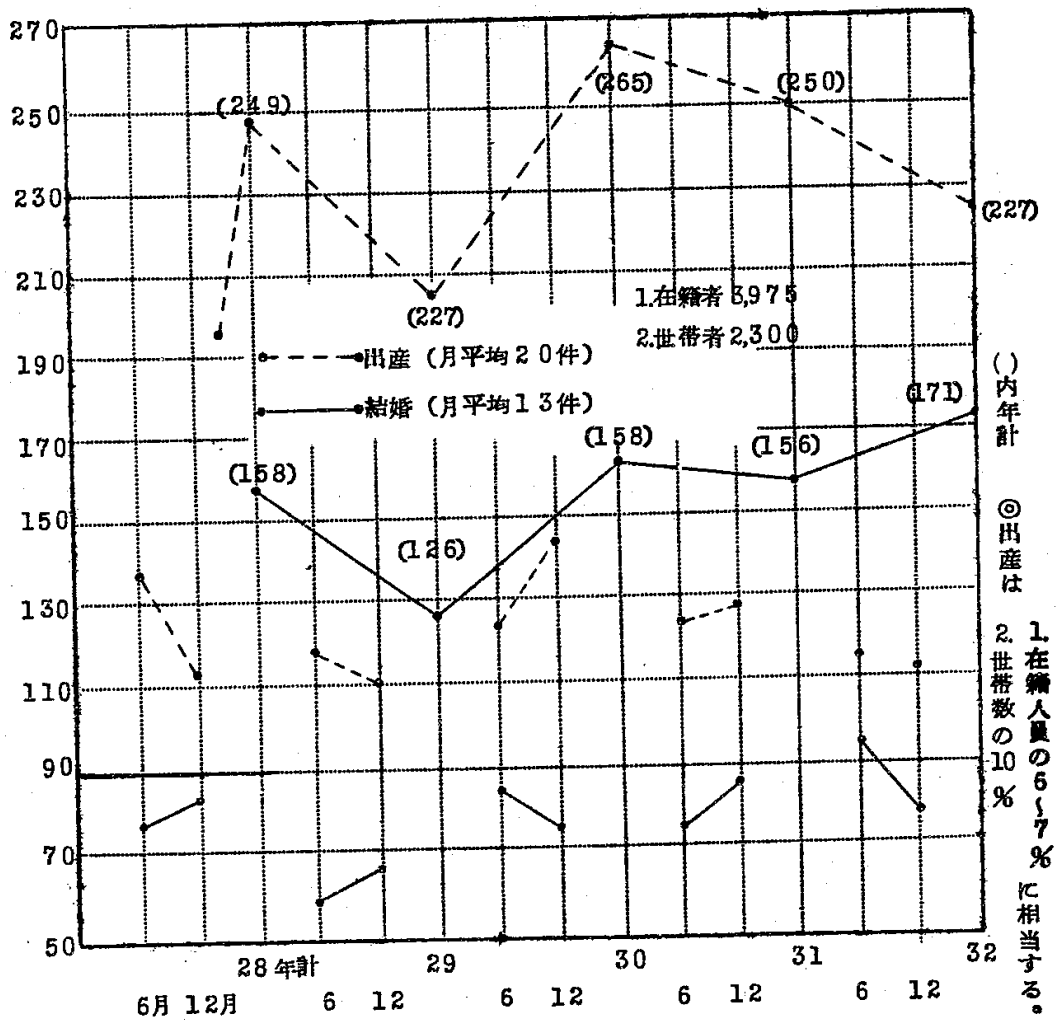
(例14)

京浜急行電鉄

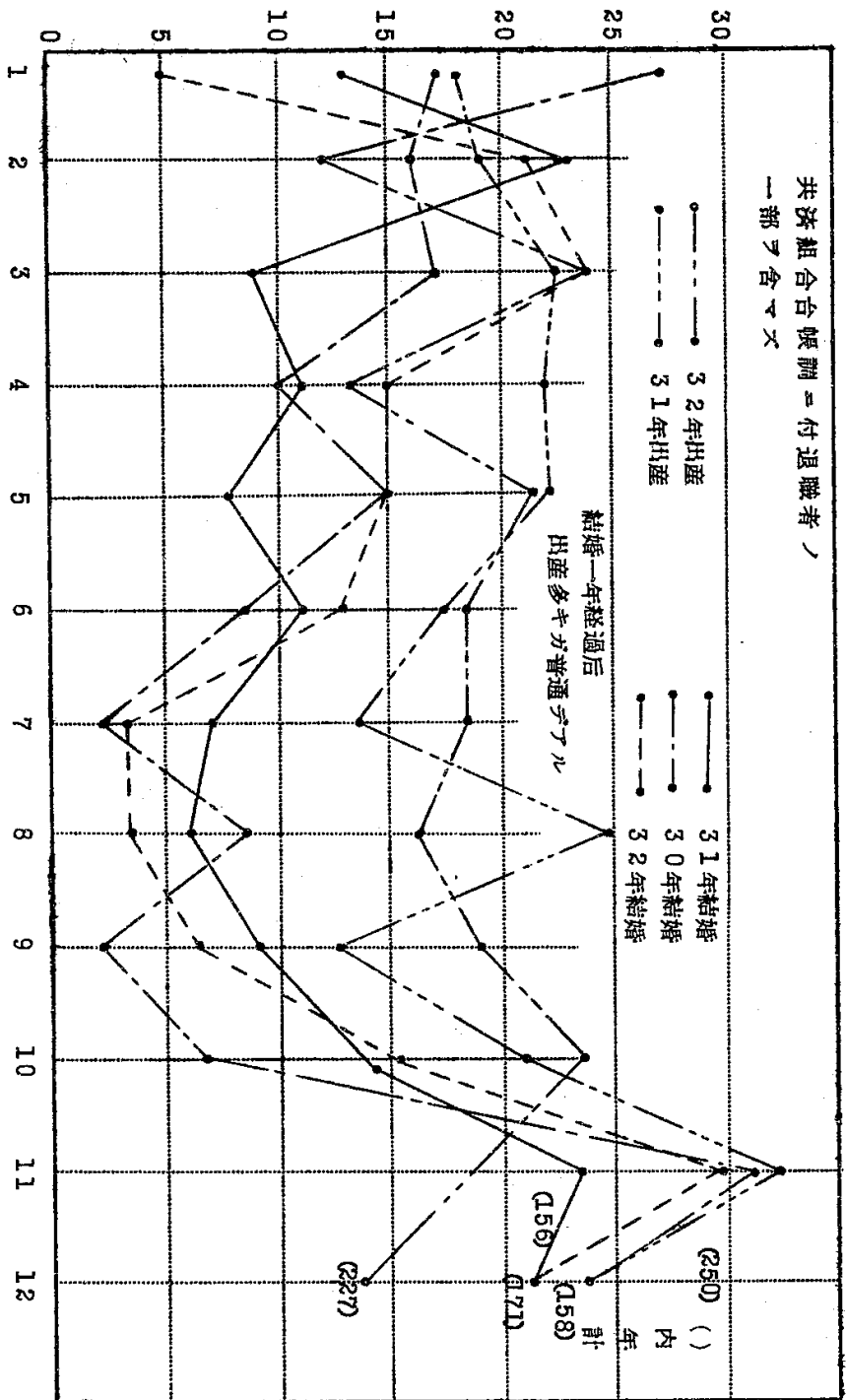
結婚、出産年別比較表

京浜急行電鉄 人事部厚生課

33年1月在職員，共済組合台帳調=付
退職者ノ一部ヲ含マズ



結婚、出産月別比較表

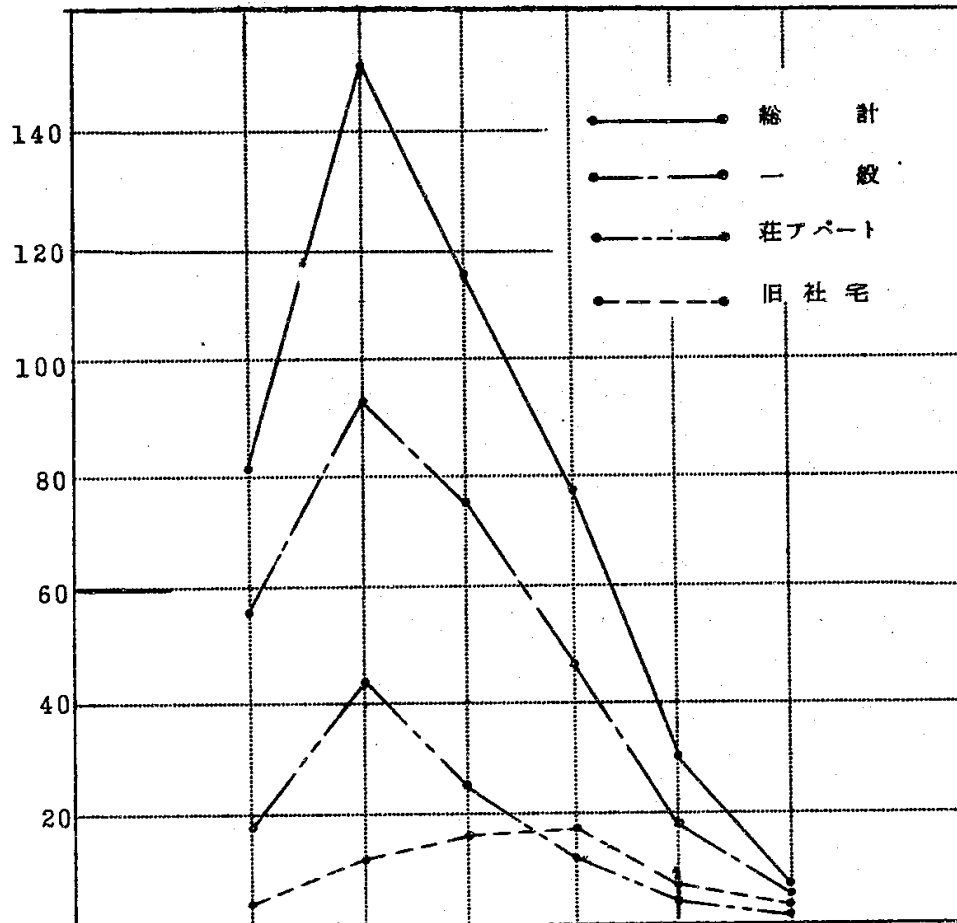


年次別妊娠形態

	府						中						川						崎						見						
	出産		中絶		計		妊娠率 (世帯数)		不妊 手術		出産		中絶		計		妊娠率 (世帯数)		不妊 手術		出産		中絶		計		妊娠率 (世帯数)		不妊 手術		
	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	
昭和25年	47	(75.8)	3	(4.8)	12	(19.4)	62	195%	1	(1.6)	57	(91.6)	2	(3.2)	68	(108.4)	242	(378.2)	1	(1.5)	37	(57.7)	4	(6.2)	53	(81.9)	322	(500.0)	0	(0.0)	
' 26年	37	(77.1)	3	(6.3)	8	(16.6)	48	144	0	(0.0)	41	(85.4)	8	(16.6)	69	(143.8)	231	(474.6)	0	(0.0)	29	(60.4)	9	(18.8)	45	(92.2)	233	(474.6)	0	(0.0)	
' 27年	44	(64.7)	4	(5.8)	20	(29.8)	68	204	0	(0.0)	44	(64.7)	5	(7.4)	57	(84.5)	208	(307.2)	2	(2.9)	33	(48.5)	7	(10.3)	51	(74.3)	241	(355.5)	1	(1.4)	
' 28年	30	(57.7)	3	(5.8)	19	(35.5)	52	146	3	(5.8)	43	(82.3)	4	(7.7)	63	(120.6)	187	(357.2)	0	(0.0)	31	(59.6)	5	(9.6)	58	(111.2)	258	(497.8)	1	(1.9)	
' 29年	24	(52.2)	2	(4.3)	20	(43.5)	46	125	1	(2.2)	46	(97.9)	6	(12.8)	69	(145.8)	190	(397.0)	2	(4.3)	32	(67.0)	5	(10.6)	58	(122.0)	243	(507.0)	4	(8.4)	
' 30年	23	(46.9)	8	(16.4)	18	(36.7)	49	129	1	(2.0)	42	(84.0)	7	(14.3)	64	(128.0)	164	(328.0)	1	(2.0)	25	(50.0)	8	(16.0)	52	(104.0)	197	(394.0)	3	(6.0)	
' 31年	22	(70.9)	2	(6.5)	7	(22.6)	31	78	5	(15.6)	25	(77.4)	3	(9.1)	33	80	391	(977.5)	0	(0.0)	20	(60.6)	5	(15.1)	32	(96.3)	115	(345.9)	1	(3.0)	
' 32年										278	(868.8)	35	(109.4)	100	(311.2)	433	(1333.2)	180	(552.0)	6	(18.2)	207	(640.2)	43	(133.3)	349	(1077.0)	221	(682.1)	10	(30.3)
計	227	(63.8)	25	(7.0)	104	(27.2)	356	143	11	(2.8)	278	(868.8)	35	(109.4)	100	(311.2)	433	(1333.2)	6	(18.2)	207	(640.2)	43	(133.3)	349	(1077.0)	221	(682.1)	10	(30.3)	
(%)																															

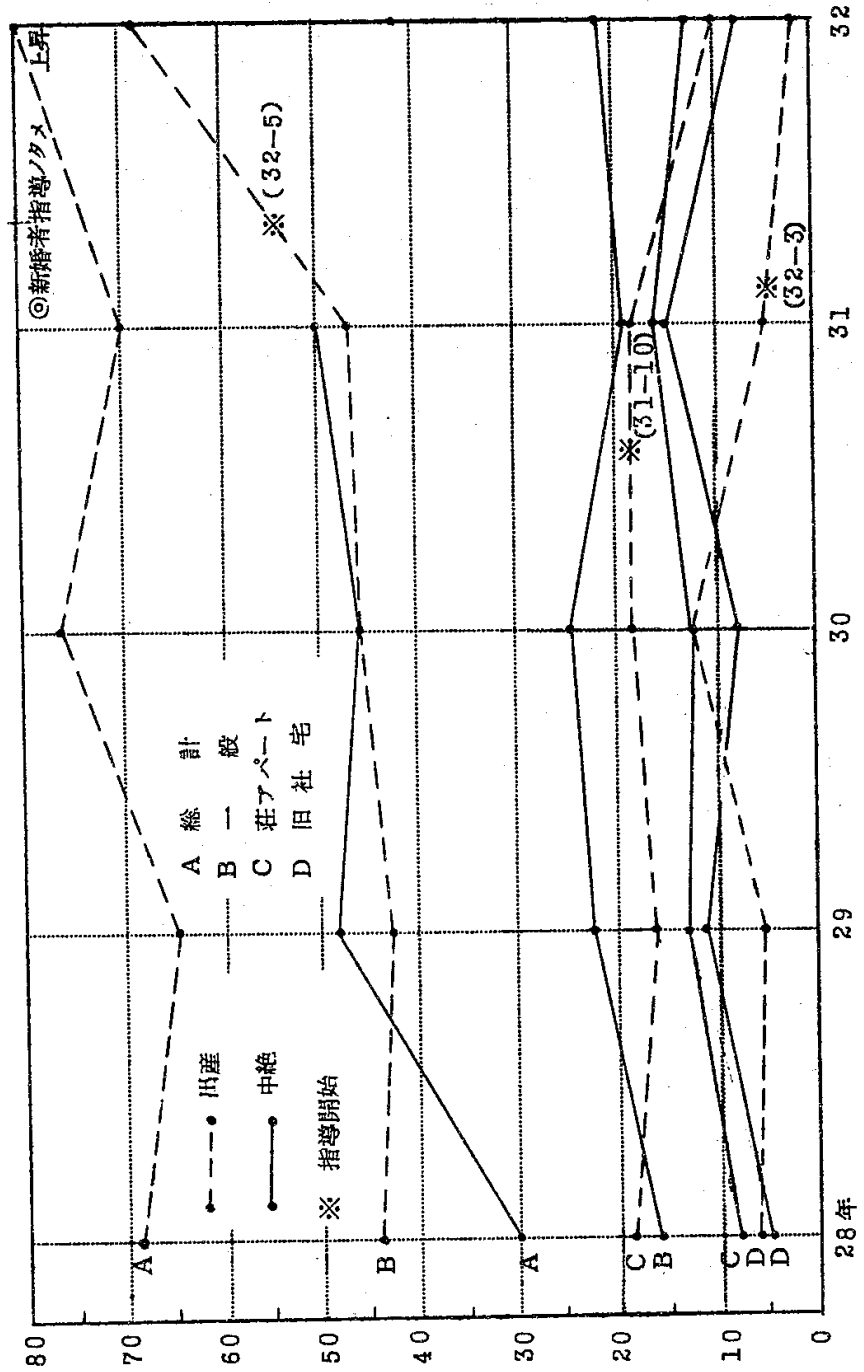
環境別年齢別表

(32-12現在)

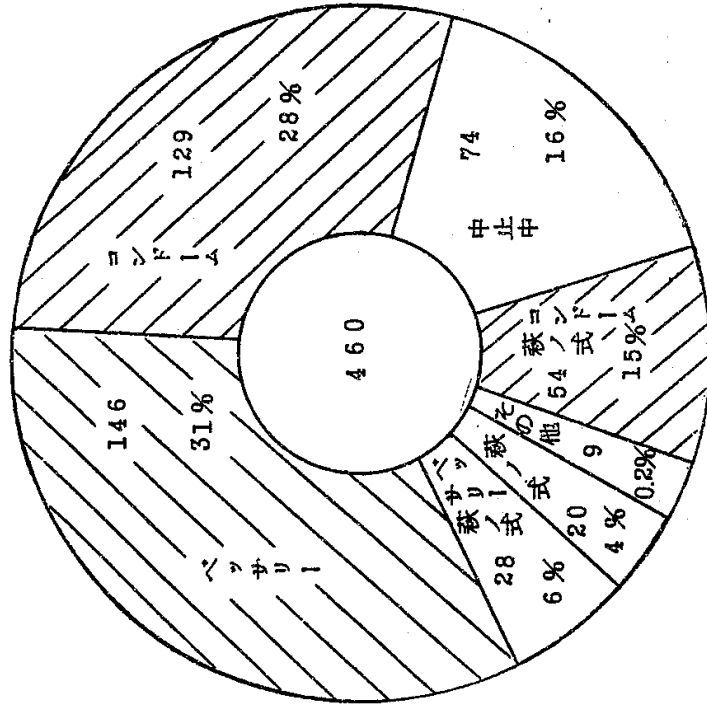


年令別 区分	25才まで	30まで	35まで	40まで	45まで	46才以上	環境別
荘アパート	19	44	27	13	4	1	108
旧社宅	5	12	15	17	7	1	57
一般	56	94	75	48	19	3	295
計	80	150	117	78	30	5	460

環境別年別出産，中絶（流産ヲ含ム）表

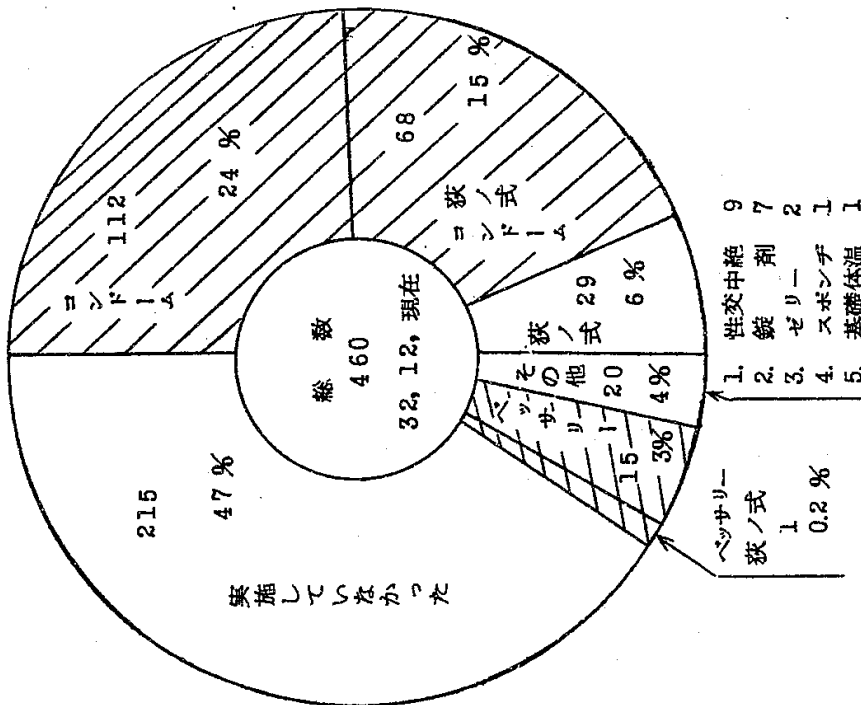


指導後器具薬品使用別



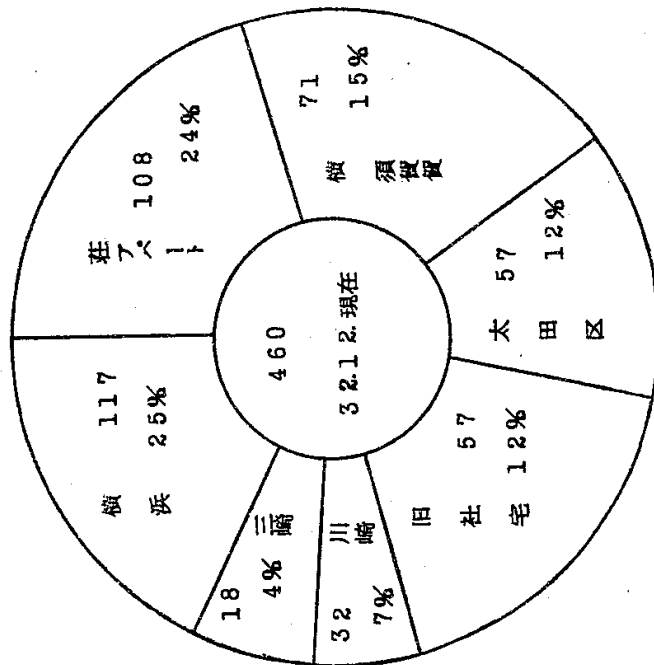
◎指導後へ大体
ベツサリ } =落付イタアリ。
コンドーム }

指導前器具薬品使用別

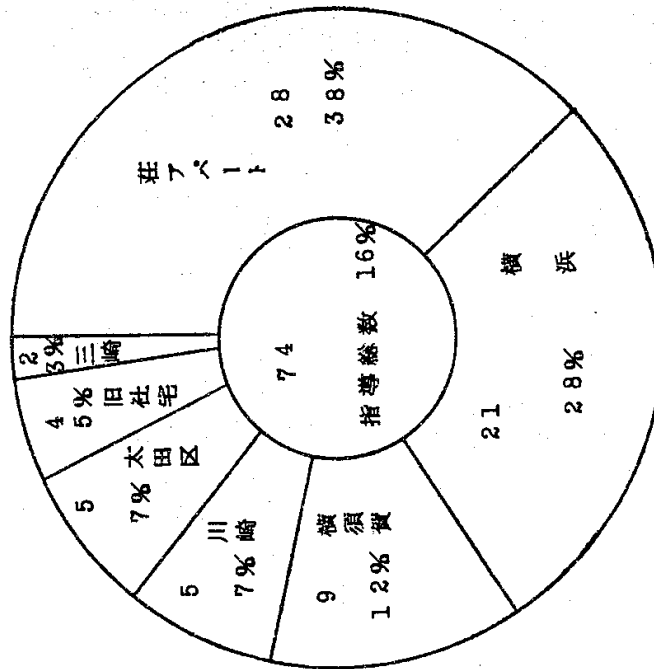


- 1. 性交中絶 9
- 2. 剤 7
- 3. ゼリー 2
- 4. スポンジ 1
- 5. 基礎体温 1

環境別指導状況



中止者地区別表



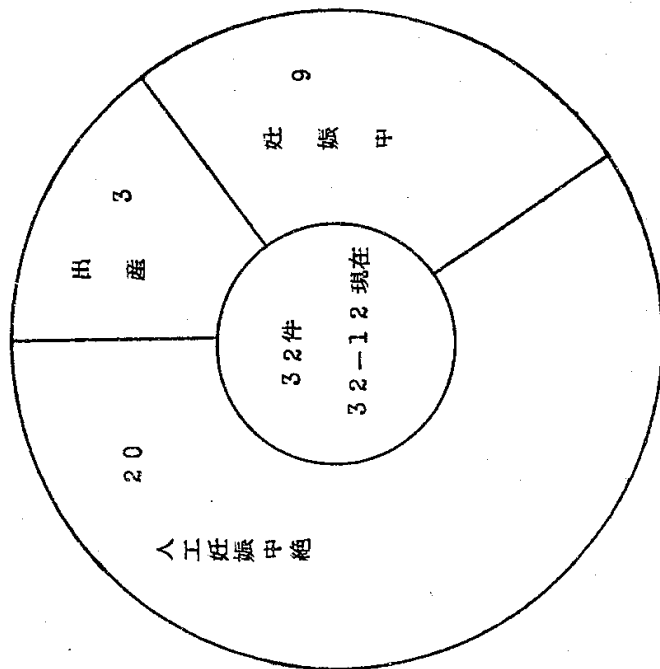
中止理由

1. 妊娠中
2. 子供ほしい後
3. 分娩中
4. 病気が来ないと思う
5. 避妊手術
6. その他

2.2 (指導前の妊娠を含む)

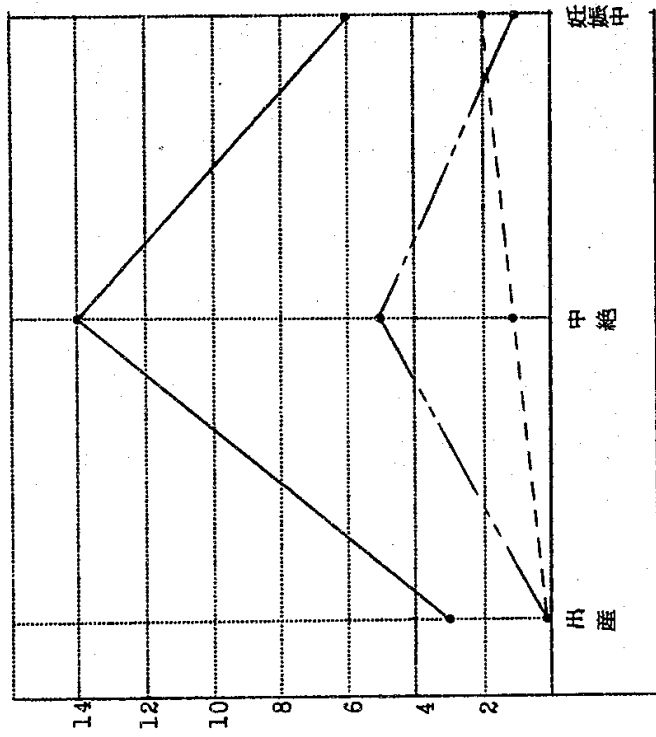
- 2.2
- 2.2
- 5
- 4
- 9
- 7
- 5

指導1ヶ月2ヶ月，累計妊娠状況表



築地別期間別妊娠状況表

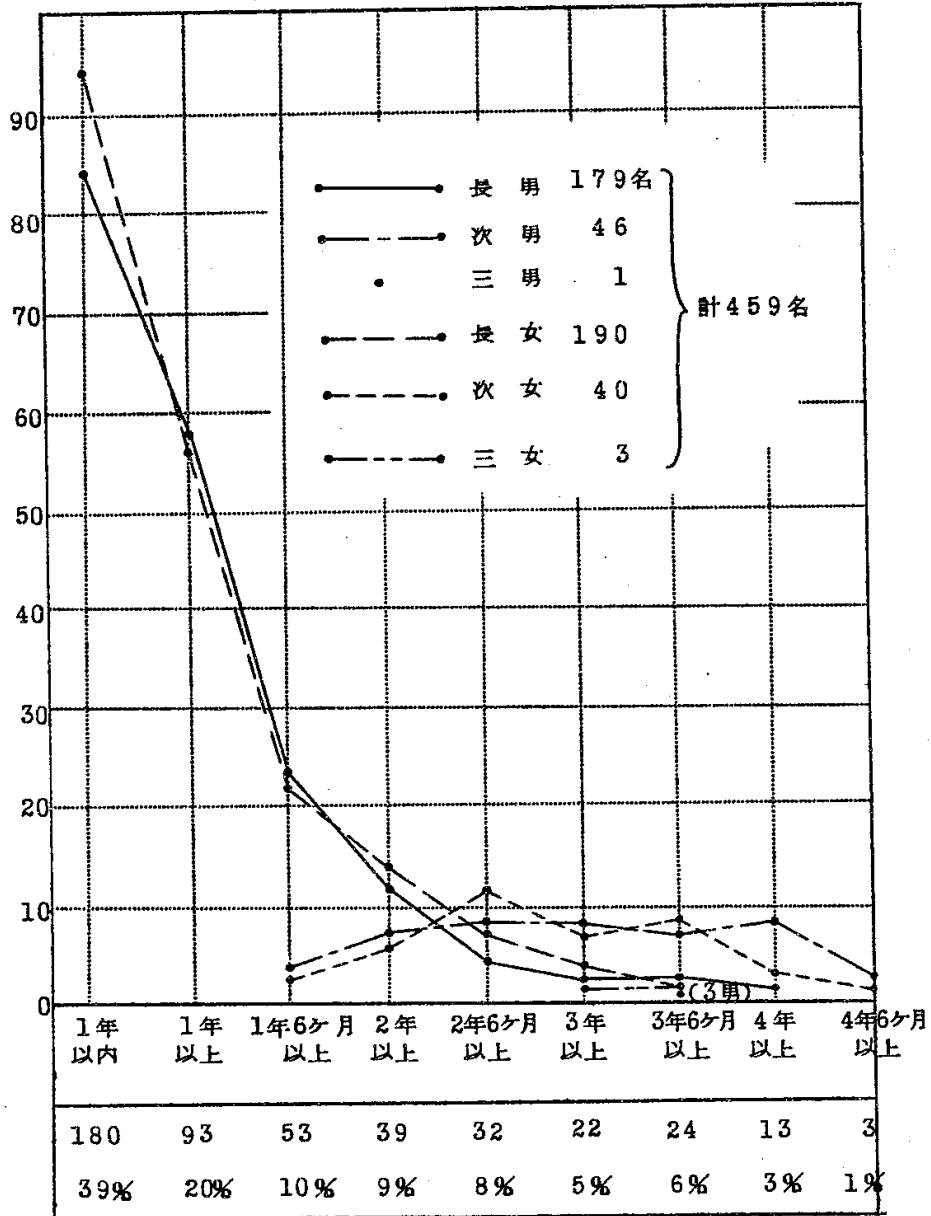
●—— 在アベート(期間1年2ヶ月)
 ●--- 旧社宅(10ヶ月)
 ●- - 敷(6ヶ月)



新婚者出産状況表

27年4月1日～32年3月31日間の結婚者769名なるも

32年7月31日現在員は599名なり、この在籍者に対し調査



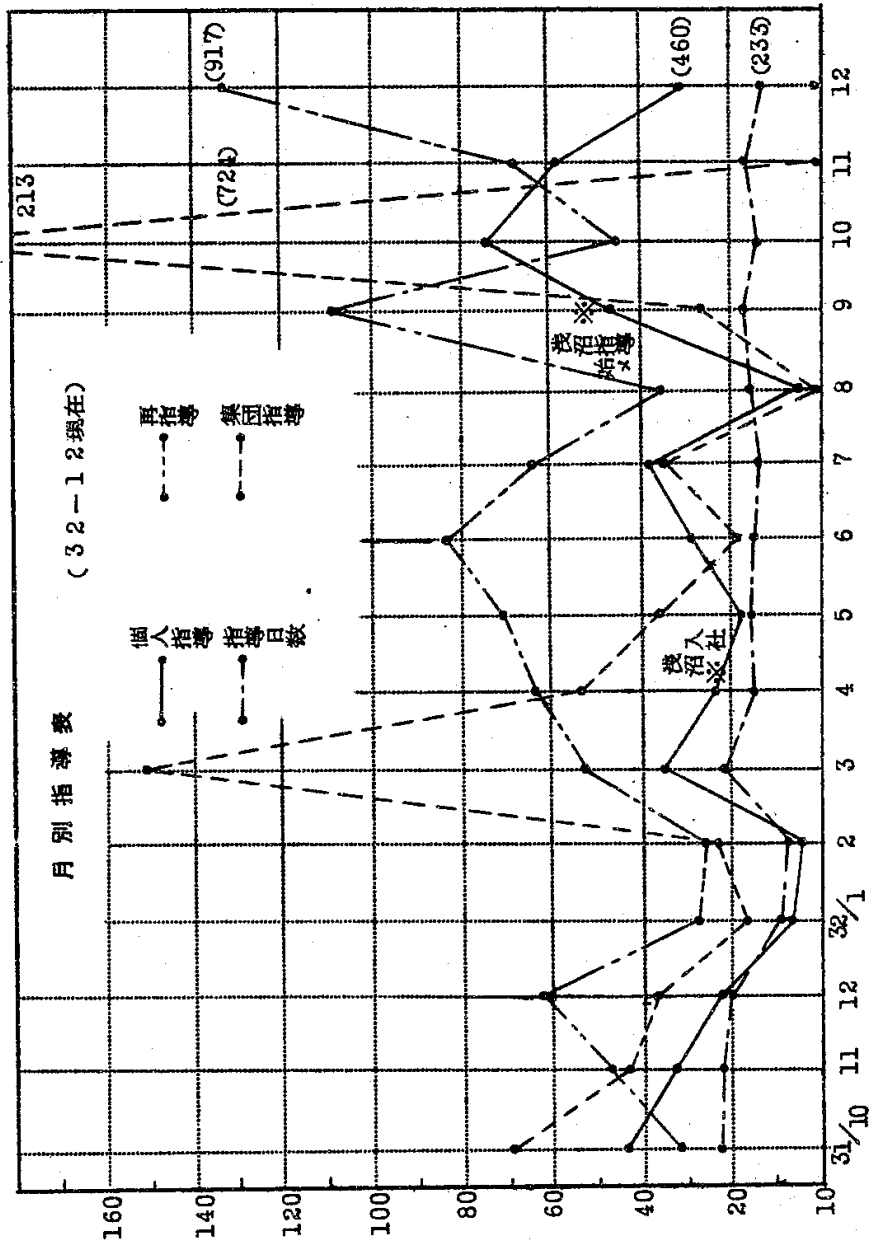
◎ 訪問目標トシテハ

一週間ア一設家庭へ

二週間ノ分晩後ト新婚家庭ニ

残リ二週間ヲ指導後ノ再訪問ニ当テル

() 内年計



例15) 日本軽金属

家族計画について

1 社宅居住者数

	清 水					蒲 原					計				
	カル テ 数	未 婚 者	未 亡 人	其 の 他	居 住 者	カル テ 数	未 婚 者	未 亡 人	其 の 他	居 住 者	カル テ 数	未 婚 者	未 亡 人	其 の 他	居 住 者
白 浜	308	7	4	27	346						308	7	4	27	346
羽 衣	88	8	1	4	101						88	8	1	4	101
白 銀						359	5	1	31	396	359	5	1	31	396
上 原						82	2	0	14	98	82	2	0	14	98
富士見						42	0	1	4	47	42	0	1	4	47
駿ヶ台						23	1	0	1	25	23	1	0	1	25
御 園						86	2	2	15	105	86	2	2	15	105
十 島 波木井						33	0	0	5	38	33	0	0	5	38
計	396	15	5	31	447	625	10	4	70	709	1,021	25	9	101	1,156

2 地区別実行者，不実行者

	清 水		蒲 原		計	
	31年度	32年度	31年度	32年度	31年度	32年度
実行者	186	278	439	445	625	723
不実行者	123	118	296	180	419	298
計	309	396	735	625	1,044	1,021
%	60.1	70.2	60.0	71.2	60.0	70.8

(註) 32年度分が清水工場の指導を全般的に行ったので、保健所とは離れた数字である。

3 妻の年齢（5才階級）別実行者

	清						濁						原						計					
	31年度			32年度			31年度			32年度			31年度			32年度			31年度			32年度		
	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%
40才以上	16	36	44.5	40	78	51.2	98	221	44.3	95	168	56.5	114	257	44.4	135	246	54.9						
39~35	40	55	72.2	86	104	82.7	141	212	66.5	129	161	80.1	181	267	67.8	215	265	81.1						
34~30	76	98	77.5	84	109	77.1	114	171	66.7	95	119	79.8	190	269	70.6	179	228	78.5						
29~25	40	52	76.9	48	67	71.6	56	82	68.4	86	109	78.9	96	134	71.6	134	176	76.1						
24才以下	14	68	20.6	20	38	52.6	30	49	61.2	40	68	58.8	44	117	37.6	60	106	56.6						
計	186	309	60.2	278	396	70.2	439	735	60.0	445	625	71.2	625	1044	60.0	723	1021	70.8						

4 現在子供数

	清						水						蒲						原						計							
	3 1 年度		3 2 年度		3 1 年度		3 2 年度		3 1 年度		3 2 年度		3 1 年度		3 2 年度		3 1 年度		3 2 年度		3 1 年度		3 2 年度		3 1 年度		3 2 年度					
	実行者	%	計	%	実行者	%	計	%	実行者	%	計	%	実行者	%	計	%	実行者	%	計	%	実行者	%	計	%	実行者	%	計	%				
0 人	2	11.8	17	26.9	7	43	16.8	11	53	20.7	9	60	15.0	18	79	22.8	2	11.8	17	26.9	7	43	16.8	11	53	20.7	9	60	15.0	18	79	22.8
1	12	46.2	26	39.0	32	82	43.0	77	131	58.8	67	154	43.5	109	213	51.1	12	46.2	26	39.0	32	82	43.0	77	131	58.8	67	154	43.5	109	213	51.1
2	46	71.9	64	76.4	65	85	65.7	110	139	79.1	165	245	67.3	175	224	78.1	46	71.9	64	76.4	65	85	65.7	110	139	79.1	165	245	67.3	175	224	78.1
3	65	90.3	72	91.2	93	102	75.2	128	147	87.0	202	254	79.5	221	249	88.8	65	90.3	72	91.2	93	102	75.2	128	147	87.0	202	254	79.5	221	249	88.8
4	37	90.2	41	84.2	59	70	84.2	73	87	83.9	55	145	37.9	132	157	84.1	37	90.2	41	84.2	59	70	84.2	73	87	83.9	55	145	37.9	132	157	84.1
5	14	100	14	68.4	13	19	68.4	35	48	72.9	47	74	63.5	48	67	71.7	14	100	14	68.4	13	19	68.4	35	48	72.9	47	74	63.5	48	67	71.7
6 以上	10	14.0	75	75.0	20	37	54.1	211	20	55.0	30	112	26.8	20	32	62.5	10	14.0	75	75.0	20	37	54.1	211	20	55.0	30	112	26.8	20	32	62.5
計	186	309	60.1	396	70.3	439	735	60.0	445	71.2	625	1,044	60.0	723	1,021	708	186	309	60.1	396	70.3	439	735	60.0	445	71.2	625	1,044	60.0	723	1,021	708

(註) 妻の平均年齢 清水 35.3才 蒲原 36.1才 平均 35.7才
 平均子供数 清水 2.5人 蒲原 2.2人 平均 2.4人

5 実行方法分析

	清		水		蒲 原				計			
	31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度	
	実行数	%	実行数	%	実行数	%	実行数	%	実行数	%	実行数	%
コンドーム	83	72.8	49	18.0	279	63.4	139	31.2	362	65.5	188	26.0
薬品とコンドーム	0	0	111	40.0	0	0	103	23.2	0	0	214	29.6
定期禁欲	11	9.6	23	18.2	19	4.3	19	4.3	30	5.4	42	5.8
ベッサリー	0	0	30	10.8	102	23.2	90	20.2	102	18.4	120	16.6
タンポン	0	0	0	0	2	0.5	1	0.2	2	0.4	1	0.1
性交中絶	6	5.3	15	5.4	5	1.1	8	1.8	11	2.0	23	3.2
洗 滌	0	0	0	0	2	0.5	0	0	2	0.4	0	0
体温計	0	0	4	1.4	2	0.5	3	0.7	2	0.4	7	1.0
薬品押入	12	10.5	11	3.8	26	6.0	20	4.5	38	6.9	31	4.3
結 束	0	0	35	12.5	0	0	62	13.9	0	0	97	13.4
其 の 他	2	1.8	0	0	2	0.5	0	0	4	0.6	0	0
計	114	100	278	100	439	100	445	100	553	100	723	100

6 (不実行者の分析) 不実行者理由分析

	清		水		蒲 原				計			
	31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
子供が欲しいから	10	8.8	49	41.5	26	17.7	68	37.8	36	13.8	117	39.3
無 関 心	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年令的に不必要	3	2.6	17	14.4	63	42.9	23	12.8	66	25.3	40	13.4
今すぐ実行したいと 考えている。	11	9.6	0	0	0	0	0	0	11	4.2	0	0
体質、手術により不 必要	18	15.9	6	5.1	51	34.7	15	8.3	69	26.4	21	7.0
45才以上の不妊者	0	0	6	5.1	0	0	28	15.5	0	0	34	11.4
44才以下の不妊者	0	0	24	20.3	0	0	31	17.2	0	0	55	18.5
実行するだけの決心 がつかぬ	7	6.1	12	10.2	6	4.1	10	5.6	13	5.0	22	7.4
其 の 他	65	57.0	4	3.4	1	0.7	5	2.8	66	25.3	9	3.0
計	114	100	118	100	147	100	180	100	261	100	298	100

7 婚姻期間 (5年階級) 別 実行者, 不実行者数

	清						水						蒲						原						計					
	3 1 年度			3 2 年度			3 1 年度			3 2 年度			3 1 年度			3 2 年度			3 1 年度			3 2 年度			3 1 年度			3 2 年度		
	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%	実行者	計	%			
30~34	0	0	0	2	3	66.6	0	0	0	0	0	0	1	2	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	60.0				
25~29	2	9	22.2	1	7	14.3	11	37	1.5	8	28.6	13	46	28.2	13	46	28.2	13	46	28.2	13	46	28.2	9	35	25.7				
20~24	11	18	61.1	12	26	46.2	31	59	4.2	34	65.4	42	77	54.5	42	77	54.5	42	77	54.5	42	77	54.5	46	78	59.0				
15~19	40	56	71.4	61	75	81.3	109	179	15.0	93	79.5	149	235	63.4	93	117	79.5	149	235	63.4	149	235	63.4	154	192	80.2				
10~14	47	64	73.4	74	90	82.2	103	158	14.0	112	83.0	150	222	67.5	112	135	83.0	150	222	67.5	150	222	67.5	186	225	82.7				
5~9	40	65	61.5	67	90	74.4	115	161	16.0	90	84.1	155	226	68.6	90	107	84.1	155	226	68.6	155	226	68.6	157	197	79.7				
0~4	18	41	43.9	47	80	58.8	59	92	8.0	93	63.7	77	133	57.9	93	146	63.7	77	133	57.9	77	133	57.9	140	226	61.9				
不 明	9	32	28.1	7	14	50.0	2	5	0.3	10	34.5	11	37	29.7	10	29	34.5	11	37	29.7	11	37	29.7	17	43	39.5				
再 婚 者	19	24	79.2	7	11	63.6	9	44	1.2	4	44.4	28	68	41.2	4	9	44.4	28	68	41.2	28	68	41.2	11	20	55.0				
計	186	309	60.1	278	396	70.2	439	735	60.2	445	625	71.2	625	1,044	60.0	723	1,021	70.8	723	1,021	70.8	723	1,021	70.8	723	1,021	70.8			

8 妊娠中絶数

	清				水				蒲				原				計			
	31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度	
	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区	指導地区	未指導地区
中絶数	21	38	9	21	30	75	14	65	51	113	23	83								
世帯数	489	527	447	618	586	1,028	709	915	1,075	1,555	1,156	1,156								
%	4.3	7.2	2.0	3.4	5.1	7.3	2.0	6.8	4.7	7.3	2.0	5.4								

静岡県における中絶数

	庵原郡		清水市		静岡県	
	31年度	32年度	31年度	32年度	31年度	32年度
中絶数	1,061	2,024	2,680	2,623	42,810	38,863
世帯数	16,829	16,809	25,385	26,558	497,197	497,093
%	6.3	12.0	10.6	9.9	8.6	7.8

9 中絶数内訳

	清				水				薄				原				計							
	指 導		未指 導		計		%		指 導		未指 導		計		%		指 導		未指 導		計		%	
	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導	指 導	未指 導
32/1月	0	1	1	0	1	1	0	0.1	6	7	1	7	0.1	7	7	1	7	0.1	6	7	1	7	0.1	8
2	3	1	1	0.7	1	1	0.1	6	6	7	4	7	0.1	7	7	4	7	0.1	6	7	4	7	0.1	11
3	0	3	3	0	1	1	0.1	10	10	11	1	11	0.1	11	13	1	14	0.1	10	10	8	10	0.2	14
4	1	2	3	0.2	1	1	0.1	6	6	7	2	7	0.1	7	8	2	10	0.2	9	9	8	10	0.2	11
5	0	1	1	0	2	1	0.3	8	8	10	2	10	0.3	10	9	2	11	0.2	8	8	9	11	0.2	11
6	2	2	4	0.4	1	1	0.1	6	6	7	1	7	0.1	7	8	3	11	0.3	8	8	8	11	0.3	11
7	1	1	2	0.2	0	0	0	8	8	8	0	8	0	8	8	1	10	0.1	8	8	8	10	0.1	10
8	1	0	1	0.2	1	1	0.1	3	3	4	1	4	0.1	4	3	2	5	0.2	3	3	2	5	0.2	5
9	0	3	3	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	4	0	1	1	0	4	0	4
10	0	2	2	0	3	3	0.4	1	1	4	3	4	0.4	4	3	3	6	0.3	3	3	3	6	0.3	6
11	0	3	3	0	1	1	0.1	5	5	6	1	6	0.1	6	8	1	9	0.1	4	4	8	9	0.1	9
12	1	2	3	0.2	2	2	0.3	2	2	4	2	4	0.3	4	4	3	7	0.3	2	2	4	7	0.3	7
計	9	21	30	2.1	14	62	2.0	62	76	23	83	2.0	76	106	2.0	106	2.0	23	83	106	2.0	106	2.0	2.0
平 均	0.8	1.7	2.5		1.1	5.1		5.1	6.3	1.9	6.9		6.3	8.8		8.8		1.9	6.9	8.8		8.8		8.8

(註) 世帯数 清水工場447+蒲原工場709=1,156

10 出生数

	消				水				蒲				原				計			
	31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度		31年度		32年度	
	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導	指導	未指導
出生数	28	66	27	77	45	141	49	98	73	207	76	175	1,076	1,556	6.8	13.3	6.6	11.4		
世帯数	489	527	447	618	586	1,028	709	916												
%	5.7	12.5	6.0	12.5	7.7	13.7	6.9	10.7												

静岡県に於ける出生数

	蒲		原		消		水		静		岡	
	31年度	32年度	31年度	32年度	31年度	32年度	31年度	32年度	31年度	32年度	31年度	32年度
出生数	342	147	2,347	2,403	51,717	51,479	497,197	497,093	104	104		
世帯数	3,614	1,624	25,385	26,558	497,197	497,093						
%	9.5	9.1	9.2	9.1	10.4	10.4						

11 出生数内訳
32/1月~32/12月

	清			水			蒲			原			計		
	指	未指	計	%	指	未指	計	%	指	未指	計	%	指	未指	計
	導	導			導	導			導	導			導	導	
32/1月	3	8	11	0.7	3	9	12	0.4	6	17	23	0.5	6	17	23
2	4	9	13	0.9	5	14	19	0.7	9	23	32	0.8	9	23	32
3	2	2	4	0.4	2	6	8	0.3	4	8	12	0.3	4	8	12
4	1	3	4	0.2	3	7	10	0.4	4	10	14	0.3	4	10	14
5	2	4	6	0.4	3	8	11	0.4	5	12	17	0.4	5	12	17
6	3	4	7	0.6	8	7	15	1.0	11	11	22	1.0	11	11	22
7	3	7	10	0.6	3	9	12	0.4	6	16	22	0.5	6	16	22
8	0	6	6	0	3	9	12	0.4	3	15	18	0.3	3	15	18
9	1	7	8	0.2	3	8	11	0.4	4	15	19	0.3	4	15	19
10	4	11	15	0.9	7	6	13	0.9	11	17	28	1.0	11	17	28
11	2	6	8	0.4	6	11	17	0.8	8	17	25	0.7	8	17	25
12	2	10	12	0.4	3	4	7	0.4	5	14	19	0.4	5	14	19
計	27	77	104	6.0	49	98	147	6.9	76	175	251	6.6	76	175	251
平均	2.3	6.4	8.7		4.1	8.2	12.3		6.3	14.6	20.9		6.3	14.6	20.9

(註) 世帯数 清水工場 447 + 蒲原工場 709 = 1,156

12 家族計画指導状況

	消						水						消						原					
	地区	集会回数	集会者数	訪問指導数	個人指導数	摘要	地区	集会回数	集会者数	訪問指導数	個人指導数	摘要	地区	集会回数	集会者数	訪問指導数	個人指導数	摘要	地区	集会回数	集会者数	訪問指導数	個人指導数	摘要
32/4	羽衣	6	63人	31人	52	訪問者は1人2回以上訪問(未面会者7人)	各地区	3	25	6	5	(年度末のまとめ, 連絡協議会書類準備)	各地区	3	25	6	5		各地区	3	25	6	5	
5	(カルテの整理, 連絡協議会の準備)																							
6	白浜	9	73				"	5	29	44	8		"	5	29	44	8		"	5	29	44	8	
7	"	5	27	28		主婦の勤務者夜間集会4回	"	6	54	18	8		"	6	54	18	8		"	6	54	18	8	
8	"	6	46				"	4	63	24	2		"	4	63	24	2		"	4	63	24	2	
9	"	3	44	37		夜間集会3回, (1回の集会を7人~10人として出席者5人~6人)	"	1	20	22	3		"	1	20	22	3		"	1	20	22	3	
10	"	1	18				波木井島十各地区	7	186	35	5		"	7	186	35	5		"	7	186	35	5	
11	"	3	43				"	1	21	16	3		"	1	21	16	3		"	1	21	16	3	
12	"	4	24	12			"	3	70	22	7		"	3	70	22	7		"	3	70	22	7	
33/1							白銀町	4	43	6	3		白銀町	4	43	6	3		白銀町	4	43	6	3	
2	"	6	108	7		(未面会者 4人)	"	7	86	7		"	7	86	7			"	7	86	7			
3	"	4	26	14		(未面会者27人)	御富士見	6	57	13	8		御富士見	6	57	13	8		御富士見	6	57	13	8	
計		47	472	129	122人	41人		47	654	208	62		47	654	208	62				47	654	208	62	
	1ヶ月平均	4.7回	47人	129人	122人	4人	1ヶ月平均	4.3	59人	19人	5.6人		1ヶ月平均	4.3	59人	19人	5.6人			1ヶ月平均	4.3	59人	19人	5.6人

13 家族計画指導内容

(1) 蒲原に於ける母親教室実施状況 (32年4月~33年3月まで)

グループ	%	集回数	講座回数	集合延人員	訪問指導	備考
1.妊婦グループ		12		52		三会場
2.乳児グループ		6		75	11	診療所
育児相談会	7			140		
離乳食調理実習	2			27		
映画会	3			100		三会場
3.幼児グループ	8			130		四会場
講演会	2			150		二会場 (大塚先生)
計	22	18		674	11	

(2) 清水に於ける癌(乳癌,子宮癌),更年期障害の啓蒙

地区名	集回数	集合人員
白	36	360
羽	3	90
計	39	450

(3) 清水に於ける生活相談

地区名	件名	件数	訪問回数	備考
白	一般生活指導	1	3	適宜指導が必要
	子供の問題	5	9	専門家と連絡
	家庭不和	2	4	夫婦,嫁,姑の問題
	妻精神異常	1	3	発作時の処置,家族連絡
	妻性格異常	2	5	
羽	法律問題	1	3	孫の件につき
	家庭不和	1	1	夫婦の問題
	子供の問題	1	4	精薄の子供
計		14	32	

5 各企業体の連絡

5. 各企業体の連絡

現在、家族計画を出発点として新生活運動を展開しつつある企業体は20社以上に達するが、これらの共同目標達成のため協力連絡体制の推進に

努め、後続企業体の便宜を計るため、人口問題研究会を中心に、「新生活運動実施企業体連絡協議会」を設置し、年2回会合を設けている。

〔参考〕 「新生活運動企業体連絡協議会」

(例1)

第4回 名古屋地区開催

第1日 昭和33年5月29日

10時～18時30分

名古屋市 日本陶器(株) 会議室

1. 開会あいさつ 日陶社長

2. あいさつ

人口問題研究会 永井 亨

愛知県衛生部医務課長

名古屋市衛生局長

A 各社業績報告

司会 人口問題研究会

篠崎 信男

1. 日本鋼管

2. 日本無線

3. 東 芝

4. 日本軽金属

5. 日本通運

6. 日立造船

7. 中部電力

8. 日本碍子

9. 日本陶器

10. トヨタ自動車

11. 三井鉱山

12. 日本国有鉄道

13. 本洲製紙

14. 東京急行

15. 麻生産業

16. 京浜急行

B 討 議 会

一号議案 家族計画推進要領について

A 組織の作り方

B 予算計上の問題

C 指導員対策

D 市町村との関聯

E 労働組合との関係

二号議案 生活設計実施方策について

A 具体的方法について

B 経費計上の方法

C その他

三号議案 調査統計方法について

- A 実行率のだし方
- B 交換資料のフォーム
- C その他

四号議案 その他について

- A 次回の時期と会場について
- B 会議内容について
- C 会費について
- D その他

第2日

実地見学スケジュール

8.30時	～	集 合
8.30時	～	10.00時
10.00時	～	10.30時
10.30時	～	11.00時
11.00時	～	11.30時
11.30時	～	12.00時
12.00時	～	12.20時
12.20時	～	12.40時
12.40時	～	13.00時
13.00時	～	13.30時
13.30時	～	14.50時

トヨタ自動車

名古屋駅降車口前駐車場
川崎洋裁学院着 (挙母)
川崎洋裁学院見学
家族計画実習見学 (丸山社宅)
手芸展見学 (ギャラリー) 生協見学
保健指導見学 (清和寮)
体育施設見学 (体育館及周辺)
挨拶, 昼食 (トヨタホール)
スライド映写 (トヨタホール)
工場見学 (総組立工場)
名古屋駅駐車場着

以上

IV

新生活運動實施及計畫中 企業體一覽表

参考のため人口問題研究会の指導の下に、この運動を既に実施し又は計画準備中の企業
 体一覧表は下記の通り

新生活運動実施及計画準備中企業体一覧表 (33年3月)

日本鋼管	東京急行	住友金属工業	太平洋炭礦
常盤炭礦	播磨造船	住友化学	関西電力
東芝電気	日本精工	日本航空	電気化学工業
日本軽金属	石川島重工業	日清紡績	帝国人絹
日立造船	東洋高圧工業	東京電力	東亜燃料
トヨタ自動車	日本鉱業	愛知時計	東京瓦斯
日本陶器	富士製鉄	旭化成	東北パルプ
本州製紙	日本通運	旭電化	東洋レイヨン
富士電気	新日本窒業	宇部興産	同和鉱業
三井鉱山	京阪神急行	小野田セメント	日本交通公社
東武鉄道	電々公社	大阪瓦斯	日本特殊鋼管
荏原製作所	三菱鉱業	鹿島建設	古河鉱業
昭和電工	日本ビクター	京浜急行	古河電気
日本国有鉄道	日本無線	京成電気	北越製紙
雄別炭礦	京王帝都	京阪電気	北海道炭礦汽船
日立製作所	十条製紙	神戸製鋼	松尾鉱業
名古屋鉄道	鉄道弘済会	国際電信電話	三菱金属鉱業
日本碍子	秩父セメント	小松製作所	三菱電機
中部電力	三菱レイヨン	住友石炭	三菱地所
麻生産業	日産自動車	住友金属鉱山	八幡製鉄
大同製鋼	日本製鋼		計 82社

以上

家族計画の企業及び実施については以上の各社が資料を整備しているが、家族計画以外の運動実施状況の問合せについては、次表を参考に掲げる

教養講座	各種講習会開催	全実施企業体
生活相談所又は相談室の開設		日本鋼管，東芝電気，日産自動車
生活指導員の配置		日本鋼管，東芝電気，日本軽金属，日立造船，東武鉄道
社報家庭版の配布		日本鋼管，常磐炭礦，東芝電気，日立造船，豊田自動車，本州製紙 東武鉄道
家計簿の配布及び指導		日本鋼管，日本軽金属，本州製紙，日立造船
貯蓄組合の運営		日本鋼管，豊田自動車，日立造船
家庭健康診断		国鉄，本州製紙，豊田自動車
授産所の設置		常磐炭礦

企業体における新生活運動の実施は、その特殊の性格上、技術的に困難な点が多い。
企画，発足，運営について

東京都千代田区霞ヶ関2の1 厚生省内

財団法人 人口問題研究会 Tel (59) 4816

に連絡されれば、協力助言が得られる。

企業体における新生活運動のすすめ方
(家族計画及び生活設計)

昭和33年12月30日印刷
昭和34年1月5日発行

編集発行 アジア家族計画普及協会
校 閲 財団法人 人口問題研究会
印 刷 孔版タイプライター株式会社
東京都文京区同心町一番地
Tel.023219・6624

発行所 アジア家族計画普及協会
東京都中央区日本橋本町2の5
山之内製薬㈱内 Tel.047661
協 賛 山之内製薬株式会社

#071* 5*3

人口問題研究会, アジア家族計画普及協会
企業体における新生活運動のすすめ方 家族計画
及び生活設計./ 東京: アジア家族計画普及協会,
'59. 1

258pp, ;27cm